

茨城県 水戸市

東前原遺跡

(第17地点第2次)

(仮称) ツルハドラッグ水戸東前店新築
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2019年3月

水戸市教育委員会

茨城県 水戸市

とうまえはらいせき
東前原遺跡

(第17地点第2次)

(仮称) ツルハドラッグ水戸東前店新築
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2019年3月

水戸市教育委員会

ごあいさつ

水戸市域の東側にある東前原遺跡は、那須岳を水源とする那珂川右岸の台地上に位置しています。本遺跡の周辺には、文献に残る最古の貝塚である国指定史跡「大串貝塚」や、6世紀後半に築造された首長墓とみられる北屋敷古墳群、奈良・平安時代に交通の要衝として機能した平津駅家の関連集落と考えられている梶内遺跡など、多くの重要遺跡が残されており、古くから政治・文化の中心地域のひとつとして繁栄してきたと考えられています。

近年、東前原遺跡が位置する東前町周辺は、区画整理事業に伴い宅地化が急速に進んでおり、周辺に位置する遺跡の様相も大きく様変わりしています。埋蔵文化財は、その性格上、開発などにより一度壊されてしまうと、二度と現状に復すことができないため、私たちひとりひとりが大切に保存しながら後世に伝えていかなければならない貴重な財産です。本市教育委員会といたしましては、その意義や重要性を踏まえ、開発事業との調和を図りながら、文化財の保護・保存に努めているところです。

この度の調査では、50軒近くの古墳時代から奈良・平安時代に至る堅穴建物跡群が確認されました。特に奈良時代前半の堅穴建物跡からは、本市では初の出土例となる基石がまとめて検出されるとともに水晶製の切子玉や鉄製のくるる鉤が出土するなど、一般集落とは異なる様相を示す貴重な成果を得ることができました。

ここに刊行する本書が、豊かな地域史の一端を復元することで貴重な文化財に対する保護・活用の意識の高揚や郷土愛の育成へ繋がることを願い、学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

末尾ながら、今回の調査実施にあたり、多大なる御理解と御協力を賜りました近隣住民の皆様方、並びに種々の御指導・御助言を賜りました関係各位に心から感謝申し上げ、ごあいさつといたします。

平成31年3月

水戸市教育委員会

教育長 本 多 清 峰

例　　言

- 本書は、茨城県水戸市東前町地内に所在する東前原遺跡第17地点の発掘調査報告書である。
- 調査は、(仮称)ツルハドラッグ水戸東前店新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、水戸市教育委員会が実施した。

本多 清峰 水戸市教育委員会教育長

事務局

関口 慶久 水戸市教育委員会事務局教育部歴史文化財課埋蔵文化財センター所長

米川 鳩敬 同主幹

新垣 清貴 同主幹

廣松 混一 同文化財主事

丸山優香里 同埋蔵文化財専門員

松浦 史明 同埋蔵文化財専門員

染井 千佳 同埋蔵文化財専門員

有田 洋子 同嘱託員(公開活用担当)

昆 志穂 同嘱託員(庶務担当)

米川 健太 同臨時職員

- 出澤秀行・大和ハウス工業株式会社から発掘調査業務委託を受けて有限会社毛野考古学研究所茨城支所は、水戸市教育委員会の監督のもと発掘調査を実施した。担当者は土生朗治である。
- 調査期間は、平成30年5月23日～平成30年8月7日、整理期間は、平成30年9月1日～平成31年3月31日で、調査面積は3443.50 m²である。

- 調査・整理担当者：執筆分担は以下の通りである。

【発掘調査】土生朗治（有限会社毛野考古学研究所）

【整理作業】土生朗治、賀来孝代（有限会社毛野考古学研究所）

執筆分担は、第1章第1節、第2章を新垣が、第1章第2～4節、第3・4章を土生が担当し、賀来が編集した。

- 本書に関わる資料は水戸市教育委員会が保管している。

- 20号堅穴建物出土石製品の石材は、茨城県自然博物館 小池涉氏に鑑定していただいた。

- 発掘調査から本書刊行に至るまで、下記の方々・諸機関からご指導・ご協力を賜りました。記して感謝申し上げます（敬称略）。

【個人】稻田健一、宇留野主税、川口武彦、窪田恵一、小池涉

【機関】茨城県教育庁文化課、茨城県自然博物館

- 本書の作成にあたっては、高橋真弓、鬼山由子、仙波菜津美、石山亜希子、大滝千晶、成田恵美の協力を得た。

- 発掘調査参加者は以下の通りである。

石崎靖也、石山匠、市毛祐一、大津智美、小山義則、海後晴美、小河原百合子、小久保勝司、佐藤武志、

佐藤としえ、鈴木潤一、立原正一、仲沢栄、村上巧兒、茂垣裕二、安井忠一、渡辺恵子

凡　　例

1. 本書で使用した地図は、国土地理院発行 2万5千分の1 地形図、水戸市発行 2千5百分の1 都市計画図である。
2. 出土遺物の注記で使用した遺構の略号は以下の通りである。

SI・・・堅穴建物 SB・・・掘立柱建物 SE・・・井戸 SX・・・陥し穴 SK・・・土坑
SD・・・溝 Pit・・・ピット K・・・搅乱
3. 実測図で使用した縮尺は以下の通りである。違う縮尺を使う場合は個別に表示している。

堅穴建物・掘立柱建物・井戸・陥し穴・土坑・溝・ピット・・・1/60　　全体図・・・1/300
4. 遺構一覧表・遺物觀察表の表記は、() 内数値が計測推定値を、< > 内数値は残存値を表す。

目 次

ごあいさつ

例言

凡例

第1章 調査に至る経緯と調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2
第3節 調査の方法	2
第4節 基本層序	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第3節 既往の調査	7
第3章 遺構と遺物	10
第1節 堅穴建物	10
第2節 堀立柱建物	87
第3節 井戸	90
第4節 陥し穴	91
第5節 土坑	95
第6節 溝	100
第7節 道路	100
第8節 ピット	107
第9節 遺構出土遺物	108
第4章 総括	125

挿 図 目 次

第1図 東前原遺跡 第17地点試掘調査	1	第11図 3号堅穴建物	17
第2図 基本層序	2	第12図 4A・4B号堅穴建物	18
第3図 遺跡の位置	3	第13図 3号堅穴建物出土遺物	19
第4図 周辺の遺跡	4	第14図 4A号堅穴建物出土遺物 (1)	19
第5図 既往の調査地点	7	第15図 4A号堅穴建物出土遺物 (2)	20
第6図 調査区全体図	11	第16図 4B号堅穴建物出土遺物	20
第7図 1A・1B号堅穴建物	13	第17図 5号堅穴建物	21
第8図 2号堅穴建物	14	第18図 5号堅穴建物出土遺物 (1)	22
第9図 1B号堅穴建物出土遺物	15	第19図 5号堅穴建物出土遺物 (2)	23
第10図 2号堅穴建物出土遺物	15	第20図 6号堅穴建物	24

第21図	6号竪穴建物出土遺物	25
第22図	7号竪穴建物	26
第23図	7号竪穴建物出土遺物	27
第24図	8号竪穴建物	28
第25図	8号竪穴建物出土遺物	28
第26図	9号竪穴建物	29
第27図	9号竪穴建物出土遺物	30
第28図	10号竪穴建物	31
第29図	10号竪穴建物出土遺物	32
第30図	11号竪穴建物	33
第31図	11号竪穴建物出土遺物(1)	34
第32図	11号竪穴建物出土遺物(2)	35
第33図	12号竪穴建物	37
第34図	12号竪穴建物出土遺物(1)	38
第35図	12号竪穴建物出土遺物(2)	39
第36図	13号竪穴建物	40
第37図	13号竪穴建物出土遺物(1)	41
第38図	14号竪穴建物	42
第39図	13号竪穴建物出土遺物(2)	43
第40図	14号竪穴建物出土遺物	43
第41図	15号竪穴建物	44
第42図	15号竪穴建物出土遺物	45
第43図	16号竪穴建物	46
第44図	16号竪穴建物出土遺物(1)	47
第45図	16号竪穴建物出土遺物(2)	48
第46図	17A号竪穴建物出土遺物	48
第47図	17A・17B号竪穴建物	49
第48図	17B号竪穴建物出土遺物	50
第49図	18号竪穴建物	51
第50図	18号竪穴建物出土遺物	52
第51図	19号竪穴建物	52
第52図	19号竪穴建物出土遺物(1)	53
第53図	19号竪穴建物出土遺物(2)	54
第54図	20号竪穴建物	55
第55図	20号竪穴建物出土遺物(1)	56
第56図	20号竪穴建物出土遺物(2)	57
第57図	21号竪穴建物	58
第58図	21号竪穴建物出土遺物	59
第59図	22号竪穴建物	60
第60図	22号竪穴建物出土遺物	60
第61図	24号竪穴建物	61
第62図	25号竪穴建物	62
第63図	24号竪穴建物出土遺物	63
第64図	25号竪穴建物出土遺物	63
第65図	26号竪穴建物	64
第66図	27号竪穴建物	64
第67図	28号竪穴建物	65
第68図	26・27・28号竪穴建物出土遺物	65
第69図	29号竪穴建物	66
第70図	29号竪穴建物出土遺物	67
第71図	31号竪穴建物	69
第72図	31号竪穴建物出土遺物	69
第73図	32号竪穴建物	70
第74図	32号竪穴建物カマド	71
第75図	32号竪穴建物出土遺物(1)	72
第76図	32号竪穴建物出土遺物(2)	73
第77図	32号竪穴建物出土遺物(3)	74
第78図	33号竪穴建物	75
第79図	33号竪穴建物出土遺物	75
第80図	34号竪穴建物出土遺物	75
第81図	34号竪穴建物	76
第82図	35号竪穴建物	77
第83図	35号竪穴建物出土遺物	78
第84図	36号竪穴建物	79
第85図	36号竪穴建物出土遺物	80
第86図	37号竪穴建物	80
第87図	37号竪穴建物出土遺物(1)	81
第88図	37号竪穴建物出土遺物(2)	82
第89図	38号竪穴建物	83
第90図	39号竪穴建物	83
第91図	40号竪穴建物	84
第92図	41号竪穴建物	84
第93図	38・39・40・41・42号竪穴建物出土遺物	85
第94図	42号竪穴建物	86
第95図	1号掘立柱建物	87
第96図	2号掘立柱建物	88
第97図	3号掘立柱建物	89
第98図	掘立柱建物出土遺物	91
第99図	1・2号井戸	91
第100図	井戸出土遺物	92
第101図	1・2・3号陥し穴	93
第102図	2号陥し穴・土坑出土遺物	94
第103図	土坑(1)	96
第104図	土坑(2)	97
第105図	1号溝	99
第106図	道路関連溝(2・3・4・5・6・8・9号)	101
第107図	道路関連溝(西部分)	103
第108図	道路関連溝(中央部分)	104
第109図	道路関連溝(東部分)	105
第110図	溝出土遺物	106
第111図	ピット出土遺物	109
第112図	遺構外出土遺物	109
第113図	遺構外・表土出土遺物	110
第114図	古墳へ平安時代の集落変遷図	127
第115図	6～7世紀の土器	129
第116図	茨城県内出土のクルヘル鉗	129
第117図	須恵器ヘラ記号集成図	130

表 目 次

表 1 主要な周辺遺跡一覧表	5	表 12 出土遺物観察表 (9).....	119
表 2 既往の調査一覧表	9	表 13 出土遺物観察表 (10).....	120
表 3 ピット一覧表	108	表 14 出土遺物観察表 (11).....	121
表 4 出土遺物観察表 (1).....	111	表 15 出土遺物観察表 (12).....	122
表 5 出土遺物観察表 (2).....	112	表 16 出土遺物観察表 (13).....	123
表 6 出土遺物観察表 (3).....	113	表 17 出土遺物観察表 (14).....	124
表 7 出土遺物観察表 (4).....	114	表 18 須恵器ヘラ記号一覧表	131
表 8 出土遺物観察表 (5).....	115	表 19 出土遺物集計表 (1)	132
表 9 出土遺物観察表 (6).....	116	表 20 出土遺物集計表 (2)	133
表 10 出土遺物観察表 (7).....	117	表 21 出土遺物集計表 (3)	134
表 11 出土遺物観察表 (8).....	118		

写 真 図 版 目 次

図版 1 西調査区、東調査区、1・2・3号堅穴建物	図版 18 8・9・10号堅穴建物遺物
図版 2 4A・4B・5・6・7号堅穴建物	図版 19 11号堅穴建物遺物
図版 3 7・8・9・10号堅穴建物	図版 20 11・12号堅穴建物遺物
図版 4 10・11・12・13号堅穴建物	図版 21 12・13号堅穴建物遺物
図版 5 13・14・15・16・17A・17B号堅穴建物	図版 22 13・14・15号堅穴建物遺物
図版 6 17A・17B・18・19・20号堅穴建物	図版 23 15・16・17A号堅穴建物遺物
図版 7 20・21・22・24号堅穴建物	図版 24 17B・18・19号堅穴建物遺物
図版 8 25・26・27・28号堅穴建物	図版 25 19・20号堅穴建物遺物
図版 9 29・31・32号堅穴建物	図版 26 20・21・22号堅穴建物遺物
図版 10 32・33・34・35・36号堅穴建物	図版 27 24・25・26・27・28・29号堅穴建物遺物
図版 11 37・38・39・41・42号堅穴建物、1号井戸	図版 28 29・31・32号堅穴建物遺物
図版 12 2号井戸、1・2・3号陥し穴、1号掘立柱建物	図版 29 32・33・34・35号堅穴建物遺物
図版 13 1・5・12号土坑、1号溝、1号道路遺構	図版 30 36・37号堅穴建物遺物
図版 14 1・2・3・4A号堅穴建物遺物	図版 31 37・38・39・40・42号堅穴建物遺物
図版 15 4A・4B・5号堅穴建物遺物	図版 32 41号堅穴建物、1・2・3掘立柱建物、1・2号井戸、2号陥し穴、1・5・6号土坑遺物
図版 16 5号堅穴建物遺物	図版 33 1・2・3号溝、6・29号ピット、遺構外・表土遺物
図版 17 6・7号堅穴建物遺物	

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

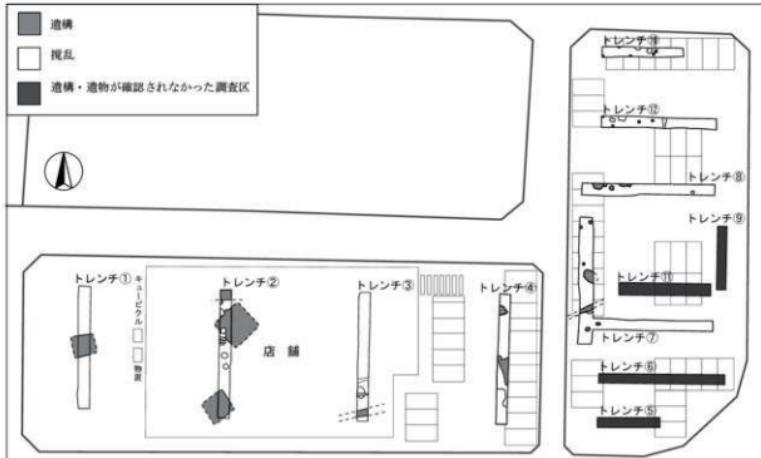
第1節 調査に至る経緯

平成30年2月20日付けで、物販店舗建設に伴い、大和ハウス工業株式会社茨城支社長 成田誠（以下「事業者」という）から、水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）教育長あて、「埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて」が提出された。

開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「東前原遺跡」に該当しており、工事着手60日前までに茨城県教育委員会教育長あて文化財保護法第93条に基づく届出を提出する必要があること、遺跡の発掘調査を必要とする場合には原因者の協力をお願いする旨回答した（平成30年2月23日付け・教理第1712号）。

その後、平成30年3月7～8日と13～14日に試掘調査を実施した。計12本の調査区を設定し、掘削したところ、4か所を除き8か所の調査区から堅穴建物跡や土坑、ピット、溝などの遺構とともに遺物が検出された（東前原遺跡第17地点第1次調査、教理第1713号、第1図）。その後、市教委は現状保存に向け事業者と協議を重ねたが、工事による影響は不可避であり、埋蔵文化財の現状保存は極めて困難であるとの結論に達した。このため市教委は、事業者から提出のあった文化財保護法第93条第1項に基づく届出について、記録保存を目的とした本発掘調査を実施すべき旨の意見書を付して、茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）教育長あて進呈した（平成30年4月26日付け教理第1714号）。この通知に対し、県教委教育長から平成30年5月10日付け文第308号にて、工事着手前に発掘調査を実施すること、また、調査の結果、重要な遺構が確認された場合にはその保存について別途協議を要する旨の指示・勧告があった。

これを受け、市教委は工事対象地のうち埋蔵文化財が確認され、開発により影響を受ける面積3,443.50m²を調査対象とし、平成30年5月23日～平成30年8月31日の期間に有限会社毛野考古学研究所の支援を受けて記録保存を目的とした本発掘調査を実施することとした。



第1図 東前原遺跡 第17地点試掘調査 (1/2,000)

第2節 調査の経過

平成30年5月23日東前原遺跡第17地点表土除去作業を開始する。5月26日には遺構の確認作業を開始し28日には西側調査区の西端から堅穴建物・溝の掘り込みを開始する。遺構は堅穴建物跡42軒、掘立柱建物跡3棟、土坑や溝などが予想を超える数で確認される。6月～7月と順次東側に向かって調査を進め、8月初旬には東側調査区の掘り込み・図面作成・空撮写真撮影がほぼ終了する。その後ピットや土坑の調査もれがないかを確認し、8月7日に現地調査を完了する。

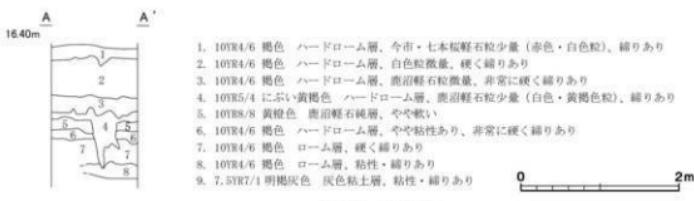
第3節 調査の方法

調査区は水戸市教育委員会による試掘の結果を基に設定した。表土除去は重機を使用して遺構確認面まで掘り下げた。その後人力作業により遺構確認を行い、遺構の掘り下げを行った。遺構の測量は、世界測地系平面直角座標第IX系上の公共座標に基づいて行なった。公共座標上で、調査範囲外側の北西角のX軸37850、Y軸62480を起点として、南方向と東方向に10mおきにグリッドラインを設定し、交差したマス目に第6図にあるようにA1からG12までグリッド名を振り遺構の位置を示した。調査は表土掘削、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。遺構の記録は1/20縮尺を基本として平面・断面図を作成し、遺構・遺物の規模や性格により、1/10、1/20を使用した。遺跡全測図は1/200で作成した。写真撮影は、白黒35mm判、リバーサル35mm判。デジタルカメラ(1,600万画素)を使用し、調査の各段階に随時行った。

第4節 基本層序

調査区の基本堆積土層は、西側の調査区の西部に位置する4号堅穴建物付近のA地点で堅穴建物の調査が終了したのちに、重複している近世の井戸(1号井戸 D-2グリッド)の深部の調査と絡めて記録した。

1～4層は硬質な褐色ハードローム層で、1層中には今市・七本桜輕石粒を少量含んでいる。3～4層中には赤城山鹿沼テフラ(Ag-KP)粒を少量含んでいる。5層は赤城山鹿沼テフラの純層でやや軟らかい。7・8層はやや粘性のある褐色ローム層で、9層は灰褐色粘土層である。



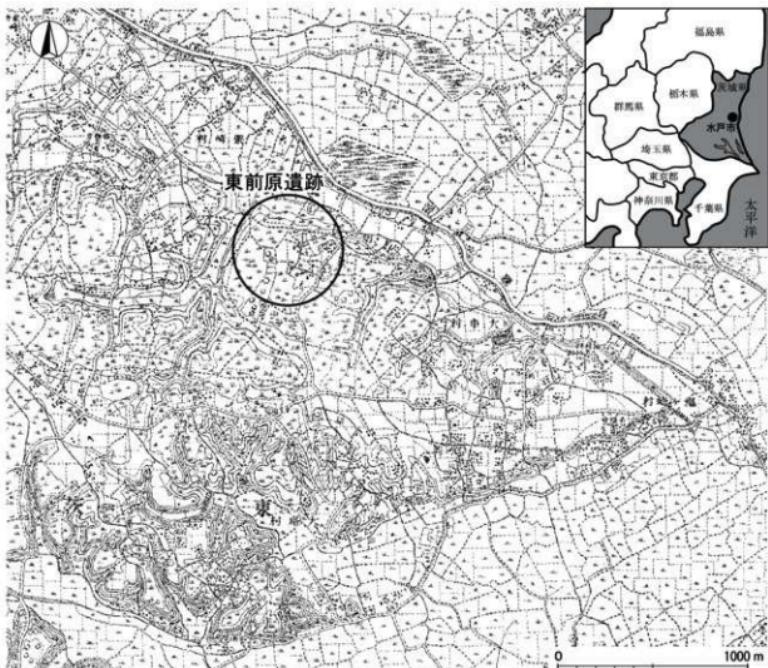
第2図 基本層序

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

水戸市は、関東平野の北東部、茨城県のほぼ中央に位置する。市域の北部には、西から東へ流れる那珂川とその支流により形成される沖積低地が広がり、これに沿うように東茨城台地が太平洋に向かって突き出している。その下流域右岸の大半が水戸市域となる那珂川は、栃木県の那須連山を水源として、八溝山地の西縁を南へ流れた後、烏山の南から方向を東へ変えて八溝山地を横断し、今度は御前山を背にして南東へ方向を変えて那珂台地と東茨城台地との間を太平洋へと流れ出る。この那珂川の存在により、栃木県域に広がる那須野原や喜連川丘陵などの内陸部と太平洋沿岸部とが水上交通によって結ばれることから、歴史的に水戸市域は交通の要衝地となることが多かった。

東前原遺跡は、東茨城台地の北東部をなす水戸台地の東側縁辺、標高約19mのところに位置しており、東西300m、南北150mほどの畠地に展開する。当該地周辺は明治18（1885）年には広範囲にわたって松林であったことが確認できるが（第3図）、近年では土地区画整理事業に伴い、大規模な土地改変が行われ、宅地化が進んでいる。



第3図 遺跡の位置 (1/25,000 明治18年測量 第一師管地方迅速測圖)

第2節 歴史的環境

東前原遺跡が立地する東茨城台地、特に東端部には、縄文から近世に至るまで、数多くの遺跡が密集している。ここでは東前原遺跡の周辺に分布する遺跡群とそれらを取り巻く歴史的環境を概観する。

東前原遺跡周辺における人々の営みの歴史は先土器時代にまで遡る。当該期の資料は、東前原遺跡と石川川を挟んだ対岸に位置する森戸古墳群からの出土例が知られているのみである。森戸古墳群では、第12号墳（大六天古墳）の発掘調査において、チャートやメノウから構成される石器群の出土が報告されている。それら石器群の大部分は墳丘盛土・周溝覆土内からの出土であるが、剥片であるものの、1点が周溝底面のローム中から出土している（伊藤 1976）。これらの資料のほか、明確に遺跡としてくられた範囲内での採集ではないが、水戸市百合が丘、下入野町地内などにおいて、ガラス製黒色ディサイトや硬質頁岩製の神子柴型尖頭器が採集されている（川口 2005, 2008）。縄文時代の遺跡としては、第一に挙げるべきは大串貝塚であろう。大串貝塚は『常陸國風土記』那賀郡条に記された巨人伝説とともに著名な前期貝塚であり、貝塚としては、文献に記載された世界最古のものである。一部が国指定となっているが、その名に恥じぬ豊富な出土資料は、質・量ともに茨城県下における当該

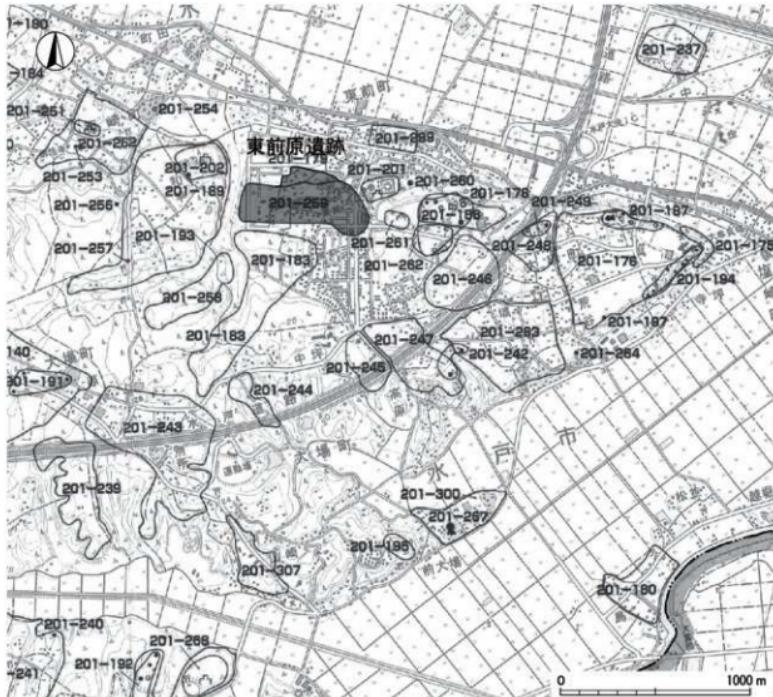


表1 周辺の主な遺跡一覧

遺跡番号	名 称	所在地	種別	遺 物	備 考
201-006	下郷遺跡	元石川町	集落跡	縄文土器(中・後)。打製石斧、石鏟、石錐、磨石、石棒、石劍、土器片鍵、土師器(古後)	
201-141	雁沢遺跡	元石川町	集落跡	縄文土器(中)。弥生土器(後)。土師器(古前)	
201-175	大串貝塚	庭瀬町	貝塚	縄文土器(前・後)。石製品。貝刃、釣針・網具	一部国指定
201-176	大串遺跡	庭瀬町	集落跡	縄文土器(前・後)。土師器(吉・奈・平)。須恵器(奈・平)。布目瓦。灰釉陶器	
201-183	小原遺跡	東前町	集落跡	弥生土器(後)。土師器(古・奈・平)。須恵器(奈・平)	
201-186	金山塙古墳群	大串町	古墳	円筒埴輪、鐵鏹、刀子	前方後円(1)、円3(5)
201-187	大串古墳群	大串町	古墳	五臘鏡、銅輪、直刀、鐵鏹、壺鏡。赤環鏡板利骨	前方後円(1)、円1(5)
201-189	愛宕神社古墳	要崎町	古墳		
201-192	森戸古墳群	森戸町	古墳	土師器(古)。円筒埴輪、形象埴輪、勾玉	前方後円(1)、方0(1)、円15(17)
201-193	上平遺跡	要崎町	集落跡	土師器(古・奈・平)。須恵器(奈・平)	
201-201	椿山廻跡	東前町	城郭跡		
201-202	和平廻跡	要崎町	城郭跡		
201-242	高原古墳群	大堀町	古墳		円2
201-244	謝訪前遺跡	大堀町	集落跡	土師器(古・奈・平)。須恵器(奈・平)	
201-245	沢幡遺跡	大堀町	集落跡	土師器(古・奈・平)。須恵器(奈・平)。樂善土器。円面鏡。莉鍊串、硯石。鐵鏹。	
201-246	桜内遺跡	大串町	集落跡	土師器(古後)。奈・平)。須恵器(奈・平)。刀子。刀面鏡。樂善土器。硯石。吉鉢。禮賀	
201-247	高原遺跡	大串町	集落跡	弥生土器(後)。土師器(古・平)。須恵器(奈・平)。土師質土器。椎管	
201-248	北屋敷古墳群	大串町	集落跡	土師器(古後)。奈・平)。須恵器(奈・平)。瓦。陶器	
201-249	北屋敷古墳群	大串町	古墳	形象埴輪、直刀、小刀、鐵鏹	円1(2)
201-251	伊豆屋敷跡	要崎町	城郭跡		
201-252	上野遺跡	要崎町	集落跡		
201-253	桃寺寺古墳	要崎町	古墳		
201-254	フジヤマ古墳	要崎町	古墳		
201-256	謝訪神社古墳	要崎町	古墳		
201-257	千浦神社古墳	要崎町	古墳		
201-258	引船遺跡	要崎町	集落跡	土師器(奈・平)。須恵器(奈・平)	
201-259	東前原遺跡	東前町	集落跡	弥生土器(後)。土師器(古・平)。須恵器(奈・平)	本調査遺跡
201-260	住吉神社古墳	東前町	古墳		
201-261	大串原館跡	大串町	城郭跡		
201-263	宮前遺跡	大串町	集落跡	土師器(奈・平)。須恵器(奈・平)	
201-299	上の下遺跡	東前町	包羅地		

期の貝塚を凌駕している(水戸市教委 2010)。また、下郷遺跡では、加曾利E式、大木8b式期の堅穴建物跡をはじめとする遺構群が確認されており(井上 1985)、複式炉を有する住居跡が発見されるなど、中期から後期にかけての人々の営みを窺うことができる。

弥生時代については、東前原遺跡周辺における状況も水戸市全域における傾向に違わず、生活の痕跡は他時期のそれに比べてやや低調な傾向にある。しかしながら、後期に至っては、丘陵沿いの台地上や縁辺部に立地する小原遺跡、高原遺跡、雁沢遺跡などで遺物の採集や出土が報告されており、これらの調査成果の蓄積により、徐々にではあるが、水戸市域における弥生時代の土地利用の様相が像を結びつつある。

古墳時代を迎えると、大串古墳群、北屋敷古墳群、高原古墳群、森戸古墳群などを筆頭に、古墳が活発に築造されるようになる。これらの古墳のうち、北屋敷古墳群第2号墳では発掘調査が実施されており、円筒埴輪、武人をはじめとする人物埴輪、馬形埴輪など形象埴輪が多く出土した(井上 1995)。このうち、ほぼ全身が出土

した武人埴輪は水戸市指定文化財となっている。集落の分布としては、中期の集落に係る資料に乏しく、周辺では管見に触れないが、前期の集落としては大串遺跡（井上 1994）、後期の集落としては梶内遺跡（樋村 1995）、小原遺跡（第3地点）などの調査事例がある。当該台地上においては、前期・後期ともに活発な土地利用がみてとれる反面、中期における土地利用が緩慢であると言わざるを得ない。このことは集落展開の動態について、中期において相応の変動があったことを示唆するものである。

奈良・平安時代となり、律令制下の中央政権体制が構築されていくなか、水戸市域においても地方末端支配を目的とした郡衙及び郡寺の造営が、渡里町に所在する台渡里官衙遺跡群において行われ、律令体制の中へと組み込まれていくこととなる。水戸市は全城が常陸国那賀郡城内にあり、当該遺跡周辺は同郡芳賀里（郷）に比定される（中山 1979）。当該時期の遺跡として、先ず注目すべきは大串遺跡の存在である。大串遺跡第7地点における発掘調査では、断面V字状を呈する大型の溝によって区画された内部に、整然と並ぶ絶地業の礎石建物跡3棟が確認されている。また、東柱をもち、臺地業を有する桁行6間×梁行3間の大型の掘立柱建物跡なども発見され。一般集落とは大きく異なる様相を示している。大型の掘立柱建物柱抜き取り穴からは多量の炭化材と共に炭化米が、区画溝からは炭化した穀穂や穀稻が出土しており、これらの建物が正倉としての性格を有し、火災により焼失していたことが明らかになっている。また、「厨」銘墨書き土器も出土するなど、官衙的色彩の強さが目立つ遺構・遺物群から、本遺跡は那賀郡内に設置された正倉別院であったであろうことが指摘されている（水戸市教委 2007）。

このほか、梶内遺跡は、7世紀から10世紀まで、途中希薄になる時期は存在するものの、比較的長く継続する集落跡として注視すべき遺跡である。当該遺跡では、「舍人」「長」や里（郷）名を記したとみられる「芳」銘墨書き土器、9点もの円面鏡を出土しており、官衙関連遺跡としての性格を匂わせる（樋村 1995）。また、東前原遺跡直近に位置する小原遺跡では、近年相次いで実施した発掘調査の成果により、6世紀から9世紀にかけて存続した集落であることが明らかになっており、「官」銘墨書き土器の出土から、梶内遺跡と同様の性格を有している可能性が考えられる（太田・土生 2015、齋藤・米川 2016）。以上のような遺跡群の集中する様は、『常陸國風土記』那賀郡条の「平津驛家西一二里有岡名曰大樹」の記事（秋本 1958）とあわせ、東前原遺跡とその周辺地域が、常陸国那賀郡芳賀里（郷）の中枢ともいえる地域であったことを物語っている。

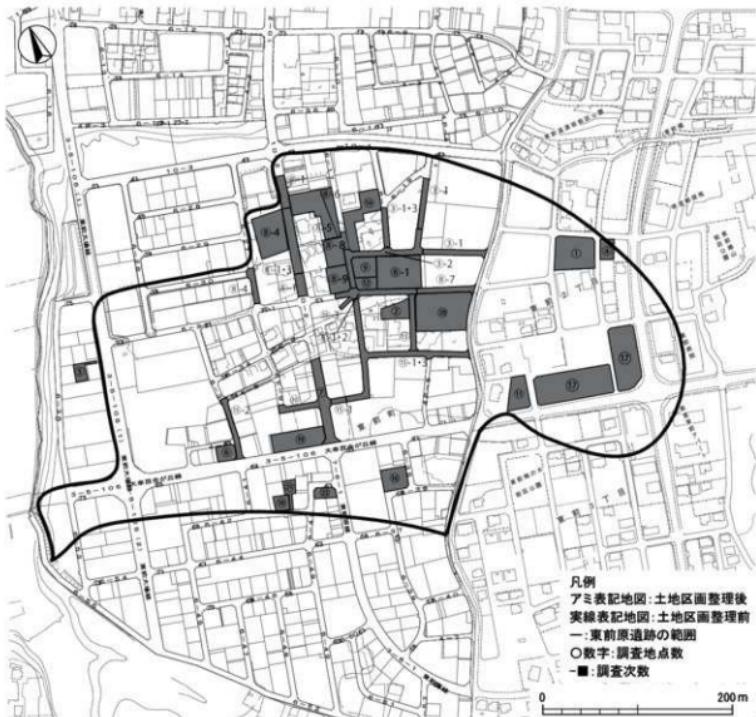
武士が実権を握る中世に、東前原遺跡が所在する旧常澄村域と重なる恒富郷を根拠としていたのは、常陸平氏大掾氏の一派である石川氏であった（常澄村史編さん委員会編 1989）。東前原遺跡周辺の当該時期の遺跡としては、椿山館跡、和平館跡、大串原館跡が挙げられる。いずれの城館跡も土壘の残存が報告されているが、調査事例が少なく、その詳細については不明な点が多い（水戸市教育委員会 1999）。

近世において、当該地域の台地上は水戸城下の外縁部にあたり、必ずしも前代のような求心力を有する地域であるとは言い難い。しかしながら、当該時期に帰属する溝跡や土坑などは各所で散見され、その土地利用の痕跡を窺うことはできる。なかでも、『新編常陸國誌』などに立原伊豆守の居所と記されている伊豆屋敷跡では、発掘調査の結果、3条の土堀と1条の溝跡が確認されている（井上 1998）。

以上のように、東前原遺跡が立地する台地上には、縄文時代から近世に至るまで、豊富な遺跡が所在している。古代には、大串遺跡や梶内遺跡などの官衙関連遺跡が展開をみせ、古代常陸国那賀郡の中枢であった台渡里官衙遺跡群との色濃い関連性は疑うべくもない。現在、東前原遺跡周辺における調査の蓄積には目覚ましいものがある。これらの調査成果の丹念な検討から、当該地域の歴史像が結ばれていくことが期される。

第3節 既往の調査

東前原遺跡における発掘調査は、平成20（2008）年の第1地点の試掘調査から始まり、今次調査地点を含めて現時点において、計13地点において行われている（第4図、第2表）。これらの半数は個人住宅建築に伴う調査面積が狭小な試掘調査であり、東前原遺跡南端部に位置する第6地点にて性格不明遺構が1基確認されたことを除き、明確に埋蔵文化財として捉えられる遺構は検出されていない。しかしながら、表探や調査区表土中では少なからず遺物が散見されることから、埋蔵文化財が確認できなかった地点周辺に未だ発見されていない遺構が存在している可能性は極めて高い。また、近年の土地区画整理事業に伴う市道敷設範囲や整地予定地では、3地点（総調査面積434.5m²）に亘る試掘調査を実施しており、そのほぼ全ての調査区で濃密な埋蔵文化財の分布を確認している。そのうち、注目されるのは第3地点第2次及び第8地点第2次・第3次の本発掘調査である。第3地点第2次では、堅穴建物跡11軒（奈良・平安）や掘立柱建物跡2棟（時期不明）、土坑9基（奈良・平安時代、中世）、溝跡6条（奈良・平安時代）、柱穴状遺構1基（時期不明）を検出しており、出土遺物としては、



第5図 既往の調査地点

土師器、須恵器、鉄製品、石製品、獸骨がある。堅穴建物跡は、一边が6mを超えるものから2.5mの小型のものなど様々な規模のものがみられ、主軸方向は北北西—南南東を主とするが、東一西に向いたものもわずかに存在することから、異なる時期の集落が展開していたことが推測される。なお、当該地点で確認された堅穴建物跡の多くは、北壁にカマドを持つ形状を基本としているが、そのうち1軒のみ、真北隅にカマドを持つ堅穴建物跡が確認されていることも注視される。

第8地点第2次では、堅穴建物跡6軒（奈良・平安）、掘立建物跡5軒（中近世）、ピット5基（中近世）、土坑9基（中近世）、ピット状遺構群1群（中近世）、溝跡2条（中近世）が確認されており、遺物は土師器（奈良・平安）、須恵器（奈良・平安）、土師質土器（中近世）、陶磁器、銅製品（煙管）が出土している。ほとんどの堅穴建物跡は全体の1/2程度のみの検出に留まり、全容は確認できなかつたが、建物の主軸は概ね南北方向に向いており、1軒のみ一边が7m程の大型の堅穴建物跡があるものの、それ以外は4m程度のものが多く、規模や出土遺物から奈良・平安時代に帰属するものと考えられる。その他、中～近世の円形や方形の粘土張り土坑も検出されている。第8地点第3次では、堅穴建物跡19軒（弥生・奈良・平安）、掘立柱建物跡3軒（奈良・平安）、ピット98基（奈良・平安）、土坑12基（奈良・平安）、溝跡2条（奈良・平安）、堅穴状土坑1基（奈良・平安）、井戸跡1基（中近世以降）、土坑1基（中近世以降）が確認されており、弥生土器、土師器（奈良・平安）、須恵器（奈良・平安）、灰釉陶器（奈良・平安）、土器（奈良・平安）、瓦（奈良・平安）、土製品（奈良・平安）、手捏土器（奈良・平安）、石製品（奈良・平安）、鉄製品（奈良・平安）が出土している。当該地点では、東前原遺跡においては初の確認事例である弥生時代後期の堅穴住居跡1軒を確認している。また、調査区中央には東西に走る大型の溝跡を検出しており、集落を囲繞する区画溝としての機能が想定されているが、薬研状の形状や周辺に中世館跡が点在する環境から中世以降まで時期が下ることも考えらえる。なお、本調査区においてもこの溝跡の延長部分が確認されている。

これらの多くの堅穴建物跡から、一時その営みが確認されない時期もあるものの、古墳～奈良・平安時代にかけて展開した比較的規模の大きい集落跡であることは明白である。また、中～近世の遺構も点在しており長期間に亘って土地利用がなされてきた遺跡である。

表2 既往の調査一覧表

地點 次 数	種 別	調査年月日	調査箇所	調査原因	虚 偽 物
1	1 試	平成20年11月11日	東前2丁目57・60	個人住宅建築	— ○
2	1 試	平成24年2月2日	東前第二土地区画59街区8	個人住宅建築	— —
3	1 試	平成26年5月8日～5月6日	東前第二土地区画6-17・18・20・21号線(部分)	土地区间整理事業	○ ○
3	2 本	平成27年2月9日～3月10日	東前第二土地区画18・6・20・21号線		○ ○
4	試	平成26年7月30日	東前2丁目61、62	個人住宅建築	— ○
5	試	平成27年1月22日	東前第二土地区画59街区15	個人住宅建築	— —
6	試	平成27年4月28日	東前第二土地区画33街区2	個人住宅建築	○ ○
7	1 試	平成27年5月8日		土地区间整理事業	○ ○
7	2 本	平成28年3月28日～4月21日	東前町1124-1～1126		○ ○
1	1 試	平成27年6月16日～6月19日	東前第二土地区画43街区22(部分)	土地区间整理事業	○ ○
2	本	平成27年12月22日～平成28年1月20日	東前第二土地区画6-22・31号線(部分)、同48街区3・4、同6-2・22・31号線一部	土地区间整理事業	○ ○
3	本	平成28年3月1日～4月6日	東前第二土地区画10-2号線(部分)	土地区间整理事業	○ ○
4	本	平成28年3月8日～5月16日	東前第二土地区画42街区3・8・18・20他6-27号線の一部	土地区间整理事業	○ ○
8	5 本	平成28年5月25日～7月7日	東前第二土地区画43街区32・37・39・41・42・43・44・45	土地区间整理事業	○ ○
6	立	平成28年7月12日	東前第二土地区画43街区5・28・38・40・36他39の一部	土地区间整理事業	○ ○
7	本	平成28年12月25日～平成29年1月7日	東前第二土地区画6-22号線(部分)	土地区间整理事業	○ ○
8	本	平成29年6月7日～7月26日	東前第二土地区画43街区9、同6-17号線(部分)	土地区间整理事業	○ ○
9	本	平成29年7月26日～8月26日	東前第二土地区画43街区22(部分)	農業用仓库建築	○ ○
9	試	平成27年7月15日	東前第二土地区画48街区6・7	個人住宅建築	— —
10	1 試	平成28年8月19日		土地区间整理事業	○ ○
10	2 本	平成28年11月10日～12月28日	東前第二土地区画6-33号線(部分)		○ ○
11	試	平成28年9月2日	東前町2-41-2～4	宅地造成	○ ○
12	1 試	平成29年3月24日		個人住宅建築	○ ○
12	2 本	平成29年5月11日～6月2日	東前第二土地区画48街区8		○ ○
13	1 試	平成29年3月24日		土地区间整理事業	○ ○
13	2 本	平成29年8月18日～8月30日	東前第二土地区画6-25号線		○ ○
14	1 試	平成29年12月15日～19日	東前第二土地区画44街区2・3・10・12・同5の一部	土地区间整理事業	○ ○
14	2 本	平成30年7月3日～8月17日			○ ○
15	1 試	平成29年12月15日～21日		土地区间整理事業	○ ○
15	3 本	平成30年6月27日～9月19日			○ ○
15	2 本	平成30年7月27日～9月19日	東前第二土地区画6-17・22・23号線(部分)	個人住宅建築	○ ○
16	試	平成29年12月21日	東前第二土地区画53街区20	個人住宅建築	○ ○
17	1 試	平成30年3月7日～14日	東前町2-35・36・37・38	店舗建設	○ ○
17	2 本	平成30年6月20日～8月31日			○ ○
18	試	平成30年4月24日	東前町第二土地区画64街区15	個人住宅建築	— ○
19	1 試	平成30年5月1日		福祉施設建設	○ ○
19	2 試	平成31年1月25日			○ ○
19	3 立	平成31年1月25日	東前第二土地区画34街区7・10・11・15・18		— ○
19	4 本	平成31年2月20日～21日			○ ○
20	1 試	平成30年8月2日		個人住宅建築	○ ○
20	2 立	平成31年1月24日	東前第二土地区画46街区4		— ○
21	試	平成31年1月17日	東前第二土地区画64街区12	個人住宅建築	— ○
22	試	平成31年2月26日	東前第二土地区画63街区1	個人住宅建築	○ ○

第3章 遺跡の位置と環境

第1節 壇穴建物

1A号壇穴建物（第7図、図版1・14）

位置 西調査区西部D2グリッドに位置する。**重複関係** 1B号壇穴建物と重複しており、1B号壇穴建物よりも古い。**規模と平面形** 南北方向3.10m、東西方向2.08m以上の方形で西側は調査区外に延びている。**主軸方向** N=2°-W。**覆土** 覆土はローム粒を多量に含んだ暗褐色土を主体とし、ローム小・中ブロックを多量に含むため埋め戻し堆積と見られる。**ピット** カマドの対面にあるP1は出入り口に関係すると見られる。

カマド 北壁側にあり、カマドの右側半分を調査した。カマドの規模は燃焼室幅0.3m以上、袖部が残存していないため壁から煙道部の掘り込み奥行きは0.3mで、比較的小さなカマドであったものと見られる。**床面** 床面はカマドの前面から出入り口ピットにかけて硬化している。**遺物** 実測遺物なし。**所見** カマドを北壁中央に持ち方形の小型壇穴である点から9世紀代に建てられたものと見られる。1B号壇穴建物に再利用されるようにして建て替えられているので、1B号壇穴建物が出土遺物から10世紀中葉前後に廃絶していると見られるので遅くとも10世紀前葉頃には廃絶しているものと見られる。

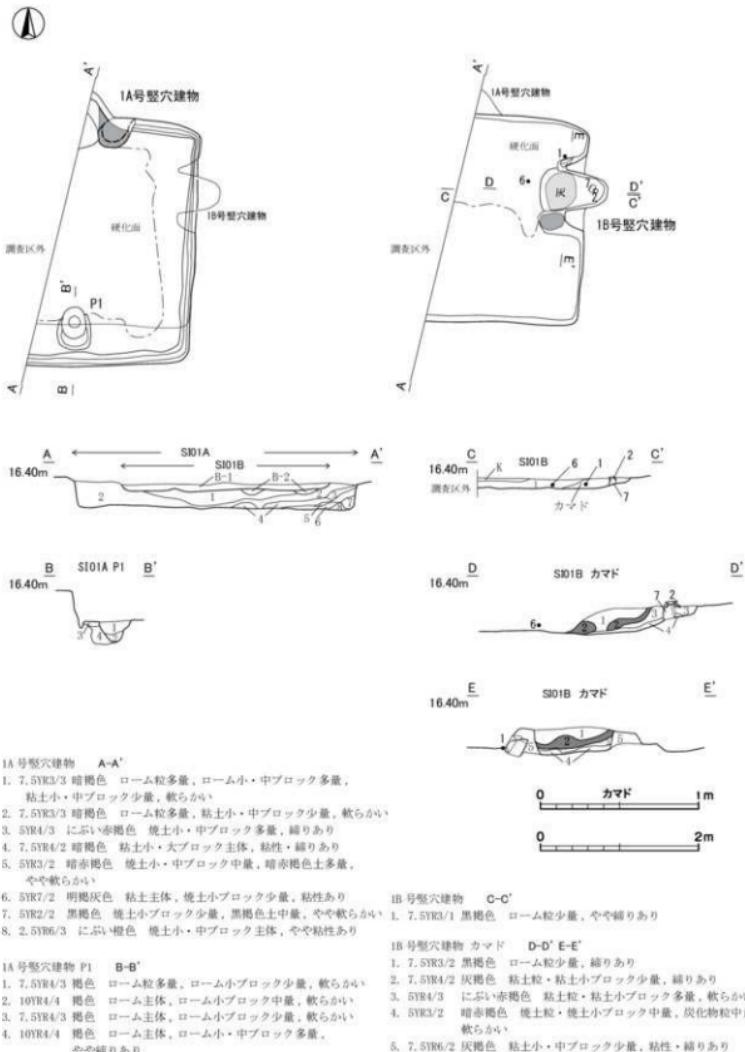
1B号壇穴建物（第7・9図、表4、図版1・14）

位置 西調査区西部D2グリッドに位置する。**重複関係** 1A号壇穴建物と重複し、1A号壇穴建物を埋め戻して構築しているものと見られる。**規模と平面形** 南北方向2.59m、東西方向1.84m以上の東西方向に長い長方形と推測される。**主軸方向** N=182°-E。**覆土** 覆土はローム粒を少量含んだ黒褐色土を主体としやや繊りがある。カマド周辺の覆土上へ中層にはカマドが壊れて散らばった灰褐色粘土ブロックが大量に含まれている。

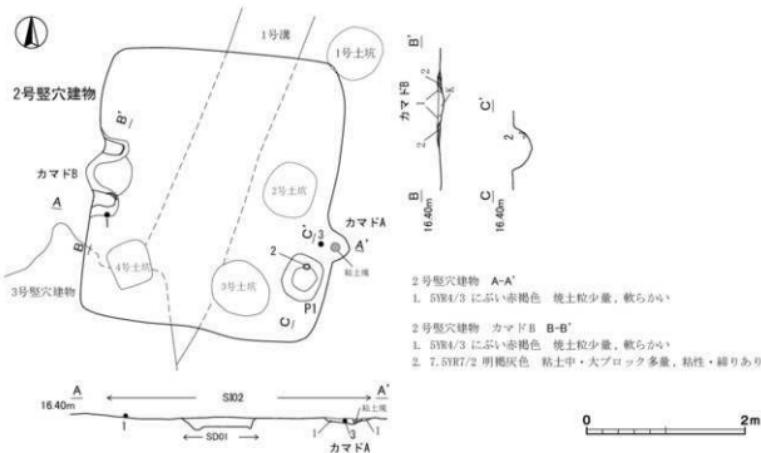
カマド 東壁中央部や北寄りの位置にある。袖部は粘土と凝灰岩質泥岩の石材を使用して構築している。カマドの規模は幅1.02m、燃焼室の幅は0.44m、焚口から煙道部立ち上がりまでの奥行きは0.82m、焚口から0.69m奥に石製の支脚が据え付けられた状態で出土している。**床面** カマド前面に当たる壇穴建物の北側半分が硬化している。**遺物** 土器・石製品が出土している。土器は土器師類で内面黒色処理の楕・皿、足高高台楕、体部を縱方向にヘラケズリした口縁部が短く外反する甕などが覆土やカマド周りから破片で出土している。カマドには凝灰岩質泥岩の切石材を使用していたようでカマド向かって左袖内から破片が1点と支脚として7が設置された状態で出土している。**所見** 1・2の楕は10世紀中葉頃、3の皿は9世紀第4四半期以降、4の小型甕も5の甕よりは古いと見られ、1・2・5の時期が壇穴建物の廃絶の時期を示唆し、3・4はより古い段階の1A号壇穴建物に係る土器の再堆積と推定される。



第6図 調査区全体図



第7図 1号 A・B堅穴建物



第8図 2号竖穴建物

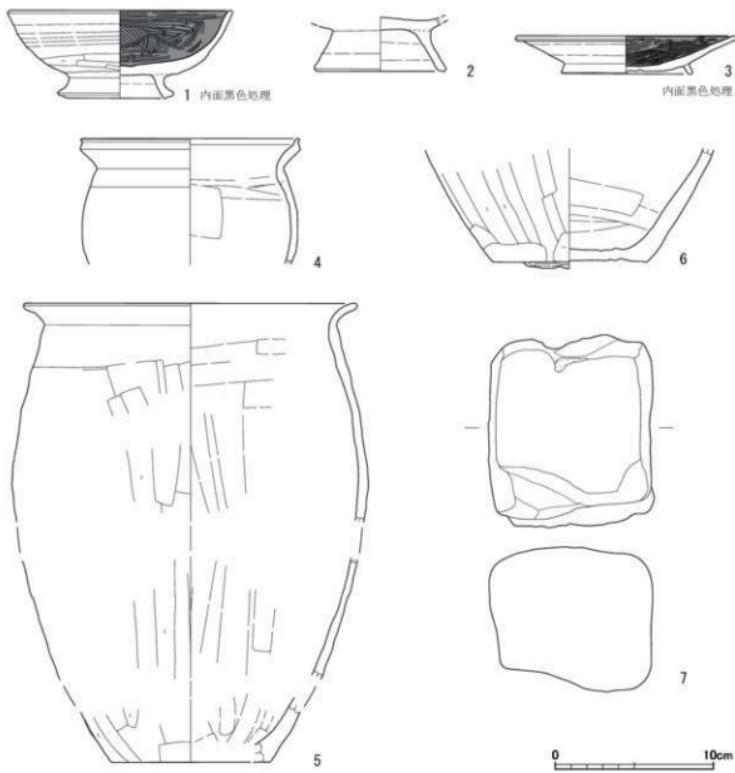
2号竖穴建物 (第8・10図, 表4, 図版1・14)

位置 西調査区西部D2・3グリッドに位置する。 **重複関係** 1号溝と重複し、1号溝の覆土上層を掘り込んで構築している。 **規模と平面形** 南北方向3.60m, 東西方向3.10mの縦長長方形。 **主軸方向** カマドA: N-198°—E, カマドB: N-82°—W。 **覆土** 覆土はほとんど残存していない。 **ピット** P1は掘り方が長方形の平面で長辺の方向が堅穴建物の東壁と平行する位置から見て2号堅穴建物に伴うものと判断した。

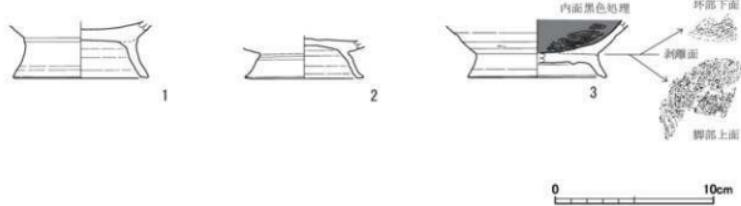
カマド 東西壁側に2基あり、袖部の残存状況が比較的良かった西壁側のカマドBが新しいカマドと判断した。カマドBの規模は幅1.02m, 燃焼室幅0.38m, 焚口から煙道部の立ち上がり部までの奥行きは0.48mである。東壁側のカマドAは袖部が残存しておらず、規模は東壁面の部分で幅0.4m, 壁から煙道部の立ち上がり部までの掘り込みの奥行きは0.28mである。 **床面** カマドBの前面に当たる堅穴建物の中央部東側に特に硬化している。 **遺物** 土器・石製品が出土している。1・2の椀は10世紀後半期、3の椀は第3四半期頃のものに形状が近く全体に10世紀中葉前後頃の遺物と見られる。 **所見** カマドAとカマドBの段階があり、カマドBの段階が残存状況から新しいと判断される。カマドAの段階の堅穴建物は南北方向にやや長い堅穴建物の東壁やや南寄りにカマドが設置されていたものと見られる。その後同じ堅穴建物の西壁中央にカマドを設置しなおし、10世紀中葉前後頃に廃絶しているものと見られる。

3号坚穴建物跡 (第11・13図, 表4, 図版1・14)

位置 西調査区西部D2グリッドに位置する。 **重複関係** 4号坚穴建物と重複し、4号坚穴建物の北西部とカマド左袖を掘り込んで構築している。 **規模と平面形** 南北方向3.06m, 東西方向3.13mの方形。 **主軸方向** N-1°—E。 **覆土** 覆土は下層の10層と上層の1層中にローム小ブロックを多く含み、7層の間層を挟んで埋め戻しが行われていると見られる。 **ピット** P1は出入り口に関係する穴と見られる。 **カマド** 北壁側にあり、



第9図 1号B堅穴建物出土遺物



第10図 2号堅穴建物出土遺物

規模は幅 1.35m、燃焼室幅 0.51m、焚口から煙道部の立ち上がり部までの奥行きは 0.74m である。 床面 全体的に硬化している。 遺物 須恵器・土師器が出土している。須恵器の坏 2 は二次底部面をもち、底部調整に丁寧な指ナデと一方向のヘラケズリを併用している。体部内面に炭化物が付着しており灯明皿としての用途に 2 次利用しているようである。5 の須恵器蓋は 8 世紀前半代のものの混入と見られる。 所見 須恵器は木葉下窯跡群産で、蓋は 8 世紀前半、坏・高台付坏は 8 世紀第 2 ~ 3 四半期頃のもの、盤は 8 世紀第 4 四半期以降のものと見られる。土師器の小型甕は 8 世紀後半頃のものかと思われる。

4A 号堅穴建物 (第 12・14・15 図、表 4、図版 2・14・15)

位置 西調査区西部 D2・3 グリッドに位置する。 重複関係 4B 号堅穴建物と重複し、4B 号堅穴建物は 4A 号堅穴建物を埋め戻して構築している。1 号井戸に南西部を掘り込まれている。3 号堅穴建物の南東部を掘り込んでいる。 規模と平面形 南北方向 3.32m、東西方向 2.34m の縦長長方形。 主軸方向 N—6° —E。 覆土 覆土は黒色土・ローム中ブロックを多量に含んだ黒褐色土を主体としており埋め戻し土層と見られる。ピット P1 は出入り口に関係する穴と見られる。 カマド 東壁側やや南寄りの位置にあり、規模は幅 0.75m、燃焼室幅 0.36m、奥行き 0.56m である。 床面 堅穴建物中央部のカマド前面から出入り口部にかけて硬化している。

遺物 土師器・須恵器・鉄製品が出土している。須恵器坏は 1 が木葉下窯跡群産で 9 世紀第 2 四半期～第 4 四半期頃のもの、2・3 は海面骨針が胎土中に見えないが石英・チャートを含み木葉下の主要生産地周辺の製品かと思われる。底部外面のヘラ記号「六」「井」が特徴である。4 は新治窯跡群産の小野窯跡 1 号窯段階頃（9 世紀第 3 四半期頃）のもの、7 の土師器甕は体下半部がカマドの裏に逆位で出土しており支脚として設置されていたものと思われる。カマドから出土した不明鉄製品は断面 8mm 角の棒状製品で端部は角のまま細くなつて釘のように本質に打ち込むような形状となっている。 所見 出土遺物から 9 世紀の終わり頃には廃絶しているものと見られる。

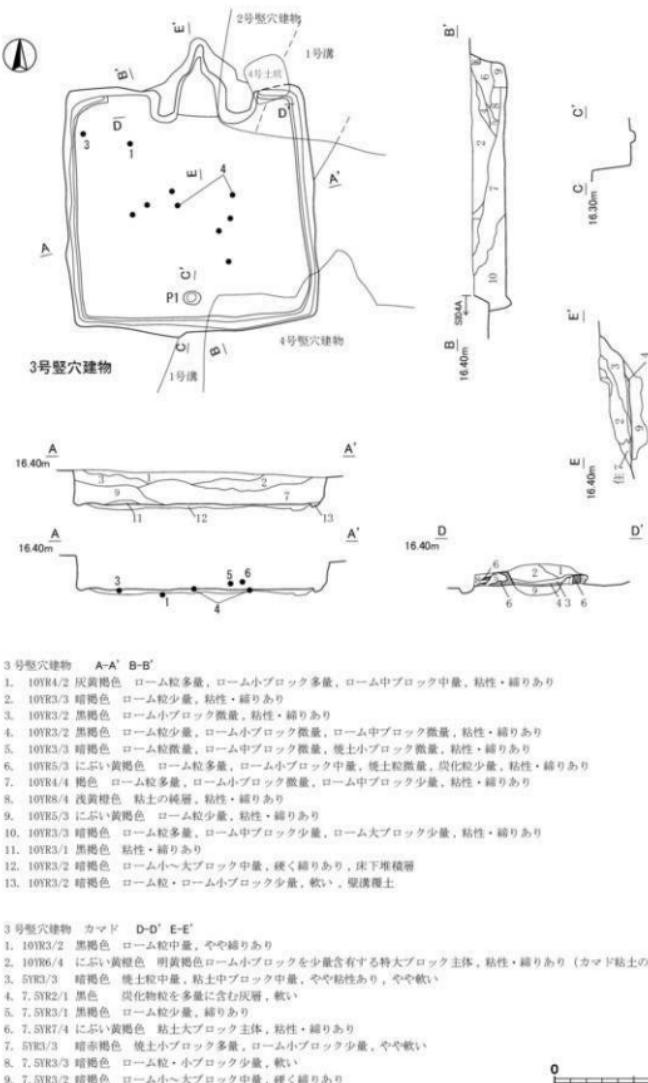
4B 号堅穴建物 (第 12・16 図、表 5、図版 2・15)

位置 西調査区西部 D2・3 グリッドに位置する。 重複関係 4A 号堅穴建物と重複し、4A 号堅穴建物を埋め戻して構築されている。1 号井戸に南西部を掘り込まれている。 規模と平面形 南北方向 3.37m、東西方向 3.17m の方形。 主軸方向 N—96° —E。 覆土 覆土はローム粒・ローム小ブロックを含んだ黒褐色土を主体としている。 カマド 北壁側中央部にあり、袖部が切られて残存していない、燃焼室奥側が残存し、規模は燃焼室幅 0.49m、奥行き 0.73m である。奥行き 0.69m の位置に支脚が据え付けられた状態で残存していた。 床面 カマド前面から堅穴建物中央部が硬化している。 遺物 出土していない。 所見 重複する 4A 号堅穴建物が 9 世紀の終わり頃と見られるので、本堅穴建物は 10 世紀初め頃には 4A 号堅穴建物を再利用する形で建てられているものと思われる。

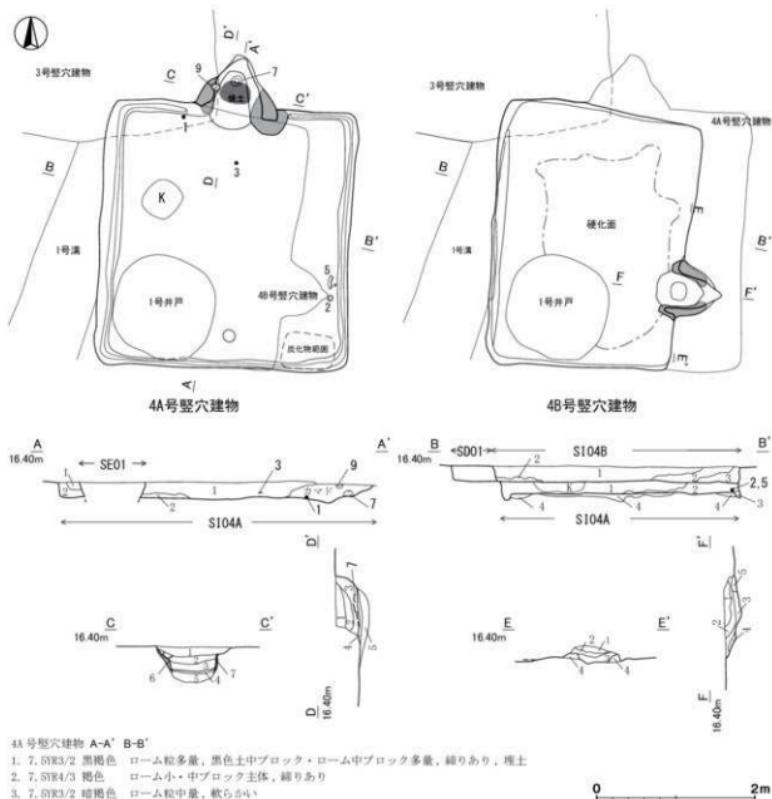
5 号堅穴建物 (第 17・18・19 図、表 5、図版 2・15・16)

位置 西調査区西部 C3・D3 グリッドに位置する。 重複関係 1 号掘立柱建物と重複しているが柱穴とは切り合っていないため新旧関係は不明である。 規模と平面形 南北方向 3.0m 以上、東西方向 3.40m の方形。

主軸方向 N—7° —E。 覆土 覆土はローム粒を含んだ軟らかい黒褐色土を主体としている。 ピット P1 は出入り口に関係する穴と見られる。 床面 西側壁寄りに軟質な部分が目立つ。 遺物 土師器・須恵器が出士している。11・12 の土師器の甕・瓶は廃絶時に床面に残され、そのまま埋没したような出土状況である。2 の



第11図 3号竖穴建物



4A号堅穴建物 A-A' B-B'

1. 7. SYR3/2 黒褐色 ローム粒多量、黒色土中ブロック・ローム中ブロック多量、縦りあり、埋土
2. 7. SYR4/3 棕褐色 ローム小・中ブロック主体、縦りあり
3. 7. SYR3/2 暗褐色 ローム粒中量、軟らかく
4. 7. SYR3/1 黒褐色 ローム小ブロック中量、硬く縦りあり

4B号堅穴建物 B-B'

1. 7. SYR2/2 黒褐色 ローム粒少量、やや縦りあり
2. 7. SYR2/2 黒褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量、やや縦りあり
3. 7. SYR4/3 棕褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック中量、軟い

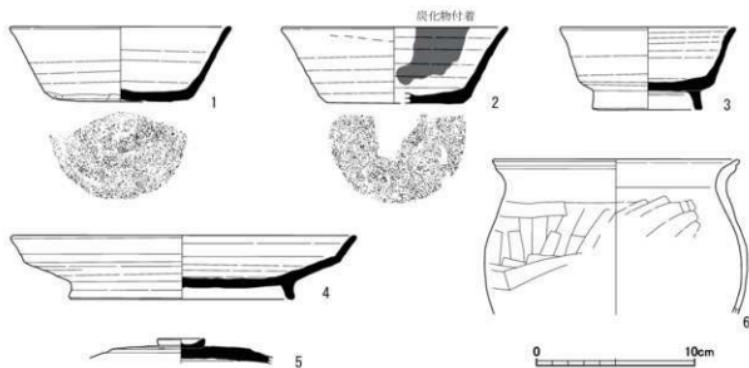
4A号堅穴建物 カマド C-C' D-D'

1. 7. SYR4/2 灰褐色 粘土粒少量、軟い
2. 7. SYR6/3 にぶい褐色 粘土大ブロック、粘土大ブロック多量、縦りあり
3. SYR3/3 暗褐色 粘土粒多量、縦りあり
4. 7. SYR3/3 暗褐色 粘土粒中量、軟らかく
5. 7. SYR3/1 棕褐色 粘土粒中量、軟らかく
6. 7. SYR5/6 橙褐色 粘土粒少量、ローム主体、縦りあり
7. SYR6/6 棕褐色 粘土粒少量、ローム主体、縦りあり

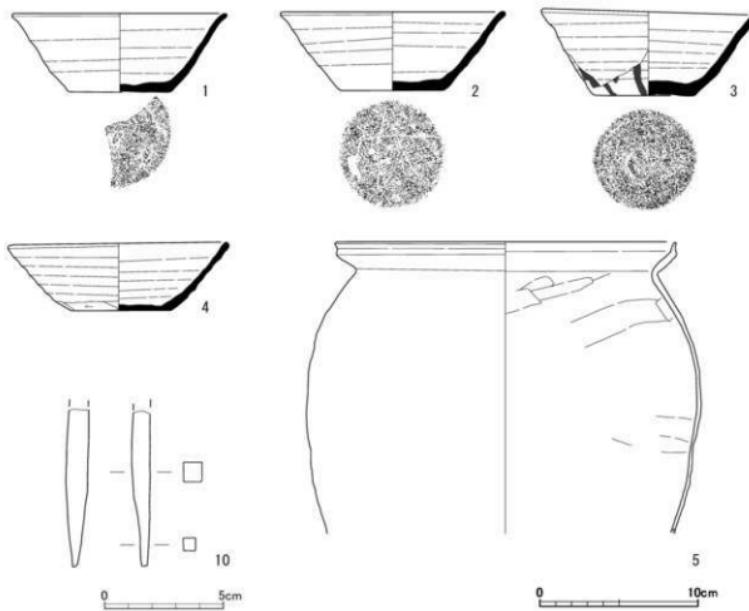
4B号堅穴建物 カマド E-E' F-F'

1. 7. SYR4/2 灰褐色 2層粘土粒中量、軟らかく
2. 7. SYR6/3 にぶい褐色 粘土大ブロック、粘土大ブロック多量、縦りあり
3. SYR3/3 暗褐色 粘土粒多量、縦りあり
4. 7. SYR2/1 黒褐色 ローム粒少量、縦りあり
5. 7. SYR3/2 黑褐色 無化物液粒多量、粘土粒少量、軟らかく

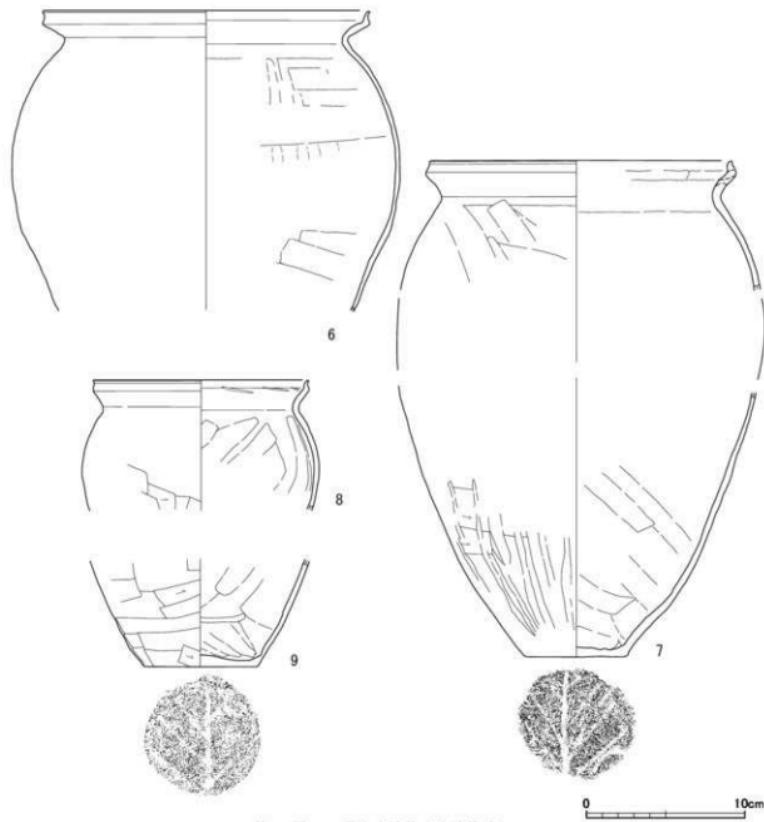
第12図 4A・4B号堅穴建物



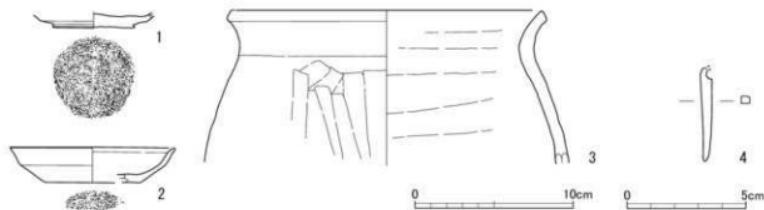
第13図 3号堅穴建物出土遺物



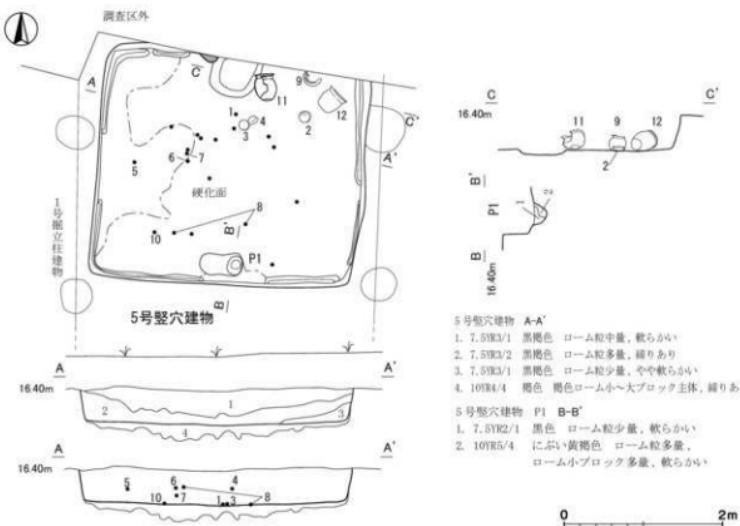
第14図 4A号堅穴建物出土遺物(1)



第15図 4A号堅穴建物出土遺物(2)



第16図 4B号堅穴建物出土遺物



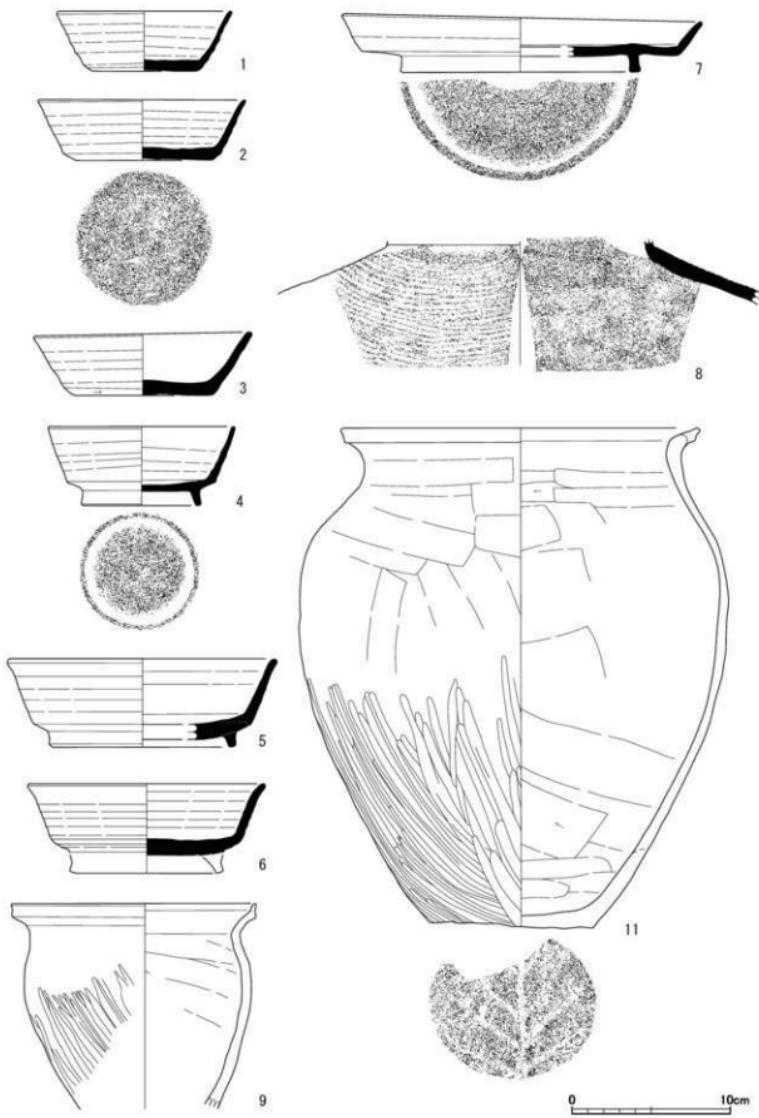
第17図 5号堅穴建物

須恵器壺も床面から、その他の須恵器・土師器は覆土中から出土している。須恵器の壺は底径・器高指数から8世紀第2～3四半期頃のものと見られ、底部は回転ヘラケズリ調整のものと底部手持ちヘラケズリを多方向に施すものがある。体部下端は二次底部面を残すものと回転ヘラケズリをしてしまうものがある。須恵器盤は底部が水平で短い口縁が付く8世紀第2四半期頃のもの、有台盤は8世紀後半頃のものである。所見 出土遺物には8世紀第3四半期頃を中心とした須恵器類を多く含むので、堅穴建物として機能していたのは8世紀第2四半期～第3四半期頃にかけてと思われる。

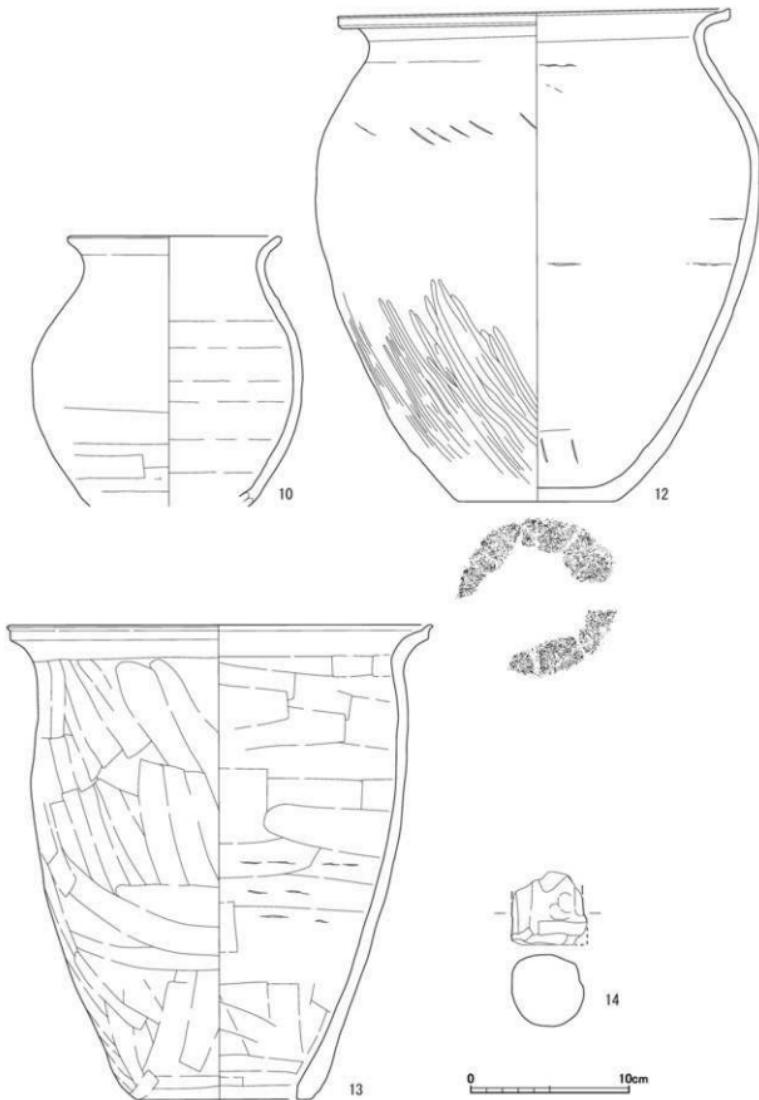
6号堅穴建物（第20・21図、表5、図版2・17）

位置 西調査区西部F2グリッドに位置する。規模と平面形 南北方向2.2m以上、東西方向4.71m。主軸方向 N-22°-E。覆土 覆土は褐色ロームの小～大ブロックを多量に含んだ埋め戻し土を主体としている。

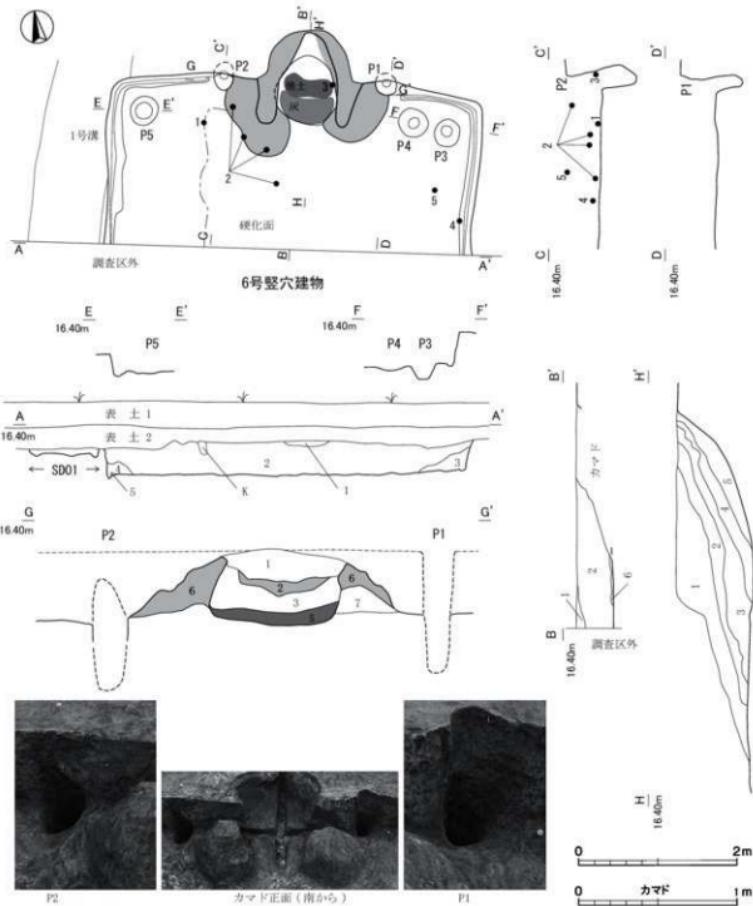
ピット 主柱穴はP1・2で北壁際に接して壁を少し掘り込んでいる。P3～5は深さ4～20cmの深い穴である。カマド 北壁中央部にあり、規模は幅1.70m、燃焼室幅0.80m、奥行き0.86mである。床面 西側壁寄り幅0.9mの範囲が軟質になっている。遺物 土器・鉄製品が出土している。須恵器の壺は底径・器高指数から9世紀第2～4四半期頃のもので、底部外面に「丸子」の墨書きが書かれている。鉄製品は3点とも刀子で5の刀子は茎部分が三つ折れしたものと思われる。所見 出土遺物から9世紀後半頃の堅穴建物と見られ、刀子が多く「丸子」墨書きとともに律令期の下級役人に係る堅穴建物であろうか。「丸子」は大伴氏に連なる丸子連や古墳時代の7世紀頃に多い複数の「まるこのみこ」名の皇子に所属した丸子部を連想させる。



第18図 5号堅穴建物出土遺物(1)



第19図 5号竪穴建物出土遺物(2)



6号竖穴建物 A-A' B-B'

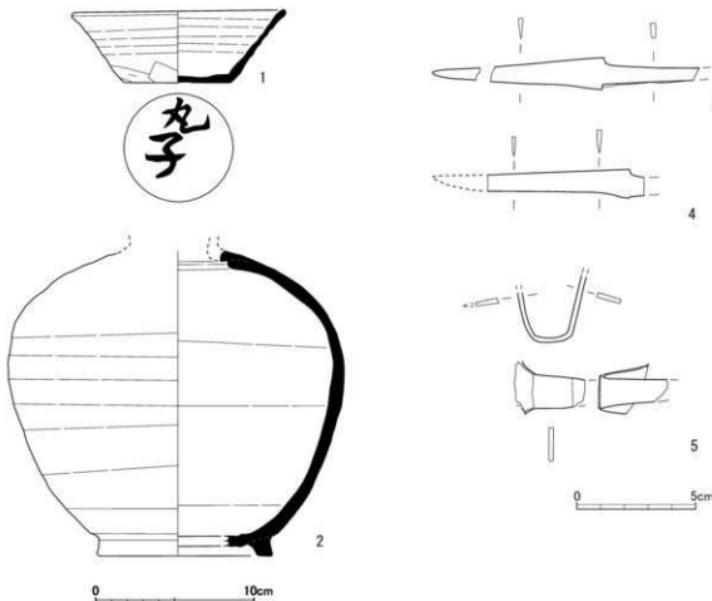
1. 7.SYR3/3 喙褐色 ローム粒少量。ローム小ブロック少量。繊りあり
2. 10YR4/4 黄褐色 ローム少~大ブロック多量。繊りあり。埋め土
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム主体。ローム小ブロック少量。繊りあり
4. 7.SYR3/1 黒褐色 ローム粒極少量。やや粘性あり。繊りあり
(SD01 褐土の落下層か)

5. 7.SYR5/3 にぶい褐色 ローム大ブロック主体。やや軟い
表土1 7.5YR4/1 褐灰色 土耕作土層。繊りあり
- 表土2 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム大ブロック主体。
鹿沼バミス蛇・小ブロック多量、黒褐色土大ブロック少量 ピニル片

6号竖穴建物路 カマド G-G' H-H'

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒中量。ローム小ブロック中量。下層に粘土小~大ブロック中量。やや繊りあり
2. 7.SYR6/3 にぶい褐色 粘土へ~大ブロック多量。粘性・繊りあり
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒中量。ローム小ブロック中量。繊りあり
4. 7.SYR3/1 黑褐色 硬土粒・焼土小ブロック中量。軟い
5. SYR4/2 灰褐色 粘土小ブロック中量。粘性・繊りあり
6. 7.SYR5/2 黄褐色 粘土中・大ブロック主体。粘性・繊りあり
7. 7.SYR5/3 にぶい褐色 ローム少・中ブロック中量。粘土小ブロック中量。粘性・繊りあり

第20図 6号竖穴建物



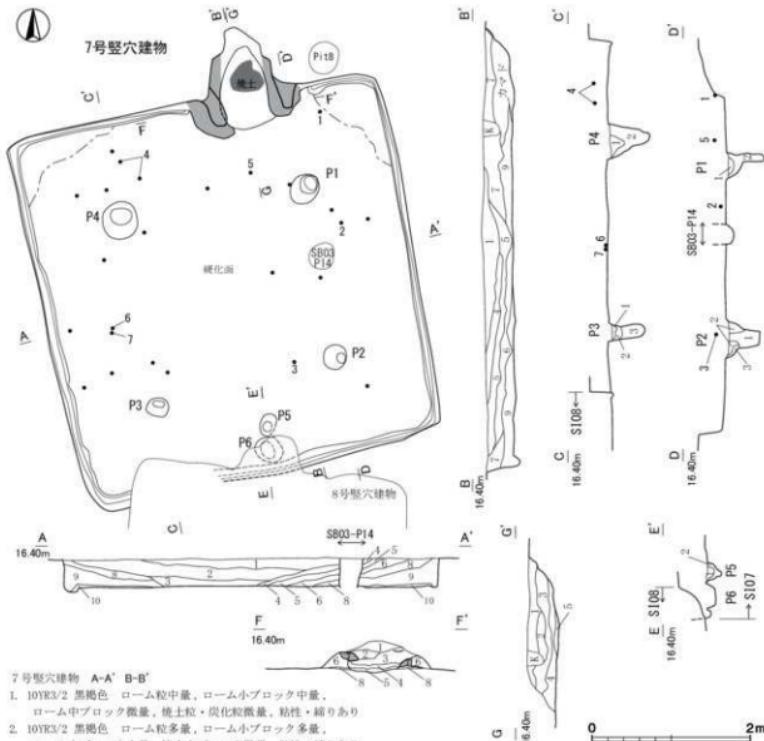
第21図 6号堅穴建物出土遺物

7号堅穴建物（第22・23図、表5・6、図版2・3・17）

位置 西調査区西部E2・F2・E3・F3グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向4.85m、東西方向4.70mの方形。
主軸方向 N=15°—W。 **覆土** 覆土は黒褐色土・暗褐色土のローム小・中ブロックを多く含んだ土層で埋め戻されていると見られるが、特に南東側の堆積は堅穴の外から流し込んでいるような状況を示している。 **ピット** 主柱穴はP1～P4。P5・6は出入り口に関係する穴と見られる。 **カマド** 北壁中央部東寄りの位置にあり、規模は幅1.40m、燃焼室幅0.61m、奥行き1.03mである。 **床面** 北西隅と北東隅部を除いて全体に硬化している。
遺物 土器・鉄製品が出土している。遺物は全体に覆土から出土したものが多い。須恵器は底部が丸底気味のものと平底のもの、回転ヘラケズリのものとへたり切り無調整のものがある。底径・器高指数から8世紀第2～3四半期頃のものと見られる。鉄製品は小札と考えられる細長く薄い板状のもので、端部に穿孔がある。 **所見** 出土遺物から少なくとも8世紀中葉頃には使用されていた堅穴建物と見られる。

8号堅穴建物（第24・25図、表6、図版3・18）

位置 西調査区西部F2・F3グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向3.12m、東西方向3.52mの方形。
主軸方向 N=6°—E。 **覆土** 覆土はローム小・中ブロックを多く含む黒褐色土・暗褐色土を主体として埋め戻されていると見られる。 **ピット** P1は出入り口に関係する穴と見られる。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅1.03m、燃焼室幅0.47m、奥行き0.73mである。 **床面** 北西部と西壁寄り、南壁の西寄り付近を除いて硬化している。
遺物 土器・石製品が出土している。1の高台付坯は、内面にわずかに墨痕があつて平滑で



7号竖穴建物 A-A' B-B'

1. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック微量、焼土粒・炭化物微量、粘性・繊りあり
 2. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック微量、焼土小ブロック微量、粘性・繊りあり
 3. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量、ローム中ブロック微量、粘性・繊りあり
 4. 10YR4/3 純褐色 ローム粒多量、ローム中ブロック微量、粘性・繊りあり
 5. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、焼土小ブロック微量、粘性・繊りあり
 6. 10YR4/4 褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック微量、粘性・繊りあり
 7. 10YR2/1 黑褐色 ローム小ブロック微量、ローム粒多量、粘性・繊りあり
 8. 10YR3/1 黑褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック微量、粘性・繊りあり
 9. 10YR4/3 にぶい 黄褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック微量、粘性・繊りあり
 10. 地穴と見られる、ほぼ覆り方なし
- 7号竖穴建物 P1 D-D'
1. 7.5YR2/1 黑褐色 炭化物粒少量、ローム粒極少量、軟い
 2. 7.5YR2/1 黑色 炭化物粒極少量、ローム粒極少量、軟い
- 7号竖穴建物 P2 D-D'
1. 7.5YR4/3 褐色 烧土小ブロック中量、ローム粒多量、軟い
 2. 7.5YR4/3 褐色 烧土小ブロック中量、黑色土中ブロック中量、やや軟い
 3. 10YR4/6 褐色 ローム主体、やや繊りあり
- 7号竖穴建物 P3 C-C'
1. 7.5YR2/1 黑色 黑色土ブロック主体、繊りあり
 2. 10YR6/4 にぶい 黄褐色 粘土大ブロック主体、粘性・繊りあり
 3. 7.5YR3/2 黑褐色 ローム粒少量、軟い

7号竖穴建物 P4 C-C'

1. 7.5YR2/1 黑色 炭化物粒少量、ローム粒極少量、軟い
2. 7.5YR1.7/1 黑色 ローム粒極少量、軟い

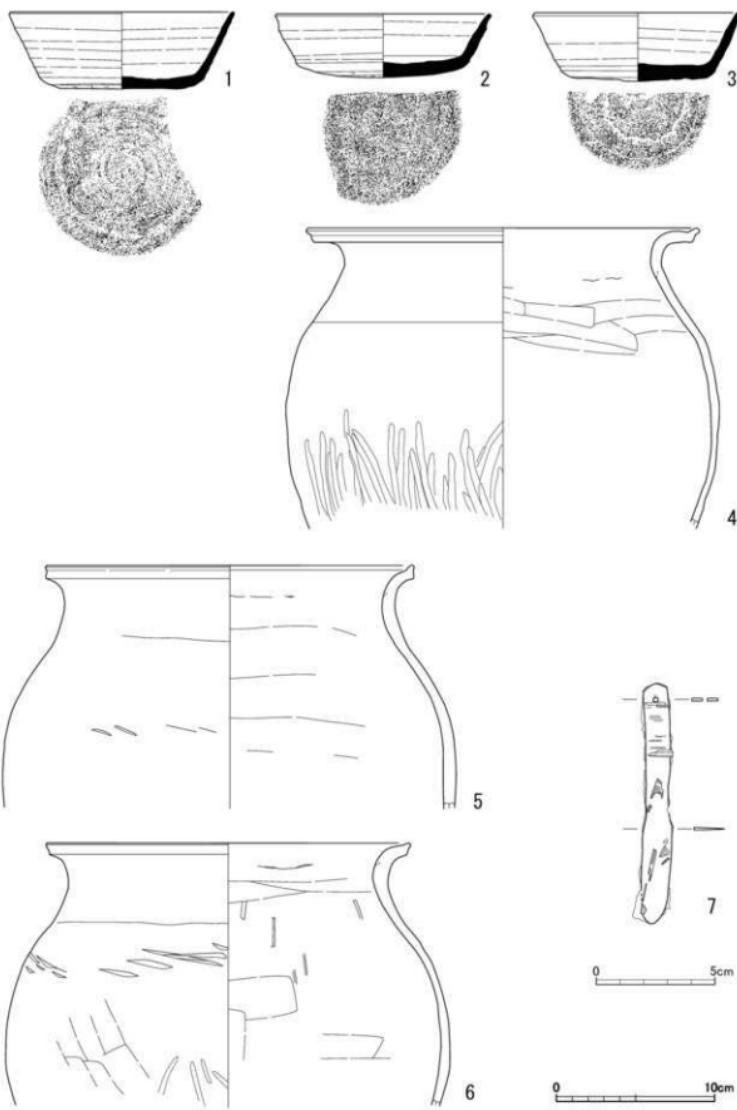
7号竖穴建物 P5 E-E'

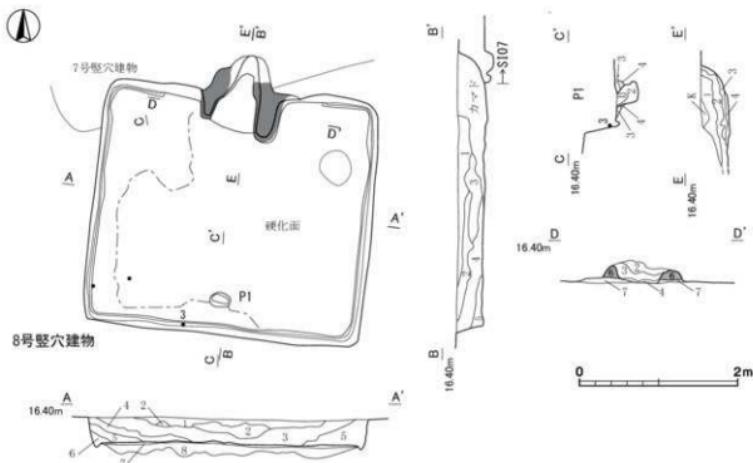
1. 7.5YR2/1 黑色 ローム粒少量、軟い
2. 7.5YR4/3 極色 黑色土小ブロック少量、やや軟い

7号竖穴建物 カマド F-F' G-G'

1. 7.5YR3/2 黑褐色 ローム粒中量、繊りあり
2. 10YR4/3 にぶい 黄褐色 ローム粒多量、粘土小・中ブロック微量、やや軟い
3. 10YR4/3 にぶい 黄褐色 ローム粒多量、粘土小・中ブロック多量、繊りあり
4. 10YR3/7 純褐色 ローム粒中量、粘土小・中ブロック少量、繊りあり
5. 5YR3/1 黑褐色 灰・炭化物粒多量、軟い
6. 7.5YR5/3 にぶい 褐色 ローム粒中量、粘土小・中ブロック多量、やや繊りあり
7. 7.5YR6/3 にぶい 黄褐色 粘土大ブロック主体、粘性・繊りあり
8. 7.5YR4/3 極色 黑色土少量、やや粘性あり、繊りあり

第22図 7号竖穴建物





8号竖穴建物 A-A' B-B'

1. 7.5YR3/3 稲掲色 ローム粒少量、ローム小・中ブロック多量、縮りあり
2. 7.5YR2/1 黒色 ローム粒少量、硬く縮りあり
3. 7.5YR3/3 稲掲色 ローム粒多量、ローム小・中ブロック中量、やや軟い
4. 7.5YR3/2 黒掲色 ローム粒少量、ローム小・中ブロック少量、やや縮りあり
5. 7.5YR3/3 稲掲色 ローム粒多量、ローム小・中ブロック多量、软い
6. 7.5YR3/2 黑掲色 ローム粒中量、ローム小・中ブロック中量、软い
7. 7.5YR4/3 にぶい黄掲色 ローム小・中ブロック主体、非常に縮りあり
8. 10YR4/3 にぶい黄掲色 ローム小・中ブロック主体、縮りあり

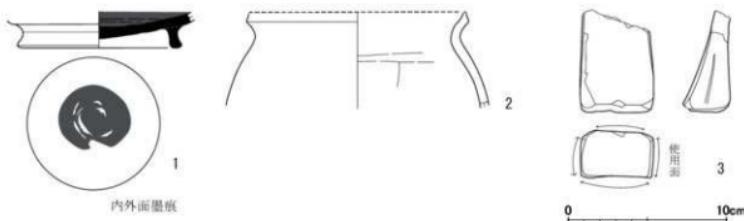
8号竖穴建物 P1 C-C'

1. 7.5YR3/2 黒掲色 ローム粒中量、软い
2. 10YR4/3 にぶい黄掲色 ローム粒多量、ローム小ブロック多量、やや软い
3. 10YR4/3 にぶい黄掲色 ローム小・中ブロック主体、非常に縮りあり
4. 10YR4/3 にぶい黄掲色 ローム小・中ブロック主体、縮りあり

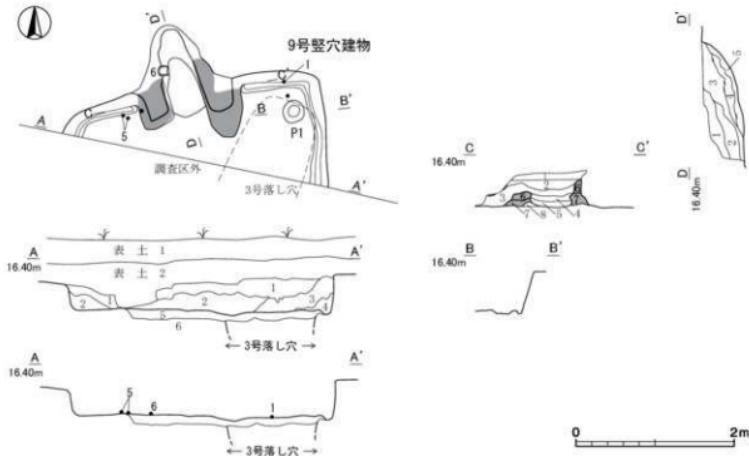
第24図 8号竖穴建物跡

8号竖穴建物 カマド D-D' E-E'

1. 7.5YR3/3 稲掲色 ローム粒多量、やや軟い
2. 7.5YR3/3 稲掲色 ローム粒多量、焼土粒少量、軟い
3. 7.5YR3/2 灰掲色 粘土中・大ブロック主体、粘性・縮りあり
4. 7.5YR2/2 黑掲色 烧土粒多量、软い
5. 7.5YR2/2 灰掲色 粘土大ブロック主体、粘性・縮りあり
6. 7.5YR2/4 にぶい橙色 橙色小・中ブロック中量、粘性・縮りあり
7. 7.5YR2/2 黑掲色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量、縮りあり



第25図 8号竖穴建物出土遺物



- 9号竖穴建物 A-A'
1. 7.SYR3/2 黒褐色 ローム小ブロック少～中量、縫りあり
 2. 7.SYR3/2 黒褐色 ローム小ブロック多量、縫りあり
 3. 7.SYR3/2 黒褐色 ローム小ブロック少量、縫りあり
 4. 7.SYR3/2 黒褐色 ローム小～大ブロック中量、やや軟い、縫りあり
 5. 7.SYR4/3 黒色 ローム小～大ブロック多量、縫りあり
 6. 7.SYR3/3 墓赤褐色 下層土坑かP 2 8の覆土、軟い
表土 1 7.SYR4/4 墓赤褐色、耕作土層、縫りあり
表土 2 10YR5/4 にらい 黄褐色、ローム大ブロック主体、面沼バミス粘
・小ブロック多量、黒褐色土大ブロック少量、ビニル片
- 9号竖穴建物跡 カマド C-C' D-D'
1. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量、粘土粒極少量、縫りあり
 2. 10YR6/4 にらい 黄褐色 粘土中・大ブロック主体、粘性、縫りあり
 3. 5YR4/3 にらい 墓赤褐色 壤土粒中量、やや軟い
 4. 5YR6/4 にらい 墓赤褐色 粘土中ブロック主体、壤土小ブロック中量、軟い
 5. 5YR3/2 墓赤褐色 壤土粒多量、炭化物粒少量、灰層に相等、軟い
 6. 7.SYR4/2 黒色 粘土粒・粘土大ブロック中量、縫りあり
 7. 7.SYR4/2 黑色 粘土粒・粘土大ブロック多量、やや軟らかい
 8. 5YR6/3 墓赤褐色 粘土粒中量、軟い

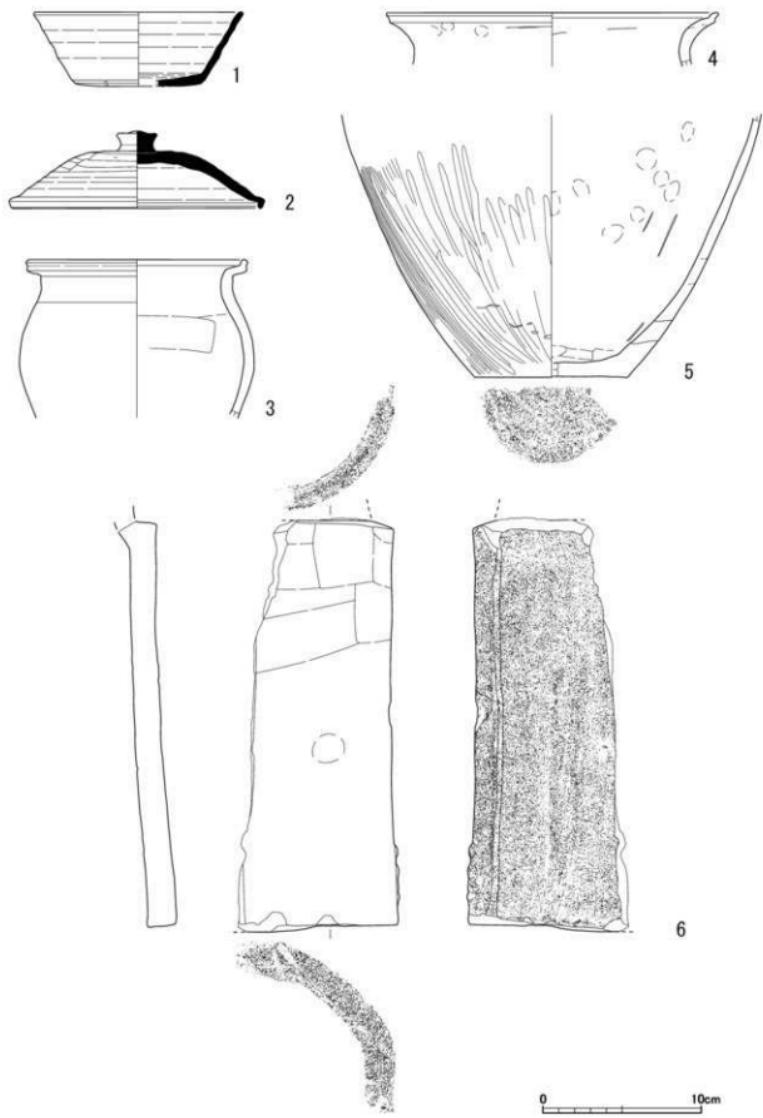
第26図 9号竖穴建物

転用窯として二次利用されているものと見られる。外底面にも筆でかすれながら円を描画した墨痕がある。石製品は折損した凝灰岩製の砥石である。 所見 出土遺物から9世紀中葉頃には使用されていた堅穴建物と見られる。

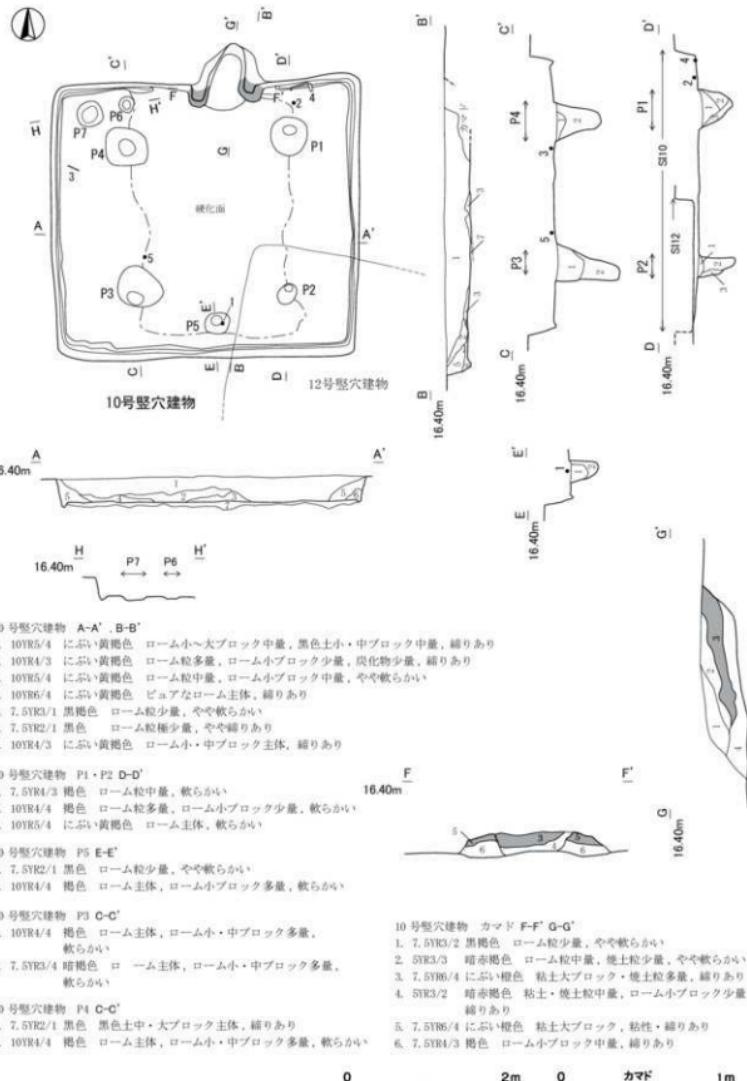
9号竖穴建物 (第26・27図、表6、図版3・18)

位置 西調査区西部 F3 グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向 1.36m 以上、東西方向 3.20m の方形。
主軸方向 N-11°-W。 **覆土** 覆土は、建物廃絶後に壁際に自然堆積と見られる黒褐色土が流入し、その後ローム小ブロックを多く含む土で埋め戻されている。 **ピット** P1は堅穴建物の隅にあり深さ 4cm 程の浅いくぼみ穴である。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅 1.30m、燃焼室幅 0.42m、奥行き 0.71m である。燃焼室奥の煙道への立ち上がり部の左側壁に丸瓦が立てられて出土している。用途としてはその位置関係からカマド煙道側壁や天井部の補強材として設置されているものと思われる。 **床面** 全体に硬化している。 **遺物** 須恵器、土師器と丸瓦が出土している。須恵器の环は底部切り離し後周縁ナデ調整の8世紀代四半期頃のものである。

所見 出土遺物から8世紀後半代の堅穴建物と見られる。



第27図 9号竪穴建物出土遺物



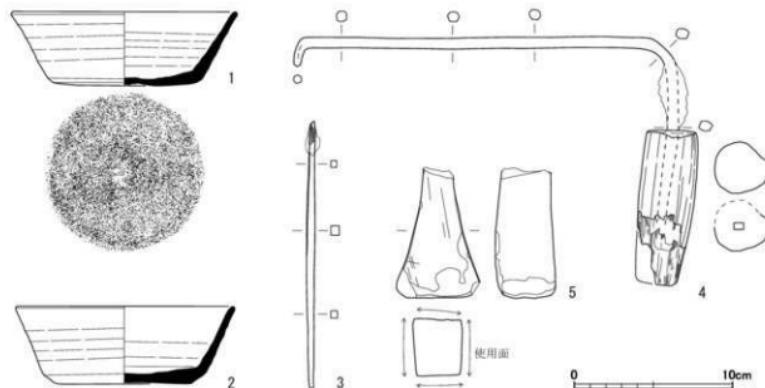
第28図 10号竖穴建物

10号堅穴建物（第28・29図、表6、図版3・4・18）

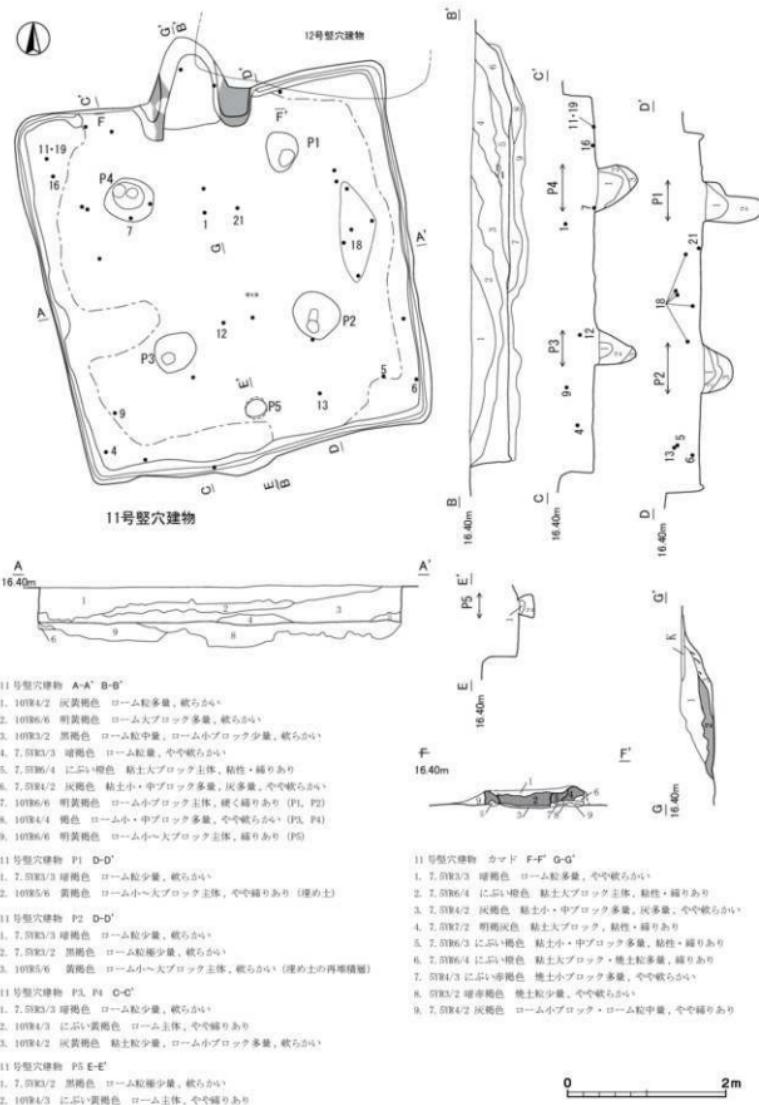
位置 西調査区西部D3グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向3.54m、東西方向3.9mの方形。深さ0.3m。 **主軸方向** N-1°-W。 **覆土** 覆土はにぶい黄褐色土を主体とし、ロームブロックの含有が多い。 **ピット** 主柱穴はP1～P4。P5は出入り口に関係する穴と見られる。P6・7は深さ4cm程の浅いくぼみ穴である。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅0.95m、燃焼室幅0.35m、奥行き0.72mである。 **床面** カマドの前面から出入り口前面にかけての4本主柱穴の内側が硬化している。 **遺物** 土器・鉄製品・石製品が出土している。須恵器は底部回転ヘラケズリと底部周辺をナデ調整しているものがあり、器形から8世紀後2～3四半期頃のものと見られる。鉄製品はクルル鉤で柄の木質部も残存している。カマド右脇の床面上から出土している。3の棒状鉄製品は用途不明だが鉄製紡錘車の芯の部分にでもなるのかと思われる。 **所見** 8世紀代の堅穴建物でクルル鉤の出土から倉庫を管理するような人物が関係している堅穴建物と想像される。

11号堅穴建物（第30・31・32図、表6・7、図版4・19・20）

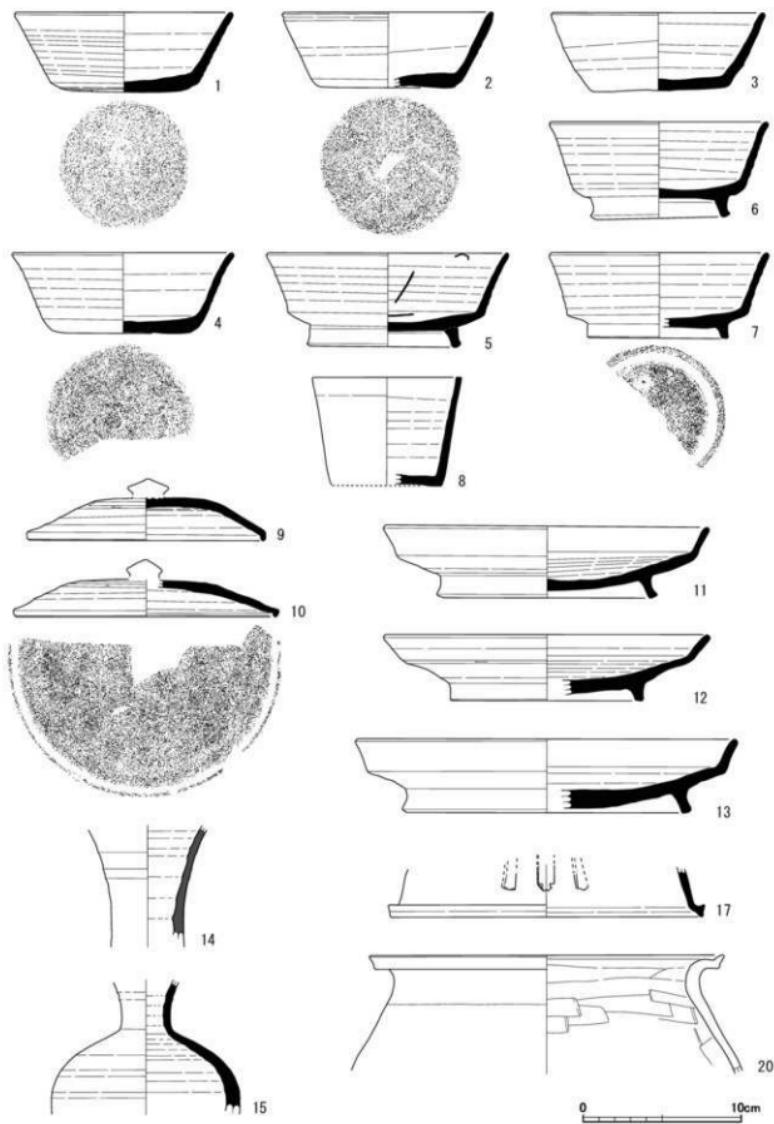
位置 西調査区西部E3・E4グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向4.72m、東西方向4.60mの方形。深さ0.47m。 **主軸方向** N-16°-W。 **覆土** 覆土はカマドの崩壊に伴う粘土が床面に流入堆積した後、黒褐色土が堆積し、その後褐色ロームブロックの層が投げ込まれ、最後にローム粒を多量含んだ灰黄褐色土が堆積している。 **ピット** 主柱穴はP1～P4。P5は出入り口に関係する穴と見られる。P1の底面に柱の据替の跡が見られる。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅1.46m、燃焼室幅0.62m、奥行き0.91mである。 **床面** 壁寄りの部分全体と西壁の中央南寄りからP3に延びる幅の狭い範囲を除いて硬化している。 **遺物** 土器・須恵器・鉄製品が出土している。須恵器は壺・蓋・高台付壺・コップ形土器・盤・長頸瓶・円面鏡・甕が、土器は甕が、鉄製品は釘が出土している。須恵器は8世紀後2～3四半期頃のものである。 **所見** コップ形須恵器や円面鏡、長頸瓶など出土遺物が多様で、計量やその記録といった役割をもつ堅穴建物の可能性がある。



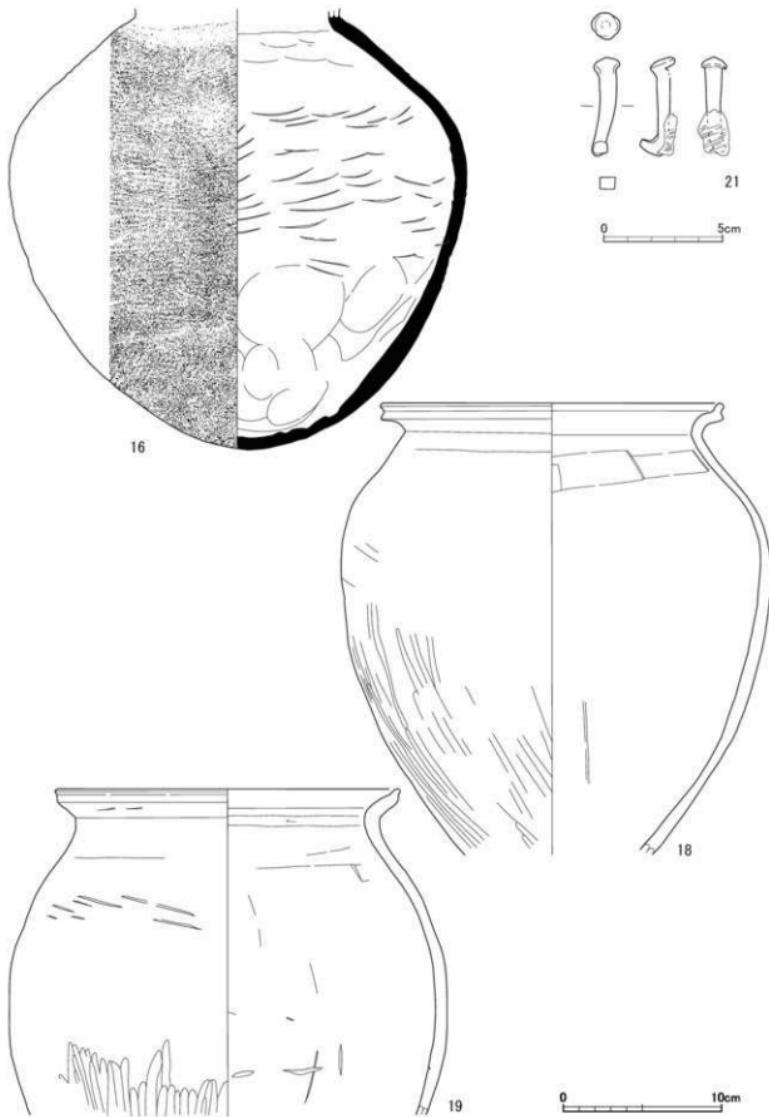
第29図 10号堅穴建物出土遺物



第30図 11号竖穴建物



第31図 11号竪穴建物出土遺物(1)



第32図 11号竪穴建物出土遺物(2)

12号堅穴建物（第33・34・35図、表7・8、図版4・20・21）

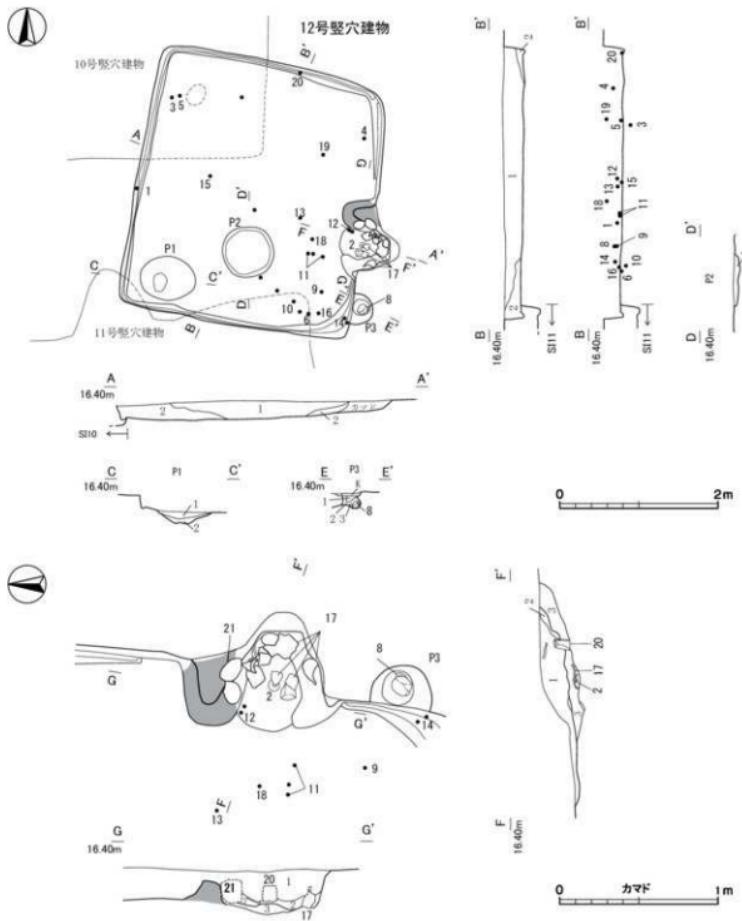
位置 西調査区西部D3・D4・E3・E4グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向3.34m、東西方向2.94mの南北方向に長い長方形。 **主軸方向** N-192°—E。 **覆土** 覆土はロームを小～中量含んだ黒褐色土が堆積している。 **ピット** 主柱穴はなく、P1・2は床を10cm程掘り下げたくぼみ穴。P3はカマドの設けられた東壁の南隅近くに壁を穿ってやや斜め方向に穿たれた穴で、土器片と自然石が出土している。 **カマド** 東壁中央部や南寄りの位置にあり、規模は幅1.03m、燃焼室幅0.37m、奥行き0.64mである。焚口から0.3mのカマド中軸線上に自然石の支脚が残存している。 **床面** P1・2を除いて全体に硬化している。 **遺物** 土器・鉄製品・石製品が出土している。土器はクロコ土師器の小皿をはじめとして碗・足高台碗・三脚土器脚部・甕・羽釜が出土している。小皿は2～4の口径・器高の大きさが揃っており、口径が10～10.5cm、器高が2～2.5cmである。 **所見** 小皿の口径と器高が年代とともに小さく・低くなっていくことは、群馬県の事例や茨城県内のこれまで確認されている10～11世紀代の遺跡の事例から、大方認められそうだと認識されてきていると思う。また10世紀以降群馬県を念頭に置いた西からの影響の強さも認識されつつあると思われる（三浦1990、田口・土生2014）。12号堅穴建物の小皿は11世紀第2四半期の年代を示していると思われる。

13号堅穴建物（第36・37・39図、表8、図版4・5・21・22）

位置 西調査区西部F3・F4グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向3.72m、東西方向3.95mの方形。深さ0.45m。 **主軸方向** N-10°—W。 **覆土** 覆土はローム粒を多量に含んだ褐色土・暗褐色土を主体としている。 **ピット** P1は出入り口に関係する穴と見られる。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅1.21m、燃焼室幅0.61m、奥行き0.69mである。 **床面** 西壁寄りと北東隅から東壁寄りの一部を除いて全体に硬化している。 **遺物** 須恵器・土師器が出土している。須恵器壺類は8世紀第2～3四半期のもので、第3四半期のものが主体である。土師器瓶の体部には縦に四か所の補修孔が見られる。 **所見** 8世紀後半の主柱穴をもたない簡素な堅穴建物であると見られ、割れた土師器瓶を補修して使用するなど質素な生活的一面が垣間見られる。

14号堅穴建物（第38・40図、表8、図版5・22）

位置 西調査区西部C4・D4グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向3.10m以上、東西方向3.24m。深さ0.36m。 **主軸方向** N-21°—W。 **覆土** 覆土は下層が褐色のロームを主体とする土層で上層は黒褐色土の自然堆積層と見られる。 **ピット** P1は出入り口に関係する穴と見られる。 **床面** 全体に硬化している。 **遺物** 須恵器の壺と蓋、土師器の壺、土製品の支脚が出土している。1の須恵器の壺は小振りな丸底気味の壺で木葉下窯跡群産と見られる。3の須恵器蓋はかえりがやや甘くなつた新治窯跡群産の製品である。土師器の壺は口縁部が外反して開く丸底気味の壺で、体部外面の口縁部と底部の境付近の調整が甘く、成形時に生じたと見られる縛・皺痕が観察される。 **所見** 3の須恵器の蓋は、新治窯跡群のX2段階（一丁田に後続する段階）に該当すると思われる。新治窯跡群のX2段階は8世紀第1四半期と第2四半期の間頃の時期とされている。



12号堅穴建物 A-A' B-B'

1. 7.SYR3/2 黒褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量、やや軟らかい
2. 7.SYR3/1 黒褐色 ローム粒少量、繊りあり

12号堅穴建物 P1 C-C'

1. 7.SYR3/2 黒褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量、軟らかい
2. 7.SYR4/3 棕褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック少量、やや繊りあり

12号堅穴建物 P2 D-D'

1. 7.SYR3/3 棕褐色 ローム粒中量、やや軟らかい

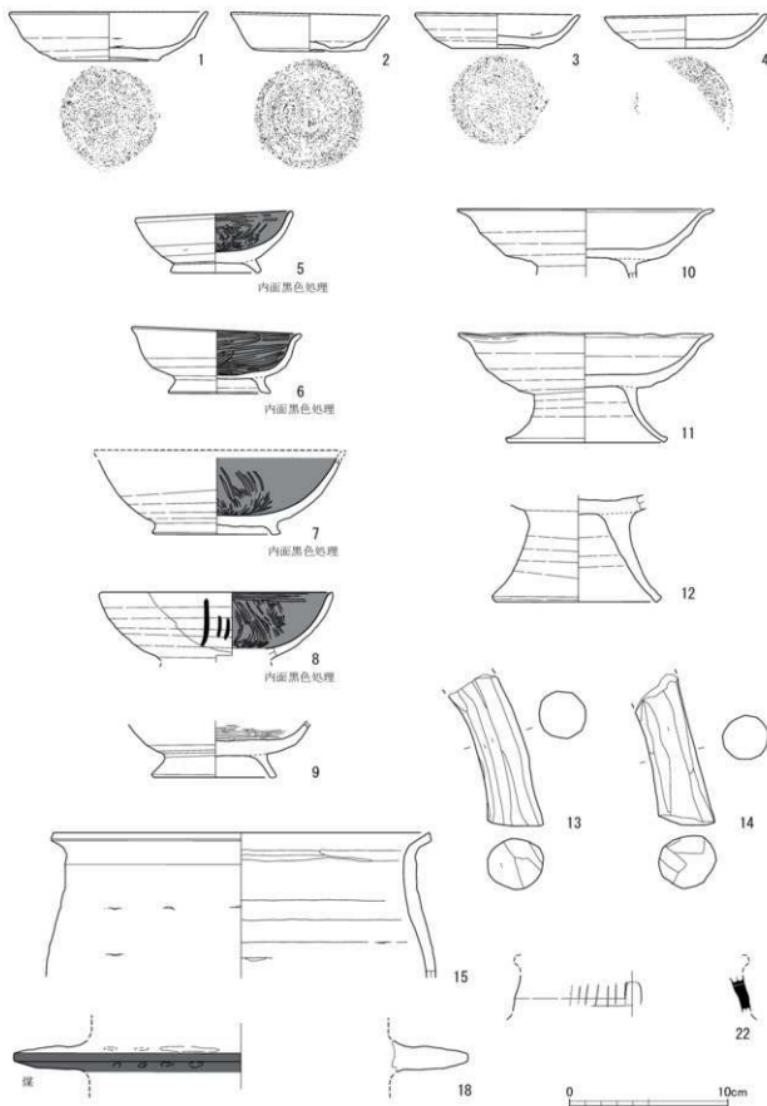
12号堅穴建物 P3 E-E'

1. 7.SYR4/3 棕褐色 ローム主体。繊りあり
2. 7.SYR3/2 黒褐色 ローム粒少量、軟らかい
3. 7.SYR2/3 棕褐色 ローム小ブロック中量、軟らかい

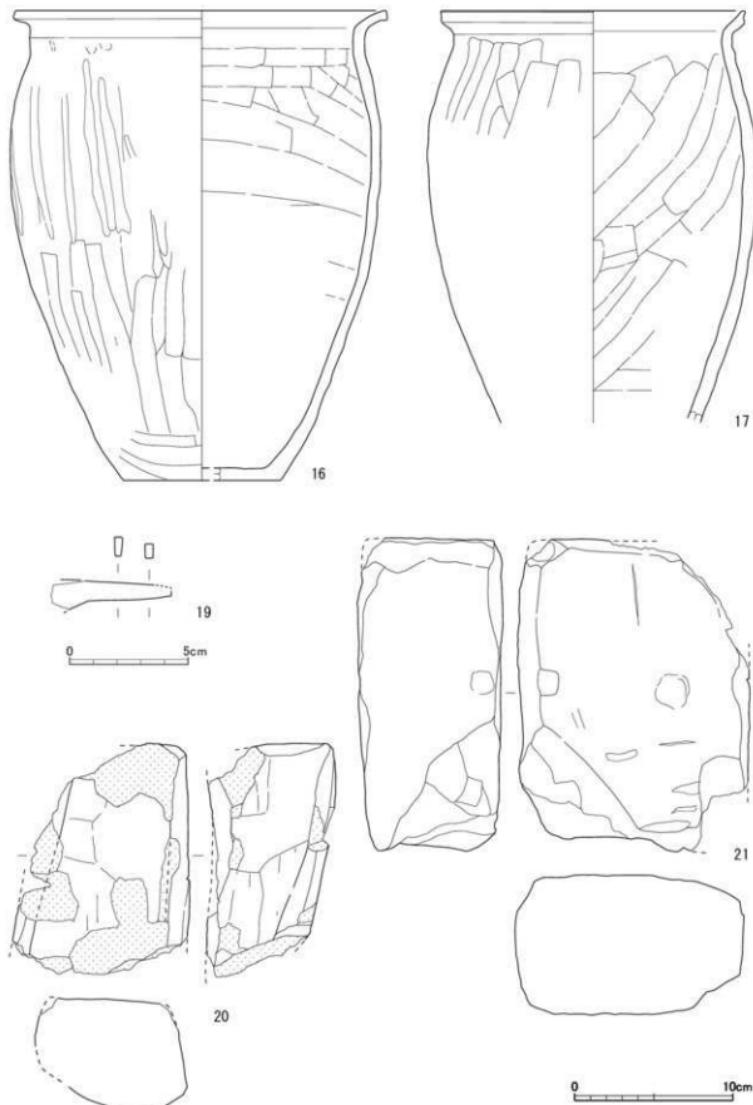
12号堅穴建物 カマド F-F' G-G'

1. 7.SYR4/4 にごり赤褐色 硫化土粒中量、やや軟らかい
3. SYR2/1 黒褐色 灰層、硫化土粒少量、軟らかい

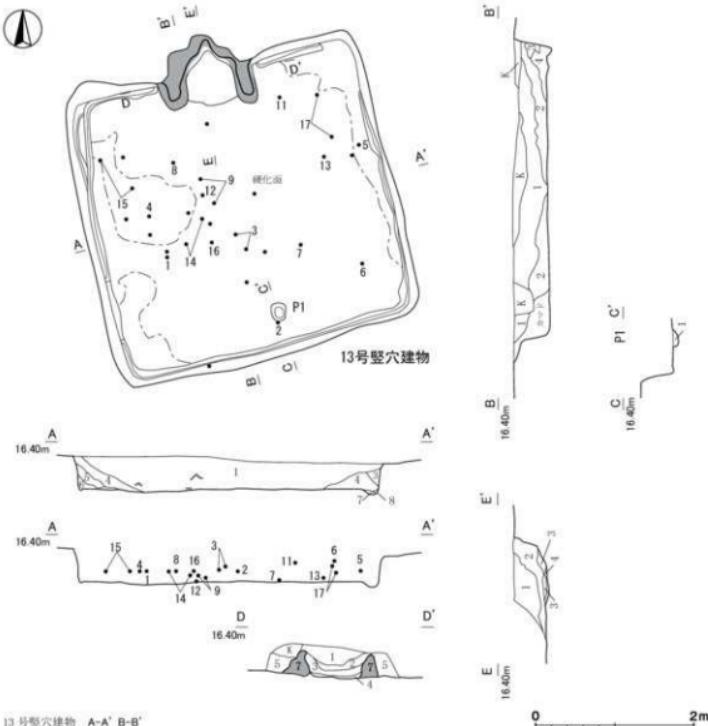
第33図 12号堅穴建物



第34図 12号堅穴建物出土遺物(1)



第35図 12号竪穴建物出土遺物(2)



13号竖穴堆物 A-A' B-B'

1. 10YE3/3 暗褐色 ローム粒多量。縮りあり
 2. 10YE4/4 褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック少量。縮りあり
 3. 10YE5/5 黄褐色 ローム大ブロック主体。縮りあり
 4. 5, 5YE3/3 暗褐色 ローム粒少量。ローム小ブロック少、炭化物粒極少量。軟らか。
 5. 5YE3/1 黒褐色 ローム粒少量。ローム小ブロック少量。縮りあり
 6. 10YE3/2 黑褐色 ローム粒少量。ローム小ブロック中量。縮りあり
 7. 10YE3/2 暗褐色 ローム粒中・多量。ローム小ブロック少、縮りあり
 8. 10YE4/3 にぶる黃褐色 ローム主体。軟らか。坚硬層落層あり
 9. 10YE4/3 にぶる黃褐色 ローム主体。軟らか。坚硬層落層あり

13号竖穴建筑物 PI C-C'

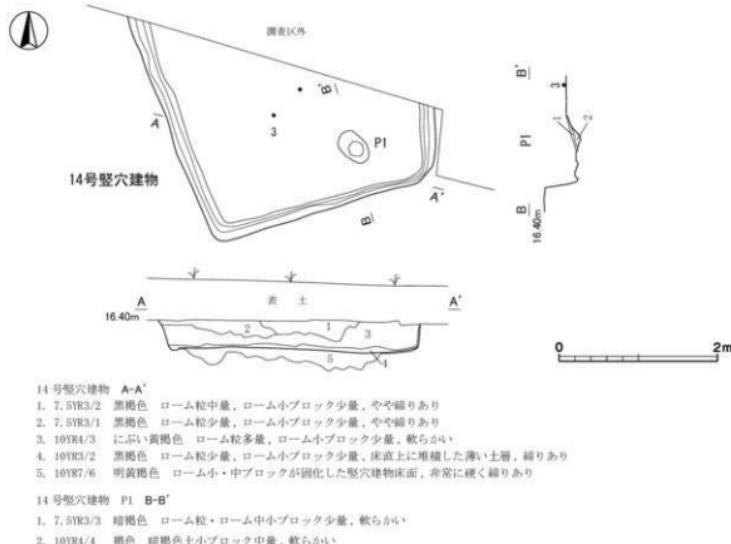
1. 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量、軟らかい

13 穴壁穴建物 カマド D-D' E-E'

1. 10YR4/3 に似る黄色地 ローム多く含む。炭化物少々量。緑色あり
 2. 10YR4/2 黄褐色地 粘土多量。壤土小ブロック中量。粘性・緑りあり
 3. 5HES/3 に似る褐色地 種々小ブロック多量。灰中量。軟らかん。
 4. 7.5TBS/3 地褐色地 粘土中量。緑りあり
 5. 7.5TB/3 地褐色地 ローム多く含む。緑りあり
 6. 7.5TB/2 地褐色地 粘土多量。壤土小ブロック少々量。やや軟らかん
 7. 10YR6/5 に似る褐色地 粘土大ブロック少々量。粘土部、粘性・緑りあり



第37図 13号竪穴建物出土遺物(1)



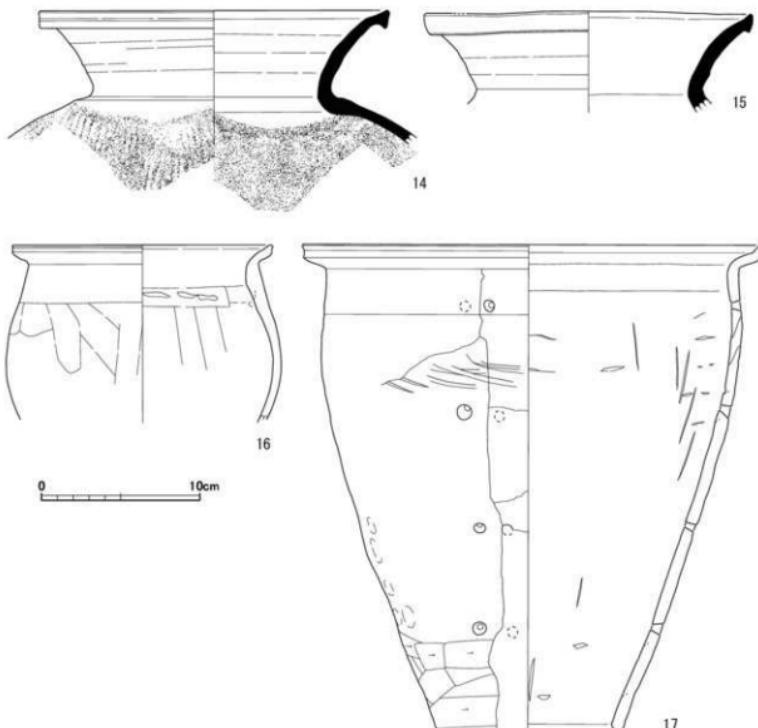
第38図 14号竖穴建物

15号竖穴建物 (第41・42図、表9、図版5・22・23)

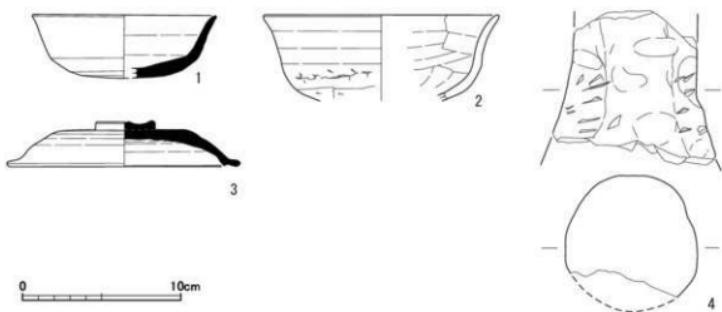
位置 西調査区中央部D4グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向3.57m、東西方向3.56mの方形。深さ0.39m。 **主軸方向** N-13°-W。 **覆土** 覆土は褐色のロームを主体としており、壁際には堆積する3・5層は黒褐色の自然堆積層で、7~10層はカマドの崩壊に伴う堆積土層である。 **ピット** P1は出入り口に関係する穴と見られる。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅1.54m、燃焼室幅0.8m、燃焼室奥行き0.76mである。粘土を多く含む5・7層がカマド袖部の本体の残存と見られる。 **床面** 南壁寄りの一部を除いて全体に硬化している。 **遺物** 土器・鉄製品・石製品が出土している。土器は須恵器の壺・盤、土師器は甕が出土している。須恵器の壺は8世紀第2~3四半期頃のものである。鉄製品は刀子、石製品は紡錘車と砥石である。 **所見** 出土遺物から8世紀後半の堅穴建物で、四本柱の主柱穴を床面にもたない小型の堅穴建物である。

16号竖穴建物 (第43・44・45図、表9、図版5・23)

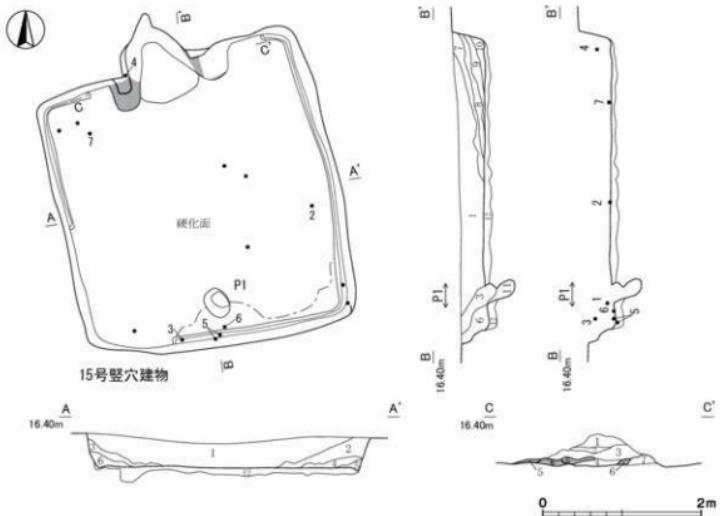
位置 西調査区中央部D4・E4グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向4.84m、東西方向4.85mの方形。深さ0.32m。 **主軸方向** N-40°-W。 **覆土** 覆土はローム粒を多く含んだ暗褐色土を主体としている。 **ピット** 主柱穴はP1~P4。P5、P6は出入り口に関係する穴と見られる。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅1.09m、燃焼室幅0.56m、燃焼室奥行き1.0mである。 **床面** 北西隅部の擾乱範囲以外は全体に硬化している。 **遺物** 土師器の壺・鉢・甕・瓶・壺が出土している。 **所見** 出土している土師器は6世紀後葉頃の土器と見られる。



第39図 13号竖穴建物出土遺物(2)



第40図 14号竖穴建物出土遺物



15号竖穴建物 A-A' B-B'

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒中量、焼土小ブロック中量、黒色土小ブロック中量。
ローム大ブロック中量、やや縮りあり
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック少量、縮りあり
3. 7.SYR3/1 黒褐色 ローム粒少量、焼土粒極少量、縮りあり
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒少量、縮りあり
5. 7.SYR3/1 黑褐色 ローム粒少量、縮りあり
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒中量、縮りあり
7. 10YR3/3 にぶい黄褐色 粘土粒・粘土小・中ブロック中量、焼土小ブロック中量、縮りあり
8. 7.SYR3/1 黑褐色 粘土小・中ブロック多量、黒色土大ブロック多量、縮りあり
9. 7.SYR7/4 にぶい褐色 粘土中ブロック主体、粘性・縮りあり
10. SYR4/4 にぶい赤褐色 焼土粒少量、粘土小・中ブロック中量、軟らかい
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック多量、軟らかい
12. 7.SYR3/3 褐褐色 ローム小ブロック多量、縮りあり

第41図 15号竖穴建物

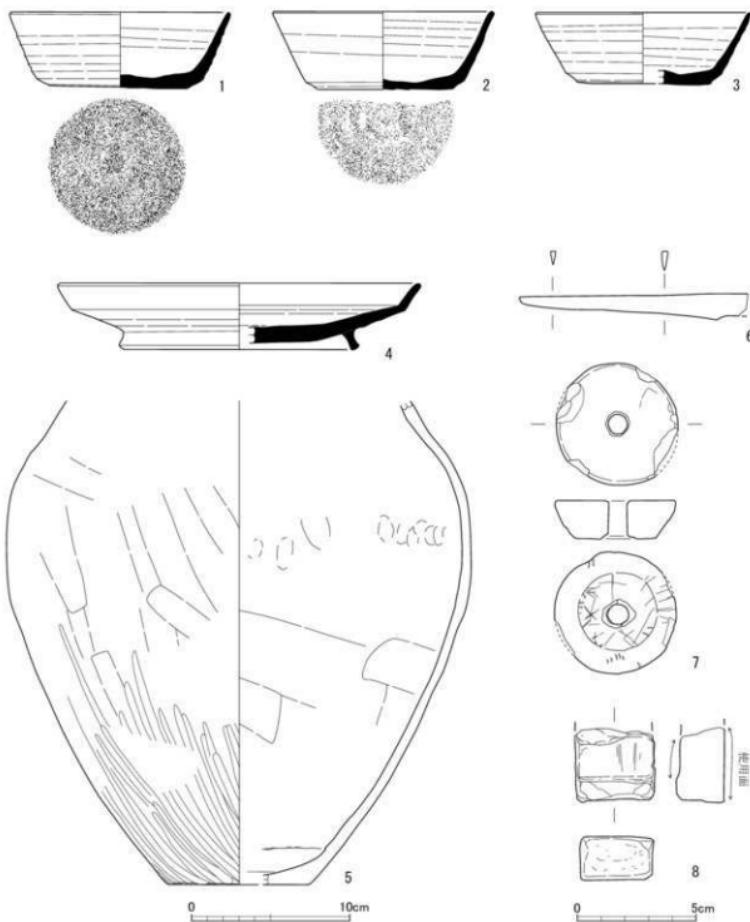
17A号竖穴建物 (第46・47図、表9、図版5・6・23)

位置 西調査区中央部 D4・D5・E4・E5 グリッド付近を中心位置する。 **重複関係** 7B号竖穴建物と重複し、7B号竖穴建物によって床やカマドを掘り込まれている。 **規模と平面形** 東西方向 4.42m、南北方向もおそらく4mを超える大きさと見られる。残存する深度は0.20m。 **主軸方向** N—1°—E。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅1.04m、燃焼室幅0.48m、燃焼室奥行き0.51mである。 **床面** 17B号竖穴建物に削平されている。

遺物 土師器甕が出土している。6世紀末～7世紀初め頃の長胸甕片である。 **所見** カマドの基部が残存しており、規模は小さいものの袖部分が竖穴内にしっかりと伸びており古墳時代的なカマドである。わずかに出土した土師器甕の年代が竖穴建物の時期を示していると考えられる。

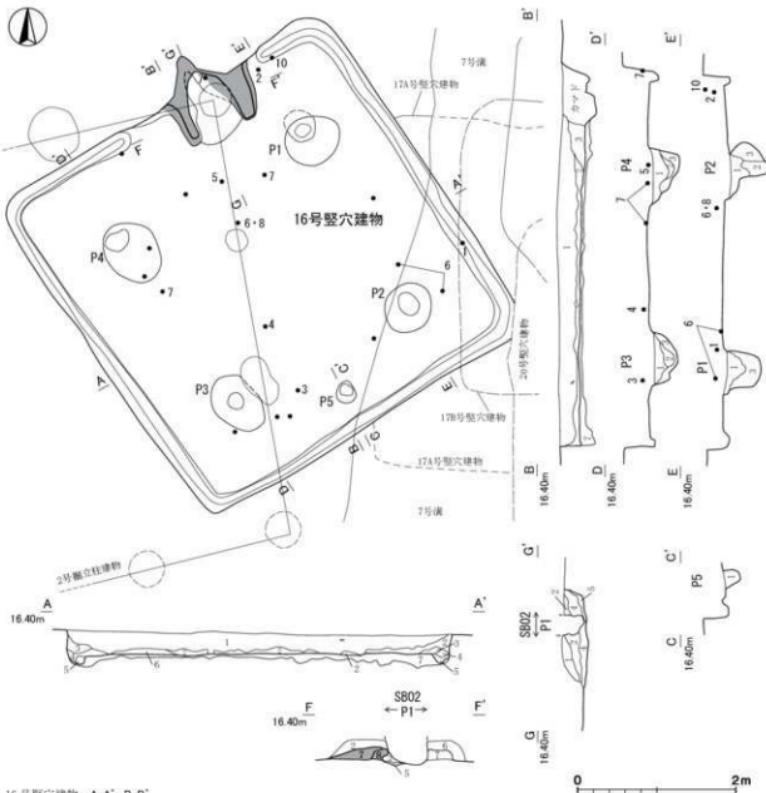
17B号竖穴建物 (第47・48図、表9、図版5・6・24)

位置 西調査区中央部 D4・D5・E4・E5 グリッド付近を中心位置する。 **重複関係** 17A号竖穴建物と重複し、17A号竖穴建物の床やカマドを掘り込んでいる。 **規模と平面形** 南北方向3.68m、東西方向3.64mの方形。



第42図 15号竪穴建物出土遺物

主軸方向 N-191°—E。 **覆土** 覆土はローム粒・ローム小ブロックを含む黒褐色土・暗褐色土を主体としている。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅1.0m、燃焼室幅0.50m、燃焼室奥行き0.55mである。焚口から奥へ0.27m、カマド中軸線から左に5cm寄った位置に椀を二つ重ねて支脚が据え付けられ残存していた。 **床面** 全体に硬化している。
遺物 土師器と煤の付着した磨石破片が出土している。土師器は壺・小皿・椀・甕で、小皿は口径11.3cm、器高2.6cmである。
所見 1の土師器小皿は口径・器高値から見て10世紀の第3四半期頃のものと見られるので、10世紀前半～中葉頃の竪穴建物となると見られる。



16号竖穴建物 A-A' B-B'

1. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多量、黒色土小ブロック多量、縫りあり

2. 10YR5/3 にぶい黄褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒多量、

ローム中ブロック中量、縫りあり

3. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多量、黒色土小ブロック多量、縫りあり

4. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量、黒色土小ブロック多量、縫りあり

5. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多量、黒色土小ブロック多量、やや縫りあり

6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム主体、やや歛らかい

7. 10YR4/5 頂色 ローム小ブロック多量、縫りあり

16号竖穴建物 カマド F-F' G-G'

1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒中量、粘土粒少量、やや歛らかい

2. 7.5YR3/3 にぶい褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒少量、粘性、縫りあり

3. 7YR5/3 にぶい橙色 粘土・中ブロック多量、燒土粒・焼土小ブロック少量、

やや歛らかい

1. 7.SYR3/3 暗褐色 ローム粒中量、歛らかい

2. 7.SYR3/2 黑褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量、

やや歛らかい

3. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量、歛らかい

4. 7.5YR3/2 黑褐色 ローム粒中量、歛らかい

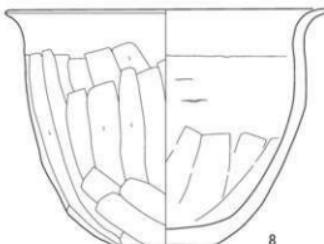
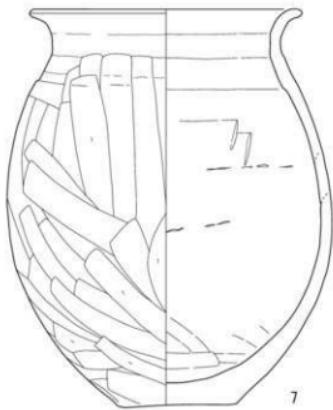
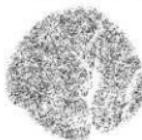
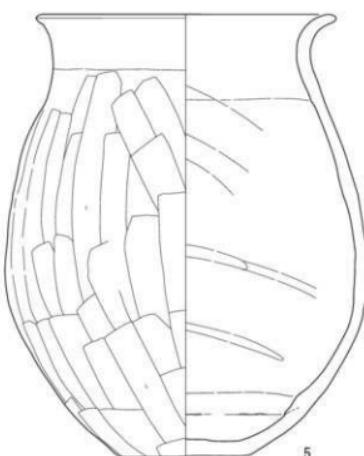
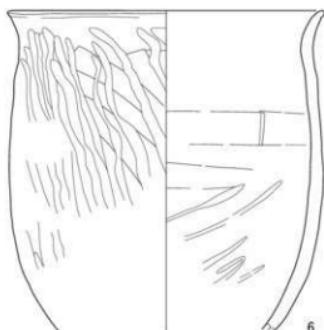
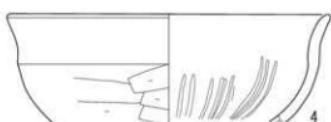
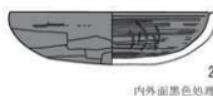
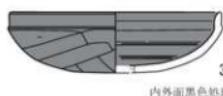
5. SYR5/6 明赤褐色 烧土粒・中ブロック多量、縫りあり

6. 7.5YR4/2 黑褐色 黑色土小ブロック中～多量、粘土粒多量、縫りあり

7. 7.SYR6/6 橙色 粘土中・大ブロック主体、縫りあり

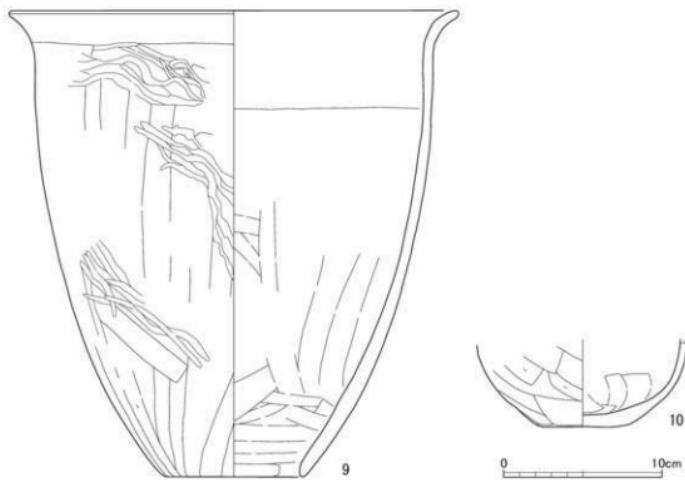
8. 7.5YR6/2 灰褐色 粘土大ブロック主体、粘性・縫りあり

第43図 16号竖穴建物

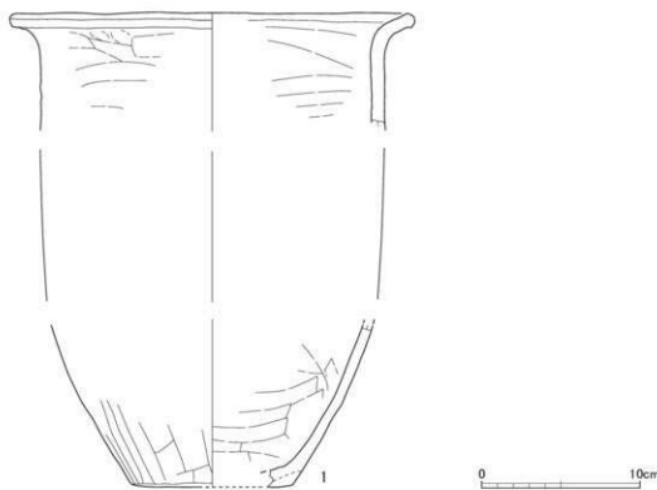


0 10cm

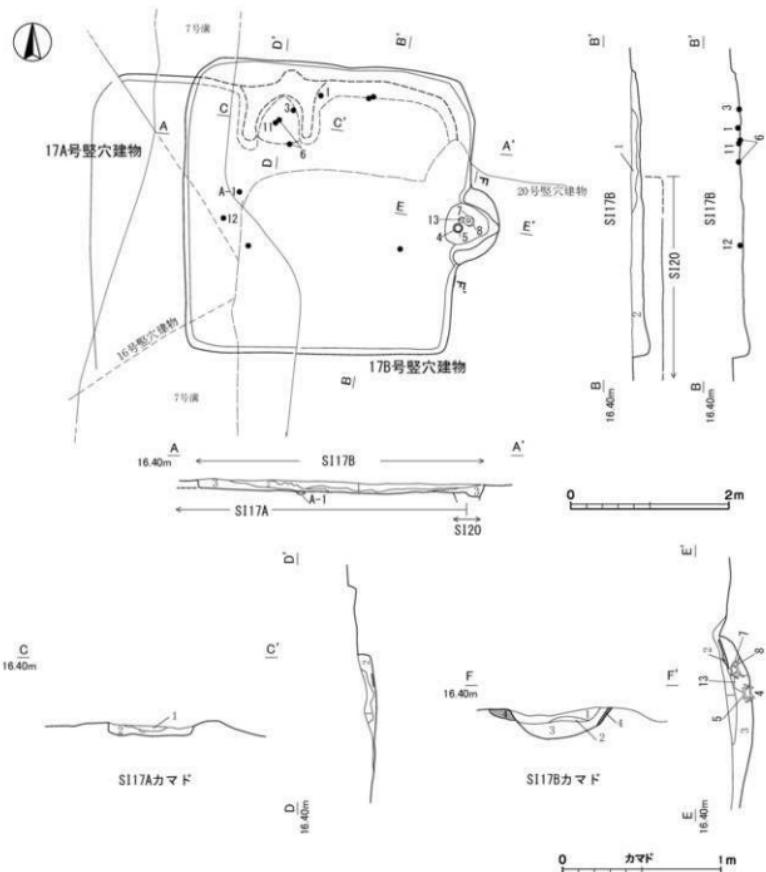
第44図 16号竪穴建物出土遺物(1)



第45図 16号堅穴建物出土遺物(2)



第46図 17A号堅穴建物出土遺物



17B号堅穴建物 A-A' B-B'

1. 7.SYR3/3 暗褐色 ローム粒中量。ローム小ブロック少量。繰りあり
2. 7.SYR3/3 黒褐色 ローム粒少量。繰りあり
3. 7.SYR3/3 暗褐色 ローム粒多量。ローム小ブロック中量。繰りあり

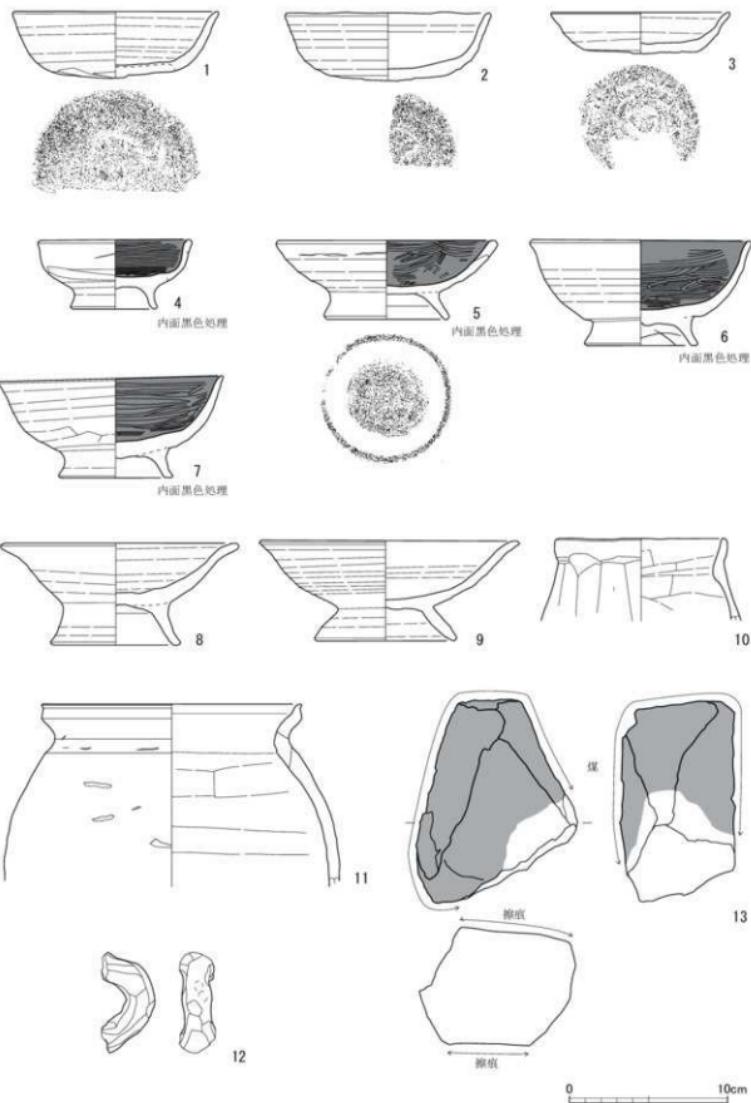
17A号堅穴建物カマド C-C' D-D'

1. SYR4/3 にぶい赤褐色 ローム粒中量。ローム小ブロック少量。繰りあり
2. 2. SYR4/6 黒褐色 焙土小・中ブロック主体。ガリガリとして繰りあり

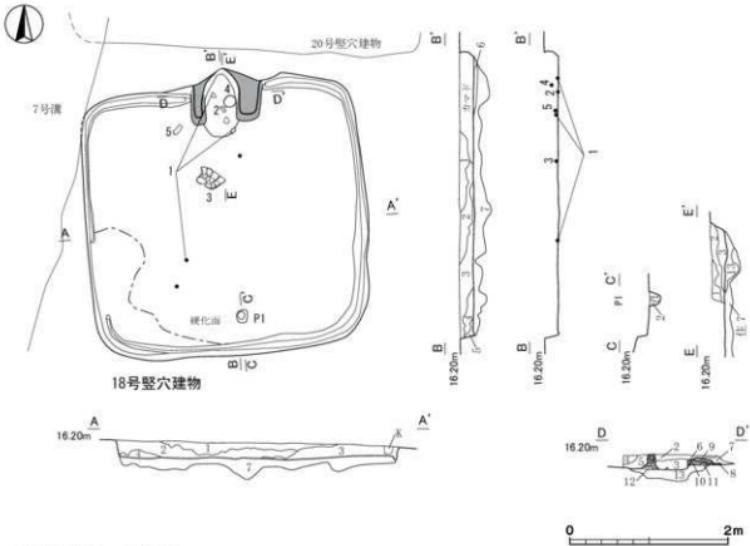
17B号堅穴建物カマド E-E' F-F'

1. SYR4/3 にぶい赤褐色 ローム粒中量。ローム小ブロック少量。繰りあり
2. 7.SYR3/1 黒褐色 ローム粒少量。繰りあり
3. 7.SYR5/2 灰褐色 焙土小・中ブロック多量。焙土粒中量。粘性・繰りあり
4. SYR5/6 明赤褐色 表面焼土化した焙土大ブロック層。粘性・繰りあり

第47図 17A・17B号堅穴建物



第48図 17B号竪穴建物出土遺物



18号竖穴建物 A-A' B-B'

1. 10YR4/2 灰黄褐色 ローム粒中量、ローム土小ブロック少量。繊りあり、人為堆積
2. 10YR4/2 灰黄褐色 ローム粒多量、ローム土小ブロック中量。繊りあり、人為堆積
3. 10YR4/2 灰黄褐色 ローム粒多量、ローム土小ブロック中量。黒色土小ブロック中量。繊りあり。人為堆積
にぶい・黄褐色 ローム粒多量、ローム土小ブロック中量、繊りあり
4. 10YR4/3 にぶい・黄褐色 ローム粒中量、軟らかい
5. 10YR4/3 にぶい・黄褐色 ローム粒中量、軟らかい
6. SYR4/3 にぶい赤褐色 塵土粒、焼土粒、焼土小ブロック多量、軟らかい
7. 10YR5/4 にぶい・黄褐色 黒色土小ブロック中量、繊りあり

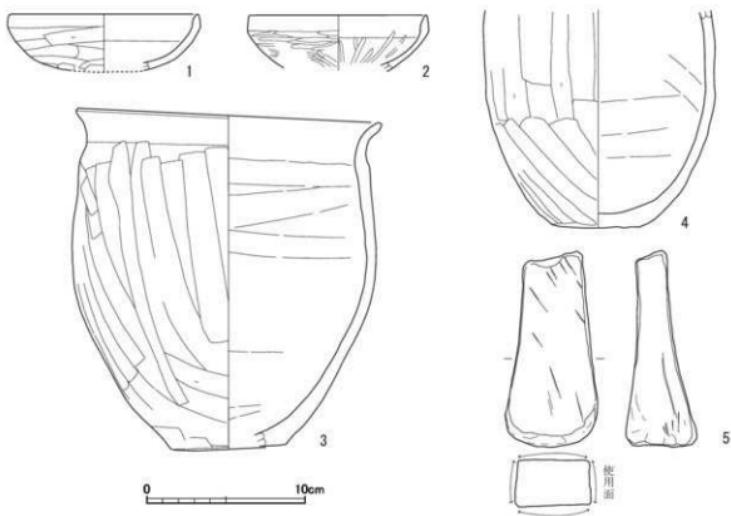
18号竖穴建物 PI C-C'

1. 7.SYR5/2 灰褐色 ローム粒少量、軟らかい
2. 7.SYR5/4 にぶい褐色 ローム粒・ローム小ブロック多量、やや繊りあり

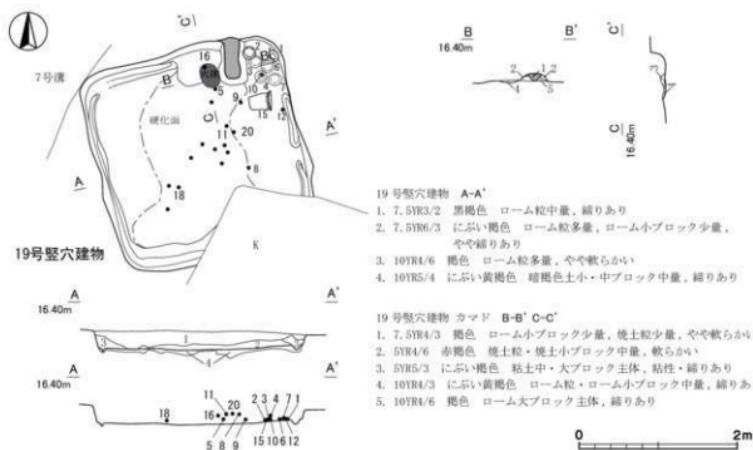
18号竖穴建物 カマド D-D' E-E'

1. 7.SYR5/3 にぶい褐色 粘土粒、粘土小・中ブロック多量、粘性・繊りあり
2. SYR5/4 にぶい赤褐色 焼土小・中ブロック多量、粘土小・中ブロック多量、繊りあり
3. SYR6/4 にぶい褐色 粘土中・大ブロック、焼土小・中量、軟らかい
4. 7.SYR3/3 暗褐色 ローム中・ブロック少量、暗褐色土小・ブロック少量、繊りあり
5. 7.SYR3/3 暗褐色 ローム粒少量、粘土中・ブロック少量、炭化物粒少量、繊りあり
6. 7.SYR5/3 にぶい褐色 焼土・焼土小・ブロック中量、ガサガサと硬い
7. 10YR5/3 にぶい・黄褐色 焼土粒少量、ローム粒中量、繊りあり
8. 7.SYR3/3 暗褐色 焼土粒少量、軟らかい
9. 7.SYR6/7 暗褐色 粘土大・ブロック層、粘性・繊りあり
10. 7.SYR5/3 暗褐色 焼土粒・焼土小・ブロック中量、硬い
11. 7.SYR3/3 黑褐色 炭化物粒多量、やや軟らかい
12. 10YR5/4 にぶい・黄褐色 ローム小・中・ブロック多量、繊りあり
13. 10YR4/3 にぶい・黄褐色 ローム小・中・ブロック主体、繊りあり

第49図 18号竖穴建物



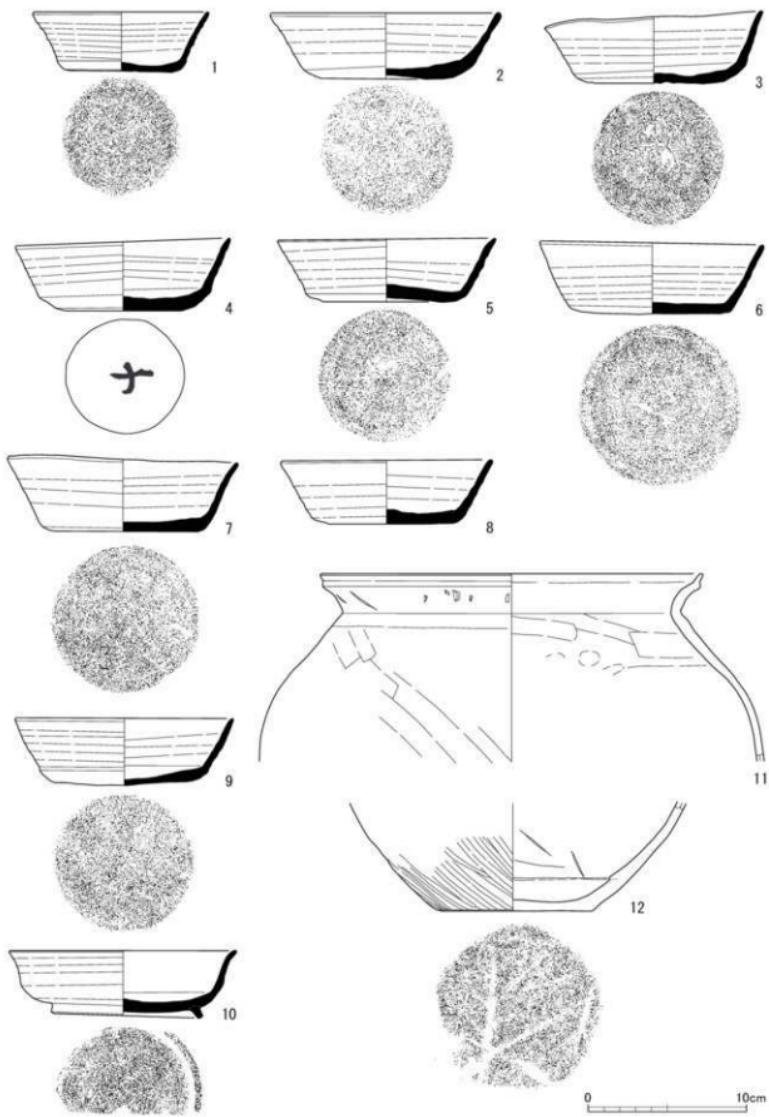
第50図 18号竪穴建物出土遺物



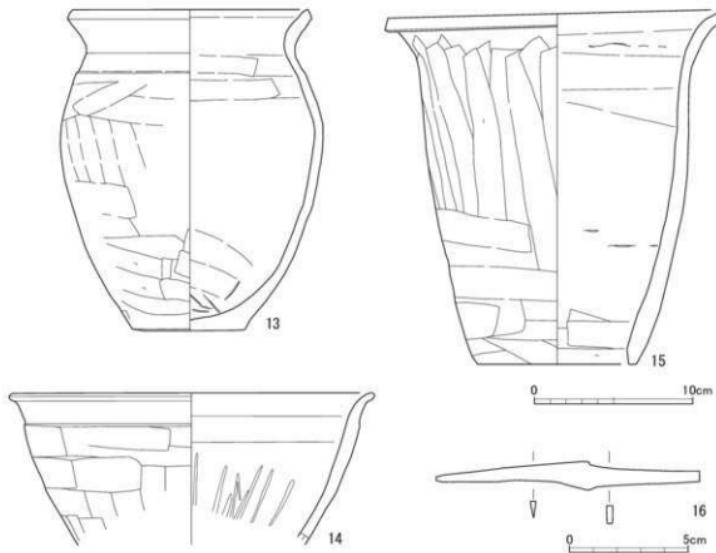
第51図 19号竪穴建物

18号竪穴建物 (第49・50図、表10、図版6・24)

位置 西調査区中央部E5グリッドを中心に位置する。規模と平面形 南北方向3.44m、東西方向3.55mの方形。深さ 0.18m。主軸方向 N-11°-W。覆土 覆土はローム粒・ローム小ブロックを含む灰黄褐色土を主体



第52図 19号竪穴建物出土遺物(1)

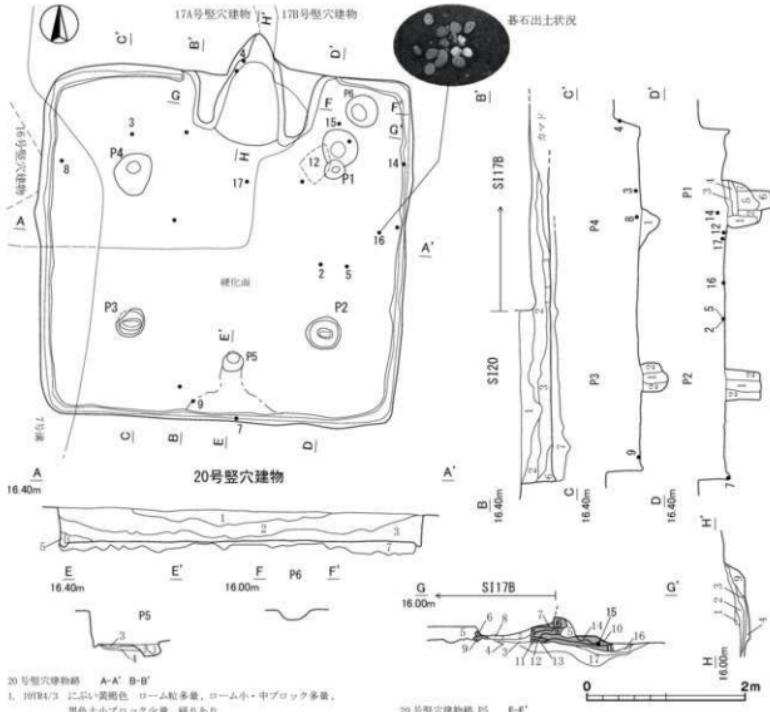


第53図 19号竖穴建物出土遺物 (2)

とする人為的な堆積土と見られる。 ピット 柱穴はP1が出入り口に關係する穴と見られる。 カマド 北壁中央部にあり、規模は幅0.90m、燃焼室幅0.39m、燃焼室奥行き0.78mである。 床面 南西隅部を除いて全体に硬化している。 遺物 土器・石製品の砥石が出土している。 所見 土器器の壺・甕の形状は6世紀末～7世紀始め頃のものかと思われる。

19号竖穴建物跡（第51・52・53図、表10、図版6・24・25）

位置 西調査区中央部E4・E5・F4・F5グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向2.65m、東西方向2.58mの方形。深さ0.23m。 **主軸方向** N-17°-W。 **覆土** 覆土はローム粒を含んだ黒褐色土を主体としている。 **カマド** 北壁中央部にあり、左袖本体は失われているが、火床部と粘土を使用した右袖、左袖基部がかろうじて残存している。規模は幅0.88m、燃焼室幅0.24m、燃焼室奥行き0.59mである。 **床面** カマドの前面から竖穴建物中央部と南西隅部にかけて硬化している。 **遺物** 土器・鉄製品が出土している。土器は須恵器の壺・高台付壺、土器器の鉢・甕・瓶、鉄製品は刀子が出土している。須恵器の壺・高台付壺はカマドの右脇の竖穴建物北東隅の床上にまとまってそのまま置かれた状況で、さらにその南側には完形の瓶が横転した状況で出土している。須恵器の壺は形態的には8世紀第2～3四半期頃のもので底部回転ヘラケズリのものが大半を占めている。有台壺が接觸の形態である。 **所見** 遺構の時期は須恵器の壺の底部調整や須恵器の接觸が8世紀第2四半期後半頃の生産品と見られていることなどから、8世紀第3四半期でもあまり新しい時期ではないものと見られる。



1. 19784/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量、ローム小・中ブロック多量、黒色土小ブロック少數、縫りあり

7. 5YR7/1 黒褐色 ローム粒中量。粘土小・中ブロック多量、縮りあり
 10. 1974/3 にない 黄褐色 ローム粒多量、粘土小・中ブロック中量、縮りあり
 10. 1974/3 にない 黄褐色 ローム粒多量、粘土小・中ブロック多量、縮りあり
 7. 5YR5/1 黑褐色 ローム粒少量。縮らぬ。
 6. 10YR6/4 にない 黄褐色 ローム大ブロック多量、ローム粒中量。縮らぬ。
 7. 10YR4/3 にない 黄褐色 ローム小・中ブロック主張、縮く縮りあり

1. 7.5MB2/1 黑色 黑色土

2. 10TBG/4 にぶい黄褐色 ローム主体。ローム小・中ブロック多量、やや縮りあり
29号懸穴線物語 P4 C-C'

1. 10184/3 仁宗、黃褐色

- 20号壁穴建物跡 P1 D-D'

1. 10183/1 黒褐色 ボーム
2. 10183/2 黒褐色 ボーム

10. 10TRU/2 黄褐色。ローム粒主体。ローム小ブロック多量、縮りあり
2. 10TRU/3-1 に黄・黒褐色。ローム・粘土・砂・中・大ブロック多量、縮りあり
3. 10TRU/3-2 黄褐色。ローム・粘土・砂・中・大ブロック多量、縮りあり
4. 10TRU/3-3 黑褐色。ローム・粘土・砂・中・大ブロック中量、縮りあり
5. 10TRU/2 黑褐色。ローム・粘土多量、ローム小ブロック多量、枕らかい。
6. 10TRU/2 黑褐色。ローム大ブロック主体。ローム粒多量。
　　ローム小ブロック多量、枕らかい。
7. 10TRU/2 黑褐色。ローム小・中・ブロック中量、やや枕らかい。

29号整穴建物跡 D-D'

1. 10TR3/2 黒褐色 ローム粒少量、繊らかい
2. 10TR4/3 にい 黄褐色 ローム小・中ブロック多量、
黒色土小ブロック中量。繊りあり

4. 7. 5113/2 黑褐色 □...

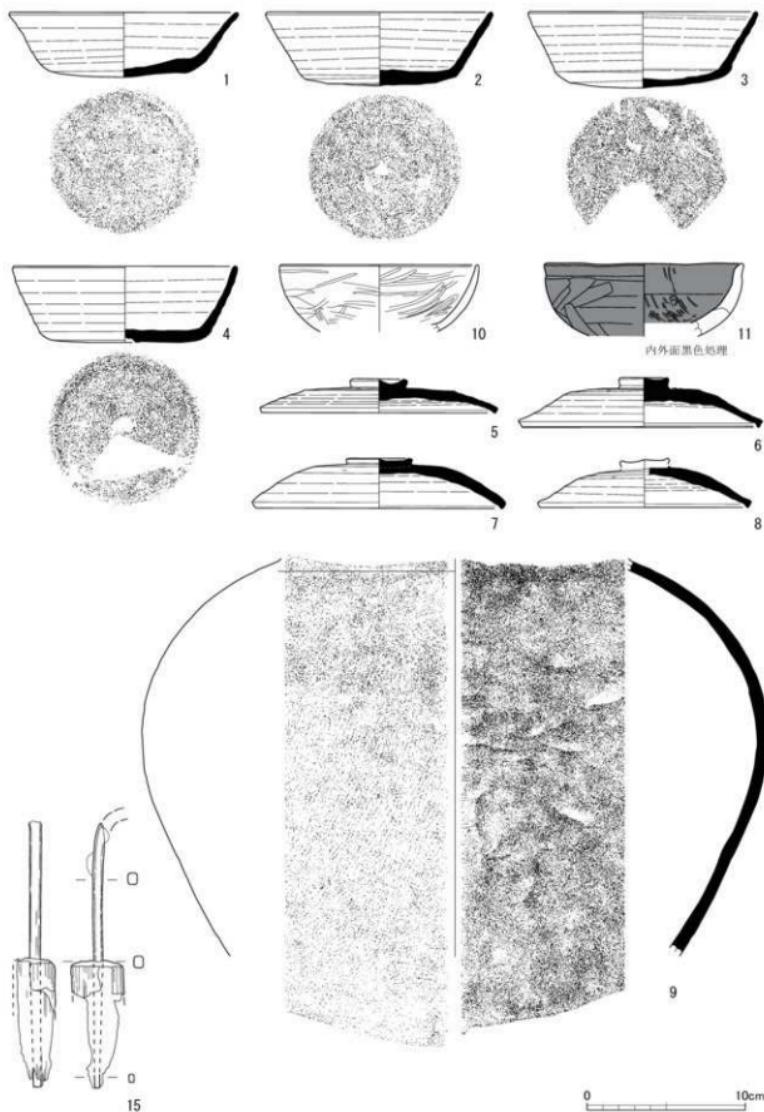
7. 5/IR3/2 黒褐色 ローム少重量、ローム小プロック多量、やや縮りあり
7. 5/IR3/2 黑褐色 ローム少重量、ローム小プロック多量、やらかさあり
4. 10/IR3/4 雜褐色 ローム中量、ローム小プロック少量、縮りあり

29号型建築物鍵孔カマド G-G' H-H'

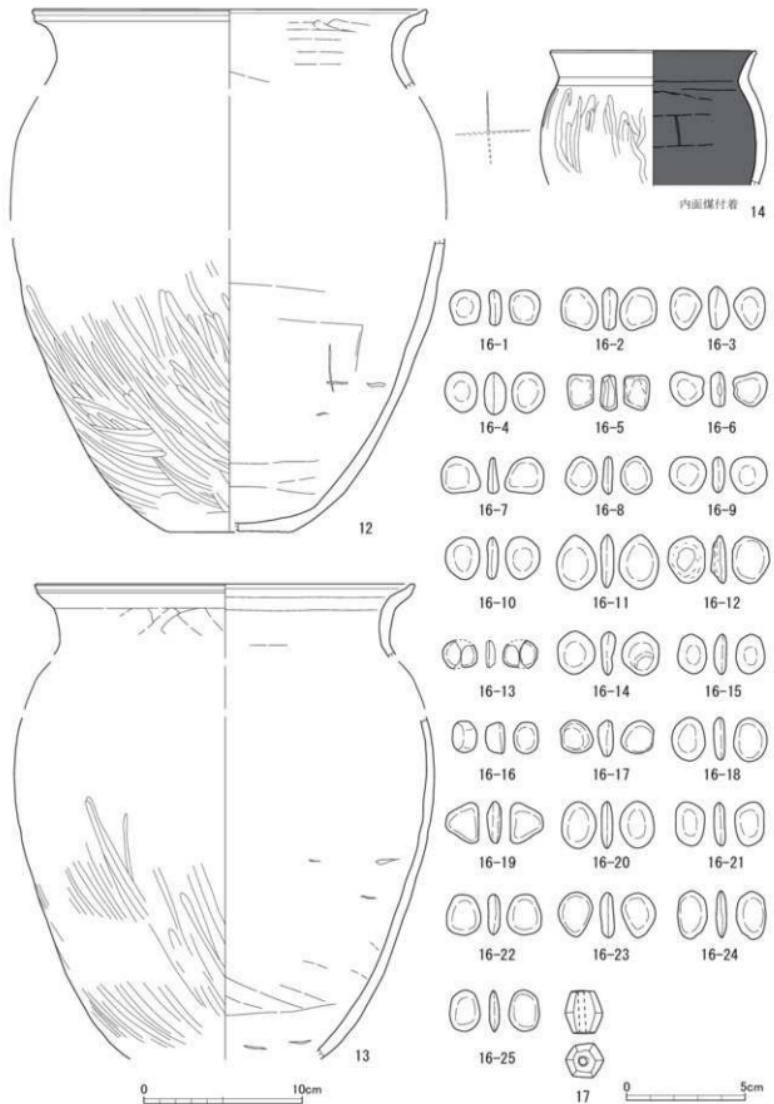
1. 5/IR3/1 にごい黒褐色 粘土小、中プロック主体、縮りあり
2. 10/IR3/2 黒褐色 粘土少重量、陶化物多量、縮りあり
3. 5/IR3/3 にごい黒褐色 粘土中プロック主体、粘性、縮りあり
4. 5/IR3/1 黑褐色 陶化物多量+粘土少量、やや吸らぬ
5. 10/IR3/2 黑褐色 粘土小、中プロック少量、ローム中量、
ローム大プロック少量、縮りあり

6. 10/IR6/6 にごい黒褐色 黃褐色粘土大プロック主体、粘性、縮りあり
7. 10/IR6/6 にごい黒褐色 粘土大プロック、粘土多重量、縮りあり
8. 10/IR6/6 にごい黒褐色 粘土大プロック多量、燒土大プロック中量、縮りあり
9. 10/IR6/6 にごい黒褐色 粘土大プロック多量、縮りあり
10. 10/IR5/2 暗褐色 粘土中量、粘土小プロック中量、黒色土少プロック少量、
縮りあり

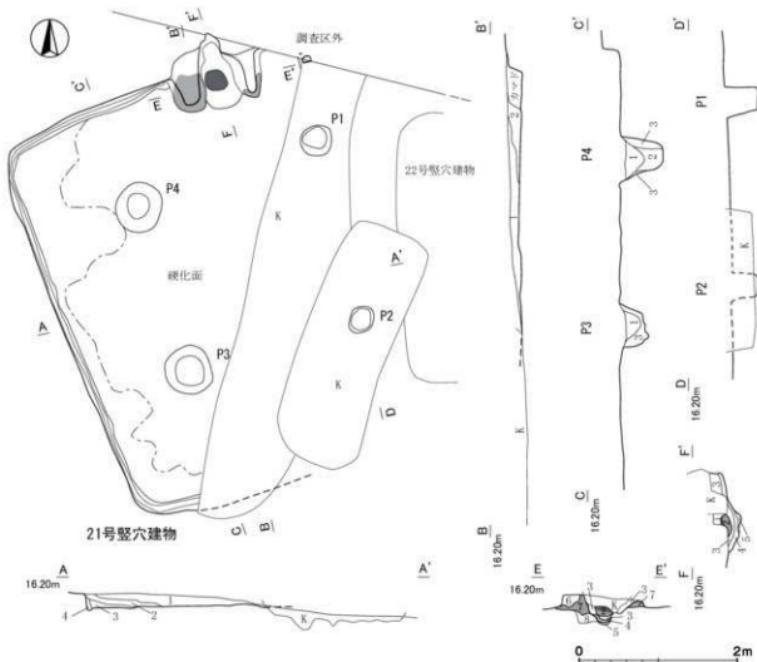
11. 5/IR3/1 黑褐色 陶化物多量、燒土粘土少量、やや吸らぬ
12. 10/IR6/4 にごい 黄褐色 粘土大プロック多量、縮りあり
13. 7. 5/IR3/1 黑褐色 陶化物粘土量、燒土粘土少量、やや吸らぬ
14. 10/IR6/4 にごい 黑褐色 粘土大プロック少量、縮りあり
15. 10/IR5/2 暗褐色 粘土小、中プロック多量、ローム小プロック多量、縮りあり
16. 7. 5/IR2/1 黑褐色 陶化物粘土量、燒土大プロック少量、
ローム中プロック少量、吸らぬ
17. 10/IR5/3 にごい 黑褐色 ローム小~大プロック多量、
黒色土少~大プロック多量、縮りあり



第55図 20号竖穴建物出土遺物(1)



第 56 図 20 号竪穴建物出土遺物 (2)



21号窓穴建物 A-A' B-B'

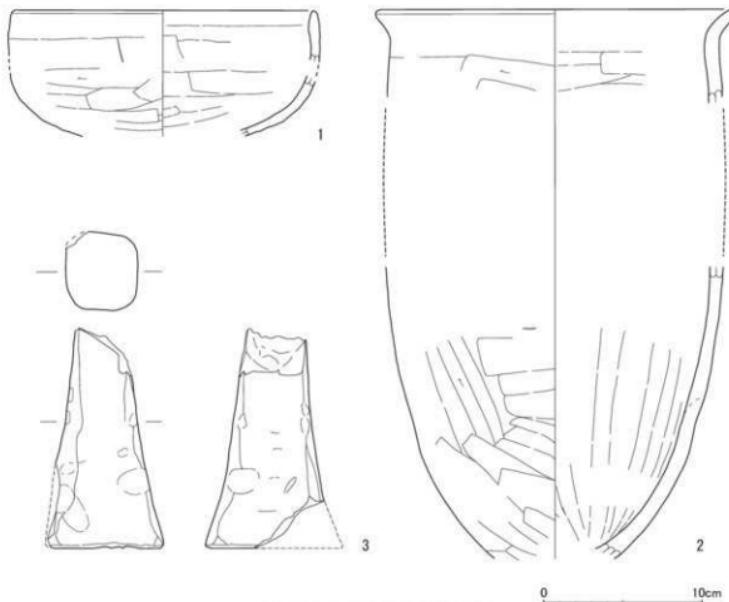
7. SYR3/3 晴褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量、やや縮りあり
- 10YR4/3 黒褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック多量、やや縮りあり
- 10YR2/2 黑褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量、やや縮りあり
4. 10YR1/3 にぶい赤褐色 ローム粒多量、軟らかい
- 21号窓穴建物 P3, P4 C-C'
7. SYR3/3 晴褐色 ローム粒少量、ローム小・中ブロック少量、軟らかい
- 10YR4/4 黑褐色 ローム主体、ローム小・中ブロック多量、軟らかい
- 10YR4/4 黑褐色 ローム主体、ローム小・中ブロック多量、縮りあり
- 21号窓穴建物 カマド E-E' F-F'
7. SYR6/2 灰褐色 粘土少、中ブロック中量、粘性・縮りあり
- SYR5/3 にぶい赤褐色 やや焼土化した粘土大ブロック、粘性・縮りあり
7. SYR6/4 にぶい褐色 粘土大ブロック多量、粘性・縮りあり
7. SYR3/3 にぶい褐色 粘土小ブロック少量、燒土粒少量、灰褐色、灰中量、やや軟らかい
5. 7. SYR4/3 黑褐色 粘土小、中ブロック中量、縮りあり
6. SYR5/3 にぶい赤褐色 やや焼土化した粘土大ブロック、粘性・縮りあり
7. SYR6/4 にぶい褐色 粘土大ブロック多量、粘性・縮りあり

第57図 21号窓穴建物

20号窓穴建物 (第54・55・56図、表10・11、図版6・7・25・26)

位置 西調査区中央部E5グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向4.41m、東西方向4.63mの方形。深さ0.41m。主軸方向N-1°-E。 **覆土** 覆土は下層に粘土が多く、中層は黒褐色土、上層はロームの小・中ブロックを多く含んだ人為的な堆積土層と見られる。 **ピット** 主柱穴はP1～P4で、P5は出入り口に関係する穴と見られる。P6は窓穴の隅にあり深さ11cm程のくぼみ穴である。P1の底面に柱の据替の跡が見られる。

カマド 北壁中央部にあり、規模は幅1.54m、燃烧室幅0.70m、燃烧室奥行き1.06mである。 **床面** P5の南側を除いて全体に硬化している。 **遺物** 土器・鉄製品・石製品が出土している。土器は須恵器の壺・蓋・甕、土師器の壺・甕、鉄製品はクルル鉤が出土している。須恵器の壺は8世紀後半期のものである。石製品は

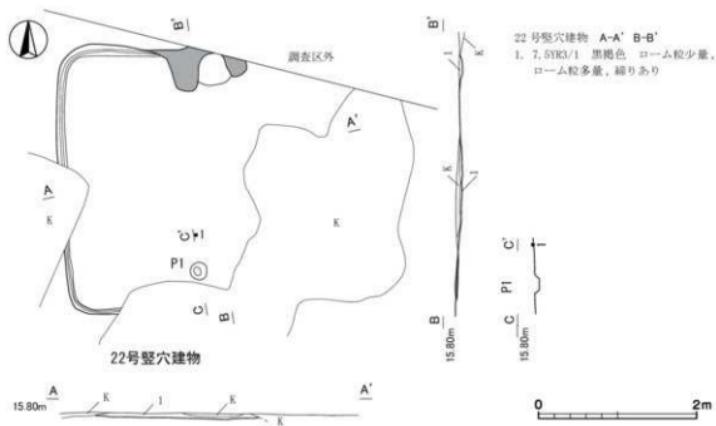


第58図 21号竖穴建物出土遺物

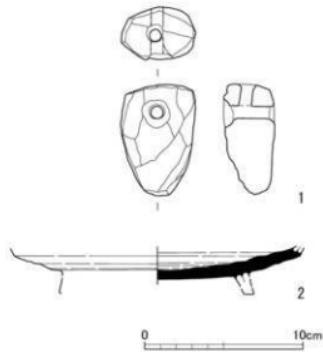
水晶製切子玉1点と扁平で小型の自然石25点が出土している。扁平な小型自然石は黒色を主体として白色・灰色・赤色等があり大きさや形状から碁石を想起させる。これには当時流行している盤双穴の駒の可能性も否定できないが、ここでは碁石と呼ぶ。碁石は床面近くから拳大程の範囲で上下にも重なるようにまとまって出土している。(第54図-16) 切子玉はカマドの前面の床上からわずかに浮いて出土している。クルル鉤と見られる把手のついた鉄製品はカマドの崩壊土の下から出土している。所見 切子玉の出土状況は切子玉と床面の間にカマド粘土の流失土が1~2cm堆積しており、建物廃絶→カマドの崩壊流失→切子玉堆積という順番で、竖穴建物廃絶後に一定の時間があってから切子玉がカマドの前に置かれたのか、あるいは切子玉は紐に通して吊るされる形が通常の使用方法と思われる所以、竖穴廃絶の儀礼において木の枝かなににかけられて吊るされた切子玉が一定時間を置いて落下したのではないかとも想像される。碁石は袋状のものに入れられて床面に残されたものかと思われる。時期は8世紀中葉と見られる。

21号竖穴建物 (第57・58図、表12、図版7・26)

位置 西調査区中央部D5グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向5.20m、東西方向4.5m以上。深さ0.20m。 **主軸方向** N-22°-W。 **覆土** 残存する覆土は薄く、ロームを少量含んだ暗褐色土が堆積している。 **ピット** 主柱穴はP1~P4である。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅1.29m、燃焼室幅0.41m、燃焼室奥行き0.80mである。 **床面** 西壁寄りを除いて全体に硬化している。 **遺物** 土師器の鉢と甕、土製の支脚が出土している。 所見 土師器の鉢・甕は6世紀末~7世紀始め頃のものと見られる。



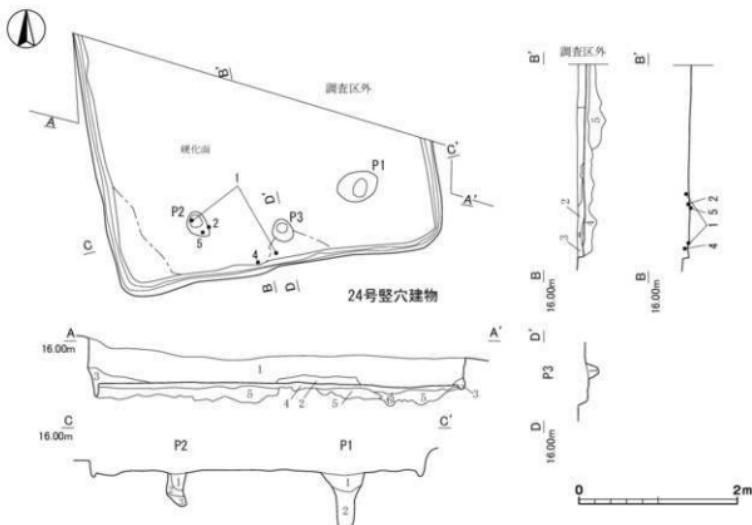
第59図 22号堅穴建物



第60図 22号堅穴建物出土遺物

24号堅穴建物（第61・63図、表12、図版7・27）

位置 西調査区中央部D6グリッドに位置する。
規模と平面形 南北方向4.24m、東西方向3.5m以上。深さ0.56m。
主軸方向 N-12°-W。
覆土 覆土はローム粒の含有の多い黒褐色土が堆積している。
ピット 主柱穴はP1～P2で、P3は出入り口に関係する穴と見られる。
カマド 調査区外にあったと思われるが、現在は削平されて存在していない。
床面 P3の南側と南西隅部を除いて硬化している。
遺物 須恵器の壺・高台付壺・蓋がP2付近やP3付近の覆土下層から出土している。
所見 須恵器の壺は8世紀第3四半期頃のものと見られる。



24号竖穴建物 A-A' B-B'

1. 7.SYR3/2 黒褐色 ローム粒中量、焼土粒少量、軟らかい
2. 7.SYR3/1 黒褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック中量、やや軟らかい
3. 7.SYR5/2 灰褐色 烧土中ブロック主体、粘性・縫隙あり
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム少・中ブロック多量、黒褐色土小ブロック少量、硬く締りあり
5. 10YR3/4 塔褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック少量、締りあり
6. 10YR3/4 塔褐色 ローム小ブロック中量、軟らかい

24号竖穴建物 P1 C-C'

1. 7.SYR2/1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量、やや締りあり
2. 10YR4/2 黒褐色 ローム粒・ローム小ブロック中量、軟らかい
- 24号竖穴建物 P2 C-C'
1. 7.SYR3/4 塔褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック中量、軟らかい
2. 10YR4/1 塔褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック中量、軟らかい
3. 10YR4/4 塔褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック少量、軟らかい
- 24号竖穴建物 P3 D-D'
1. 10YR4/2 黒褐色 ローム粒・ローム小ブロック中量、軟らかい

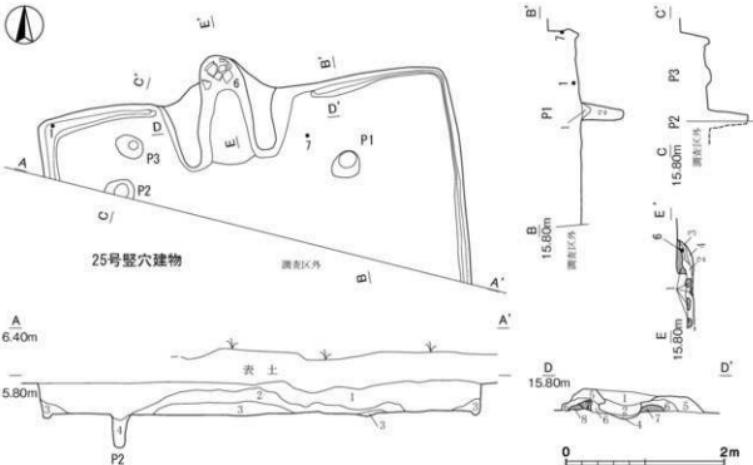
第61図 24号竖穴建物

25号竖穴建物 (第62・64図、表12、図版8・27)

位置 西調査区中央部 G5・G6 グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向 2.80m 以上、東西方向 5.24m、深さ 0.39m。 **主軸方向** N=8°—W。 **覆土** 覆土はローム粒・ローム小ブロックを多く含んだ暗褐色土を主体としている。 **ピット** 主柱穴は P1・2 で P3 は深さ 4cm 程の浅いくぼみ穴である。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅 1.60m、燃焼室幅 0.46m、燃焼室奥行き 0.95m である。 **床面** 全体に硬化している。 **遺物** 土師器・鉄製品が出土している。土師器は丸底器形の壺で半球形のものと体部と口縁部の境に稜をもつ内外面黒色処理の壺が出土している。土師器の壺は長胴甕で、7 は壺の上部になると思われる。鉄製品は鎌で先端部が欠損している。 **所見** 土師器の長胴甕 6 の器形は栃木県上三川町の薄市遺跡 K-54 住居跡出土のもの（篠木・田熊 1989）に似ており、7 世紀中葉頃に位置付けられている。

26号竖穴建物跡 (第65・68図、表12、図版8・27)

位置 西調査区中央部 G6・G7 グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向 3.36m、東西方向 3.56m の僅か



25号竖穴建物 A-A'

1. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック中量、やや縮りあり
2. 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック多量、やや縮りあり
3. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量、やや縮りあり
4. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量、軟らかい

25号竖穴建物 P1 B-B'

1. 7.5YR3/2 黑褐色 軟らかい
2. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量、軟らかい

25号竖穴建物 カマド D-D', E-E'

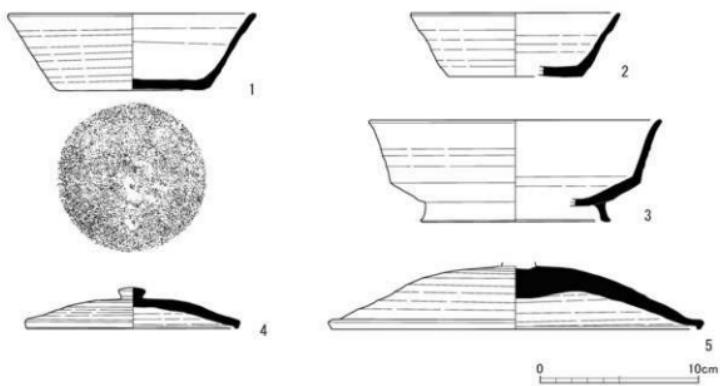
1. 7.5YR6/4 にぶい褐色 粘土主体、粘性・縮りあり
2. 10YR4/2 灰褐色 粘土粒中量、ローム粒少量、軟らかい
3. SYR4/3 にぶい赤褐色 硅土粒・焼土粒・焼土小ブロック多量、軟らかい
4. SYR4/5 にぶい赤褐色 硅土粒・焼土粒・焼土小ブロック少量、炭化物・灰中量、軟らかい
5. 7.5YR6/3 にぶい褐色 粘土ブロック主体、粘性・縮りあり
6. SYR4/4 にぶい赤褐色 硅土小・中ブロック多量、粘土小ブロック少量、縮りあり
7. 7.5YR6/3 にぶい褐色 粘土大ブロック主体、粘性・縮りあり
8. 7.5YR5/3 にぶい褐色 粘土大ブロック多量、燒土小ブロック少量、粘性・縮りあり

第62図 25号竖穴建物

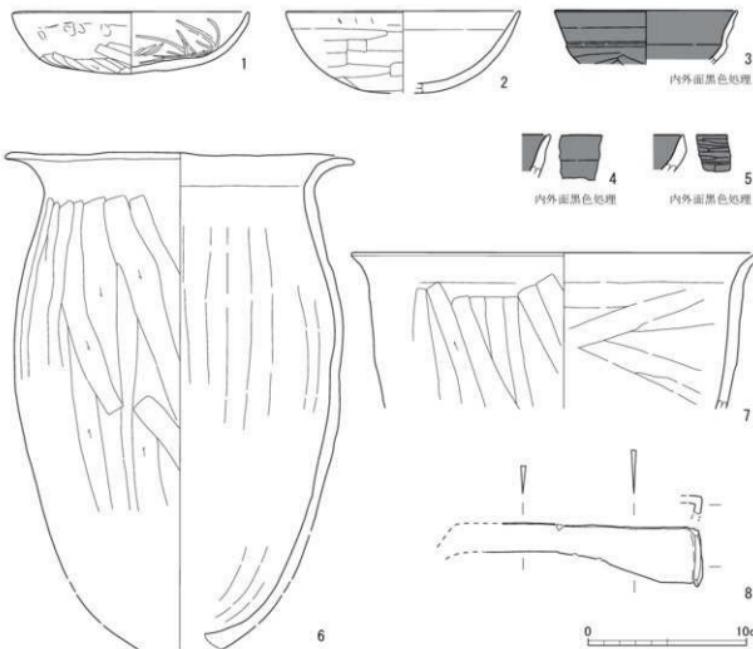
に東西方向に長い方形。主軸方向 N-8°-W。覆土 覆土はローム粒・ローム小ブロックを多く含んだ暗褐色土を主体としている。カマド 北壁中央部にあり、規模は幅1.31m、燃焼室幅0.34m、燃焼室奥行き0.44mである。床面 壁際を除いた堅穴中央部が硬化している。遺物 須恵器の壺と瓦小片が出土している。須恵器壺は8世紀第2~3四半期の器形である。二次底部面が浅く、底部調整が回転ヘラ切後ナダ調整であり新しい傾向と見て8世紀第3四半期頃のものと見られる。所見 主柱穴をもたない小型の堅穴建物で8世紀第4四半期には廃絶している堅穴建物である。

27号坚穴建物 (第66・68図、表12、図版8・27)

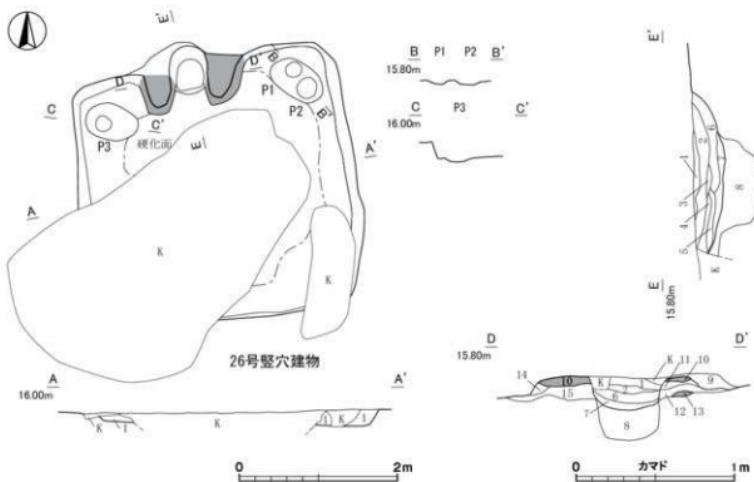
位置 西調査区中央部F7グリッドに位置する。規模と平面形 南北方向3.23m、東西方向3.26mの方形。深さ0.12m。主軸方向 N-10°-W。覆土 覆土はローム小ブロックをやや含んだ暗褐色土を主体としている。カマド 北壁東端にあり、規模は幅1.15m、燃焼室幅0.47m、燃焼室奥行き0.59mである。床面 カマド前面から堅穴建物中央部や東寄りにかけて硬化している。遺物 ほとんど遺物が出土していない。1は不明鉄製品で、鐵鎌の頭部か鋤鍬車の芯などのようなものであろうか。所見 小型の堅穴建物でカマドの位置が堅穴建物の隅によっており、一般的には9世紀後半以降の時期になるものと思われる。



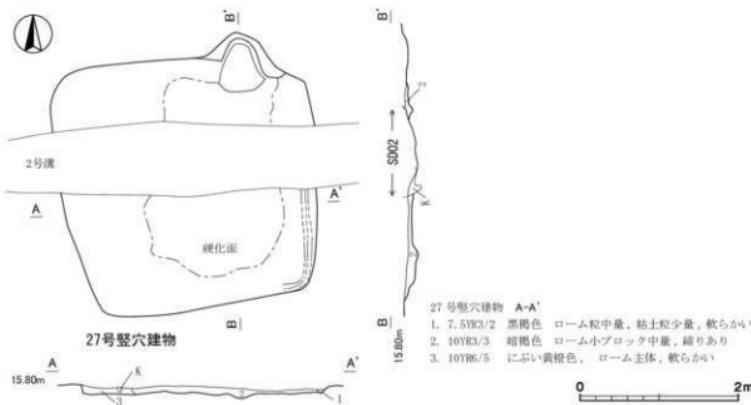
第63図 24号竪穴建物出土遺物



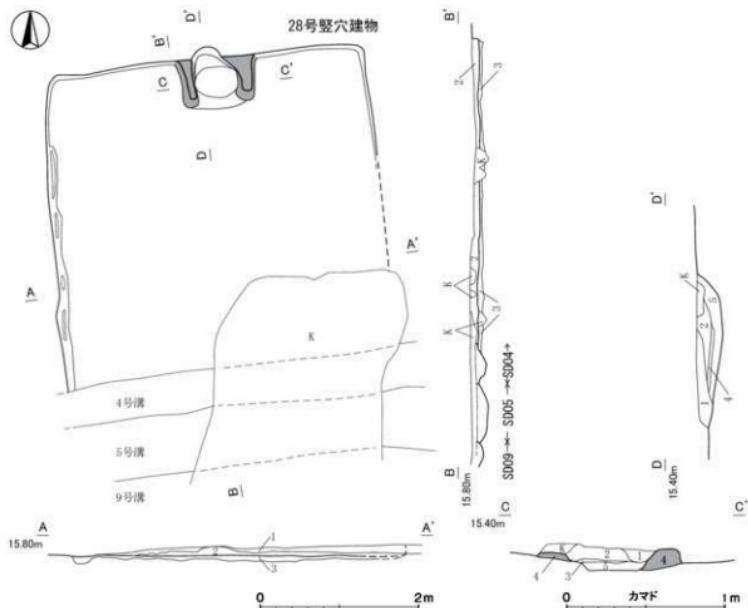
第64図 25号竪穴建物出土遺物



第65図 26号竖穴建物



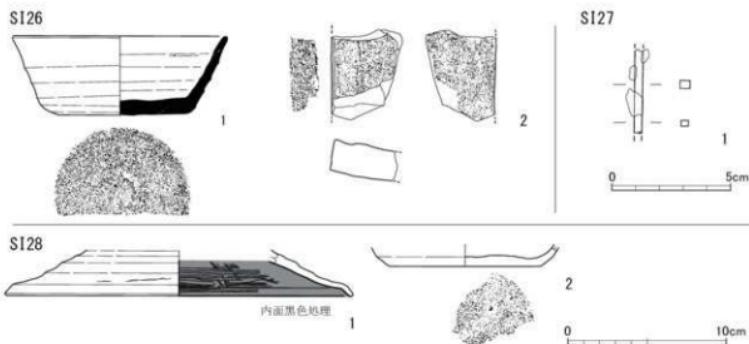
第66図 27号竖穴建物



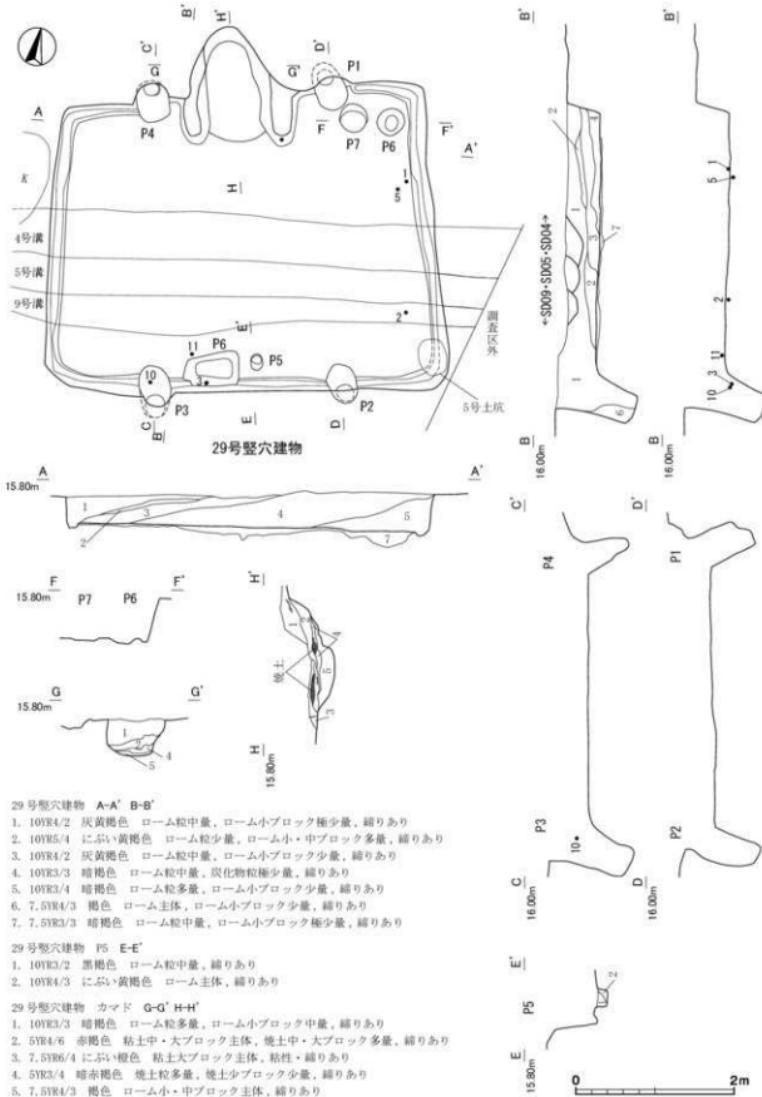
- 28号竪穴建物 A-A' B-B'
 1. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量、繊りあり
 2. 10YR3/4 褐褐色 ローム粒中量、粘土粒中量、繊りあり
 3. 10YR6/5 にぶい黄褐色 ローム主体、軟らかい

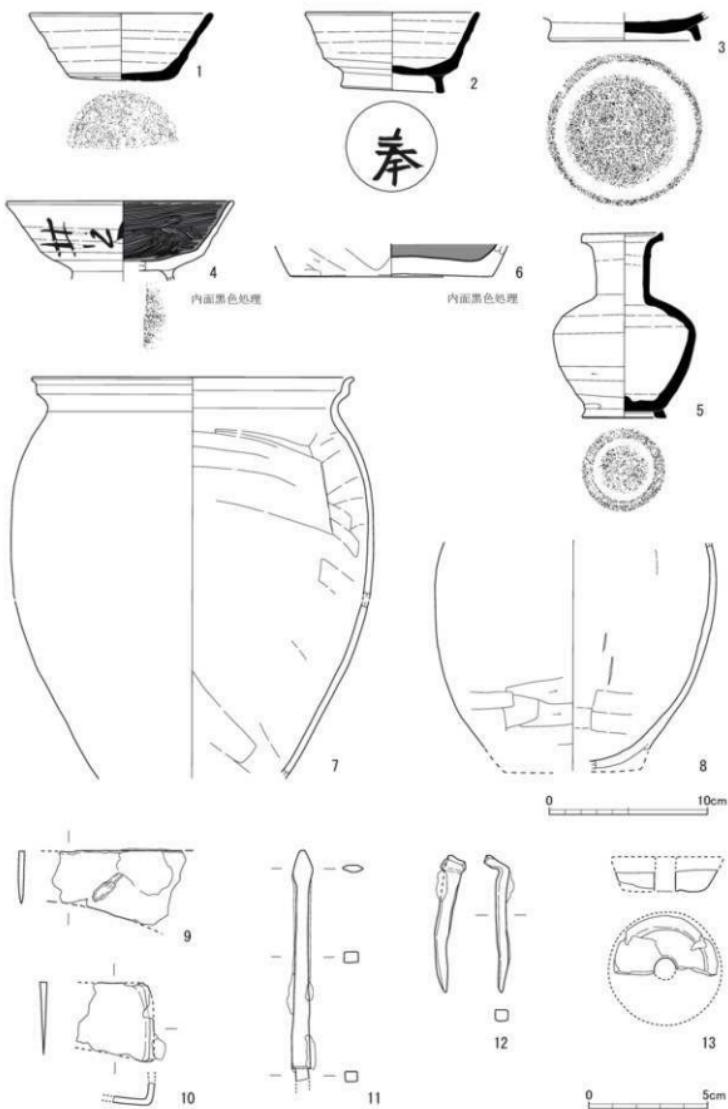
- 28号竪穴建物 カマド C-C' D-D'
 1. 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少量、繊りあり
 2. 5YR4/4 にぶい赤褐色 硅土中にブロック主体、繊りあり
 3. 5YR4/3 にぶい赤褐色 硅土粒中量、繊りあり
 4. 7.5YR1/1 黒褐色 粘土主体、繊りあり
 5. 7.5YR1/2 灰褐色 炭化物・灰多量、軟らかい

第67図 28号竪穴建物



第68図 26・27・28号竪穴建物出土遺物





第70図 29号竪穴建物出土遺物

28号堅穴建物（第67・68図、表12、図版8・27）

位置 西調査区西部F8グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向3.54m以上、東西方向4.17mの方形と見られる。深さ0.09m。 **主軸方向** N-6°—W。 **覆土** 覆土はローム粒・ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土を主体としている。 **ピット** 主柱穴は確認できなかった。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅0.94m、燃焼室幅0.54m、燃焼室奥行き0.68mである。 **床面** 中央東寄りの部分に硬化がみられた。 **遺物** 土師器の壺と蓋が出土している。土師器の蓋は、須恵器と同じ様にロクロ成形してから内面黒色処理とミガキを行ない酸化焰焼成したものである。壺はロクロ成形、酸化焰焼成、底部回転糸切りで、底径が大きく須恵器であれば8世紀代の時期のものと思われるが、完全な酸化焰焼成のため土師器とした。 **所見** 内面黒色処理のロクロ成形土器は8世紀の後葉から9世紀前葉の時期を主体としており、この堅穴建物もこの時期頃のものと思われる。

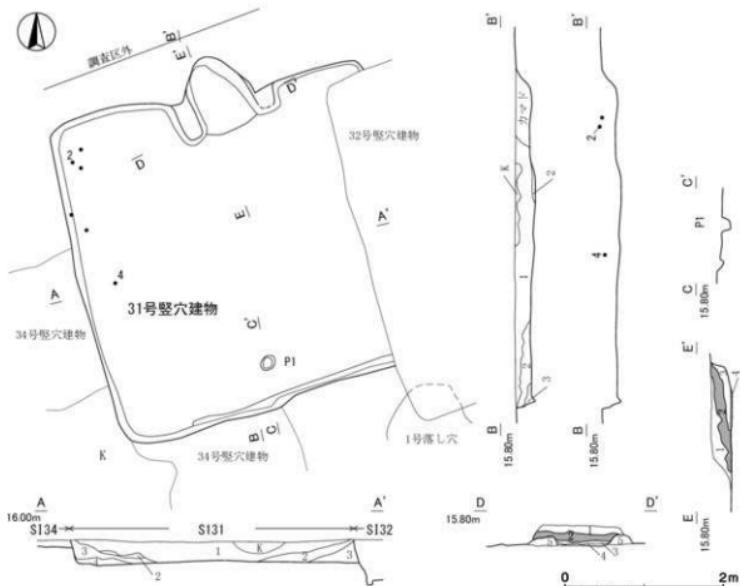
29号堅穴建物（第69・70図、表12・13、図版9・27・28）

位置 西調査区西部F8・F9グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向3.68m、東西方向4.84mの横長長方形。深さ0.51m。 **主軸方向** N-11°—W。 **覆土** 覆土は上層からローム粒やローム小ブロックを含んだ灰黄褐色土、人為的な堆積と見られるにぶい黄褐色土、ロームや炭化物粒を含んだ暗褐色土層が堆積している。 **ピット** 主柱穴はP1～P4まで、P5は出入口に関係する穴と見られる。P6は出入口ピット近くにある方形気味の深さ5cm程の浅いくぼみ穴である。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅1.47m、燃焼室幅0.66m、燃焼室奥行き0.92mである。 **床面** 全体に硬化している。 **遺物** 土師器・須恵器・鉄製品・石製品が出土している。須恵器の5の小瓶と1の須恵器壺片は近接して床上から、2の須恵器高台付壺も床面近くから出土している。須恵器壺は8世紀第4四半期～9世紀第1四半期頃のものである。2の高台付壺の底部高台内には墨書き文字「奉」、3の盤の底部に「井」の線刻、4の土師器高台付壺部に墨書き「口井」が見られる。鉄製品は、鎌・鉄錐・釘。13は石製紡錘車片である。 **所見** 長方形の平面形で北壁際と南壁際にそれぞれ主柱穴を2本ずつ設ける堅穴建物で、出土遺物から9世紀前半頃に廃絶していると見られる。

30号堅穴建物 欠番

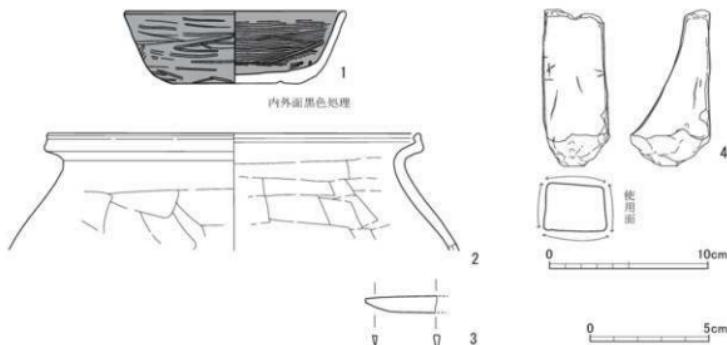
31号堅穴建物（第71・72図、表13、図版9・28）

位置 西調査区西部E8グリッドに位置する。 **重複関係** 32号堅穴建物と重複し、32号堅穴建物によって東側の床を掘り込まれている。 **規模と平面形** 南北方向は西側が4.24m、南北方向の東側は3.82m、東西方向4.12mの北壁の西側部分がやや突出する方形。深さは0.31m。 **主軸方向** N-13°—W。 **覆土** 覆土は上層のローム小ブロックを多く含む暗褐色土が人為的な埋め戻し堆積と見られる。下層は黒褐色・暗褐色土が外から流れ込み、床面中央に向かって薄くなるように堆積している。 **ピット** 主柱穴は確認できなかった。P1は出入口に関係する穴と見られる。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅1.4m、燃焼室幅0.58m、燃焼室奥行き0.92mである。 **床面** 不明瞭ながらカマド前面から中央部付近に硬化が見られた。 **遺物** 土師器・鉄製品・石製品が出土している。土師器の壺はロクロを使用した須恵器の成形だが、調整に底部を含めて内外面黒色・ミガキ処理したものである。鉄製品は刀子、石製品は砥石である。 **所見** 大型の堅穴建物であるが床に主柱穴を見つけることができなかった。出土遺物は9世紀前葉頃のものかと思われる。

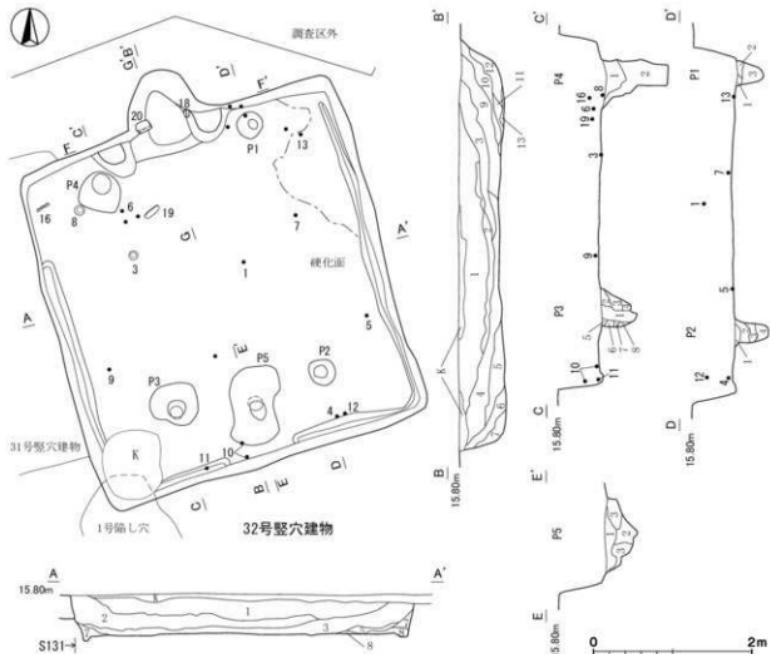


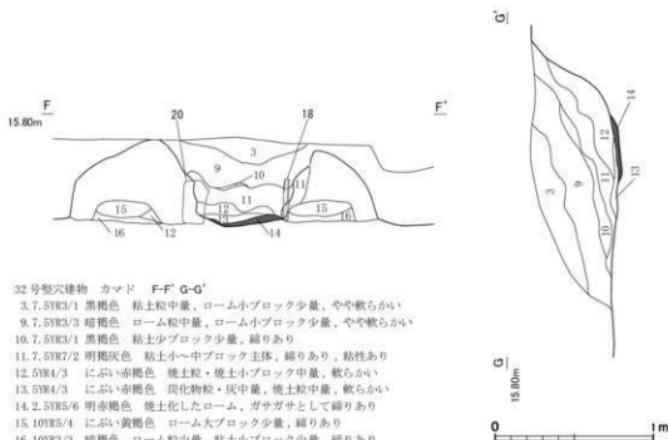
- 31号堅穴建物 カマド, D-D' E-E'
1. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック中量, 繊りあり
 2. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, 繊りあり
 3. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, 繊りあり
 4. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック少量, 繊りあり
 5. 7.5YR4/4 暗褐色 粘土粒中量, 粘土主体, 粘性・繊りあり
 6. 7.5YR4/4 暗赤褐色 粘土粒中量, 粘土小ブロック中量, 欅らかく, 繊りあり
 7. 5YR3/2 暗赤褐色 硫化物粒多量, 灰度量, 欅らかく, 繊りあり
 8. 5YR4/4 暗褐色 ローム粒中・多量, ローム小ブロック少量, 繊りあり

第71図 31号堅穴建物



第72図 31号堅穴建物出土遺物





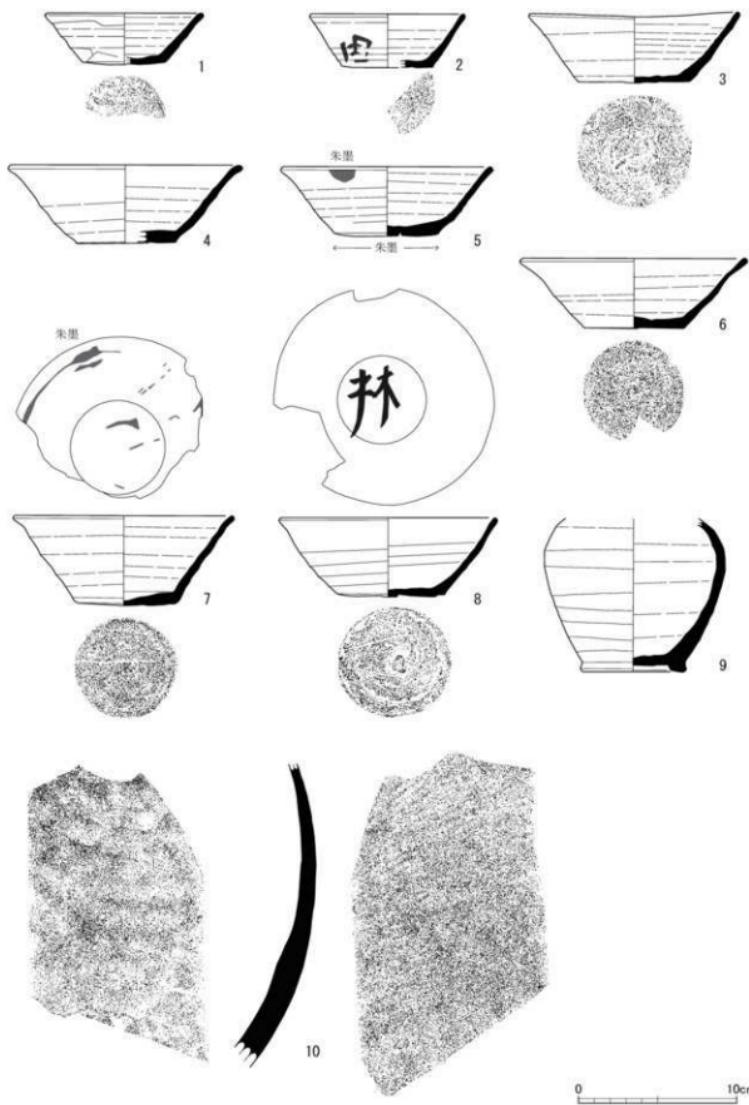
第74図 32号竖穴建物カマド

32号竖穴建物 (第73・74・75・76・77図、表13、図版9・10・28・29)

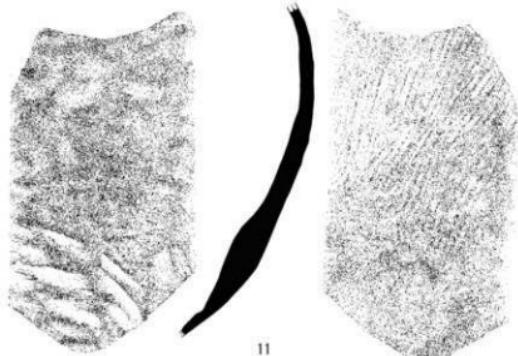
位置 西調査区西部 E8・E9 グリッドに位置する。 **重複関係** 31号竖穴建物と重複し、31号竖穴建物の東部を掘り込んでいる。 **規模と平面形** 南北方向 4.27m、東西方向 4.49m の南北方向にやや長い方形。 **主軸方向** N-14°-W。 **覆土** 覆土は黒褐色土・暗褐色土が交互に流れ込むようにして堆積している。ローム粒やローム小ブロックの含有も目立つが自然堆積土層かと見られる。 **ピット** 主柱穴はP1～P4。P5は出入り口に関係する穴と見られる。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅 1.74m、燃焼室幅 0.44m、燃焼室奥行き 1.02m である。燃焼室内壁に軟質な凝灰岩質泥岩の切石材 20 とやや硬質の泥岩 18 を立てて設置している。天井部を支える構築材としているものと見られる。このうちやや硬質な泥岩は床面から出土している同じ材質の石材 19 と接合した。19 もカマドで使用されていた痕跡が残り支脚用途等で使用されていたものと推測される。 **床面** 東壁北寄りの壁際以外全体に硬化している。 **遺物** 土師器・須恵器・鉄製品・石製品が出土している。須恵器は壺・長頸瓶・甕、土師器は甕が出土している。5と7の須恵器壺は底部外面が平滑に磨られ、5は底部外面全体と口縁をつまんだ時の指に朱墨が着いていたと思われるような形と位置に、7は内面に点々と朱墨が付着した状態である。底部ヘラ記号は3と6の壺に「六」が、墨書は2の环体部外面に「西」、8の环内面に「林」が書かれている。鉄製品は火打金と刀子が出土している。 **所見** 4本柱で構成される大型建物であるが、北側2本の柱が壁際に寄って設置されている特徴をもつていて。出土している須恵器の壺は9世紀中葉～後半頃のもので9世紀前半代に建てられた建物と見られる。

33号竖穴建物 (第78・79図、表14、図版10・29)

位置 西調査区西部 E9 グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向 2.95m 以上、東西方向 2.2m 以上。深さ 0.34m。 **主軸方向** N-22°-W。 **覆土** 覆土は暗褐色土を主体としローム小ブロックの含有も目立つ、周囲に竖穴建物が多いため掘削土の再堆積が多い環境下にあったものと思われる。 **ピット** 主柱穴・出入口ピットとも確認できなかった。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は推定幅 1.1m、燃焼室幅 0.5m、燃焼室奥行き

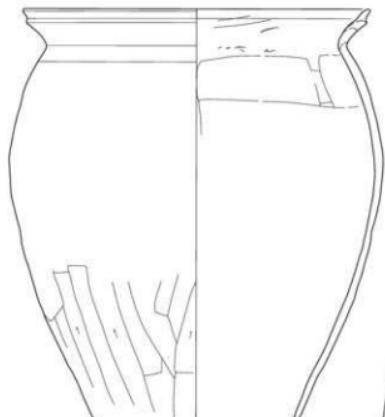


第75図 32号竪穴建物出土遺物(1)

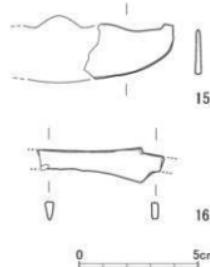


11

15



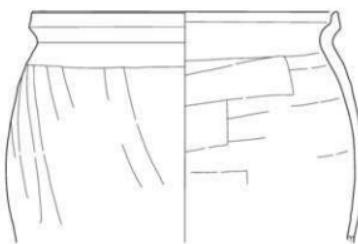
12



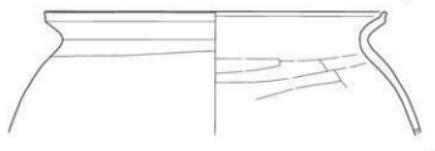
15

16

0 5cm



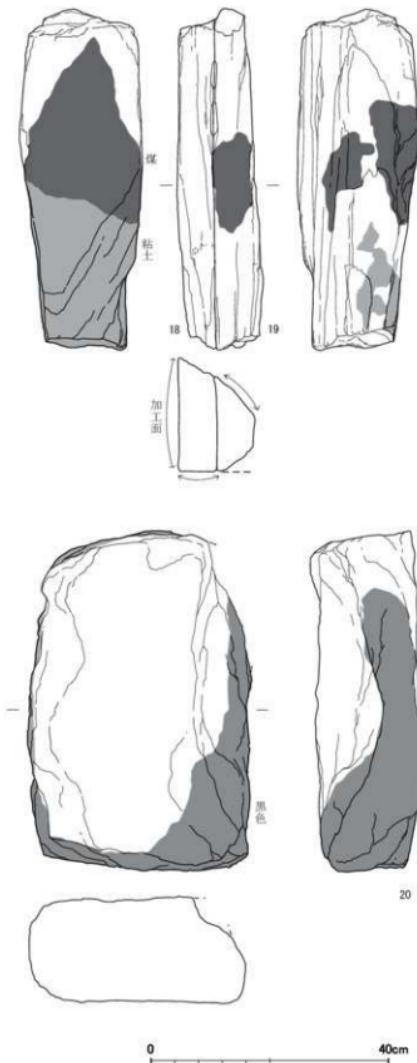
14



13

0 10cm

第76図 32号竪穴建物出土遺物(2)



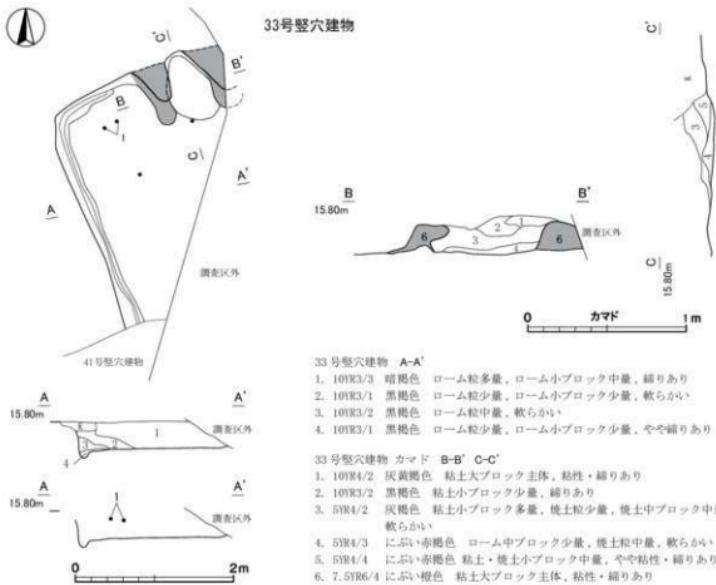
第77図 32号竖穴建物出土遺物 (3)

0.88mである。 床面 全体に硬化している。 遺物 須恵器・土師器が出土している。 1の須恵器壺は体部下端と底部を回転ヘラケズリしている。 体部下端は二次底部面を回転ヘラケズリによって調整している。 底径・器高指數から見て8世紀後半期頃のものと思われる。 所見 主柱穴が確認できないので、8世紀代の主柱穴のない堅穴建物と考えられる。

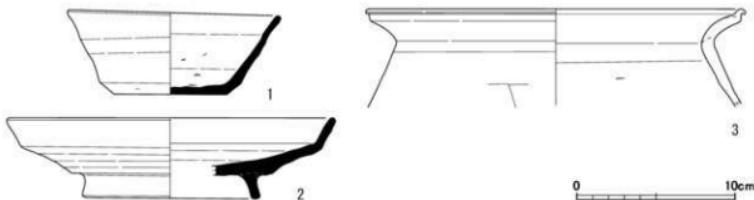
34号竖穴建物

(第80・81図、表14、図版10・29)

位置 西調査区西部E8・F8グリッドに位置する。 重複関係 31号竖穴建物と重複し、31号竖穴建物に北東部を掘り込まれている。 規模と平面形 南北方約4.80m、東西方向4.80mの方形。 深さ0.1m。 床面やカマドの半分以上擾乱によって壊されている。 主軸方向 N-12°—W。 覆土 覆土は薄くローム粒の多い暗褐色土を主体としている。 ピット 主柱穴・出入口ピットとも確認できなかった。 カマド 北壁中央部にあり、粘土の残存範囲として右袖半分が捉えられた。 推定規模は幅約1.0m、燃焼室幅約0.5m、燃焼室奥行き0.65mである。 床面 摆乱が激しく硬化面の範囲は捉えられなかった。 遺物 土師器壺・甕が出土している。 所見 坚穴建物としての規模は大きいが、残存状況が悪く柱穴が捉えられなかった。 また、カマドの位置が北壁中央からやや西側に寄ることと、袖部が堅穴内に突出する特徴がある。 出土遺物は、7世紀頃の土師器壺と8世紀後葉頃の土師器甕であるが、堅穴建物のカマドの特徴から見て7世紀頃の土師器壺の年代が遺構の時期を示している可能性が考えられる。



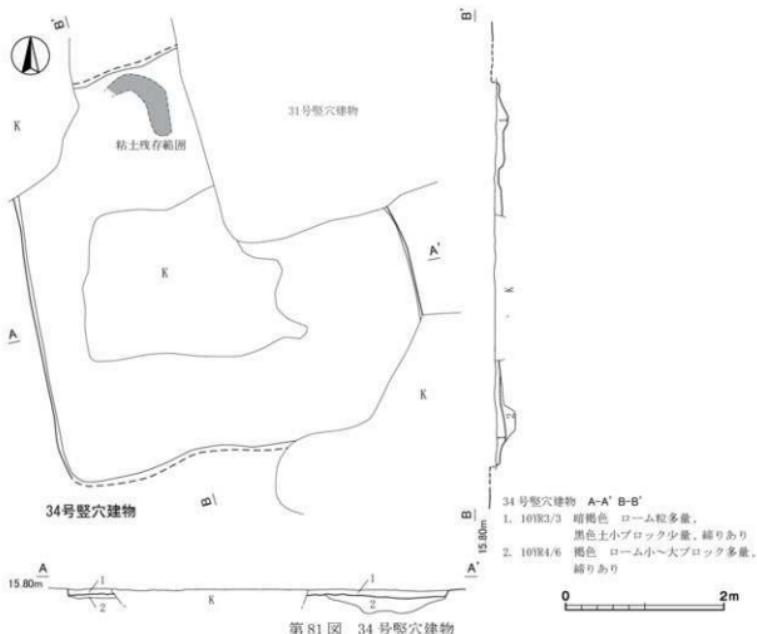
第78図 33号竖穴建物



第79図 33号竖穴建物出土遺物



第80図 34号竖穴建物出土遺物

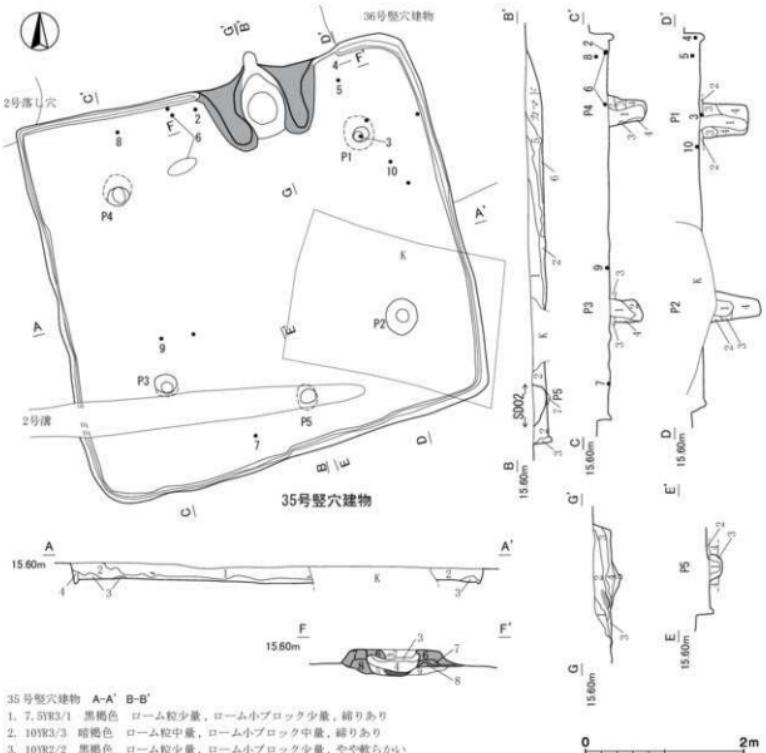


35号竖穴建物 (第82・83図、表14、図版10・29)

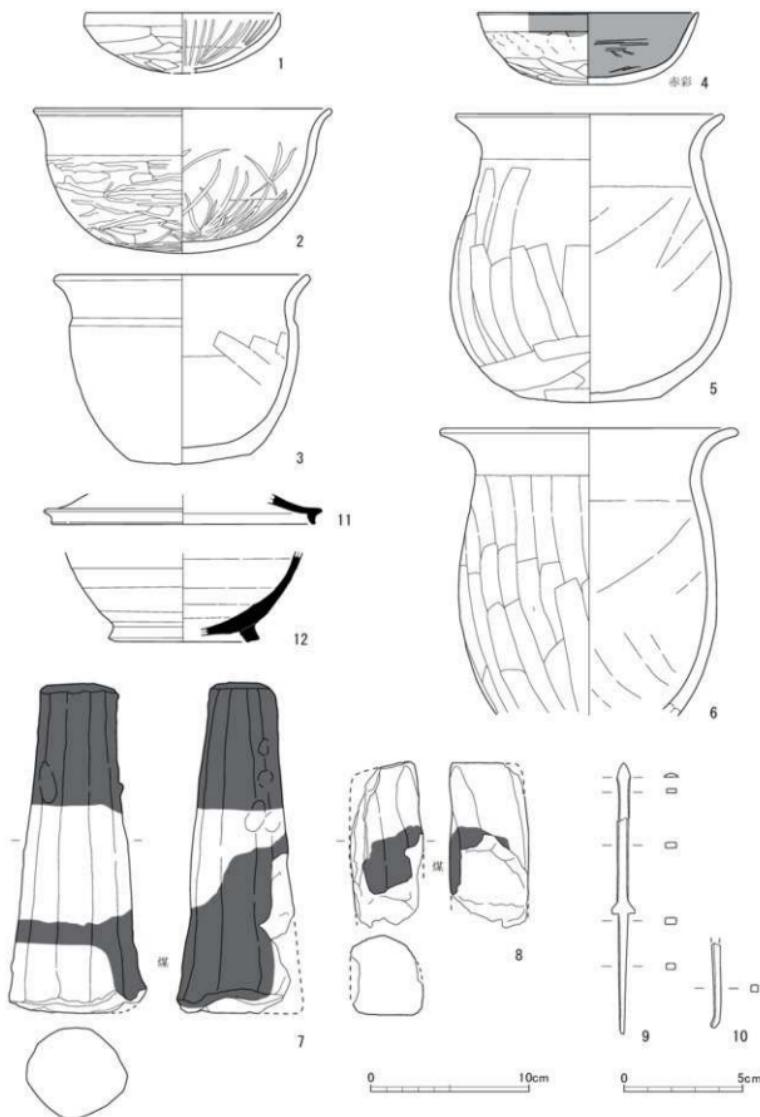
位置 東調査区南部 E10・F10 グリッドに位置する。 **重複関係** 36号竖穴建物と重複し、36号竖穴建物の南西部を掘り込んでいる。 **規模と平面形** 南北方向 4.43m、東西方向 5.15m の横長長方形。深さ 0.2m。 **主軸方向** N-14°—W。 **覆土** 覆土はローム粒やローム小ブロックを少量含んだ黒褐色土を主体としている。 **ピット** 主柱穴は P1 ~ P4 まで、P5 は出入り口に関係する穴と見られる。 **カマド** 北壁中央部東寄りにあり、規模は幅 1.5m、燃焼室幅 0.54m、燃焼室奥行き 1.03m である。 **床面** 全体に硬化している。 **遺物** 土師器・須恵器・土製品・石製品が出土している。土師器は壺・鉢・甕が、須恵器は蓋・長頸瓶が、土製品はカマド支脚が、鉄製品は長颈瓶が出土している。 **所見** 土師器の壺・鉢・甕は7世紀の後葉頃のものと見られる。須恵器2点は、胎土中の長石・石英の鉱物粒が微細で生焼け気味の焼成、色調も灰褐色と灰白色と似ており同じ窯の製品ではないかと思われる。蓋は木葉下窯跡 A 地点灰原出土品の中に類似器形のものがあるが、海緑骨針を含まないことや先に挙げた胎土・焼成の特徴から木葉下窯跡とは別の窯跡製品と考えると、付近の7世紀後葉の須恵器生産窯としては東海村の御所内窯跡があり検討する余地があるよう思う。

36号竖穴建物 (第84・85図、表14、図版10・30)

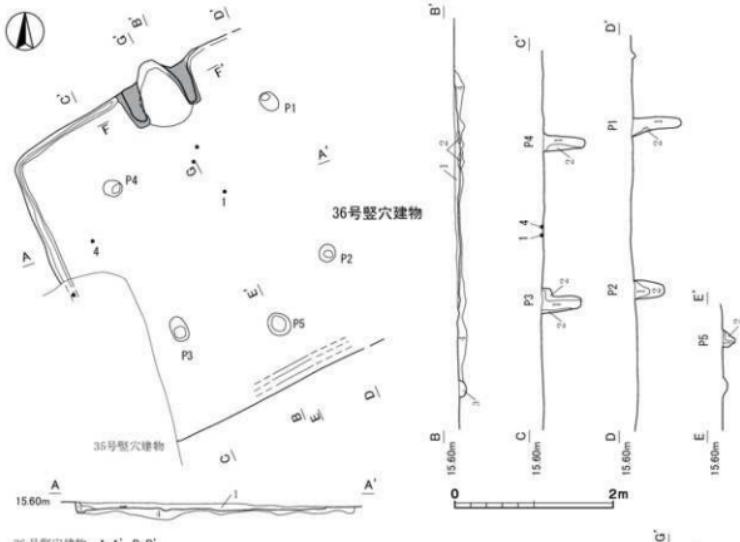
位置 東調査区南部 E10・E11 グリッドに位置する。 **重複関係** 35号竖穴建物と重複し、35号竖穴建物に南西部を掘り込まれている。 **規模と平面形** 南北方向 4.49m、東西方向推定 4.40m の方形と見られる。深さ 0.1m。 **主軸方向** N-22°—W。 **覆土** 覆土はローム粒を含んだ黒褐色土を主体としている。 **ピット** 主柱穴は



第82図 35号堅穴建物



第83図 35号竪穴建物出土遺物



36号竖穴建物 A-A' B-B'

1. 7.SIR3/2 黒褐色 黏土色小ブロック少量、ローム粒中量、軟らかい
2. 7.SIR4/2 灰褐色 粘土粒中量、やや繊りあり
3. 7.SIR5/2 黒褐色 黑褐色土中ブロック主体、軟らかい
4. 10IR4/3 にぶい 黄褐色 黏土色土中ブロック多量、繊りあり

36号竖穴建物 P1 ~ P5 C-C' D-D'

1. 7.SIR2/2 黒褐色 ローム粒少量、やや繊りあり
2. 10IR4/3 にぶい 黄褐色 ローム小・中ブロック多量、繊りあり

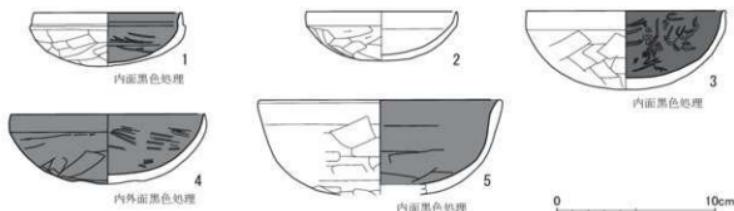
36号竖穴建物 P5 E-E'

1. 7.SIR3/2 黒褐色 ローム粒少量、軟らかい
2. 10IR4/4 黄褐色 ローム主体、繊りあり

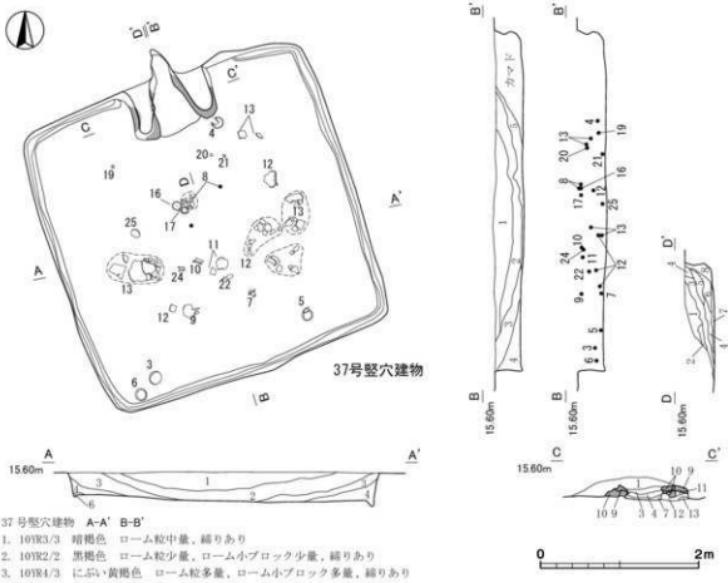
36号竖穴建物 カマド F-F' G-G'

1. 7.SIR5/4 にぶい褐色 粘土大ブロック・焼土小ブロック少量、繊りあり
2. 5YRA4/3 褐色 烧土粒多量、焼土小ブロック中量、灰層、繊りあり
3. 5YRE1/1 黑褐色 ローム小・中ブロック中量、繊りあり、亂り方
4. 5YRC1/1 黑褐色 ローム小・中ブロック中量、炭化物粒少量、繊りあり
5. 7.SIR7/2 明褐色 黏土大ブロック主体、粘土小ブロック少量、繊りあり
6. 7.SIR3/2 黑褐色 ローム小・大ブロック中量、粘土小ブロック少量、繊りあり

第84図 36号竖穴建物



第85図 36号竖穴建物出土遺物



- 37号竖穴建物 A-A' B-B'
 1. 10YR3/3 墓褐色 ローム粒中量、縫りあり
 2. 10YR2/2 黒褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量、縫りあり
 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック多量、縫りあり
 4. 10YR4/4 にぶい黄褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック少量、軟らかい
 5. 10YR5/2 灰黄褐色 粘土中・大ブロック多量、縫りあり
 6. 10YR3/3 墓褐色 ローム小・中ブロック多量、黒色土中ブロック中量、縫りあり

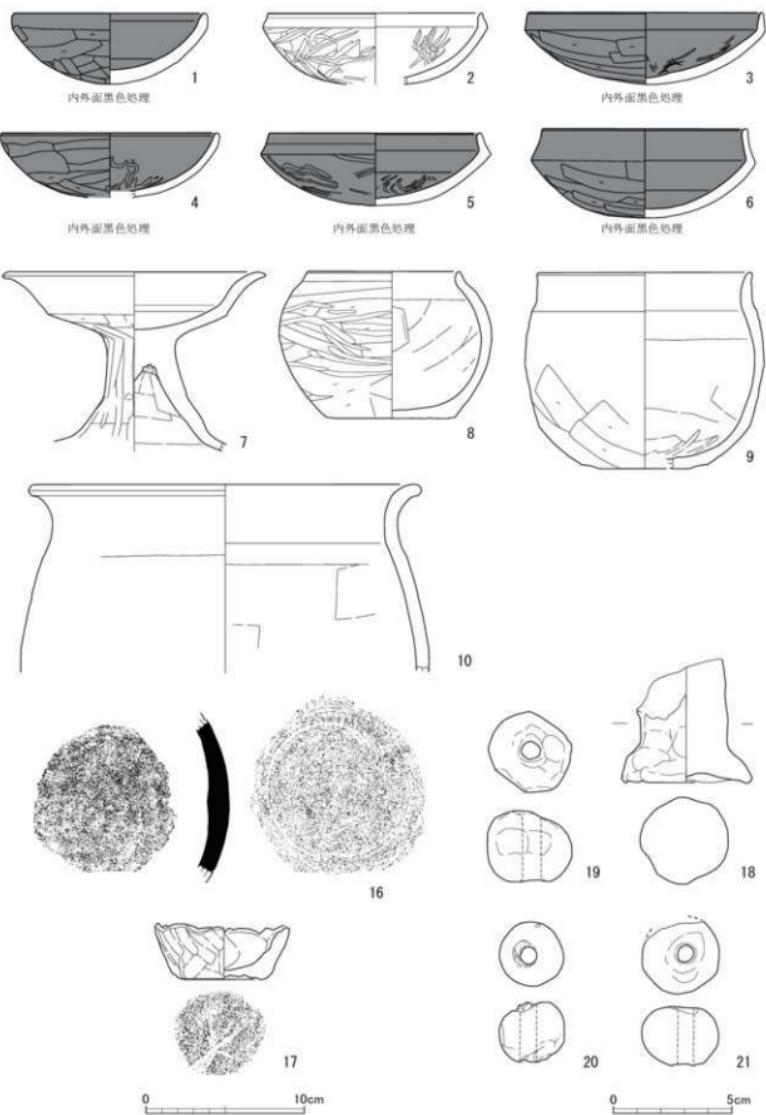
- 37号竖穴建物 カマド C-C' D-D'
 1. 7.SYR3/3 墓褐色 ローム粒少量、縫りあり
 2. 7.SYR5/3 にぶい褐色 粘土粒・焼土粒中量、縫りあり
 3. 7.SYR5/3 にぶい褐色 粘土小・中ブロック多量、縫りあり
 4. 5YR5/4 にぶい赤褐色 粘土大ブロック・焼土小ブロック多量、10.7.SYR5/3 にぶい褐色 粘土大ブロック主体、粘性・縫りあり
 5. 5YR4/2 灰褐色 粘土小ブロック多量、軟らかい
 6. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム主体、軟らかい
 7. 5YR3/1 黒褐色 灰多量、粘土粒中量、軟らかい
 8. 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム小・中ブロック主体、やや軟らかい
 9. 7.SYR3/3 墓褐色 粘土粒中量、焼土小ブロック少量、縫りあり
 10. 7.SYR3/3 墓褐色 粘土粒中量、焼土小ブロック少量、縫りあり
 11. 7.SYR3/3 墓褐色 粘土粒中量、焼土小ブロック少量、縫りあり
 12. 5YR3/3 墓褐色 粘土粒中量、粘土小ブロック少量、縫りあり
 13. 7.SYR3/2 黑褐色 粘土粒・ローム粒少量、縫りあり

第 86 図 37 号竖穴建物

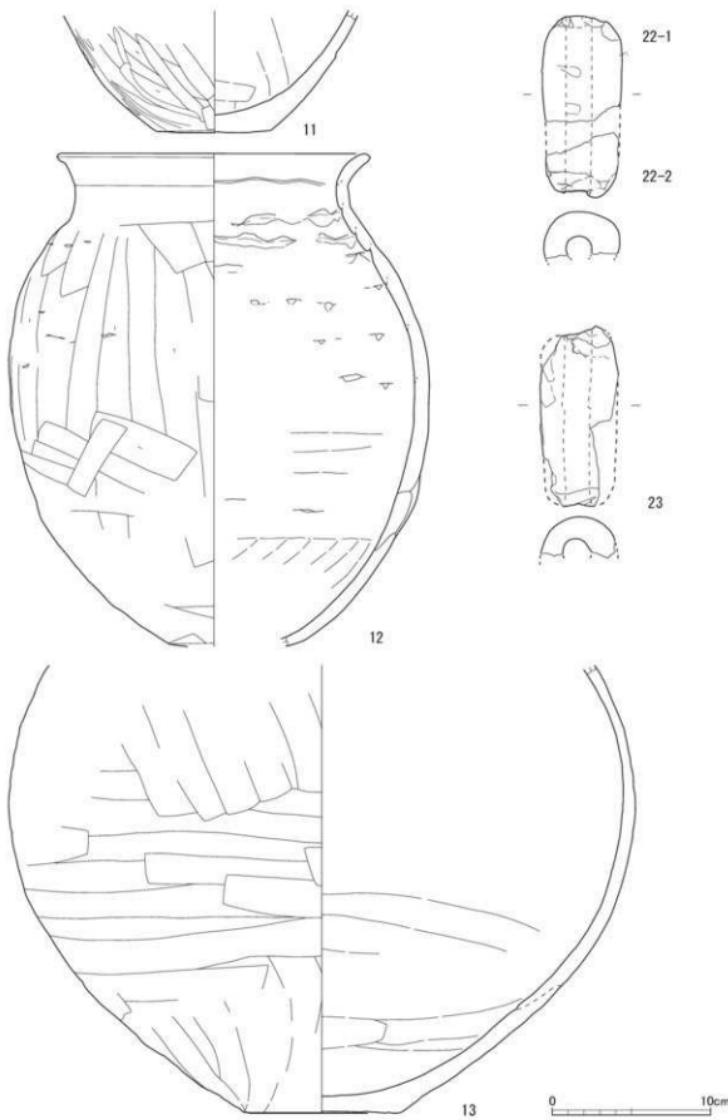
P1 ~ P4。P5 は出入り口に関係する穴と見られる。カマド 北壁中央部にあり、規模は幅 0.81m、燃焼室幅 0.37m、燃焼室奥行き 0.78m である。床面 竖穴建物中央部付近がやや硬化している。遺物 土師器の坏・鉢が出土している。全体に内外面黒色処理したものが多く、环は小型である。所見 出土遺物は 7 世紀中葉頃のものと見られる。

37号竖穴建物 (第 86・87・図、表 5、図版 11・30・31)

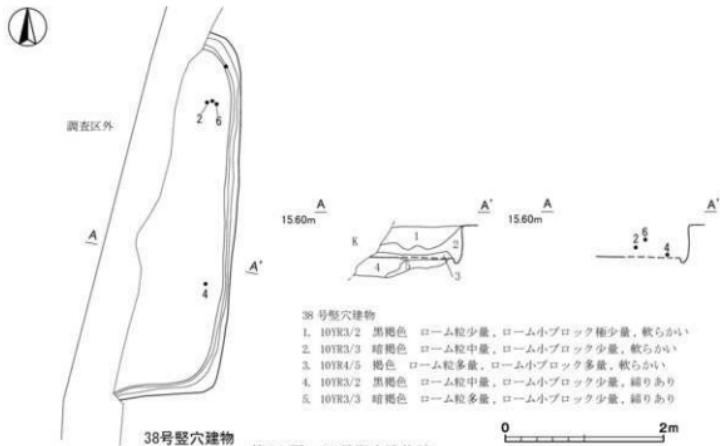
位置 東調査区中央部 D10 グリッドに位置する。**規模と平面形** 南北方向 3.87m、東西方向 3.90m の方形。深さ 0.34m。**主軸方向** N-18°-W。**覆土** 覆土はローム粒・ローム小ブロックを主体とし、壁際ににぶい黄褐色ローム、床を覆うように下層に黒褐色土、上層に暗褐色土が堆積している。**ピット** 主柱穴・出入口ピットとも確認できなかった。**カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅 1.20m、燃焼室幅 0.46m、燃焼室奥行き 0.91m である。**床面** 全体に硬化している。**遺物** 土師器・須恵器・土製品が出土している。土師器の坏は



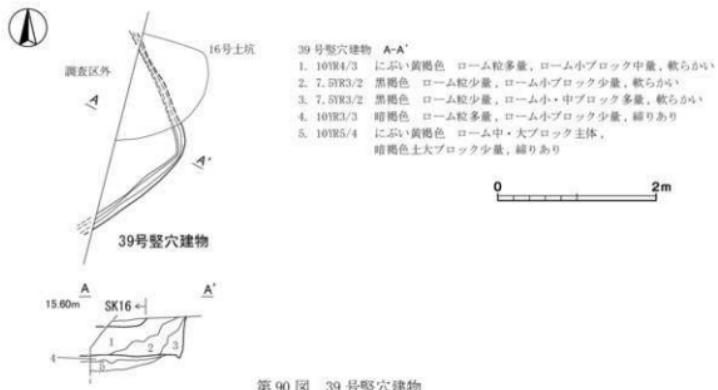
第87図 37号堅穴建物出土遺物 (1)



第88図 37号堅穴建物出土遺物 (2)



第89図 38号堅穴建物跡

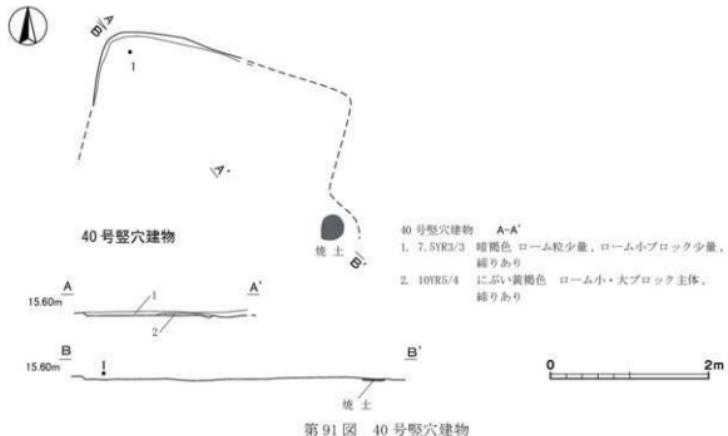


第90図 39号堅穴建物跡

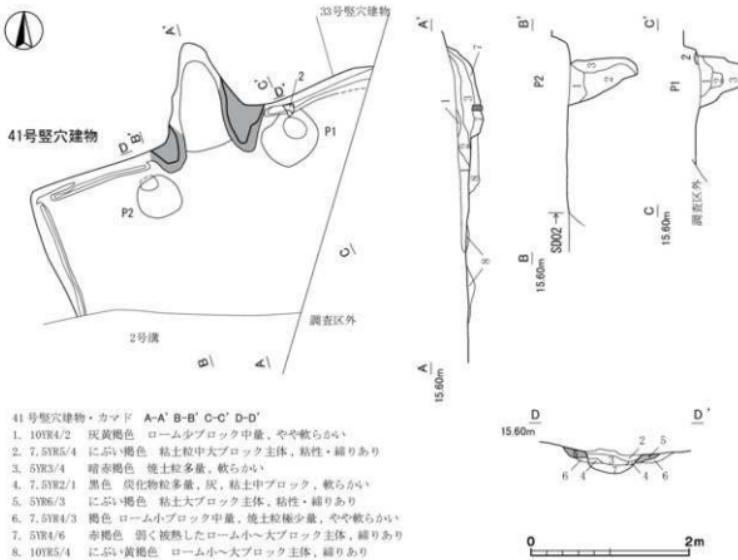
内外面黒色処理をした半球形の壺と須恵器模倣形の壺がある。高壺や甕に6世紀後半頃のやや古い形状の特徴が見られる。 所見 出土遺物は6世紀後半～7世紀前葉頃のものと見られる。

38号堅穴建物（第89・93図、表15、図版11・31）

位置 東調査区中央部 C10・D10 グリッドに位置する。 規模と平面形 南北方向 4.58m、東西方向 1.20m 以上。 深さ 0.43m。 主軸方向 N-7°-E。 覆土 覆土は壁際にローム小ブロックを少量含む暗褐色土、上層に黒褐色土が堆積している。 床面 全体に硬化している。 遺物 土師器壺・甕、須恵器高台付壺・鉄製品の釘が出土している。 所見 須恵器高台付壺は9世紀第2四半期頃のもの、土師器の壺は10世紀以降のものかと見られる。

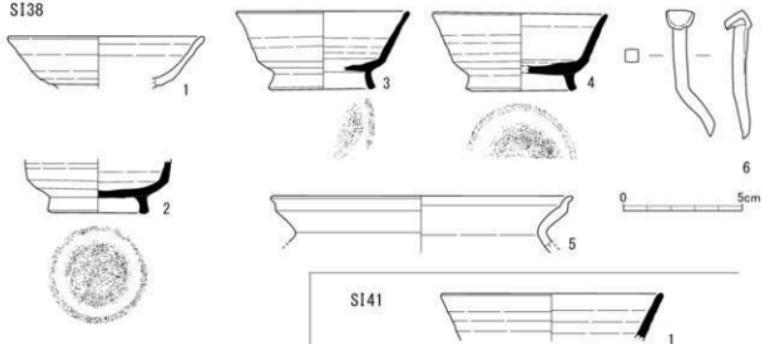


第91図 40号竪穴建物



第92図 41号竪穴建物

SI38



SI39



SI40

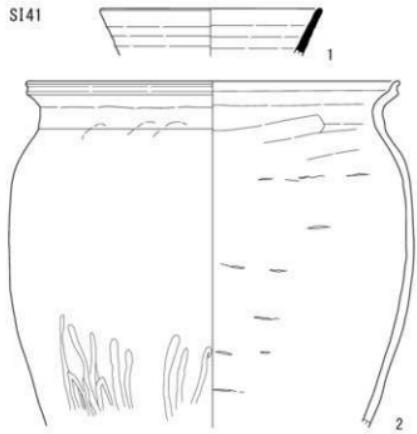


SI42



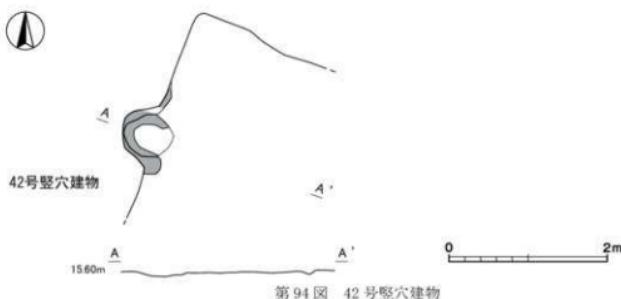
0 10cm

SI41



3

第93図 38・39・40・41・42号竪穴建物出土遺物



第94図 42号竖穴建物

39号竖穴建物（第90・93図、表15、図版11・31）

位置 東調査区北部B10 グリッドに位置する。 **重複関係** 16号土坑と重複し、覆土を掘り込まれている。

規模と平面形 南北方向 1.5m 以上、東西方向 1.6m 以上。深さ 0.36m。大半は調査区外に延びて道路によって削平されている。 **主軸方向** N-34°—W。 **覆土** 覆土は褐色土層を主体とし、壁際に黒褐色土・ロームブロック層が堆積している。 **床面** 全体に硬化している。 **遺物** 土師器壺が出土している。 **所見** 出土している土師器壺は7世紀前半～中頃のものかと思われる。

40号竖穴建物（第91・93図、表15、図版31）

位置 東調査区中央部D11 グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向 1.8m 以上、東西方向 3.2m。深さ 0.07m。 **主軸方向** N-72°—W。 **覆土** 覆土は薄くロームを少量含む暗褐色土が堆積している。 **カマド** 北西隅から南東に3m程離れた位置に焼成化した径 30cm 程の範囲があり、カマドの火床部の残存と考えられる。そのためカマドは東壁側にあったと思われる。 **床面** 硬化面は残存していない。 **遺物** 土師器壺の高台部が出土している。 **所見** 出土している土師器壺は足高高台壺で10世紀後半代のものかと思われる。

41号竖穴建物（第92・93図、表15、図版11・32）

位置 西調査区東部E9・F9 グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向 1.65m 以上、東西方向 4.96m。深さ 0.3m。 **主軸方向** N-16°—W。 **覆土** 覆土はカマドの崩壊に伴う粘土を含む土層を主体として堆積している。 **ピット** 主柱穴はP1・2でカマドに近い北壁寄りにある。 **カマド** 北壁中央部にあり、規模は幅 1.55m、燃焼室幅 0.64m、燃焼室奥行き 0.87m である。 **床面** 全体に硬化している。 **遺物** 土師器壺・須恵器片が出土している。 **所見** 出土している土師器壺は9世紀前葉頃のものかと思われる。

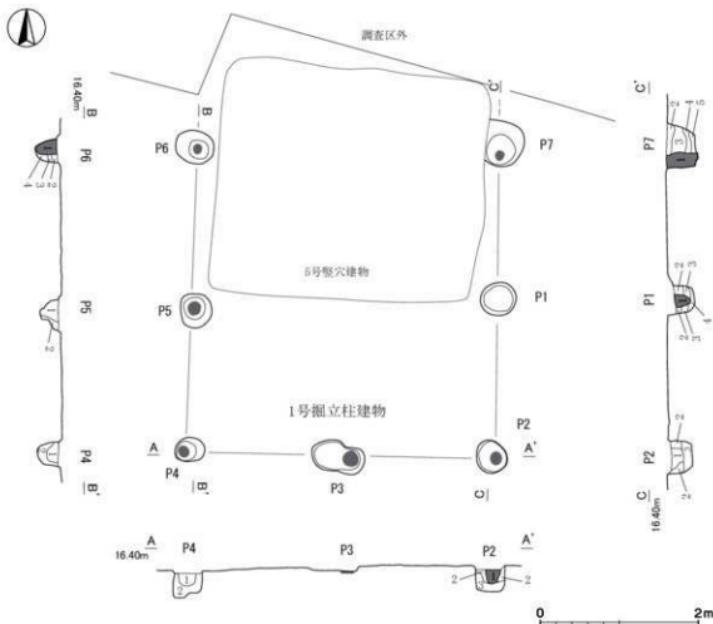
42号竖穴建物（第93・94図、表15、図版11・31）

位置 東調査区中央部D10・D11 グリッドに位置する。 **規模と平面形** 南北方向 2.8m 以上、東西方向 1.8m 以上。深さ 0.04m。 **主軸方向** N-71°—W。 **覆土** 覆土はほとんど確認できなかった。 **カマド** 西壁側にあり、規模は幅 1.13m、燃焼室幅 0.34m、燃焼室奥行き 0.49m である。 **床面** 硬化面は残存していない。 **遺物** 土師器壺が出土している。 **所見** 出土している土師器壺は10世紀前半頃のものかと思われる。

第2節 掘立柱建物

1号掘立柱建物（第95・98図、表15、図版12・32）

位置 西調査区北西部D3・C3グリッドに位置する。規模と平面形 柱行は2間分が確認され、さらに北に延びているものと思われる。梁間は2間で、柱間寸法は西から2.1mと1.8mである。柱行の柱間寸法は西側列が



1号掘立柱建物 P1

1. 7.SYR5/1 黒褐色 ローム粒少量、軟らかい
2. 10YRS/6 黄褐色 ローム小・ブロック多量、やや縮りあり
3. 7.SYR5/1 黑褐色 ローム粒少量、やや縮りあり
4. 10YRS/6 黄褐色 ローム小・ブロック多量、やや縮りあり

1号掘立柱建物 P2

1. 7.SYR5/1 黑褐色 ローム粒少量、軟らかい
2. 7.SYR5/1 黑褐色 ローム粒中量、軟らかい
3. 10YRS/6 黄褐色 ローム小・中ブロック主体、黒褐色土小・ブロック少量、縮りあり

1号掘立柱建物 P4

1. 7.SYR5/1 黑褐色 ローム粒少量、ローム小・ブロック中量、軟らかい
2. 7.SYR5/1 黑褐色 ローム粒多量、軟らかい

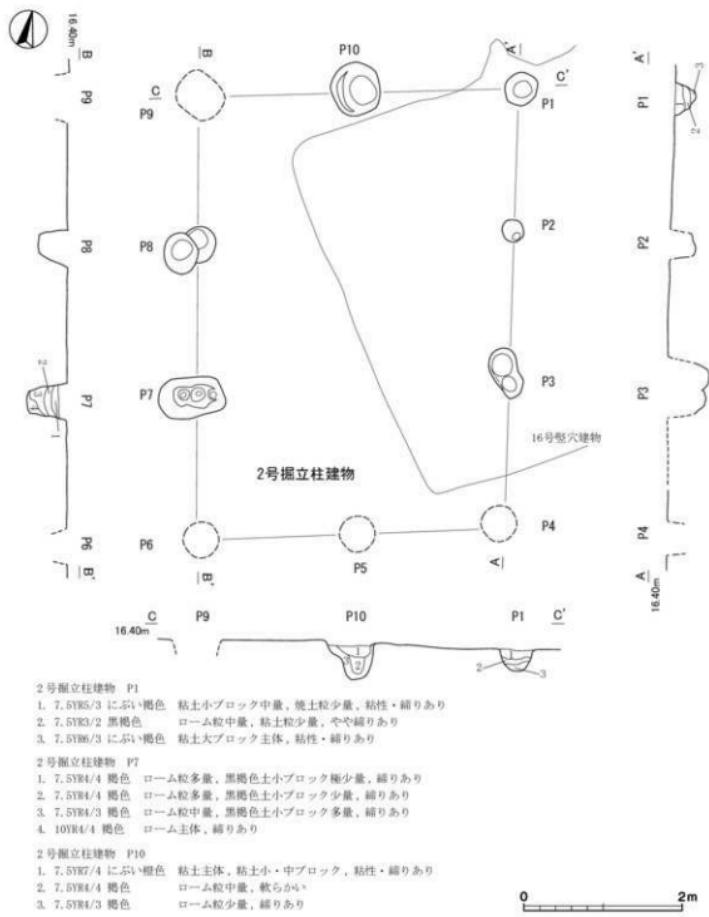
1号掘立柱建物 P5

1. 7.SYR5/1 黑褐色 ローム粒少量、ローム小・ブロック中量、軟らかい
2. 7.SYR5/1 黑褐色 ローム粒少量、やや縮りあり
3. 10YRS/6 黄褐色 ローム小・ブロック多量、やや縮りあり
4. 7.SYR5/1 黑褐色 ローム粒少量、やや縮りあり

1号掘立柱建物 P6

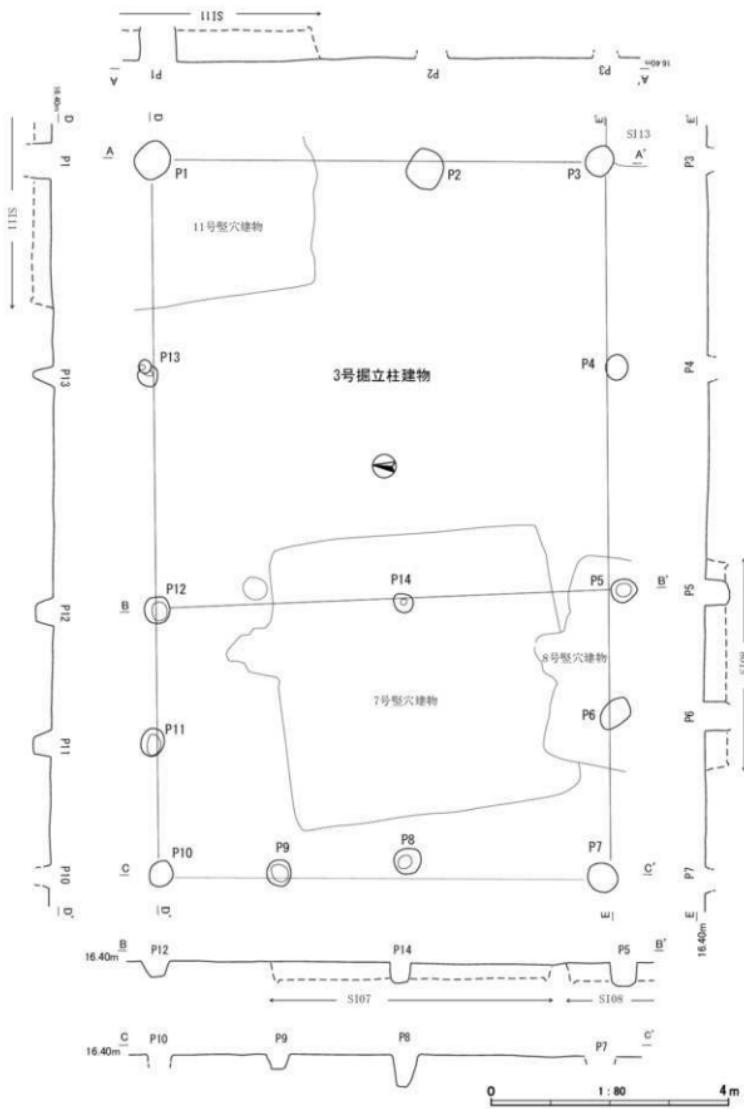
1. 7.SYR5/2 黑褐色 ローム粒多量、軟らかい
2. 7.SYR5/3 單褐色 ローム粒中量、ローム小・ブロック中量、縮りあり
3. 7.SYR5/4 單褐色 ローム粒少量、縮りあり
4. 7.SYR5/4 單褐色 ローム粒多量、ローム小・ブロック中量、縮りあり
5. 7.SYR5/3 單褐色 ローム粒多量、ローム小・ブロック多量、縮りあり

第95図 1号掘立柱建物



第96図 2号掘立柱建物

南から 1.8m と 2.1m で、東側列は南から 2.1m と 1.8m である。主軸方向 N-1°—E。柱穴 平面形は梢円形で、深さは 30cm 前後である。P3 だけ 5cm 程度の深さで他の柱穴と比べ極端に浅いが柱当たりは確認することができたので柱穴とした。柱痕は P1, P2, P6, P7 で確認され、直径は 15~20cm である。遺物 遺物は土師器壺・須恵器裏蓋の小片等が少量出土している。所見 出土している須恵器蓋は 8 世紀後半頃のものかと思われる。



第97図 3号据立柱建物

2号掘立柱建物（第96・98図、表15、図版32）

位置 西調査区西部E4・D4グリッドに位置する。 **規模と平面形** 梁間2間、桁行3間の南北棟である。柱間寸法は梁間が南から推定1.8mと1.95mと1.8mとなる。桁行は西から2.1mと1.95mである。 **主軸方向** N—12°—W。 **柱穴** 平面形は円形ないし梢円形で、深さは27～57cmである。 **遺物** 遺物は図化できない須恵器环の体部小片がP7・8から少量出土している。 **所見** 出土している須恵器环小片の内1点に内溝気味に立ち上がるものがあり9世紀後半頃の時期のものかと思われる。

3号掘立柱建物（第97・98図、表15、図版32）

位置 西調査区西部E2・E3・F2・F3グリッドに位置する。 **規模と平面形** 東西方向12m、南北方向7.6mの東西棟である。桁行の柱間寸法は北側で2.2～4.0m、南側で2.2～3.8mで、梁間の柱間寸法は西側で2.1～3.4m、東側で3.0～4.6mである。 **主軸方向** N—5°—W。 **柱穴** 平面形は円形ないし梢円形で、深さは30～40cmである。 **遺物** 遺物はP8から灰釉陶器長颈瓶の体部片が、P9からは青磁皿の体部小片が出土している。 **所見** 古代の堅穴建物を切り込んでおり古代よりは新しく、柱穴から青磁皿の破片が出土していること、柱間寸法に一定の規則性がみられないことなどから中・近世の遺構の可能性があり、道路側溝の2・3号溝と主軸が平行しており、道路側溝は近世には埋没しているので近世か古くて中世の時期のものかと思われる。

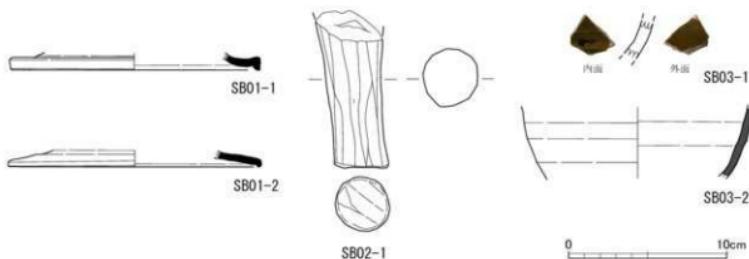
第3節 井 戸

1号井戸（第99・100図、表16、図版11・32）

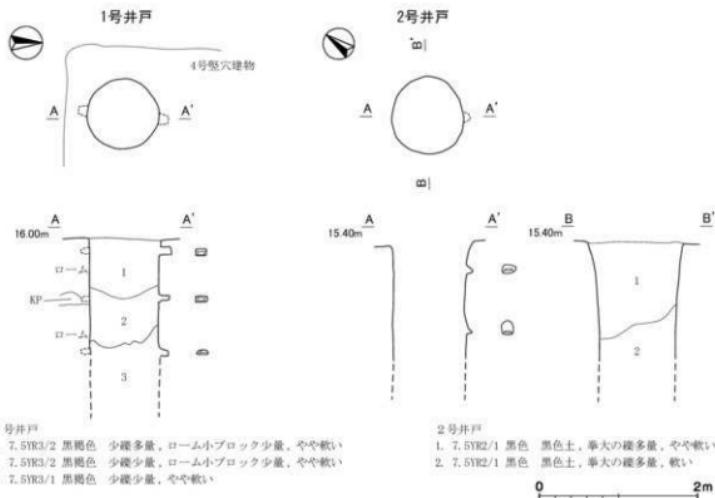
位置 西調査区西部D2グリッドにある。 **重複関係** 4A・4B号堅穴建物と重複し両者を壊している。 **規模と平面形** 径0.87～0.92mの円形で、深さ2.30m以上。 **足掛けピット** 井戸の壁面に相対するように1対の足掛けピットが、鉛直方向60～70cmの高さの間隔を空けて確認されている。足掛けピットの入口は幅約15cm、高さ7～8cmの長方形で奥行き12～15cmである。 **覆土** 覆土はローム小ブロックを少量含んだやや軟らかい黒褐色土を主体としている。 **遺物** 覆土から陶器の片口鉢が出土している。 **所見** 出土している陶器の片口鉢は、瀬戸・美濃産の17世紀後半頃のものかと思われる。足掛けピットは井戸の掘削か補修の際に井戸底まで上り下りするのに両方の穴に角材の先端を差し込んで梯子のようにして使用したものかと推測される。

2号井戸（第99・100図、表16、図版12・32）

位置 西調査区西部B11グリッドにある。 **規模と平面形** 径0.88～0.96mのほぼ円形で、深さ2.0m以上。 **足掛けピット** 井戸の片側壁面に高さ約80cmの間隔を空けて2段の足掛けピットが確認された。入口は方形・長方形で底面は奥に向かって平坦で、天井は奥に向かって低くなっていく。奥行きは7～8cmと1号井戸と比較すると浅くなっている。 **覆土** 覆土はこぶし大の礫を多く含んだ軟らかい黒褐色土を主体としている。 **遺物** 覆土から陶器の碗・皿・鉢・徳利、青磁の高台皿かと思われるもの、茶臼の上臼が出土している。 **所見** 出土している2の陶器の皿は肥前陶器IV期の17世紀末～18世紀第3四半期頃のものかと思われる。



第98図 捜立柱建物出土遺物



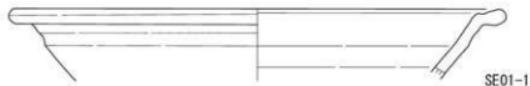
第99図 1・2号井戸

第4節 陥し穴

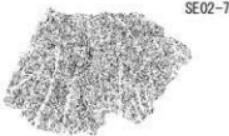
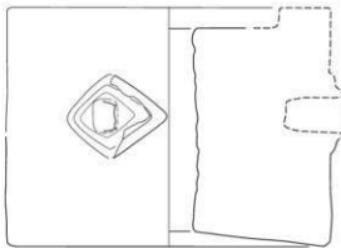
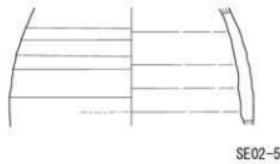
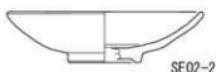
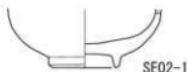
1号陥し穴（第101図、図版12）

位置 西調査区東部E8グリッドにある。
規模と平面形 上端の長軸方向の長さ2.75m、幅1.10mの長楕円形で、長軸方向はくびれ部で長さ2.50m、下端では長軸方向2.87m、幅1.10mである。底面はほぼ平らである。深さは1.35m。
覆土 覆土は上層がローム粒を含んだ軟らかい黒褐色土を主体とし、下層はやや軟らかいにぶい黄褐色ロームを主体としている。
遺物 覆土上層から縄文土器小片が2点出土している。2点とも加曾利E期のものである。
所見 形態から見て縄文時代の陥し穴と見られる。

1号井戸

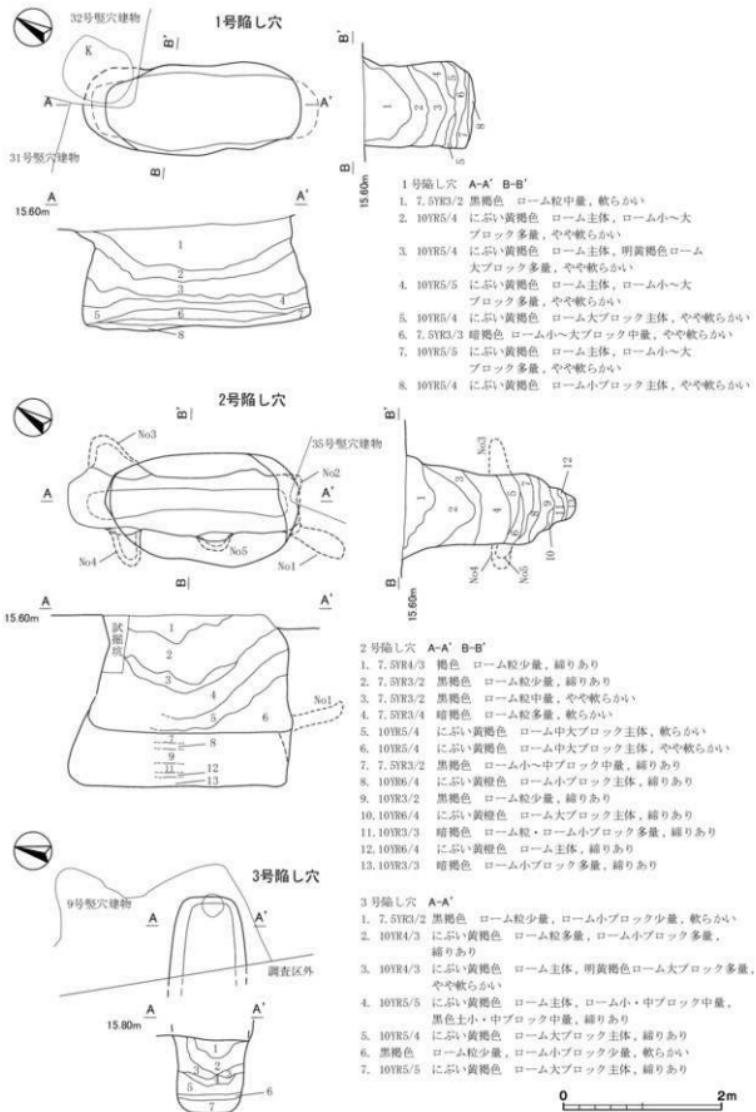


2号井戸



0 10cm

第100図 井戸出土遺物



第101図 1・2・3号陥し穴



第102図 2号陷し穴・土坑出土遺物

2号陷し穴（第101・102図、表16、図版12・32）

位置 東調査区南西部E10グリッドにある。
規模と平面形 上端の長軸方向の長さ2.45m、幅1.43mの長楕円形で、くびれ部で長さ2.25m、下端では長軸方向2.75m、幅0.18mである。底面は細い溝状で、深さは2.15mである。

覆土 覆土は7～13層までは人為的な埋め戻し土層でほぼ水平に堆積し繰りがある。7層まで埋め戻した後再度陥し穴として利用しており、6層から上は自然埋没層と見られる。
その他特徴 7層上面で側壁に5か所の掘削痕跡が見られる。No.1掘削穴はトンネル状に上向きに傾斜して上り途中で終わっている。その他の穴も掘削したが途中で終了している。
遺物 出土していない。
所見 当初、細い溝状の底面の陥し穴として利用していたものを、1号陥し穴のような少し幅のある平坦な底面に成形してから再度利用しているようである。二次利用の際に生じた側壁の掘削穴は、おそらく落下した小動物が壁面を掻き削って逃げようとして生じたものと推測される。

3号陥し穴（第101図、図版12）

位置 西調査区南西部F3グリッドにある。**重複関係** 9号竪穴建物の床下から確認された**規模と平面形** 長さ1m以上、幅0.97mの長方形と見られ、深さは1.40mである。**覆土** 覆土はロームのブロックを多く含んだにぶい黄褐色土を主体としている。**出土遺物** 出土していない。**所見** 切り合い関係と形態から見て陥し穴と見られる。

第5節 土坑

1号土坑（第102・103図、表16、図版13・32）

位置 西調査区西部C3・D3グリッドにある。**重複関係** 2号竪穴建物と重複し2号竪穴建物を壊している。**規模と平面形** 長軸0.7m、短軸0.65m、深さ0.34mの楕円形。**覆土** 覆土はローム粒・ローム小ブロックを含んだ黒褐色土を主体としている。**遺物** 覆土から土師器の椀が3点出土している。**所見** 出土している土師器の椀類は、武田西塙遺跡127号出土遺物（佐々木1999）に類似しており10世紀第3四半期頃の時期のものと見られる。

2号土坑（第103図）

位置 西調査区西部D3グリッドにある。**重複関係** 2号竪穴建物と重複し2号竪穴建物を壊している。**規模と平面形** 長軸0.69m、短軸0.62m、深さ0.1mの隅丸方形。**覆土** 覆土はローム粒を極少量含んだ黒褐色土を主体としている。**遺物** 内面を磨いたロクロ成形土師器底部破片が出土している。**所見** 1・3号土坑と規模や深さが似ており、一列に並んでいるので何らかの関連があるものと見られる。

3号土坑（第103図）

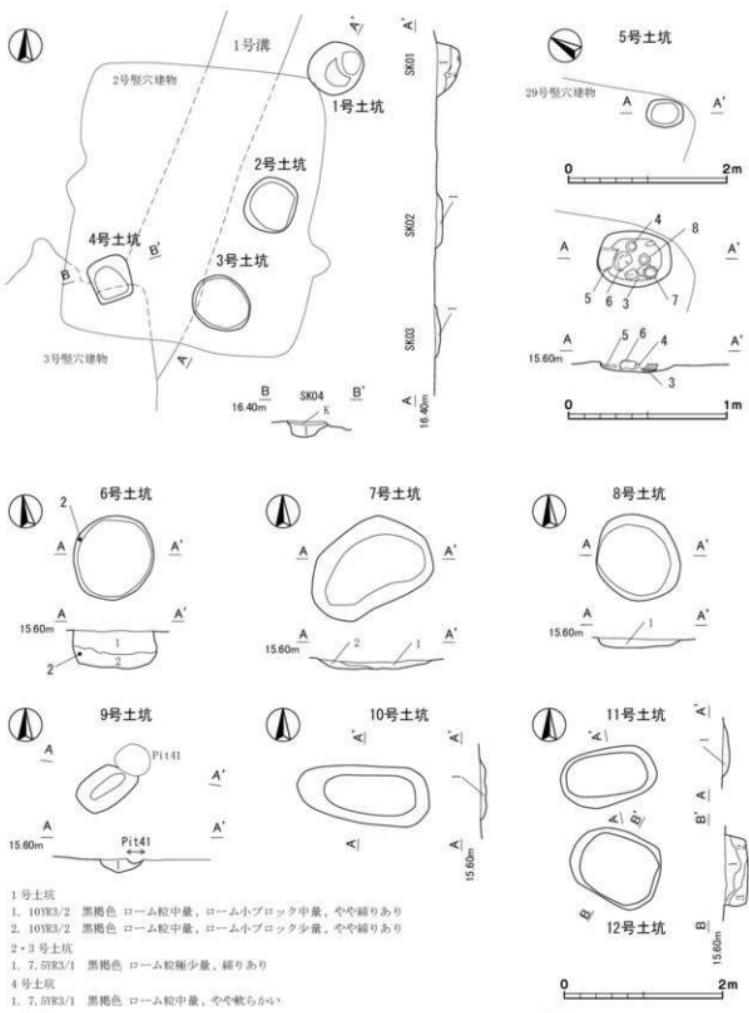
位置 西調査区西部D2・D3グリッドにある。**重複関係** 2号竪穴建物と重複し2号竪穴建物を壊している。**規模と平面形** 長径0.78m、短径0.66m、深さ0.06mの楕円形。**覆土** 覆土はローム粒を極少量含んだ黒褐色土を主体としている。**遺物** 出土していない。**所見** 1・2号土坑と規模や深さが似ており、一列に並んでいるので何らかの関連があるものと見られる。

4号土坑（第103図）

位置 西調査区西部D2グリッドにある。**重複関係** 3号竪穴建物と重複し3号竪穴建物を壊している。**規模と平面形** 長辺0.51m、短辺0.40m以上、深さ0.26m。**覆土** 覆土はローム粒を含んだやや軟らかい黒褐色土を主体としている。**遺物** 覆土から土師器の皿片が出土している。**所見** 出土している土師器の皿片は9世紀頃のものかと思われる所以、3号竪穴建物よりも新しく、2号竪穴建物よりは古い土坑の可能性が考えられる。

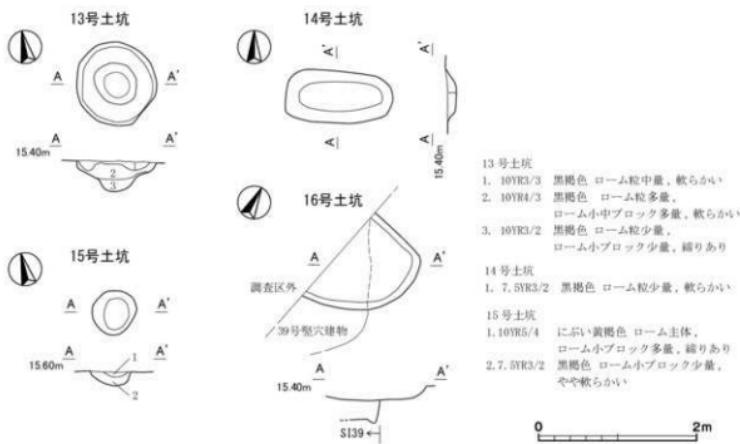
5号土坑（第102・103図、表16、図版13・32）

位置 西調査東部F9グリッドにある。**重複関係** 29号竪穴建物と重複し29号竪穴建物の覆土を掘り込んでいる。**規模と平面形** 長軸0.90m、短軸0.65m、深さ0.05mのや方形気味の楕円形。**覆土** 覆土は暗褐色・



- 1号土坑
 1. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック中量, やや縮りあり
 2. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量, やや縮りあり
 2・3号土坑
 1. 7. 5YR3/1 黒褐色 ローム粒極少量, 縮りあり
 4号土坑
 1. 7. 5YR3/1 黒褐色 ローム粒中量, やや軟らかい
 6号土坑
 1. 7. 5YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, 軟らかい
 2. 7. 5YR4/2 灰褐色 粘土少~大ブロック多量, 硫土小ブロック少量, 軟らかい
 7号土坑
 1. 7. 5YR3/2 黒褐色 ローム粒極少量, 軟らかい
 2. 7. 5YR4/3 暗褐色 ローム主体, 軟らかい
 8・9・10・11号土坑
 1. 7. 5YR2/1 黒色 ローム粒極少量, 縮りあり
 12号土坑
 1. 10YR3/2 黒褐色 ローム粒少量, 軟らかい
 2. 10YR3/3 黒褐色 ローム粒中量, 軟らかい
 3. 10YR3/3 黒褐色 ローム粒少量, 軟らかい

第103図 土坑(1)



第104図 土坑(2)

黒褐色土を主体としている。
遺物 土師器の椀・小皿・甕がまとめて出土している。そのほかに重量830g程の斑れい岩の被熱礫が出土している。
所見 10世紀後半頃、小土坑に完形のミニチュア土器を埋納したり、椀や小皿など祭礼に使用したと見られる土器をまとめて廃棄したりする例が、笠間市寺上遺跡の1・2号祭祀土坑や結城市下がり松遺跡383号土坑等で見られる。この土坑も椀・小皿等を祭礼に使用し廃棄した土坑の可能性が考えられる。

6号土坑（第102・103図、表16、図版32）

位置 西調査区西部C10・C11グリッドにある。
規模と平面形 長軸1.13m、短軸1.01m、深さ0.45mの楕円形の土坑。
覆土 覆土は上層が軟らかい黒褐色土で、下層には粘土の小～大ブロックを多量に含み、焼土小ブロックを含む灰褐色粘土主体としている。
遺物 覆土から土師器の椀と不明鉄製品が出土している。
所見 土師器の椀は10世紀後半頃のものかと思われる。不明鉄製品は、クルル鉤の一部と思われる。

7号土坑（第103図）

位置 西調査区西部C10グリッドにある。
規模と平面形 長軸1.60m、短軸1.09m、深さ0.09mの長楕円形。
覆土 覆土はローム粒を極少量含んだ黒褐色土を主体としている。
遺物 出土していない。
所見 覆土は軟らかく比較的新しい時期の土坑と見られるが性格は不明である。

8号土坑（第103図）

位置 西調査区西部C11グリッドにある。
規模と平面形 長径1.17m、短径1.01m、深さ11mのほぼ円形。
覆土 覆土はローム粒を極少量含んだ織りのある黒褐色土を主体としている。
遺物 覆土から土師器の甕の小

片と 7 世紀頃の土師器坏口縁部小片が出土している。 所見 覆土は軟らかく比較的新しい時期の土坑と見られるが性格は不明である。

9号土坑（第103図）

位置 西調査区西部 C11 グリッドにある。 規模と平面形 長軸 0.80m, 短軸 0.48m, 深さ 0.12m の長楕円形。

覆土 覆土はローム粒を極少量含んだ締りのある黒褐色土を主体としている。 遺物 出土していない。

所見 覆土は軟らかく比較的新しい時期の土坑と見られるが性格は不明である。

10号土坑（第103図）

位置 西調査区西部 C11 グリッドにある。 規模と平面形 長軸 1.69m, 短軸 0.74m, 深さ 0.08m の長楕円形。

覆土 覆土はローム粒を極少量含んだ締りのある黒褐色土を主体としている。 遺物 出土していない。

所見 覆土は軟らかく比較的新しい時期の土坑と見られるが性格は不明である。

11号土坑（第103図）

位置 西調査区西部 C10 グリッドにある。 規模と平面形 長軸 1.21m, 短軸 0.71m, 深さ 0.10m の長楕円形。

覆土 覆土はローム粒を極少量含んだ締りのある黒褐色土を主体としている。 遺物 出土していない。

所見 覆土は軟らかく比較的新しい時期の土坑と見られるが性格は不明である。

12号土坑（第103図、図版13）

位置 西調査区西部 C10 グリッドにある。 規模と平面形 長軸 1.17m, 短軸 0.88m, 深さ 0.28m の方形気味の楕円形。 覆土 覆土はローム粒を少へ中量含んだ軟らかい黒褐色土を主体としている。 遺物 覆土から土師器甕の小片と酸化焰焼成の須恵器坏口縁部小片が出土している。 所見 覆土は軟らかく比較的新しい時期の土坑と見られるが性格は不明である。

13号土坑（第104図）

位置 西調査区西部 B11 グリッドにある。 規模と平面形 長径 1.07m, 短径 1.00m, 深さ 0.37m のほぼ円形。

覆土 覆土は上層がローム粒を少へ多量、ローム小中プロックを多量に含んだ軟らかい黒褐色土、下層はローム粒・ローム小プロックを少量含んだ締りのある黒褐色土が堆積している。 所見 中層の黒褐色土中にはロームプロックを多量に含んで軟らかいため、木の根穴の可能性が考えられる。

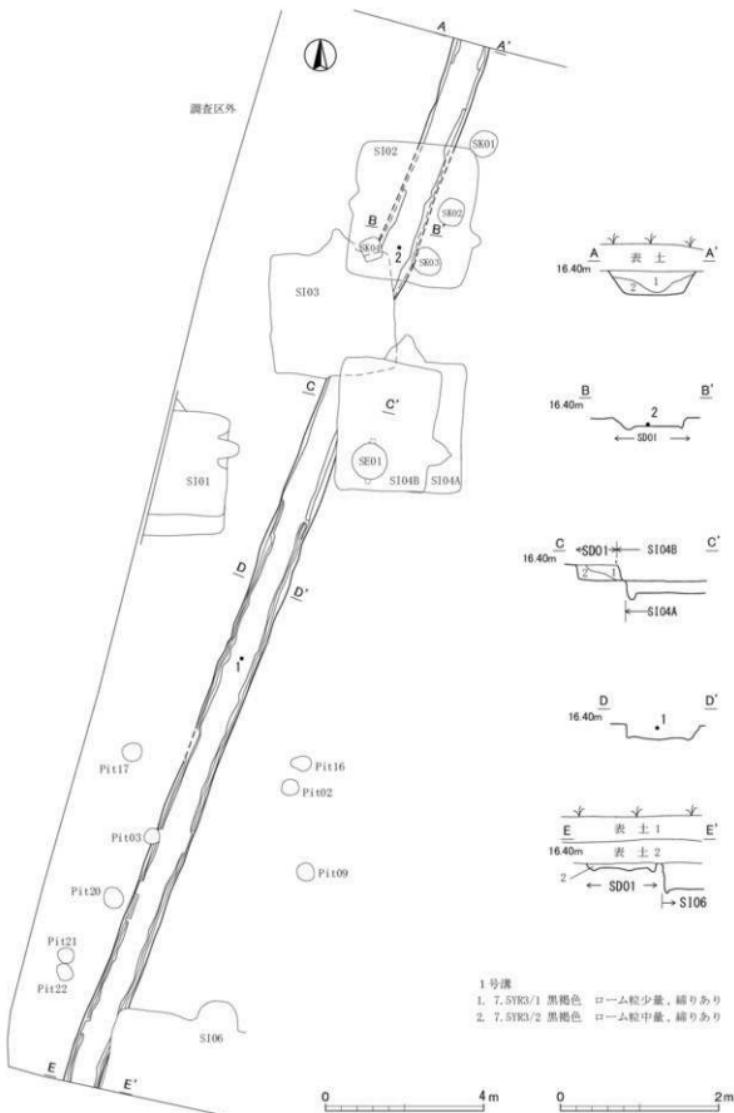
14号土坑（第104図）

位置 西調査区西部 B11 グリッドにある。 規模と平面形 長軸 1.36m, 短軸 0.65m, 深さ 0.07m の長楕円形。

覆土 覆土はローム粒を極少量含んだ軟らかい黒褐色土を主体としている。 遺物 覆土から底部糸切り調整の土師器小皿小片が出土している。 所見 土師器の小皿破片は10世紀後半頃のものだが、土坑は覆土が軟らかいことや周辺の土坑と形態的にも類似することから新しい時期の土坑とみられる。

15号土坑（第104図）

位置 西調査区西部 D11 グリッドにある。 規模と平面形 長軸 0.56m, 短軸 0.51m, 深さ 0.17m の楕円形。



第105図 1号溝

覆土 覆土は上層がロームを主体とする層で下層はローム小ブロックを小量含んだやや軟らかい黒褐色土を主体としている。 **遺物** 出土していない。 **所見** 覆土の状況から見て、木の根穴の可能性が考えられる。

16号土坑（第104図）

位置 西調査区西部B10グリッドにある。 **重複関係** 39号堅穴建物の覆土上層を掘り込んでいる。 **規模と平面形** 長径1.40m、短辺0.96m、深さ0.16mの楕円形の土坑。 **覆土** 覆土はローム粒を含んだ軟らかい暗褐色土を主体としている。 **遺物** 出土していない。 **所見** 39号堅穴建物よりも新しく覆土も軟らかいため、新しい時期の土坑とみられ、近代の擾乱穴の可能性も考えられる。

第6節 溝

調査区内から溝は9条確認されている。1号溝と7号溝は単独の溝である。2～6・8・9号溝は道路に伴う側溝と考えられるので道路の項目で記述している。

1号溝（第105・110図、表16、図版13・33）

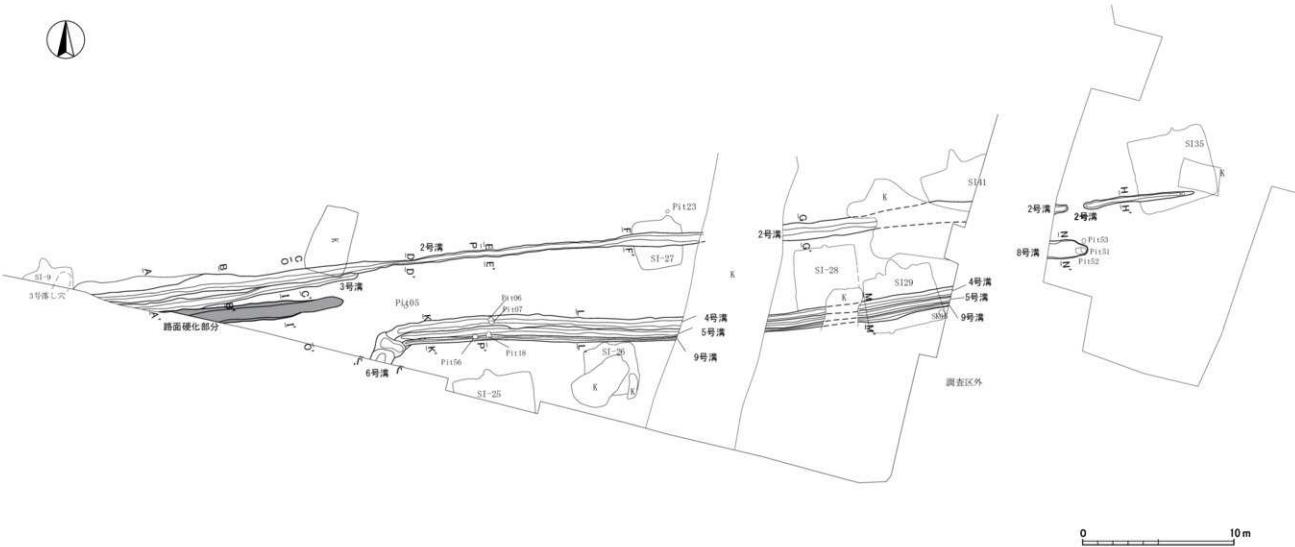
位置 西調査区西部F2～C3グリッドにかけて延びている。 **重複関係** 2・3・4・6号堅穴建物と重複し、それらに接されている。 **走行方向** N-23°-Eで、南から北に向かって緩やかに下っている。 **規模と形状** 上幅最大1.10m、下幅0.75m、深さ0.30m。底面は平坦で、側壁はほぼ垂直気味に立ち上がる。側壁直下に幅0.1m、深さ0.04mの溝の走行方向に沿った小溝がある。調査区内で長さ28m直線的に確認されており、調査区の南端と北端での比高差約4cmあり、北側に向かって非常に緩やかに傾斜しているものと見られる。 **覆土** 覆土はローム粒を含んだ締りのある黒褐色土を主体としている。 **遺物** 覆土から土師器の甕、土製支脚、鉄製品の鐵が出土している。 **所見** 土師器甕の形状は栃木県芳賀地域の6世紀末～7世紀初め頃のものに類似している。

7号溝（第6図）

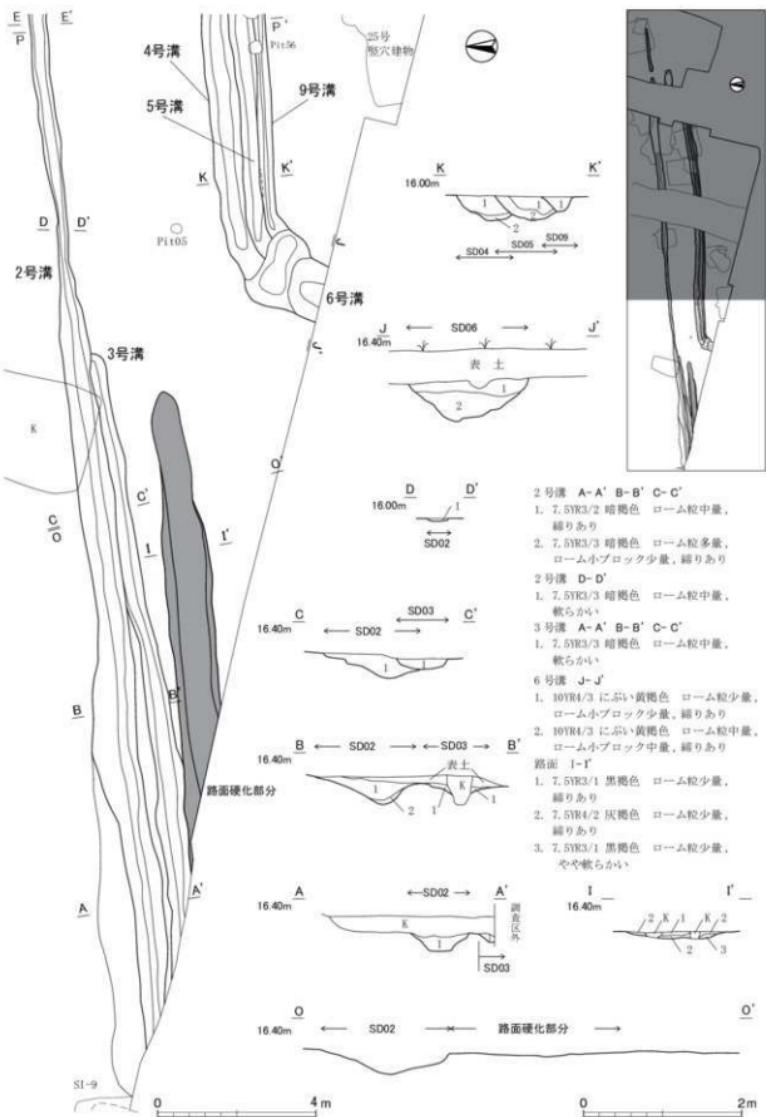
位置 西調査区西部F4～D5グリッドにかけて延びている。 **重複関係** 16～20号堅穴建物と重複しそれら建物の覆土上層を掘り込んでいる。 **走行方向** N-11°-E。 **規模と形状** 上幅最大2.63m、下幅2.28m、深さ0.05m。底面は平坦で、側壁はやや傾斜して立ち上がる。 **覆土** 覆土はローム粒を少量含んだ締りのある黒褐色土を主体としている。 **遺物** 出土していない。 **所見** 堅穴建物との切り合いはすべて7号溝が切っている。全体に浅く幅が一定しない溝で近代の擾乱とも平行しており新しい時期の溝の可能性がある。

第7節 道路

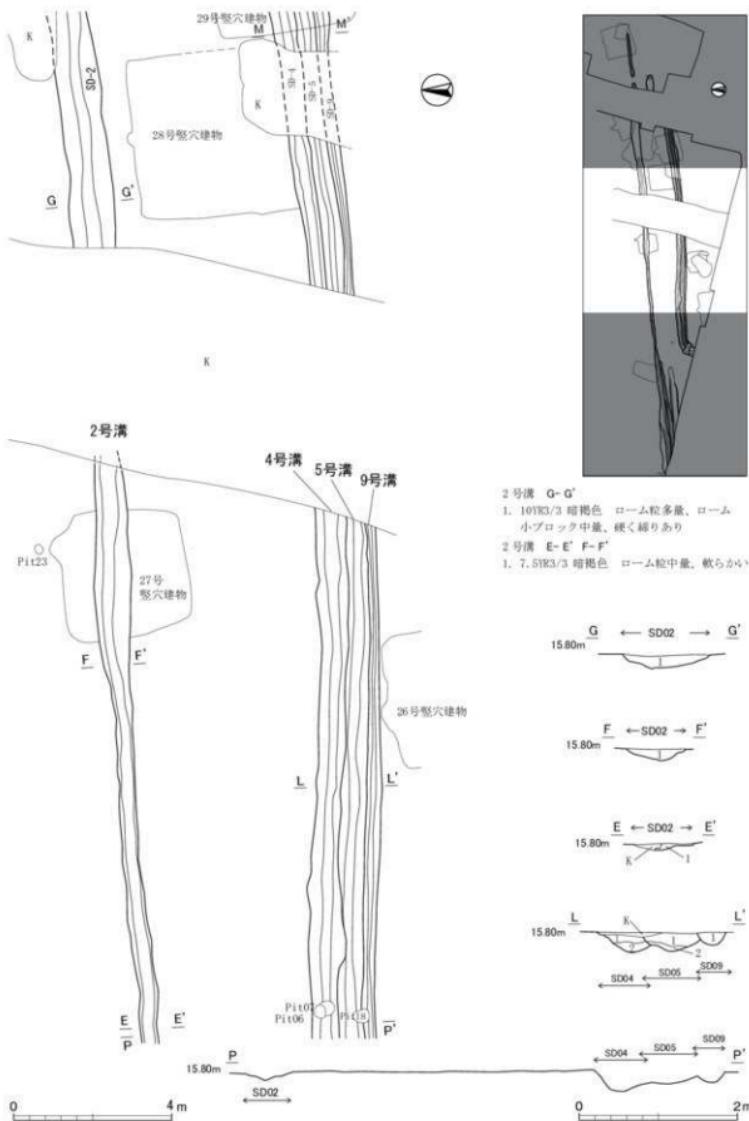
道路とみられるのは西側調査区の南部F3からF10グリッドにかけて東西方向に幅5m余りの間隔で並行して走る溝があり道路側溝と見られて道路関係溝として扱う。道路関係溝は繰り返し掘削されており北側で2条、南側で3条確認されている。北側の溝は2号溝が古く、新しい溝を3号溝とした。南側の溝は古い順に4・5・9号溝とした。



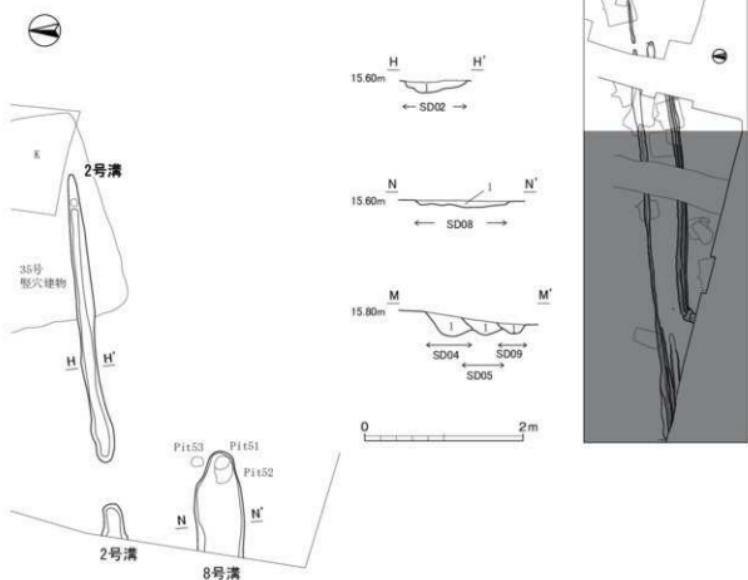
第106図 道路関連溝(2・3・4・5・6・8・9号溝)



第 107 図 道路関連溝（西部分）



第108図 道路関連溝(中央部分)



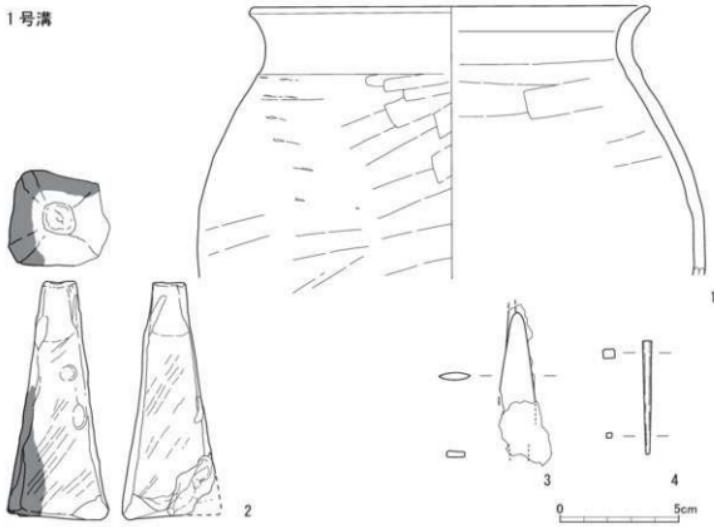
第109図 道路関連溝（東部分）

道路関係溝（第 106・107・108・109・110 図、表 16、図版 13・33）

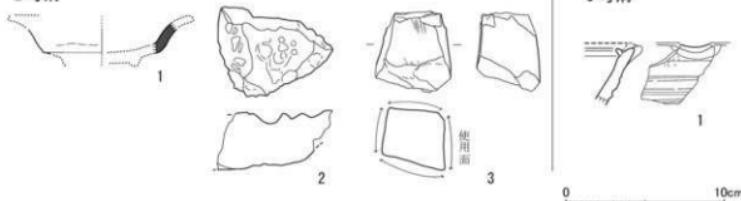
2 号溝は 27・35 号堅穴建物と重複しそれらを壊し、3 号溝に壊されている。走行方向は N-5°-E で、東西方に向直線的に延びている。残存状況の良好な西側の地点で幅約 0.7m、下幅約 0.3m、深さ 0.35m。底面は皿状で、側壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。覆土はローム粒を含んだ軟らかい暗褐色土を主体としている。出土遺物は覆土から灰釉陶器小皿、鉄滓、砾石が出土している。灰釉陶器の小皿は井上喜久男編年の大窯 I a 期頃のものかと思われる。4 号溝や 5 号溝と並行しており、新旧関係で 4 号溝と同時期の道路状遺構の側溝になるものと見られる。想定される道路路面幅は 4 ~ 5m である。

3 号溝は西調査区西部 F3 ~ F5 グリッドにある。規模と形状は西部の残存状況の良好な地点で幅約 0.9m、下幅約 0.3m、深さ 0.13m。底面は皿状で、側壁は緩やかに傾斜して立ち上がる。2 号溝の南側を掘り込んでいる。覆土はローム粒を含んだ軟らかい暗褐色土を主体としている。覆土から鉄釉鑿鉢口縁部片が出土しており近世の時期のものと思われる。

1号溝



2号溝



第 110 図 溝出土遺物

4・5・9号溝は西調査区中央部F5～F9グリッドにかけてある。重複関係は28・29号堅穴建物と重複し堅穴建物の覆土を切り込んでいる。3本の溝は、4・5・9号溝の順番に新しく、古い溝の覆土を掘り込んでいる。走行方向は6号溝と接する西端からN-90°—Eの方向に直線的に延びて、F8グリッド付近でN-81°—Eの方向に屈曲し東方向に直線的に延びている。F9グリッドから西側は削平されたためか残存していない。規模は4号溝が幅約0.9m、深さ0.32m、5号溝は幅約0.9m、深さ0.29m。底面は皿状で、側壁は丸味をもって緩やかに立ち上がっている。9号溝は上幅約0.4m、下幅約0.1m、深さ0.29m。断面形は逆台形状である。覆土はローム粒やローム小ブロックを少量含んだにぶい黄褐色土を主体としている。これらの溝の覆土からは古代の土師器・須恵器の小片が出土している。明確な時期を示す出土遺物はないが4・5・9号溝は2・3号溝と平行して掘削されており2・3号溝と対になる近世の道路側溝になるものと思われる。

調査区西側の道路で、硬化した路面硬化部分については上幅が約2m、浅く窪んで下幅約1.5mで底面は非常に硬化しており踏みしめられた道路の路面の跡と判断した。側溝を伴う路面の跡というより、かつてあった幅の広い道路の名残りのような、道幅が狭くなても利用していた跡のように見られる。東側調査区のF9・10グリッドには道路路面中央に8号溝とした幅広の深い溝が見られ、道路の最も西にある硬化した路面の跡と幅や位置が似ており関連が考えられる。

第8節 ピット（第6・111図、表3・16・17、図版33）

ピットは全部で56基確認されている。このうち9基は整理の過程で掘立柱建物の柱穴に変更したため合計で47基である。分布は西側調査区の西端に5基、中央部南寄りに6基と東側調査区北部に30基余りと大きく3つの地区に分かれ分布している。西側調査区の西南西端のP3・17・20～22は3号掘立柱建物の柱穴掘り方に類似しており、調査区外の西側に広がっていく掘立柱建物の可能性が考えられる。また、中央部の道路側溝に重要なP4～7・18・56は覆土が黒褐色土で軟らかく、道路側溝の時期に近い近世のピットではないかと思われる。さらに東側調査区のP30～56は非常に軟らかい覆土で配置的にも規則性がなくより新しい時期のピットになるものと思われる。

第9節 遺構外出土遺物（第112・113図、表17、図版33）

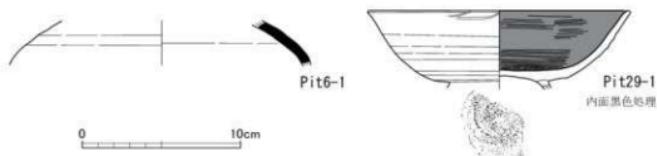
縄文土器は1～3が後期壙ノ内1式の深鉢、5・6が壙ノ内2式の深鉢である。縄文時代の石器は、7・9・10・13・14が砂岩製の磨石、8・12は安山岩製の磨石、10は花崗岩の扁平な自然円礫である。

古墳時代の19の須恵器は7世紀後半頃の湖西産フラスコ瓶の体部片である。奈良・平安時代の16の須恵器長頸瓶は体部下端に織物圧痕が見られる。長頸瓶の製作時にリング状の器台の上に布を被せ、それに製作途中の瓶を置いた際に圧痕が付着し、体部下端のナデ消しが不完全であったため残されたものと見られる。17は須恵器小型短頸壺の体部と見られる。18は灰釉陶器長頸瓶の底部片である。

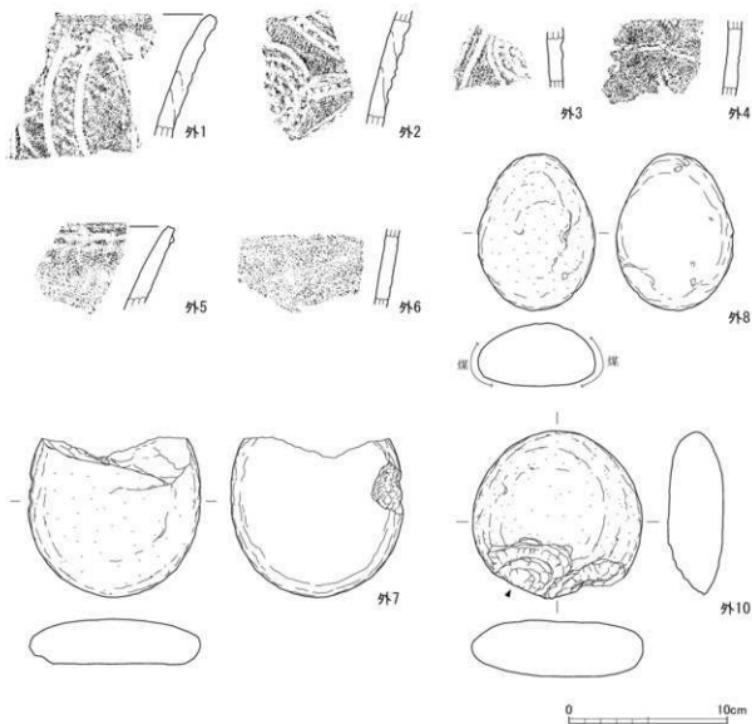
表3 ピット一覧表

番号	位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考
1	E 3	SB03 の P12			
2	E 2	SB03 の P9			
3	E 2	39	38	33	
4	F 5	31	26	28	
5	F 5	26	23	16	
6	F 6	36	27	-	SD04 との切合不明
7	F 6	39	37	-	SD04 との切合不明
8	E 3	39	37	44	
9	E 2	SB03 の P8			
10	D 3	33	30	50	
11	E 3	37	30	70	
12	E 3	47	35	40	
13	E 3	19	17	37	
14	E 3	37	30	46	
15	E 2	SB03 の P11			
16	E 2	52	38	44	
17	E 2	49	46	33	
18	F 6	40	34	37	SD05 との切合不明
19	E 3	34	26	41	
20	E 2	56	48	40	
21	F 2	41	38	32	
22	F 2	44	30	-	
23	F 7	24	20	12	
24	D 4	SB02 の P10			
25	E 4	SB02 の P8			
26	E 4	SB02 の P8			
27	E 4	SB02 の P7			
28	F 3	欠番		3 号落し穴に変更	

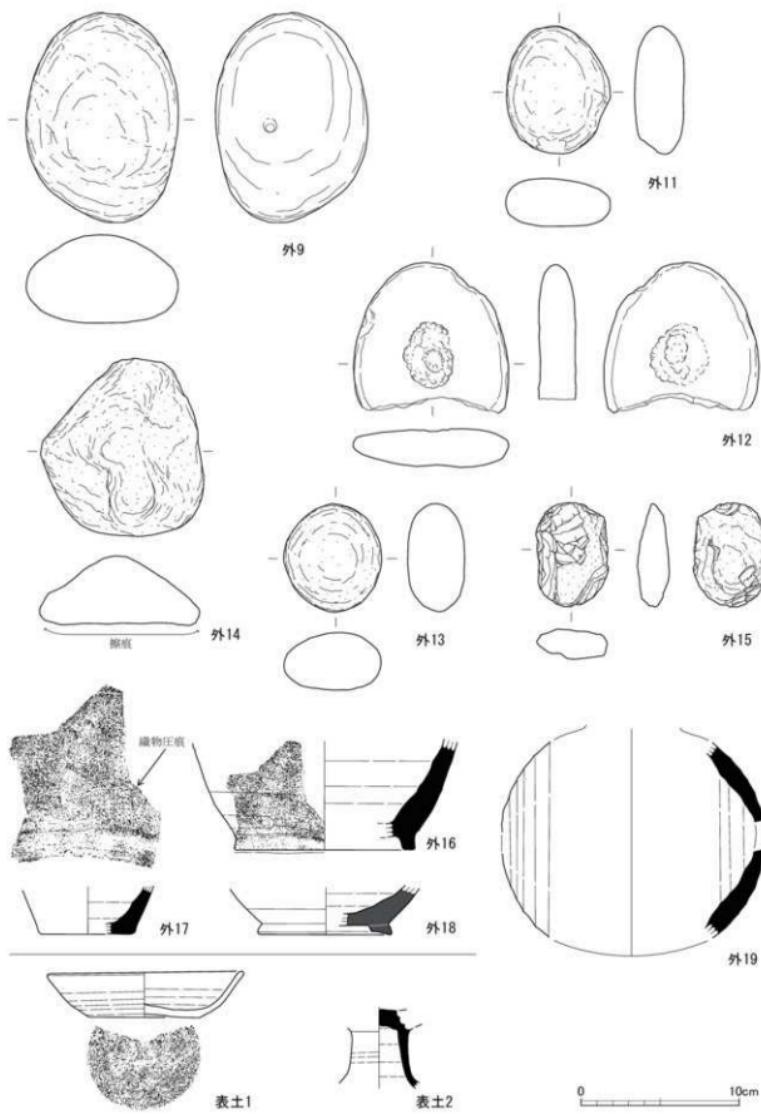
番号	位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考
29	D 11	68	41	31	
30	B 11	20	18	14	
31	B 11	25	21	16	
32	B 10, 11	38	24	20	
33	B 10	31	31	19	
34	B 11	33	25	36	
35	B 11	32	39	32	
36	B 11	40	36	17	
37	B 11	35	34	12	
38	B 12	34	31	12	
39	B 12	31	24	6	
40	C 11	42	38	17	
41	C 11	44	40	26	SD09 を切る
42	D 10	43	31	28	
43	D 10	48	46	29	
44	C 10	29	25	49	
45	C 10	25	21	49	
46	C 10, 11	40	31	40	
47	C 11	36	32	27	
48	C 10, 11	26	24	22	
49	C 10	32	30	21	
50	C 10	29	23	26	
51	F 10	40	32	71	Pit52 を切る
52	F 10	58	45	22	Pit51 に切られる
53	F 10	31	24	10	
54	E 3	SB03 の P14			
55	D 24	35	30	49	
56	F 6	34	34	19	SD06 との切合不明



第 111 図 ピット出土遺物



第 112 図 遺構外出土遺物 (1)



第113図 遺構外(2)・表土出土遺物

表4 出土遺物観察表(1)

遺構	番号	器種	法 量 単位〔参考定義〕	觀 察 所 見	胎 土	燒 成	色 調 内面 外面	残存率	出土地 点 記	備 考
S101B	1	土器器 梗	口徑 (14.2) 底径 5.6	口縁部内面が一部に黒褐色が付着 (模様ターポ)。ロクロ成形 灯明透軸形?	石英多量。チャート 角丸大頭。陶器骨片 角閃石	良好	黒褐色 褐色	60%	S101B No2	
	2	土器器 梗	口徑 - 底径 8.5 高さ < 3.4	内底面器表面の荒れ ロクロ成形	石英多量 チャート	良好	褐色	脚台部 80%	S101B No1	
	3	土器器 盆	口徑 (14.0) 底径 8.3 高さ 2.4	口縁部内面と内底面行者 ロクロ成形	石英多量 陶器骨片多量 チャート	良好	黒褐色 にぶい・黄褐色	70%	S101B	
	4	土器器 甕	口徑 (13.8) 底径 8.0 高さ < 8.0	口縁部内面ヨコナザ 体部外面ナザ。内面 ラナザ	石英。チャート 金雲母	普通	褐色	口縁部破 片	S101B B.14†, R2 区	
	5	土器器 甕	口徑 (21.1) (10.0) 底径 (29.0)	体部外面裏方向へラケタツリ 内面裏方向へナザ	石英。角閃石 陶器骨片	良好	にぶい・黄褐色	小破片 4	S101B.1.2 区	
	6	土器器 甕	口徑 - 底径 (9.7) 高さ < 7.2	内面 ラナザ。底部外面へラナザ 底部に紋様あり	石英。角閃石 チャート 陶器骨片	普通	黒褐色 にぶい・黄褐色	底部	S101B No3	
	7	石製品 支持	長さ 12.0cm 幅 10.2cm 厚さ 9.2cm 重さ 445g。凝灰質灰岩						S101B 2†	
S102	1	土器器 梗	口徑 - 底径 (3.6) 高さ 3.6	ロクロ成形 近凹側面へラケタツリ	石英多量。金雲母 陶器骨片	良好	灰黄褐色	高台部 2/3	S102 No3 2† A S103	
	2	土器器 梗	口徑 - 底径 (2.5) 高さ 2.6	ロクロ成形 近凹側面系切りか	石英多量。角閃石 陶器骨片。金雲母	良好	褐色	高台部	S102 No1	
	3	土器器 梗	口徑 - 底径 (8.8) 高さ 3.7	内面褐色染付。《ガサ》 近凹側面系後凹側面付つけ	石英。角閃石 金雲母。陶器骨片	良好	黒褐色 褐色	高台部 1/3	S102 No1	
S103	1	瓶器 瓶	口徑 (14.0) 底径 (8.5) 高さ 4.8	底部側面へラ切り後、弱い一方面へラケタツリ 底部側面に焼成時へ灰痕斑。近底焼成	石英。チャート 陶器骨片	良好	灰色	50%	S103 No2, 4 区	
	2	瓶器 瓶	口徑 (14.3) 底径 4.9 高さ 4.9	底部側面へラ切り後丁寧な指捺と一方面へ ラケタツリの複合。底部側面に焼成時へ灰痕斑。	石英。チャート 陶器骨片	やや不良	灰白色	50%	S103 2† ¹ , 4 区	
	3	瓶器 高台付	口徑 11.1 底径 6.9 高さ 5.3	底部側面付つけでハラ削り板を消す丁寧な ナット調整	石英。チャート 陶器骨片	良好	灰白色 灰色	90%	S103 No1	
	4	瓶器 頂	口徑 21.8 底径 14.3 高さ 4.1	黒褐色斑出が暗褐色で小毫毛が目立つ 造形は鉄器ではなくマシンガング 外底粗面張	石英。陶器骨片 黑色素出現	良好	灰白色	80%	S103 No6, S10 3† ¹ , 4 区	
	5	瓶器 瓶	口徑 - 底径 < 1.6		石英。チャート 陶器骨片多量	普通	灰黄色	25%	S103 No7	
	6	土器器 甕	口徑 (15.6) 底径 9.8	体部外面へラケタツリ。内面へラナザ	石英多量。チャート 金雲母	にぶい・黄褐色 褐色	口縁～体 上部片		S103 No8	
S104B	1	瓶器 瓶	口徑 (13.6) 底径 4.4 高さ 5.0	近凹側面へラ切り後へラナザ 「一」カレ記号「一」	石英。チャート 陶器骨片	普通	暗灰黄色	50%	S104B No6 S103 2 区	
	2	瓶器 瓶	口徑 14.2 底径 6.4 高さ 5.0	近凹側面へラ切り後直する二方向へ ラケタツリ。近凹側面「六」	長石。石英 チャート	普通	灰灰色	40%	S104A No3 R2 区	
	3	瓶器 瓶	口徑 13.7 底径 6.3 高さ 5.5	近凹側面へラ切り跡と後側邊によるオサ エジ。底部側面「井」	石英。チャート	やや不良	灰黄色	20%	S104A No1 S104B No2 S104B1 R. 2 区	
	4	瓶器 瓶	口徑 14.0 底径 6.3 高さ 5.3	近凹側面へラケタツリ 新泥塗	長石。石英。雲母 細化粧 不明	黒褐色 褐色	60%	2†		
	5	土器器 甕	口徑 21.6 底径 (18.5)	体部外面ナザ。内面へラナザ	白雲母。石英 真石	良好	褐色 暗褐色	20%	S104A No2 2 区	
	6	土器器 甕	口徑 (20.6) 底径 (19.0)	体部外面ナザ。内面へ半部縱方向の傾ナ サ。斜め力方向へラケタツリ。下部側面へ ラケタツリ。下部側面へラケタツリ	白雲母。 真石 石英	良好	明赤褐色・黑 褐色	15%	S104B2 区	
	7	土器器 甕	口徑 (19.2) 底径 6.6	体上部へラナザ。下半部縱方向のヘラ ケタツリ後へラケタツリ。下部側面へ ラケタツリ。ガラの単位が不明瞭	長石。石英 金雲母微細 陶器骨片	良好	黒褐色。明赤 褐色。にぶい・ 黄褐色	30%	S104A 2† ¹ , No2 S104A 2† ¹ , No3 S104B 2† ¹	
	8	土器器 小型甕	口徑 (13.6) 底径 < 8.3	体部内外面へラナザ	金雲母	良好	黒褐色	20%	S104A 2 区	
	9	土器器 小型甕	口徑 - 底径 7.3 高さ < 6.8	体部外面へラケタツリ。内面へラナザ	長石。石英	普通	にぶい・黄褐色 黒褐色	15%	S104A 2† ¹ , No1 2†	
	10	石製品 不明	長さ < 6.6cm 幅 0.6cm 厚さ 0.7cm 重さ 20.53kg						S104A 2† ¹ , No5	

表 5 出土遺物観察表(2)

遺物	番号	種別 器種	寸法 (横幅 cm)	施 置	施 置 所 見	胎 土	地 成	色 調	内 面 外 面	残存率	出土場所 法 記	備 考
S10番	1	土師器 小皿	口径 底径 高さ < 1.0 >	口縁 底縁 高さ 2.2	直面刮削へラ切り離し、ロクロ右側斜	石英多量	良好	褐色	底部灰	S10B 4 IX		
	2	土師器 小皿	口径 (10.5) 底径 (6.0) 高さ 2.2	口縁 底縁 高さ < 1.0 >	直面刮削底切り	石英多量	良好	褐色	口縫部灰	S10B 2 IX		
	3	土師器 皿	口径 (20.2) 底径 高さ < 9.8 >	口縁 底縁 高さ < 1.0 >	体部外周縦方向へラケズリ、内面横方向へラケズリ、ナダ	石英、長石、チャート	良好	褐色	灰黃褐色	口縫部灰	A IX	
	4	鉄製品 刃身	長さ < 4.0 > cm	幅 0.3cm 厚さ 0.4cm 重さ 2.082g							S10B 4 IX	
S105	1	埴輪器 斧	口径 6.7 底径 3.8	口縁 底縁 高さ 3.8	体部下端斜面へラケズリ 底面多方向斜面へラケズリ	長石、海綿骨針 チャート	良好	灰色	70%	S105 No.1		
	2	埴輪器 斧	口径 8.6 底径 3.8	口縁 底縁 高さ 3.8	体部下端に浅い二次底面凹をもつ、切削面へラケズリ	長石、海綿骨針 チャート	普通	黄灰色	70%	S105 No.2		
	3	埴輪器 斧	口径 13.8 底径 8.8 高さ 4.4	口縁 底縁 高さ 4.4	体部下端手持ちラケズリ 底面多方向へラケズリ	長石、石英 黒雲母、角閃石	普通	灰黄色 淡黄色	90%	S105 No.3		
	4	埴輪器 馬頭付斧	口径 11.9 底径 7.6 高さ 5.0	口縁 底縁 高さ 5.0	底面多方向へラメ記「乙」、ロクロ右側斜	長石、海綿骨針 チャート	良好	灰色	60%	S105 No.4		
	5	埴輪器 馬頭付斧	口径 (12.0) (11.8) 底径 5.6	口縁 底縁 高さ 5.6	高台幅部外周斜面	長石、石英 チャート	不良	灰黄色	40%	S105 No.1, 2 IX		
	6	埴輪器 馬頭付斧	口径 (15.0) 底径 (4.8)	口縁 底縁 高さ 4.8		長石、石英 チャート 海綿骨針	良好	灰色	40%	S105 No.6		
	7	埴輪器 馬	口径 (23.0) 底径 3.2	口縁 底縁 高さ 3.2	底面外周へラメ記「乙」	長石、石英 海綿骨針	良好	灰色	40%	S105 No.7		
	8	埴輪器 馬	口径 — 底径 — 高さ 4.6 >	口縁 底縁 高さ 4.6 >	粘土は良質で灰黒物が少ないが、海綿骨針を撒きに含む	長石、石英 海綿骨針	良好	灰色	70%	S105 No.17		
	9	土師器 小空甌	口径 (15.8) 底径 (13.0) 高さ 13.0	口縁 底縁 高さ 13.0	粘土中の藍母は黒藍母とみられる	長石、石英 藍母	良好	にぶい・黄褐色 赤褐色	30%	S105 No.2, No.15 I IX		
	10	土師器 皿	口径 — 底径 — 高さ (16.7)	口縁 底縁 高さ (16.7)	内面の横方向の調整が非常に堅っており、ロク ド調査と思われる	長石、石英 チャート	普通	明るい 黒褐色	60%	S105 No.22		
	11	土師器 皿	口径 22.7 底径 10.4 高さ 31.6	口縁 底縁 高さ 31.6	粘土中の藍母は粒径が小さく、白藍光沢のもの と黒藍光沢のものがある	長石、石英 藍母	良好	赤褐色	60%	S105 No.2, No.16 No.25, 1 IX		
	12	土師器 皿	口径 24.8 底径 10.1 高さ 31.0	口縁 底縁 高さ 31.0	粘土中の藍母が黒鐵で黒鐵母のようには見えない	長石、石英 チャート、藍母	良好	褐色	90%	S105 No.25		
	13	土師器 皿	口径 26.9 底径 11.1 高さ 30.3	口縁 底縁 高さ 4.5	粘土中の藍母が黒鐵で黒鐵母のようには見える	長石、石英 藍母	良好	赤褐色	80%	S105 No.20		
	14	土製品 支撑	高さ (4.3) 4.6 厚さ 4.5	—	直面一方面へラケズリ 底面外周墨書き文字「丸子」 墨出黒面	長石、石英 チャート	良好	褐色	基部灰	S105 1 IX		
S106	1	埴輪器 斧	口径 6.7 底径 4.9	口縁 底縁 高さ < 10.2 >	直面一方面へラケズリ 底面外周墨書き文字「丸子」 墨出黒面	長石、石英 白雲母	不良	オーラー にぶい・褐色	80%	S106 No.12, 2 IX		
	2	埴輪器 兵頭器	口径 —	口縁 (11.1) 底縁 (10.2)	直面2段接合	長石、 海綿骨針	良好	灰色	60%	S106 No.7, No.10 No.11, No.13 No.17, 2 IX		
	3	鉄製品 刀子	長さ < 2.0 > cm 幅 0.8 cm 厚さ 0.4 cm	—	直面刮削面あり、底面刮削へラケズリ ロクロ右側斜	石英、チャート 海綿骨針	良好	灰色	60%	S106 No.12, 2 IX		
	4	鉄製品 刀子	長さ < 6.6 > cm	幅 1.2cm 厚さ 0.15 ~ 0.2cm	直面刮削面へラケズリ	石英、 チャート 海綿骨針	—	—	—	S106 No.6		
	5	鉄製品 刀子	長さ < 6.0 > cm	幅 2.0cm 厚さ 0.2 ~ 0.1cm	直面刮削面へラケズリ	石英、 チャート 海綿骨針	—	—	—	S106 No.3		
S107	1	埴輪器 斧	口径 8.0 底径 4.9	口縁 底縁 高さ < 1.0 >	二次底面面あり、底面刮削へラケズリ ロクロ右側斜	石英、チャート 海綿骨針	良好	灰色	60%	S107 No.13		
	2	埴輪器 斧	口径 — 底径 8.5 >	—	直面刮削面へラケズリ	石英、 チャート 海綿骨針	—	—	—	S107 No.15 I IX		
	3	埴輪器 斧	口径 — 底径 4.3	—	直面刮削面へラケズリ	石英、 海綿骨針	良好	灰色	40%	S107 No.20 2 IX		
	4	土師器 皿	口径 (24.8) 底径 — 高さ < 19.1 >	—	体部下部ミガキ、内面へラケズリ	石英、白雲母	良好	にぶい・黄褐色	30%	No.1, No.22, 3.0 > P1, 下罐, S107		

表6 出土遺物観察表(3)

清構	番号	種別 器種	法量	觀察所見	胎土	焼成	色調 内面 外面	残存率	出土場所 注記	備考
SI07	5	土師器 甕	口幅 (23.0) 底径 高さ (15.4)	体上半周面にヘラあたり痕が目立つ 内面ヘラナダ	石英多量 チャート	普通	にふい黄褐色 褐色	15%	SI07 No12, 311 1区	
	6	土師器 甕	口幅 (23.0) 底径 高さ (16.6)	体上半周面にヘラあたり痕が目立つ 内面ヘラナダ	石英 白雲母多量	良好	明赤褐色 褐色	10%	SI07 No25, 311 4区	
	7	鉢製品 小皿	長さ 10.2cm 幅 4.6cm 厚さ 0.1cm 重さ 5.125g 穿孔孔						SI07 No25	
SI08	1	單底器 高台付平 甕	口幅 (10.4) 底径 高さ (2.3)	内面が平滑で軽用として二次利用して いる可能性あり 高台面台に墨板	石英 チャート 陶器骨粉	良好	灰色	破部片	SI08 311	
	2	土師器 甕	口幅 (13.7)	体表面外ナダ 内面ヘラナダ	石英多量 チャート 金雲母	良好	にふい黄褐色 褐色	口縁部片	SI08 2区	
	3	石製品 砾石	長さ (6.5cm) 幅 4.7cm 厚さ 3.6cm 重さ 99.906g	凝灰岩製					SI08 No3	
SI09	1	單底器 甕	口幅 (12.2) 底径 高さ (4.7)	直脚側面ヘラ切り離し後周縁ナダ調整	石英、チャート	普通	灰色	40%	SI09 No1	
	2	單底器 甕	口幅 (15.9) 底径 高さ (4.9)		石英、チャート 陶器骨粉	普通	灰黄色	50%	SI09 No6	
	3	土師器 甕	口幅 (14.0) 底径 高さ (10.0)	口縁外周面削除	石英、チャート 白雲母	普通	褐色	20%	SI09 311	
	4	土師器 甕	口幅 (21.0) 底径 高さ (3.4)	強い二次熟成と粘土の付着感からカマリ 二次熟成材として二次利用されたと見られる	石英、チャート 白雲母、角閃石	良好	にふい黄褐色	口縁部片	SI09 311	
	5	土師器 甕	口幅 (9.6) 底径 高さ (16.4)	体底部下モガニガタ 内面ヘラナダ、陶器骨粉	石英、白雲母	良好	褐色 にふい赤褐色	20%	SI09 No4, No5	
	6	其 他	長さ (26.0) 幅 (10.2)	内面は焼成ヘラケタリ 内面ヘラナダ 直脚側面	石英	良好	灰色	60%	SI09 311 No1	
SI10	1	單底器 甕	口幅 (14.3) 底径 高さ (9.0)	直脚側面丁寧な指擦によるナダ調整 ナダの欠けと被熱痕あり 引張痕に軸用印	石英多量 チャート 陶器骨粉	普通	灰色	90%	SI10 No3	
	2	單底器 甕	口幅 (13.9) 底径 高さ (8.5)	直脚側面ヘラケタリ 内面下半下部摩耗	石英 チャート	不良	灰白色	70%	SI10 No14 1区, 4区	
	3	鉢製品 砂鉄車三輪	長さ 16.9cm 直径 6.6cm 重さ 17.120g						SI10 No16	
	4	鉢製品 クルベ鉢	把手部本質 - 長さ 9.8cm 幅 3.5cm 厚さ 3.3cm 鋸切部 - 長さ 23.3cm 直径 0.7cm 輪部 - 長さ 5.5cm 径 0.7cm	把手部本質は丸柱の断面が丸柱の断面である多面 体状 把手部の鉄芯は長方断面に見える					SI10 No15	
	5	石製品 砾石	長さ (8.3cm) 幅 5.3cm 厚さ 3.7cm 重さ 191.071g	凝灰岩					SI10 No5	
SI11	1	單底器 甕	口幅 (13.8) 底径 高さ (5.1)	直脚側面ヘラ切り離しナダ クロコ在斜面	石英、チャート 陶器骨粉	普通	灰色	70%	SI11 No8, 4区	
	2	單底器 甕	口幅 (13.3) 底径 高さ (4.6)	直脚側面ヘラ切り後丁寧なナダ 直脚側面ヘラ切り後「一」	石英、角閃石 チャート 陶器骨粉	不良	灰白色	70%	SI11 2区	
	3	單底器 甕	口幅 (12.5) 底径 高さ (5.0)	体底部端ヘラにより丸突きを行った調型 直脚側面ヘラ切り後丁寧なナダ 直脚側面ヘラ切り後「一」	石英 チャート多量	不良	浅黄色	80%	SI11 1区 2区, 4区 SI15	
	4	單底器 甕	口幅 (14.0) 底径 高さ (4.7)	体底部端ヘラにより丸突きを行った調型 直脚側面ヘラ切り後「一」	石英、チャート 陶器骨粉	普通	灰色	60%	SI11 No1	
	5	單底器 高台付平 甕	口幅 (15.3) 底径 高さ (6.0)	口縁部にV字状欠け 内面に朱漆 クロコ右斜面	石英、チャート 陶器骨粉や多量 金雲母	普通	灰色	95%	SI11 No9	
	6	單底器 高台付平 甕	口幅 (13.8) 底径 高さ (6.2)	直脚外周面台に朱漆と墨板 クロコ右斜面	石英、チャート 陶器骨粉	普通	灰色	70%	SI11 No10	
	7	單底器 高台付平 甕	口幅 (13.9) 底径 高さ (5.4)	直脚外周面台内へ墨板 「一」	石英、陶器骨粉	良好	灰白色	60%	SI11 No20 PA, 311 1区	
	8	單底器 コップ形	口幅 (9.4) 底径 高さ (7.0)	クロコ左斜面	黑色融出斑	良好	灰白色	30%	SI11 311 4区	
	9	單底器 甕	口幅 (15.0) 底径 高さ (2.8)	クロコ左斜面	石英、チャート 陶器骨粉	良好	灰色	60%	SI11 No2, 311 1区, 3区, 4区	

表7 出土遺物観察表(4)

遺物	番号	種別 器種	直 径 cm	単位 〔複数個〕 cm 〔内面 直径〕	観察所見	胎 土	焼成	色 調	内面 外面	残存率	出土場所 日記	備 考
SI11	10	須恵器 盤	16.6	ロクロ直切縁	石英、薄綿青白	普通	灰色	80%	SI11 2区、3区			
	11	須恵器 盤	20.6 直径 13.9 直徑 4.6	ロクロ直切縁	石英、チャート 薄綿青白	良好	灰色	80%	SI11 No4、1区			
	12	須恵器 盤	20.6 直径 (17.2) 直徑 4.6	ロクロ直切縁	白質母多量 にぶい黄褐色	不良	灰色	20%	SI11 No5、2区 3区			
	13	須恵器 盤	24.1 直径 (16.2) 直徑 4.7	直面外腹黒墨 ロクロ直切縁	石英	良好	灰色	80%	SI11 No7、2区			
	14	瓦陶器 黃斑板	- 直径 直徑 <7.7	輪縫2段接合	石英	良好	灰白色	断片	SI11 2区			
	15	須恵器 黃斑板	20.6 直径 直徑 <8.5	断面自然縫	石英、長石 黑色小隨物少	良好	灰色	断片	SI11 1区 2区、3区			
	16	須恵器 盤	- 直径 直徑 <28.0	内面に長径7cm以上、 幅6cm以上の楕 円形あて具を使用している	黄石、石英 薄綿青白	良好	灰黄色 灰白色	体部70%	SI11 No23 SI07 1区			
	17	須恵器 圓曲板	26.0 直径 直徑 <3.3	輪縫内面から脇端面に自然縫がかかる	石英 黄石微細粒少	良好	灰色	脚部小片	SI11 1区			
	18	土師器 甌	21.7 直径 直徑 <28.5	僅下平部にガタ 輪縫に2つの当たり板	石英多量 露頭少	良好	にぶい褐色 にぶい黄褐色	60%	SI11 No1、No2 No13、No14、 No15、2区			
	19	土師器 甌	21.8 直径 直徑 <20.6	僅下平部にガタ 輪縫に2つの当たり板	石英、白質母 長石	良好	にぶい黄褐色	20%	SI11 No4、No7 1区			
	20	土師器 甌	22.8 直径 直徑 <7.5	体部外面ナデ、内面ハラナデ	石英 白質母	良好	褐色	口縫断片	SI11 P1、4区			
	21	鉄製品 釦付針	長さ4.2cm 幅2mm 厚1.2mm	輪縫幅1.2mm 体部幅0.8mm 体部高さ0.55mm 重さ6.55g						SI11 No20		
SI12	1	土師器 小甌	12.5 直径 直徑 3.1	ロクロ成形 直縫 ロクロ直切縁	黄石、石英 角閃石 金雲母微粒	良好	褐色	100%	SI12 No1			
	2	土師器 小甌	10.0 直径 直徑 2.5	ロクロ成形 直縫 ロクロ直切縁	黄石、石英	良好	明黄褐色	85%	SI12 No1' No2			
	3	土師器 小甌	10.4 直径 直徑 2.3	ロクロ成形 直縫 ロクロ直切縁	石英、薄綿青白 金雲母微粒	良好	にぶい黄褐色	70%	SI12 No2			
	4	土師器 小甌	10.3 直径 直徑 2.2	ロクロ成形 直縫 ロクロ直切縁	黄石、石英	良好	褐色	60%	SI12 No6、1区			
	5	土師器 小甌	9.9 直径 直徑 3.9	ロクロ成形 直縫 内面黒色處理、 輪縫に2つ	石英	普通	黑色 にぶい黄褐色	80%	SI12 No3			
	6	土師器 小甌	10.7 直径 直徑 4.2	ロクロ成形 直縫 ロクロ直切縁	黄石、石英 薄綿青白	良好	にぶい黄褐色	100%	SI12 No20			
	7	土師器 甌	8.1 直径 直徑 <4.8	ロクロ成形 直縫 内面黒色處理、 輪縫に2つ	黄石、石英 チャート	良好	黑色、褐色	60%	SI12 P1			
	8	土師器 甌	14.8 直径 直徑 <4.0	ロクロ成形、 直縫輪縫を切り抜きナデ 内面黒色處理、 輪縫に2つ	黄石、石英 チャート	良好	黑色 明黄褐色	30%	SI12 No28			
	9	土師器 甌	7.9 直径 直徑 3.6	輪縫輪縫に切削面台階付け	黄石、石英 チャート 薄綿青白	普通	褐色	50%	SI12 No18、2区			
	10	土師器 甌	16.2 直径 直徑 <4.3	ロクロ成形 直縫 直縫	石英、チャート 金雲母	良好	明黄褐色 褐色	40%	SI12 No1、No22			
	11	土師器 足高柄	16.1 直径 直徑 6.8	石英、チャート 金雲母微粒	黄石、石英 チャート 薄綿青白	良好	にぶい黄褐色	90%	SI12 No3、No7 2区			
	12	土師器 足高柄	16.6 直径 直徑 <6.7	ロクロ成形 直縫 直縫	黄石、石英 チャート	普通	褐色	脚部	SI12 No25、No9'			
	13	土師器 三脚器	長S 3.5 直縫 3.2	脚部	長石、石英 チャート 薄綿青白	良好	黄褐色	脚部	SI12 No8			
	14	土師器 三脚器	長S 3.6 直縫 3.3	脚部	石英、チャート	良好	にぶい黄褐色	脚部	SI12 No23			
	15	土師器 甌	24.9 直径 直縫 直縫	体部内外面ナデ	石英、長石 角閃石 チャート	良好	埋灰黄色	口縫断片	SI12 No11、No9'			
	16	土師器 甌	23.6 直径 (9.9) 直縫 29.7	輪縫に指痕有 直上平底にガタ 下平底方向へケズリ	長石	良好	黒褐色	80%	SI12 No76、No10 No11、No11' No1 2区			

表 8 出土遺物観察表(5)

遺構	番号	種別 器種	法 則	概 要	施 工	使 用	色 調	内面 外側	残存率	出土場所 記	備 考
SII2	17	土師器 瓶	D縦 直径 底高 < 26.0	(19.2) 体部外面縦方向へラケズリ 内部斜め方向へナダ	素石、石質 陶器骨針	良好	褐色・灰褐色	90%	SII2 No1' No2 SII2 No1' No3		
	18	土師器 羽釜	D縦 直径 底高 -	(28.6) 縦加。下面深付着	長石、石質	良好	にぶい・黄褐色	譚器片	SII2 No12		
	19	鉄製品 刀子	長さ < 5.0 cm	幅 1.0cm 厚さ 0.4cm 重さ 5.221g						SII2 No15	
	20	石製品 支脚	長さ 14.5cm 幅 9.5cm 厚さ 2.0cm 重さ 520g 磨灰質石							SII2 No5	
	21	石製品 块石	長さ 19.8cm 幅 14.6cm 厚さ 9.0cm 重さ 1.5kg 磨灰質石							SII2 No6	
	22	單熱器 杯	D縦 直徑 底高 -	脚部の透孔一ヵ所。 透孔を表現する沈鉛化した短い銀波線 6 条複数	長石、石質	良好	オリーブ灰褐色	脚部片	SII2 1 区		
SII3	1	單熱器 杯	D縦 直徑 底高 4.7	(13.0) 体部下端斜軸へラケズリ 透孔跡へラ切削ナダ	石英、チャート 陶器骨針	不良	灰白色	60%	SII3 No27		
	2	單熱器 杯	D縦 直徑 底高 8.3 3.9	(13.8) 透孔跡へラ切り離し後一方向へラケズリ	石英 無色な白雲母	やや不良	にぶい・黄褐色	60%	SII3 No33		
	3	單熱器 杯	D縦 直徑 底高 11.5 7.6 3.5	(13.8) 透孔跡へラ切り離し後一方向へラケズリ 透孔跡へ鉛合「十」	石英、チャート 陶器骨針	普通	灰褐色	完形	SII3 No11, No2		
	4	單熱器 杯	D縦 直徑 底高 14.1 8.0 5.0	(13.6) 透孔跡へラ切り離し後一方向へラケズリ	石英、チャート	不良	灰白色	70%	SII3 No25, 4 区		
	5	單熱器 杯	D縦 直徑 底高 9.6 6.6 4.1	(13.6) 体部下端斜軸へラケズリ 透孔跡へラ切り離し無鉛化 透孔跡外側磨削「大」	石英、チャート 陶器骨針	普通	灰褐色	70%	SII3 No1, 1 区		
	6	單熱器 杯	D縦 直徑 底高 -	(13.6) 体部下端斜軸へラケズリ 透孔跡へラ切り離し 透孔跡外側磨削「大」(刻文字字印)	石英、チャート 陶器骨針	普通	灰白色	60%	SII3 No7		
	7	單熱器 萬古付杯	D縦 直徑 底高 14.9 10.0 5.9	(14.9) 透孔跡へラケズリ 透孔跡へラ切り離し 透孔跡外側磨削「大」	石英、チャート 陶器骨針	やや不良	にぶい・褐色 灰褐色	70%	SII3 No8		
	8	單熱器 萬古付杯	D縦 直徑 底高 11.5 7.4 4.8	(13.6) 透孔跡へラケズリ 透孔跡へラ切り離し 透孔跡外側磨削「大」	石英、チャート 陶器骨針	普通	灰褐色	80%	SII3 No20		
	9	單熱器 萬古付杯	D縦 直徑 底高 21.7 13.7 9.3	(13.6) 透孔跡へラケズリ	石英、チャート 陶器骨針	普通	灰白色 灰褐色	90%	SII3 No15, No17 1 区, 4 区		
	10	單熱器 蓋	D縦 直徑 底高 -	(13.6) 内面に重ね焼き瓶底の自然釉付着、透底焼成	石英、陶器骨針	普通	褐灰色	30%	SII3 2 区		
	11	單熱器 長脚瓶	D縦 直徑 底高 -	(13.6) 内面に重ね焼き瓶底の自然釉付着、透底焼成	石英、陶器骨針	良好	灰白色 灰褐色	脚部片	SII3 No2		
	12	單熱器 長脚瓶	D縦 直徑 底高 -	(13.6) 内面に重ね焼き瓶底の自然釉付着、透底焼成	石英、陶器骨針	良好	灰白色	脚部片	SII3 No18		
	13	單熱器 長脚瓶	D縦 直徑 底高 -	(13.6) 脚部と底部の接合面に倒れ止め切欠あり	石英、陶器骨針	不良	灰白色	脚部片	SII3 No6		
	14	單熱器 瓶	D縦 直徑 底高 22.1 18.4 9.4	(13.6) 体部外縫平行叩き、内面掌彫痕	石英、陶器骨針	良好	灰白色	口縫～脚部 片	SII3 No3, 29		
	15	單熱器 瓶	D縦 直徑 底高 20.8 16.6 6.4	(13.6) 白刷毛の撒鉛痕を多箇に含み、金雲母も含む 刷毛上に難良さがある	石英、金雲母 チャート	良好	にぶい・褐色 灰褐色	口縫部片	SII3 No21, 23		
	16	土師器 瓶	D縦 直徑 底高 -	(13.6) 瓶部内面に粘土巻き上げ接合板を残す	石英、金雲母	良好	褐灰色 にぶい・褐色	20%	SII3 No30, 3 区		
	17	土師器 瓶	D縦 直徑 底高 29.0 30.7	(29.0) 体部下端横方向へラケズリ、内面横方向へナ ダ	石英、白雲母	良好	にぶい・褐色 にぶい・黄褐色	60%	SII3 No1, No3 1 区, 2 区		
SII4	1	單熱器 杯	D縦 直徑 底高 -	透孔跡へラケズリ	長石、石英 陶器骨針	良好	灰褐色	40%	SII4		
	2	土師器 杯	D縦 直徑 底高 13.8 -	丸底。底部内面へラケズリ、口縫部リコナダ。体部に 横張りの部位あり。内面へナダ	長石、石英 金雲母	良好	にぶい・黄褐色	口縫部片	SII4		
	3	單熱器 蓋	D縦 直徑 底高 14.6 -	新造當度の泥裏塗	長石、白雲母	普通	にぶい・黄色	95%	SII4 No1		
	4	土製品 支脚	高さ 底 厚さ < 9.7 -		長石、石英 チャート	良好	灰褐色	80% か	SII4 No1		

表 9 出土遺物観察表(6)

遺構	番号	種別 器種	寸 法 (cm) (推定値) (推定値)	性 質 所 見	地 土	地 成	色 調 外 面	残 存 率	出 土 場 所 記	備 考
SII15	1	須恵器 环	口径 底径 高さ 14.0 8.0 4.8	直巡回輪ヘハタリ後ナゲ	長石、石英 角丸チャート 陶泥合計	不良	褐色、灰白色	90%	SII15 No1	
	2	須恵器 环	口径 底径 高さ (8.5) < 4.9	巡回輪ヘハタリ後巡回輪ヘラケズリ	長石 角丸チャート 陶泥合計	不良	灰白色	50%	SII15 No2	
	3	須恵器 环	口径 底径 高さ (13.6) (8.1) 4.5	巡回直交方向のヘナナゲ底ヘラケズリ	長石、石英 角丸チャート 陶泥合計	やや不良	江戸・赤褐色	40%	SII15 No3	
	4	須恵器 环	口径 底径 高さ (23.0) (15.0) < 4.2	巡回輪ヘハタケズリ	長石、石英 角丸チャート 陶泥合計	普通	灰褐色	50%	SII15 No4	
	5	土師器 环	口径 底径 高さ — (9.0) (20.5)	体下部外面「キ 内面指痕」ヘラケズリ 最終調整の下地調整ヒダ	長石、石英 白雲母	良好	江戸・黄褐色	30%	SII15 No2, No3 SII14, 2.5K, 3.5K	
	6	鉢製品 刀子	具さ < 9.5 /cm	幅 1.1cm 厚さ 0.25cm 重さ 8.0g					SII15 No2	
	7	石製品 鏡	上面直径 5.1cm 下面直径 3.3cm 厚さ 1.7cm 孔径 0.8cm 重さ 50g						SII15 No3	
	8	石製品 鏡	長さ < 0.6/cm 幅 3.8cm 厚さ 2.0cm 重さ 35g 鏡反対						SII15 4区	
SII16	1	土師器 环	口径 底径 高さ 13.1 — 4.7	体巡回輪ヘラケズリ 内面巡回輪ヘラケズリ 内面「ギサ」	石英	良好	黒褐色	80%	SII16 No19 2区, 3区焼成	
	2	土師器 环	口径 底径 高さ 12.9 — 3.3	体巡回輪内面黑色處理 内面周辺付「ギサ」	石英	良好	灰褐色 黑色	90%	SII16 No21	
	3	土師器 环	口径 底径 高さ 13.4 — 3.9	体巡回輪内面黑色處理 内面周辺付「ギサ」	石英	良好	黑色	30%	SII16 No11	
	4	土師器 环	口径 底径 高さ (20.4) — (7.6)	体巡回輪外面「ギサ」 内面指痕付「ギサ」	長石、石英 チャート	良好	褐色	口縁部	SII16 No10, 3区	
	5	土師器 環	口径 底径 高さ 19.0 8.2 28.0	体巡回輪直交方向ヘラケズリ 内面「ギサ」 底凹不規則	長石、石英	普通	赤褐色	60%	SII16 No7	
	6	土師器 環	口径 底径 高さ (20.0) — (20.4)	体巡回輪外面「ギサ」 内面「ギサ」	長石、石英	良好	明赤褐色	35%	SII16 No1, No3 2区, 4区 1.5K, 3.5K	
	7	土師器 環	口径 底径 高さ 17.2 7.4 25.2	体巡回輪ヘラケズリ 内面「ギサ」	石英、黄石	良好	江戸・黄褐色	80%	SII16 No6, No11, No21, No22 2.5K, 3.5K, 7.5K 内 1.5K, 4.5K, 14K	
	8	土師器 環	口径 底径 高さ 20.4 8.2 15.0	体巡回輪ヘラケズリ 内面「ギサ」	長石 石英熟成多量	良好	明褐色	90%	SII16 No9 2区, 4区	
	9	土師器 環	口径 底径 高さ (28.4) (8.8) (29.4)	—	長石、石英熟成	良好	明褐色、黑色	30%	SII16 1区 3区, 4区 P1	
	10	土師器 環	口径 底径 高さ 5.8 — 4.0	体巡回輪ヘラケズリ 内面「ギサ」	長石、石英	良好	黑色	底部～ 体下部剖面	SII15 No5, 1.1K	
SII17a	1	土師器 環	口径 底径 高さ (25.6) (10.2) —	体上半部巡回輪直交方向ヘナナゲ 下半部巡回輪直交方向ヘナナゲ 内面直交方向ヘナナゲ	長石、石英 チャート、金雲母	良好	江戸・黄褐色 底部 口縁部	底部 口縁部	SII17 3区, 4区, 4.5K, A. No2, 3区, A. No3 4区	
SII17b	1	土師器 环	口径 底径 高さ (13.0) (7.6) —	ロクロ成形	石英、黄石 チャート	良好	褐色	55%	SII17 No5	
	2	土師器 环	口径 底径 高さ 11.3 — 6.3	巡回輪直交方向ヘタリ後ナゲ	石英、チャート 金雲母	良好	江戸・褐色	40%	SII17 No15	
	3	土師器 小環	口径 底径 高さ 11.3 — 2.6	ロクロ成形 巡回輪直交方向ヘタリ離し調整 ロクロ直交方向	長石、石英 チャート 金雲母	良好	江戸・褐色	70%	SII17 3区, No2 4区	
	4	土師器 小環	口径 底径 高さ 9.8 5.4 4.1	ロクロ成形 内面黑色處理、「ギサ」	石英、黄石 チャート 陶泥合計	普通	黑色 江戸・褐色	江戸成形	SII17 3区, No6	
	5	土師器 环	口径 底径 高さ (14.0) (8.2) —	ロクロ成形 巡回輪直交方向ヘタリ離し 内面黑色處理、「ギサ」	石英、陶泥骨碎 骨碎	良好	黑色 江戸・黄褐色	60%	SII17 No2 3.5K, 4.5K 3区, A. No1 3区, A. No3	
	6	土師器 环	口径 底径 高さ (14.0) (7.2) —	ロクロ成形 内面黑色處理、「ギサ」	石英、金雲母	良好	黒褐色、黑色 褐色	75%	SII17 No6 3.5K, 4.5K 3区, A. No1 3区, A. No3	
	7	土師器 环	口径 底径 高さ 14.2 7.2 4.5	ロクロ成形 巡回輪直交方向ヘタリ後高台貼付け 内面「ギサ」	石英、黄石 チャート 陶泥骨碎	良好	黑色 江戸・黄褐色	70%	SII17 3区, A. No1	
	8	土師器 环	口径 底径 高さ (15.1) (8.2) —	ロクロ成形 巡回輪直交方向ヘタリ後高台貼付け 内面「ギサ」	石英、チャート 陶泥骨碎	良好	江戸・黄褐色	60%	SII17 3区, A. No1 3区, A. No3 SII20 3区	
	9	土師器 环	口径 底径 高さ (16.4) (9.0) —	ロクロ成形 巡回輪直交方向ヘタリ後高台貼付け 内面「ギサ」	石英、チャート 陶泥骨碎	良好	江戸・褐色 江戸・黄褐色	65%	SII17 3区, B. 4区 SII20 3区 2.5K, 4.5K	
	10	土師器 小環	口径 底径 高さ (10.8) (5.3) —	体巡回輪直交方向ヘラケズリ 内面「ギサ」	石英、チャート	良好	江戸・黄褐色 黑色	口縁部	SII17 4区	

表 10 出土遺物観察表(7)

遺構	番号	種別 器種	法 量 (単位 「推定値」) (16.4) 高さ 11.4	概 所 見	胎 土	使 用	色 調 内面 外面	残存率	出土場所 後 記	備 考
SI17B	11	土製器 甕	口径 16.4 底径 11.4	体部外面ナデ。内面模方向のヘラナデ 遺灰気味の練質成	石英、チャート、 金霞石、角閃石、 陶礫含	良好	灰褐色 にぶい褐色	口縁～ 脚部片	SI17 No1	
	12	土製器 甕	長さ 6.8cm 幅 1.9cm 中北部底径 1.8cm		石英、チャート	良好	褐色	把手部	SI17 No6	本体上部 剥落
	13	石製品 瓦	長さ 12.8cm 幅 10.1cm 厚さ 7.4cm 重さ 1.2kg						SI17 No7-B	
SI18	1	土製器 甕	口径 12.0 底径 2.6	体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ	石英、角閃石	普通	褐色	50%	SI18 No2、No3 SEF 灰下	
	2	土製器 甕	口径 11.1 底径 3.5	体部外面ヨガキ。内面ヨガキ	石英、チャート	良好	赤褐色	30%	SI18 No2 灰下	
	3	土製器 甕	口径 19.4 底径 7.5 高さ 21.4	体部外表面方向ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底部ヘラケズリ	石英、チャート	普通	赤色	80%	SI18 No1、No4 2区 灰下 内	
	4	土製器 甕	口径 6.0 底径 12.9	体部外表面方向ヘラケズリ 内面ヘラナデ	長石、石英 チャート	普通	黒褐色	40%	SI18 No6	
	5	石製品 瓦	長さ (12.3cm) 幅 5.8cm 厚さ 4.5cm 重さ 355g	軽灰岩					SI18 No5	
SI19	1	單熱器 甕	口径 7.3 底径 2.8	底面部ヘラケズリ 底部ヘラ記号「一」「十」	長石、石英 チャート	普通	灰色	85%	SI19 No20	
	2	單熱器 甕	口径 14.6 底径 8.3 高さ 4.1	体部下端側面ヘラケズリ 底部側面ヘラケズリ	長石、石英 海綿骨針	不良	灰褐色	80%	SI19 No24 覆土	
	3	單熱器 甕	口径 13.8 底径 7.2 高さ 4.6	体部下端側面ヘラケズリ 底部側面ヘラケズリ	長石、石英	良好	灰色	80%	SI19 No21 No3	
	4	單熱器 甕	口径 13.6 底径 7.4 高さ 4.6	底部側面ヘラケズリ 底部側面「十」	長石、石英 チャート 海綿骨針	良好	灰色	100%	SI19 No25	
	5	單熱器 甕	口径 13.8 底径 8.3 高さ 4.0	底部側面ヘラケズリ ヨロコロ右回転 ヘラ記号「一」	長石、石英 チャート 底部側面 海綿骨針	良好	灰色	完形	SI19 No11 1区	
	6	單熱器 甕	口径 14.1 底径 9.5 高さ 4.6	近縁へ二段弧面にかけて回転ヘラケズリ ヨロコロ右回転	長石、石英 チャート 底部側面 海綿骨針 黑色粒	普通	黄灰色 灰色	90%	SI19 No22、No23	
	7	單熱器 甕	口径 14.6 底径 9.4 高さ 4.8	近縁側面ヘラケズリ ヨロコロ右回転	長石、石英 チャート 底部側面 海綿骨針	不良	白・黃色	13H 完形	SI19 No19 No19 覆土	
	8	單熱器 甕	口径 13.4 底径 8.9 高さ 4.1	回転側面ヘラタリ離し ヨロコロ左回転	長石、石英 底部側面 海綿骨針	不良	灰褐色	70%	SI19 No12 2区 覆土	
	9	單熱器 甕	口径 13.8 底径 8.2 高さ 4.3	近縁側面ヘラケズリ ヨロコロ右回転	長石、石英 底部側面 海綿骨針	良好	灰色	13H 完形	SI19 No16	
	10	單熱器 甕	口径 14.4 底径 9.5 高さ 4.3	近縁側面ヘラケズリ ヨロコロ右回転	長石 黑色墨出	良好	灰白色	30%	SI19 No21 1区	
	11	土製器 甕	口径 (24.2) 底径 < 11.9 >	体部外面ナデ。内面ヘラナデ 内面に一帯粗版	長石、石英 底部側面 海綿骨針	良好	白・黃褐色 灰褐色	口縁部片	SI19 No10	
	12	土製器 甕	口径 — 底径 9.8 高さ < 6.8 >	体部下部ヨガキ 底部木葉瓶	長石、石英 白色母	良好	白・黃褐色 灰褐色 明褐色、黑褐色	脚部片	SI19 No18	
	13	土製器 甕	口径 15.4 底径 7.0 高さ (20.9)	体部内外面ヘラナデ 底部下部ヨガキ	長石、石英 チャート	良好	明褐色 黑色母	60%	SI19 1区 覆土	
	14	土製器 瓶	口径 (13.0) 底径 < 9.6 >	体部外面ヘラケズリ 内面斜削付のヨガキ	石英、長石 角閃石、海綿骨針	良好	褐色	20%	SI19 覆土	
	15	土製器 瓶	口径 21.8 底径 10.0 高さ 22.4	体部半周表面方向のヘラナデ 底部ヨガキヘラナデ・ヘラケズリ	磁質泥岩細片 石英、角閃石	良好	明褐色 白色母	完形	SI19 No17 No18 1区	
	16	石製品 刀子	長さ 11.1cm 基部幅 1.62~0.53cm 基部厚 2.9 ~ 3.7cm 刃部幅 1.10cm 刃部厚 3.0mm 鍔部斜角 30区ナゲ角						SI19 No15	
SI20	1	單熱器 甕	口径 14.5 底径 8.9 高さ 6.1	近縁二方斜肩ヘラケズリは二次近縁面 を掛けるように広く丁寧に作っている	石英、チャート	不良	灰褐色 灰白	60%	SI20 No11 3区	
	2	單熱器 甕	口径 14.3 底径 8.5 高さ 4.7	近縁側面ヘラケズリ。ヨロコロ右回転	石英、チャート 底部側面封多量	普通や不良	灰褐色	完形	SI20 No6	
	3	單熱器 甕	口径 (14.5) 底径 9.4 高さ 4.8	近縁側面ヘラケズリ。二次近縁面を掛けて いる。体部のヨロコロ右回転を含むナデの二 次調整で平滑にしている	石英、チャート 底部側面封多量	不良	灰白色	60%	SI20 No2 4区	
	4	單熱器 甕	口径 (14.2) 底径 9.2 高さ 4.8	近縁側面ヘラケズリ。 ヨロコロ右回転 体部のヨロコロ右回転を含むナデの二次調整 で平滑にしている	石英、チャート 底部側面封多量	やや不良	灰褐色	60%	SI20 No10 4区、16区火床	

表 11 出土遺物観察表(8)

遺構	番号	種別 器種	直 径	単位 (推定値) (推定値) 〔推定値〕 〔実測値〕	縦 横 概観	施 工	地盤	色 調	外 面	堆存率	出土場所 区 分	備考
					天井部1/2回転ヘラケズリ 内面 底盤 高さ 2.2	天井部1/2回転ヘラケズリ ロフロカスル	石灰、チャート 陶磁骨片	不良	灰白色 淡黃褐色	ほぼ定期	S120 No8	
6	6	陶製器 皿	口径 底盤 高さ 3.2	口径 〔15.1〕 底盤 高さ 3.2	ロフロカスル 内面に径約5cmの高台(巻き脚上段)あり 底盤付近との接続は焼き成り	石灰、陶磁骨片	良好	灰白色	50%	S120 トト ¹ トト ² 上段火床		
7	7	陶製器 蓋	口径 底盤 高さ 3.2	口径 〔15.7〕 底盤 高さ 3.2	内面平滑化、算掘き巻き脚あり 軸取付孔にての接続は焼き成り	石灰、陶磁骨片	普通	灰白色	30%	S120 No7		
8	8	陶製器 蓋	口径 底盤 高さ 2.8	口径 〔13.2〕 底盤 高さ 2.8	天井部1/2回転ヘラケズリ ロフロカスル	石灰、チャート 陶磁骨片	普通 小型火具	灰色	60%	S120 No3 4区 S117 3区		
9	9	陶製器 塊	-	-	表面斜行する平行凹き 内面掌状のあて具痕	石灰、チャート 陶磁骨片	良好	黄灰色 褐灰色	20%	S120 No6		
10	10	土師器 环	口径 底盤 高さ 4.2	口径 〔12.6〕 底盤 高さ 4.2	体部内外面ミガキ	石灰、チャート 金型瓦々、陶磁骨片	良好	褐色	40%	S120 P1, P6 4区		
11	11	土師器 环	口径 底盤 高さ <4.6	口径 〔12.6〕 底盤 高さ <4.6	体部内外面ミガキ、底部本漆版 内面ミガキ	石灰、陶磁骨片	良好	黒色、 にぶい褐色 黑色、 にぶい紫褐色	20%	S120 2区		
12	12	土師器 环	口径 底盤 高さ - 〔8.0〕	口径 〔25.0〕 底盤 高さ - 〔8.0〕	体部丁寧なハラケズリ後ハラナダ 内面構造方向の丁寧なハラナダ 体部二枚熱コマツ便としての利用か	石灰、白母貝 貝石	良好	にぶい黄褐色 にぶい褐色	15%	S120 No13, No17 P1 1区, 2区, 3区		
13	13	土師器 环	口径 底盤 高さ - 8.5	口径 〔24.0〕 底盤 高さ - 8.5	体部丁寧なハラケズリ後ハラナダ 内面構造方向の丁寧なハラナダ 体部二枚熱コマツ便としての利用か	石灰、白母貝	良好	にぶい黄褐色 明黄褐色	15%	S120 No14, No17 P1, P6 1区, 3区		
14	14	土師器 环 小型瓶	口径 底盤 高さ 8.5	口径 〔13.1〕 底盤 高さ 8.5	前方向ハラケズリ後ハラナダ 体部外側ハラカスル「十」、内面双付着	石灰	良好	灰褐色 淡黃褐色	15%	S120 No12		
15	15	陶製品 タルヌー體	長さ 16.8cm 幅0.7cm	厚さ0.6cm 重さ50.6g	把手部装飾・柄径3.3・(2.7)cm 把手部長さ<8.0>cm						S120 No18	
16-1	16-1	石製品 墨石	長さ14.0cm 幅12.5mm	厚さ5.5mm 重さ1.52g	石灰			灰白色			S120 No1	
16-2	16-2	石製品 墨石	長さ18.7mm 幅15.6mm	厚さ7.0mm 重さ2.78g	石灰			灰白色			S120 No10	
16-3	16-3	石製品 墨石	長さ17.3mm 幅12.9mm	厚さ7.5mm 重さ2.42g	石灰			灰白色			S120 No10	
16-4	16-4	石製品 墨石	長さ16.7mm 幅13.6mm	厚さ9.5mm 重さ3.16g	石灰			灰白色			S120 No10	
16-5	16-5	石製品 墨石	長さ14.1mm 幅11.8mm	厚さ6.4mm 重さ3.176g	メノウ			灰白色/半透明			S120 No10	
16-6	16-6	石製品 墨石	長さ15.0mm 幅13.6mm	厚さ5.8mm 重さ1.195g	チャート			にぶい赤褐色			S120 No10	
16-7	16-7	石製品 墨石	長さ16.7mm 幅16.6mm	厚さ5.2mm 重さ2.32g	角閃石片麻岩			灰オーラー色 /灰色			S120 No10	
16-8	16-8	石製品 墨石	長さ16.5mm 幅13.8mm	厚さ4.2mm 重さ1.54g	黑色頁岩			暗灰色			S120 No10	
16-9	16-9	石製品 墨石	長さ15.6mm 幅15.6mm	厚さ5.2mm 重さ1.87g	砂岩			暗緑灰色			S120 No10	
16-10	16-10	石製品 墨石	長さ17.5mm 幅14.2mm	厚さ4.9mm 重さ1.94g	砂岩			暗緑灰色			S120 No10	
16-11	16-11	石製品 墨石	長さ21.9mm 幅16.5mm	厚さ5.3mm 重さ2.08g	砂岩			暗緑灰色			S120 No10	
16-12	16-12	石製品 墨石	長さ19.3mm 幅15.7mm	厚さ6.6mm 重さ2.56g	砂岩			オリーブ灰色			S120 No10	
16-13	16-13	石製品 墨石	鐵砲石 重さ6.82g	砂岩				暗色			S120 No10	
16-14	16-14	石製品 墨石	長さ16.1mm 幅15.7mm	厚さ6.2mm 重さ2.33g	黑色頁岩			黑色			S120 No10	
16-15	16-15	石製品 墨石	長さ16.3mm 幅12.4mm	厚さ4.8mm 重さ1.45g	実炭を受けた灰岩			灰色			S120 No10	
16-16	16-16	石製品 墨石	長さ13.1mm 幅10.3mm	厚さ4.5mm 重さ1.05g	黑色頁岩			オリーブ灰色			S120 No10	
16-17	16-17	石製品 墨石	長さ15.1mm 幅13.6mm	厚さ6.0mm 重さ1.96g	角閃石片麻岩			灰オーラー色 /灰色			S120 No10	
16-18	16-18	石製品 墨石	長さ17.9mm 幅13.2mm	厚さ4.3mm 重さ1.64g	黑色頁岩			暗灰色			S120 No10	
16-19	16-19	石製品 墨石	長さ16.0mm 幅13.9mm	厚さ4.8mm 重さ1.63g	チャート			暗灰色			S120 No10	
16-20	16-20	石製品 墨石	長さ19.3mm 幅14.3mm	厚さ5.1mm 重さ2.18g	黑色頁岩			暗灰色			S120 No10	
16-21	16-21	石製品 墨石	長さ17.5mm 幅12.5mm	厚さ4.6mm 重さ2.01g	黑色頁岩			黑色			S120 No10	
16-22	16-22	石製品 墨石	長さ16.3mm 幅14.2mm	厚さ4.4mm 重さ1.80g	角閃石片麻岩			暗灰色			S120 No10	
16-23	16-23	石製品 墨石	長さ18.1mm 幅13.8mm	厚さ4.9mm 重さ1.87g	黑色頁岩			黑色			S120 No10	
16-24	16-24	石製品 墨石	長さ20.4mm 幅12.5mm	厚さ4.4mm 重さ1.72g	黑色頁岩			黑色			S120 No10	
16-25	16-25	石製品 墨石	長さ17.7mm 幅13.3mm	厚さ3.4mm 重さ1.25g	熱成炭を受けた砂岩			暗緑灰色			S120 No10	
17	17	石製品 切子玉	長さ18.9mm 幅14.5mm	厚さ1.3mm 重さ5.94g	水晶						S120 No19	

表 12 出土遺物観察表 (9)

遺構	番号	種別 器種	法 規		施 設	地 成	色 調	内 面	外 面	残存率	出土場所 記	備 考
			単位 cm (標定値)	cm (須定値)								
S121	1	土製器 皿	口径 底径 高さ	(19.4) — —	体部外面へラケズり、内面へラナダ	長石、石英 チャート	良好	褐色、黒色	口縁・体部斜 面	S121 4 区、覆土		
	2	土製器 皿	口径 底径 高さ	(22.6) — —	体上部外斜面横方向のヘラケズリ、下半部横方向へラケズリ・縦方向へラナダ	長石、石英 チャート	良好	黒褐色	口縁、体部下半 面	S121 4 区、覆土		
	3	土製品 支脚	最高 最底 高さ	< 13.9 4.6 4.9	象形的の下手皿、底辺は正方形 粗面	長石、石英 チャート	良好	明褐色	70%	S121 覆土		
S122	1	瓦製器 皿	口径 底径 高さ	— — < 2.4)	—	長石、石英	良好	褐色	底部片	S122 覆土		
	2	石製品 浮き	長さ cm 幅 cm 厚さ cm	5.7 4.9 0.7	孔径 0.7 cm 重さ 30g 粗石					S122 No1		
S124	1	瓦製器 皿	口径 底径 高さ	15.7 9.1 4.9	直面部横へラケズリ、クロロ右側斜 面	長石、石英 チャート	良好	黄褐色 褐色	60%	S124 No1		
	2	瓦製器 皿	口径 底径 高さ	(13.2) (8.4) —	直面部横へラケズリ	長石、石英 チャート	不良	灰褐色 褐色	30%	S124 No3		
	3	瓦製器 皿付仔	口径 底径 高さ	(18.4) (12.0) 6.4	—	長石、石英 チャート	良好	灰褐色	55%	S124 覆土		
	4	瓦製器 皿	口径 底径 高さ	— — 2.6	内面頂部付近に孔底の痕跡を有する 内面	長石、石英 チャート	良好	褐色	60%	S124 No4 P2		
	5	瓦製器 皿	口径 底径 高さ	23.2 — < 4.0)	裏面焼成のため外表面は焼成による自然釉が確認 後に擦出、内面は金属成分由来の黑色斑出	長石、石英 チャート	良好	黄褐色 黒褐色	S124 No4 P2			
S125	1	土製器 皿	口径 底径 高さ	(14.7) — 3.9	体部指痕 底部へラケズリ内面ミガキ	石英、角閃石	良好	褐色 にぶい黄褐色	40%	S125 No4		
	2	土製器 皿	口径 底径 高さ	(14.8) — (5.2)	体部へラケズリ、内面ナダ	石英、青碧岩	良好	褐色 黒褐色	20%	S125 2 区覆土		
	3	土製器 皿	口径 底径 高さ	— — (3.4)	内面黒褐色	石英	良好	黒褐色	口縁部片	S125 1 区 覆土		
	4	土製器 皿	口径 底径 高さ	— — < 2.7)	内外面褐色	石英	良好	褐色	口縁部片	S125 1 区覆土		
	5	土製器 皿	口径 底径 高さ	— — < 2.3)	内外面にガタ 目様な内面黒褐色	輝石	良好	褐色、棕色	口縁部片	S125 1 区覆土		
	6	土製器 皿	口径 底径 高さ	22.1 — < 31.4)	体部外面へラケズリ。裏面行逆面剥離 内面黒褐色のヘラナダ	長石、石英 角閃石	良好	黒褐色 明褐色	40%	S125 No2, P1		
	7	土製器 皿	口径 底径 高さ	(24.8) — < 9.9)	体部外面へラケズリ、内面へラナダ	石英、長石 チャート	良好	褐色 黒褐色	口縁部片	S125 No3		
	8	陶製品 縁	長さ	< 16.5)cm	刀型縁、厚 1.8cm, 0.3cm 端部縁、厚 3.5cm, 0.5cm					S125 No3		
S126	1	瓦製器 皿	口径 底径 高さ	12.4 8.4 5.0	裏面焼成へラケズリ・底ナダ、体部下端部砂心の砂 粒が動かなくなるまで擦離させてから、刮除方 向に擦るようヘラを当てて灰灰を持たせる	普通 やや不良	褐色 オーライト	褐色 やや不良	50%	S126 4 区		
	2	瓦 平瓦	長さ 幅 厚さ	(5.6) (4.4) 2.6	前面面白、凸面ナダ	石英、長石 チャート	良好	褐色 灰色	—	S126 4 区		
S127	1	陶製品 縁	長さ	< 3.6)cm	幅 0.4cm 厚さ 0.35cm 重さ 2.1 g 鉄錆の鉢部分					S127 覆土		
	2	瓦製器 皿	口径 底径 高さ	(4.0) — —	内面は平滑化し、端部の折り返し部も直つ て使用せず	南嶺骨許多葉	普通	褐褐色	小片	S127 覆土	写真のみ 用範	
S128	1	土製器 皿	口径 底径 高さ	(22.0) — —	内面黒褐色處理。ミガキ	石英、重晶石	良好	褐色 褐色	口縁部片	S128 No1, 2 区		
	2	土製器 皿	口径 底径 高さ	(9.6) — < 1.4)	逆面削除系切り	石英	良好	にぶい黄褐色 褐色	底部片	S128 1 区		
S129	1	瓦製器 皿	口径 底径 高さ	(11.6) (7.1) 5.2	直面部横へラケズリ、クロロ右側斜 面	石英、南嶺骨許多葉	良好	褐色	40%	S129 No5		
	2	瓦製器 皿付仔	口径 底径 高さ	11.0 6.5 5.1	裏面外縁高台内壁墨「奉」	石英、南嶺骨許多葉	良好	褐色	完形	S129 No6		
	3	瓦製器 皿付仔	口径 底径 高さ	9.6 (7.1) —	裏面外縁高台へラケズリ墨「奉」 内面平滑化した利用範囲	石英、チャート 南嶺骨許多葉	良好	灰白色	底部片	S129 No8		
	4	土製器 皿	口径 底径 高さ	— — < 5.1)	クロロ右側斜、内面黒褐色處理。ミガキ 体部外縁墨書「奉」	石英、雲母 南嶺骨許多葉	良好	褐色 明褐色	40%	S129 3 区		
	5	瓦製器 皿小	口径 底径 高さ	5.1 5.3 11.7	口縁部内面と側面に隕灰による濃い緑色の自然 縞	石英、雲母 南嶺骨許多葉	良好	褐色	完形	S129 No7		
	6	土製器 皿	口径 底径 高さ	(12.6) — < 2.0)	体下端部へラケズリ 内面黒褐色	石英多量 南嶺骨許多葉	良好	褐色 褐色	底部片	S129 4 区		

表 13 出土遺物観察表(10)

遺物	番号	種別 器種	直 径	単位 (推定値) cm	概観 所見	胎 土	焼成	色 調	内面 外面	残存半 分	出土場所 注記	備 考
S129	7	土師器 瓶	口径 （20.4）	（推定値） cm （推定値） cm	体部外曲ナギ、内面へラナギ	石英、チャート 黒母	良好	褐色 に点々黄褐色	20%	S129 ト9		
	8	土師器 小型壺	口径 —	—	体下半部へラケズリ、内面へラナギ	石英、金雲母	普通	暗褐色	体下半部	S129 ト9		
	9	鉄製品 鍵	長さ	5.0/cm	幅 3.2/cm 厚さ 0.2cm 重さ 12.219g						S129 P3	
	10	鉄製品 鍵	長さ	3.3/cm	幅 3.6cm 厚さ 0.4cm 重さ 8.320g						S129 No2	
	11	鉄製品 鍵	長さ	9.6/cm	刃部幅 0.9cm 厚さ 6.45cm 頂部幅・厚さ 6.5 × 0.45cm 重さ 3.36g						S129 No7	
	12	鉄製品 劍	長さ	5.7cm	幅 0.6cm 厚さ 0.5cm 重さ 6.4g						S129 P4 鹿塚	
	13	石製品 鏡	直径	< 4.3/cm (約 4.7)cm	厚さ < 0.65/cm (1.5cm) 粘膜質						S129 1 区	
S131	1	土師器 壺	口径 （14.9）	（推定値） cm （推定値） cm	ロク口形成 内面墨黒色處理、ミガキ	石英、陶磁骨 灰母	良好	褐色 褐色	50%	S131 1 区、 2 区 3 区		
	2	土師器 壺	口径 （23.6）	（推定値） cm （推定値） cm	体部上半部外面へラナギ、内面へラナギ	石英、チャート 黒母	良好	褐色	口縁部片	S131 No2		
	3	鉄製品 刀子	長さ	3.1/cm	幅 0.75cm 厚さ 0.3cm 重さ 1.49g 刃先片						S131 1977 内	
	4	石製品 鏡	長さ	10.0cm	幅 5cm 厚さ 1.7 ~ 5cm 重さ 225g 鏡灰岩						S131 No6	
S132	1	陶器器 小型壺	口径 （18.0）	（推定値） cm （推定値） cm	追跡跡跡へラ切り後一方へラケズリ	石英、チャート 陶磁骨持	やや不良	灰黄色	40%	S132 No15		
	2	陶器器 小型壺	口径 （9.8）	（推定値） cm （推定値） cm	追跡跡跡へラ切り。底部へラ記号「二」 体部墨書き「西口」	石英	普通	灰黄色	30%	S132 3 区		
	3	陶器器 壺	口径 13.3	（推定値） cm （推定値） cm	追跡跡跡へラ切り切。ヘラ記号「六」 墨書きへり	石英、チャート 陶磁骨持	良好	褐色	80%	S132 No3		
	4	陶器器 壺	口径 13.8	（推定値） cm （推定値） cm	追跡跡跡へラケズリ調整。	石英、チャート 陶磁骨持	普通	灰色	70%	S132 No12 2 区、休館		
	5	陶器器 壺	口径 13.4	（推定値） cm （推定値） cm	追跡跡跡へラ切り後ナギ 追跡跡跡外面部表面化粧	石英、チャート 陶磁骨持	普通	灰色	完形	S132 No14		
	6	陶器器 壺	口径 14.4	（推定値） cm （推定値） cm	追跡跡跡へラ切り後ナギ ヘラ記号「六」	石英、チャート 陶磁骨持	やや不良	灰黄色	60%	S132 No3 P4、4 区		
	7	陶器器 壺	口径 （14.0）	（推定値） cm （推定値） cm	追跡跡跡へラ切り後ナギ 追跡跡跡外面部表面化粧	石英、チャート 陶磁骨持	普通	灰黄色	50%	S132 No16		
	8	陶器器 壺	口径 13.8	（推定値） cm （推定値） cm	追跡跡跡へラ切り 追跡跡跡外面部表面化粧「コ」 墨書き 5.1 ヘラ記号「六」	石英、チャート 陶磁骨持	不良	褐色 に点々褐色	80%	S132 No2		
	9	陶器器 大型瓶	口径 （14.0）	（推定値） cm （推定値） cm	外面墨書き内面のヘラケズリへラナ 墨書き 6.7 追跡跡跡 （9.7）	石英	普通	灰色	60%	S132 No7 2 区、4 区		
	10	陶器器 壺	口径 —	（推定値） cm （推定値） cm	外面部平行引き 内面而て具としての掌痕	石英、陶磁骨 灰母	良好	灰黄色	体下半部	S132 No10 No11		
	11	陶器器 壺	口径 —	（推定値） cm （推定値） cm	外面部平行引き 内面而て具としての掌痕	石英、陶磁骨 灰母	良好	褐色	体下半部	S132 No9		
	12	土師器 甕	口径 （22.0）	（推定値） cm （推定値） cm	体下半部 下部前方に接着上げるヘラケズリ	石英、金雲母	良好	褐色 に点々黄褐色 に点々褐色	20%	S132 No13 2 区、4 区		
	13	土師器 甕	口径 （21.6）	（推定値） cm （推定値） cm	体部外曲ナギ、内面へラナギ	石英、白雲母	良好	褐色	口縁部片	S132 No17 ト11、1 区		
	14	土師器 甕	口径 （19.4）	（推定値） cm （推定値） cm	体部外曲や斜め縱方向へのヘラナギ 内面模様方向へのヘラナギ	石英、チャート 陶磁骨持、青閃石	良好	点々褐色 褐色	口縁部片	S132 ト9 4 区		
	15	鉄製品 火打棒	長さ	< 3.8/cm	幅 2.3/cm 厚さ 0.2cm 重さ 4.869g						S132 2 区	
	16	鉄製品 刀子	長さ	5.3/cm	刃部幅 0.8 × 0.4cm 間隔幅 1.5cm 基部幅・厚さ 0.7 × 0.5cm 重さ 7.4g						S132 No3	
	17	鐵滓	大きさ	打削された鉄滓片	重さ 23.5g						S132 4 区	写真のみ 用紙
	18	石製品 カマド灰石	大きさ	28.7cm	幅 10.3cm 厚さ 7.0cm 重さ 2.560g						S132 No24	
	19	石製品 灰脚立	石材	として 16 に接合するが、枕用灰 26.1 それぞれ別名に採用されている							S132 No6	
	20	石製品 カマド灰石	大きさ	28.7cm	幅 18.4cm 厚さ 9.0cm 重さ 3.41kg 灰灰質灰岩						S132 No23	

表 14 出土遺物観察表 (11)

遺構	番号	種別 器種	法 量 単位 cm （推定値）	概 察 所 見	胎 土	焼 成	色 調	内面 外面	残存率	出土場所 注 記	備 考
S133	1	單脚器 灰	口径 底径 高さ 3.2	口縁 底部内面ヘラケツリ 全体下部ヘラケツリ クロコ状凹起	長石、石英 石英 角閃石 チャート(青丸羅)	普通	青灰褐色	70%	S133 No3, No2 1区		
	2	單脚器 灰	口径 (10.7) (11.2) 底径 5.1	口縁 全体内面ヘラケツリ 内面ヘラナダ 内面 -	長石、石英 黑色磨出多量 角閃石	良好	青褐色 高温後成	20%	S133 1区		
	3	土師器 灰	口径 (24.0) 底径 -	口縁 全体内面ヘラケツリ 内面ヘラナダ 内面 -	長石、石英 黑色 石英 チャート	良好	青褐色 内面 -	口縫部分	S133 1区		
S134	1	土師器 灰	口径 (11.8) 底径 (2.7)	口縁 全体内面ヘラケツリ 内面ヨコテ	長石、石英	良好	青褐色 内面 -	口縫部分	S134 1区		
	2	土師器 灰	口径 (15.0) 底径 <4.0	口縁 全体内面ヘラケツリ 内面から口縁部外面黒色処理	長石、石英	良好	黑褐色	口縫部分	S134 2区		
	3	土師器 灰	口径 (16.2) 底径 <7.4	口縁 全体内面ヘラナダ 内面ヘラナダ	長石、石英 チャート	良好	褐色	口縫部分	S134 2区		
S135	1	土師器 灰	口径 (12.2) 底径 <3.8	口縁 全体内面ヘラケツリ 内面斜斜ヘラニガキ	長石、石英	良好	青褐色 内面 -	35%	S135 3区, 4区		
	2	土師器 灰	口径 (18.9) 底径 9.6 高さ 2.8	口縁 全体内面ヨコテ 内面ヨコテ 内面 -	長石、石英 角閃石 チャート	良好	明赤褐色 内面 -	30%	S135 No2, No1 1区, 6区		
	3	土師器 灰	口径 (16.2) 底径 7.5 高さ 12.0	口縁 全体内面ヨコテが奥に入る 全体外表面斜斜剥離 内面黒色処理	長石	普通	明赤褐色	30%	S135 No3		
S136	4	土師器 灰	口径 (14.0) 底径 4.6	口縁 全体上部ヘラナダ 内面黒色処理 チャート	長石、石英 チャート 角閃石	良好	明赤褐色 内面 -	30%	S136 No5		
	5	土師器 灰	口径 17.0 底径 9.0 高さ 18.2	口縁 全体内面上ヘラナダ 下半ヘラケツリ	長石、石英 チャート	良好	明赤褐色 青褐色	60%	S135 No14 2区		
	6	土師器 灰	口径 18.8 底径 <18.2	口縁 全体外面上ヘラナダ 内面ヘラナダ	長石、石英 チャート	良好	青褐色 内面 -	40%	S135 No6, No8 4区		
S137	7	土製品 灰陶	口径 20.8 底径 4.9 高さ 8.6	口縁 全体内面上ヘラナダ 内面 -	長石、石英	良好	明黄褐色	50%	S135 No13		
	8	土製品 灰陶	口径 (10.5) 底径 4.1 高さ 6.6	口縁 全体内面上ヘラナダ 内面 -	長石、石英	良好	赤褐色	80%	S135 No10		
	9	鉢形品	長さ 11.4cm 幅 6.1cm 厚さ <0.2cm	鉢形 底幅 基盤 -	長石、石英 チャート	良好	青褐色 内面 -	1/2E完形	S135 No12		
S138	10	鉢形品	長さ <3.6cm 幅 0.25cm 厚さ 0.35cm 重さ 1.8g	鉢形 底幅 基盤 -	長石、石英 チャート	良好	青褐色 内面 -	某の一部	S135 No5		
	11	單脚器 灰	口径 (17.6) 底径 4.1 高さ -	口縁 全体内面 -	長石、石英	やや不良	灰白色	口縫部分	S135 4区		
	12	單脚器 灰 共底板	口径 (9.6) 底径 - 高さ -	口縁 全体内面 -	長石、石英 角閃石 地質不良	不良	灰白色	口縫部分	S135 4区		
S139	1	土師器 灰	口径 9.4 底径 3.4	口縁 全体内面も摩耗しているが本來内面と も黒色地味む	チャート	良好	黑色 黑色、にぶい 黄褐色	30%	S136 No5 4区		
	2	土師器 灰	口径 (9.4) 底径 3.1	口縁 全体ヘラケツリ。内面ヨコテ	石英、チャート	良好	にぶい 黄褐色 灰色	40%	S136 3区		
	3	土師器 灰	口径 (12.6) 底径 5.0	口縁 全体ヘラケツリ 内面黒色処理 チャート	長石、石英	良好	黑色 青褐色 にぶい 黄褐色	30%	S136 4区		
	4	土師器 灰	口径 (12.2) 底径 4.4	口縁 全体ヘラケツリ 内面 -	石英、海綿骨針	良好	黑色 にぶい 黄褐色 黑色	30%	S136 No4		
	5	土師器 灰	口径 (15.4) 底径 -	口縁 全体 -	石英、チャート	良好	黑色 にぶい 黄褐色	30%	S136 4区		
S140	1	土師器 灰	口径 12.0 底径 4.5	口縁 全体内面ヘラケツリ 内面ヨコテ	石英、チャート 角閃石	良好	にぶい 黄褐色 黑色	30%	S137 1区		
	2	土師器 灰	口径 13.6 底径 <4.5	口縁 全体内面ヘラケツリ後粗粒なガキ 内面粗粒なガキ	石英、チャート 角閃石	良好	明赤褐色	35%	S137 1区		
	3	土師器 灰	口径 (14.9) 底径 4.6	口縁 全体内面ヘラケツリ 内面 - 内面黒色処理	石英、チャート 角閃石	良好	黑褐色 黑色	1/2E完形	S137 No22		
	4	土師器 灰	口径 (13.9) 底径 <4.1	口縁 全体内面ヘラケツリ 内面ヨコテ 内面黒色処理	石英、チャート 角閃石 南磁赤鉄	良好	にぶい 褐色 にぶい 黄褐色 黑色	80%	S137 No1		
	5	土師器 灰	口径 13.3 底径 4.6	口縁 全体内面ヘラケツリ後ぐちを 内面ぐちを 内面黒色処理	石英、角閃石 南磁赤鉄	良好	灰褐色 黑色 にぶい 褐色	1/2E完形	S137 No10		
	6	土師器 灰	口径 13.0 底径 5.7	口縁 全体内面 - 内面黒色 内面黒色処理	石英、チャート 角閃石 南磁赤鉄	良好	にぶい 褐色 ~黑色 にぶい 黄褐色 ~黑色	90%	S137 No23		
	7	土師器 灰	口径 (16.6) 底径 11.4	口縁 全体内面ヨコテ 脚部内面ヘラケツリ	石英、チャート 角閃石 南磁赤鉄	良好	黑色 黑色 にぶい 黄褐色	80%	S137 No9 1区 1区、表採		
	8	土師器 灰	口径 (9.8) 底径 8.0 高さ 9.3	口縁 全体内面ヘラケツリ後ぐちを 内面 - 内面 -	石英多量 チャート 角閃石 南磁赤鉄	良好	明赤褐色 黑色	60%	S137 No11, No27		
	9	土師器 灰	口径 (13.6) 底径 8.0 高さ 12.4	口縁 全体内面ヘラケツリ 内面 -	石英多量 角閃石 南磁赤鉄	良好	にぶい 褐色	40%	S137 No20		

表 15 出土遺物観察表(12)

遺構	番号	種別 器種	寸 量	調査 所見	地 土	焼成	色 調	内面 外面	保存率	出土場所 記	備考
S137	10	土師器 甕	口径 底径 高さ < 24.9 cm < 11.9 cm < 11.9	胴下半部にガタ 鋼鋸下半部へラケズリ痕及びガタ	石質、角閃石 青銅骨針	良好	にごい・黄褐色	口縁部片	S137 No17-No25 4区		
11	土師器 甕	口径 底径 高さ < 7.2 cm < 7.2	-	石灰、チャート 角閃石、青銅骨針	良好	緑色	底部片	S137 No19 2区			
12	土師器 甕	口径 底径 高さ < 31.1 cm < 31.1	口径 底径 (8.5) 高さ < 31.1	胴部外表面方向のラケズリ 鋼鋸中段横方向のラケズリ	石英多量、チャート	普通	にごい・黄褐色	80%	S137 No5-No7 No11-No12-No21 1区 2区 3区 4区		
13	土師器 甕	口径 底径 高さ < 28.3 cm < 10.0	口径 底径 高さ < 28.3 cm < 10.0	胴部外表面へラケズリ後ナデ 鋼鋸丸目	石灰、チャート	普通	青褐色 青黄色	下半部の 部分	S137 No2-No6 No7-No24 1区 2区 3区 4区		
14	土師器 甕	口径 底径 高さ -	-	石灰、長石	普通	にごい・褐色 黒色	鋼鋸片	S137 No21	写真的 み掲載		
15	土師器 甕	口径 底径 高さ -	-	石灰、チャート	良好	緑色	胴下半部片	S137 No11 1区 2区 4区	写真的 み掲載		
16	樂器 破片	口径 底径 高さ < 10.8 cm < 10.8	-	外表面全目 内面同心円文で呂版	石灰、青銅骨針	良好	灰色	体部片	S137 No32		
17	手握土器	口径 底径 高さ 8.5 5.3 5.3	-	全体指ナデ 底部丸葉植物紋立	石灰、青銅骨針	良好	にごい・黄褐色	口縁部片	S137 No13		
18	土製品 支撑	口径 底径 高さ < 5.6 cm < 5.6	-	画面のみを広げた円柱形 全段指捺	白色粘多量	良好	黒色	下部	S137 No11		
19	土製品 支撑	高さ 3.0cm	直径 3.2 ~ 3.5cm	孔径 0.8cm 重さ 35g	白色・石英多量	良好	黒色	完形	S137 No26		
20	土製品 丸玉	高さ 2.8cm	直径 2.7cm	孔径 0.7cm 重さ 15g	織物	良好	緑色	完形	S137 No28		
21	土製品 丸玉	高さ 2.5cm	直径 0.6cm	孔径 0.6cm 重さ 20g	白色・石英極小粒 多量	良好	緑色	90%	S137 No1		
22	土製品 内柱状土溝	長さ - cm	直径 (5.0)cm	孔径 1.7cm 重さ 132.43g	白色・石英極小~小 粒多量、赤色少量	良好	にごい・褐色	2片	S137 No18 2区		
23	土製品 内柱状土溝	長さ 11.4cm	直径 4.7cm	孔径 1.7cm 重さ 99.13g	石英粒少量、石灰・ 白色小粒少量、赤色 粒多量	良好	にごい・褐色	30%	S137 2区		
S138	1	土師器 甕	口径 底径 高さ (13.4) cm -	全表面を包む 筋状	青銅骨針を含む 筋状	良好	緑色	口縁部片	S138 1区		
2	樂器 表面付着	口径 底径 高さ 6.2 cm -	直通3脚へラケズリ 直通外表面へ鉛筆「二」	長石、石英 チャート 青銅骨針	中心不良	灰白色	裏面部片	S138 No2			
3	樂器 表面付着	口径 底径 高さ (11.0) cm (6.7) cm 5.0	直通3脚へラケズリ 直通外表面へ鉛筆「一」	長石、石英 青銅骨針 チャート	普通	灰色	30%	S138 1区			
4	樂器 表面付着	口径 底径 高さ (11.0) cm (7.6) cm 5.0	直通3脚へラケズリ 直通外表面へ鉛筆「二」	長石、石英 青銅骨針	良好	灰色	40%	S138 No1			
5	土師器 甕	口径 底径 高さ (19.1) cm -	-	長石、石英	良好	にごい・褐色	口縁部片	S138 1区			
6	樂器 甕	高さ 5.3cm	幅 8.55cm 厚さ 0.35cm	開口 1.3cm 重さ 3.3g					S138 No3		
S139	1	土師器 甕	口径 底径 高さ (11.8) cm 3.3	直通へラケズリ 内面にガタ	石英、長石 角閃石、チャート	良好	にごい・褐色	口縁部片	S139 ??土		
S140	1	土師器 甕	口径 底径 高さ 8.8	足踏面台	熟練の石英・石英 青銅骨針	良好	にごい・褐色	裏面部	S140 No1		
S141	1	樂器 甕	口径 底径 高さ (14.0) cm -	外表面黒色絆着物	熟練の石英・石英 青銅骨針、チャート 青銅骨針	良好	青褐色	口縁部片	S141 2区		
2	土師器 甕	口径 底径 高さ (23.5) cm -	細部指捺 体部外表面の擦なぐガタ	長石、石英 全段骨格化	良好	にごい・褐色	15%	S141 No1 1区 3区			
3	土師器 甕	口径 底径 高さ (23.5) cm -	体下半部外表面にガタ 内面にナラダ	長石、石英 白雲母	良好	網褐色	30%	S141 2区	網褐色		
S142	1	土師器 甕	口径 底径 高さ (14.9) cm -	ヨク口成形 内面黑色処理・ミガキ	石灰、長石 チャート	普通	褐色 褐色	口縁部片	S142 楽土		
S143	1	樂器 甕	口径 底径 高さ (15.8) cm -	長石、青銅骨針 熟練化	長石、青銅骨針 熟練化	良好	灰色	口縁部片	S143-P5		
2	樂器 甕	口径 底径 高さ (16.0) cm -	-	長石、白色片岩 青銅骨針	良好	灰色	口縁部片	S143-P6	S143-P5		
S144	1	土師器 三脚	口径 底径 高さ < 9.9 cm	-	長石、石英	良好	青褐色	口縁部	S144 No20	S142-P1	
S145	1	有縫 甕	口径 底径 高さ -	磁器灰土	磁器灰土	良好	青・灰褐色 断面・明暗灰色	体部片	P2	S143-P9	
2	反張陶器 灰釉	口径 底径 高さ -	体下半部に淡灰色自然釉	磁器灰土	良好	淡灰色	体部片	P9	S143-P9		

表 16 出土遺物觀察表 (13)

遺構	番号	種別 器種	法 則		範 囲	所 見	胎 土	焼成	色 調	内面 外面	保存率	出土場所 注 記	備 考
			半径 （cm）	幅 （cm）									
SE01	1	瀬戸 片口鉢	口径 （31.6） 底径 （—） 高さ （—）	瀬戸先史窯 17世紀後半手立	瀬戸	良好	浅黄褐色	口縁部	SE1 ??土				
SE02	1	津洋 陶器	口径 （4.1） 底径 （—） 高さ （—）	津市藤井、現川窯、 1700年～1740年代	瀬戸	良好	珊瑚色	底部片	2号井戸				
	2	陶器 皿	口径 （14.4） 底径 （—） 高さ （—）	青磁釉陶器窯、肥前窯 1650～1720年代	瀬戸	良好	灰褐色	40%	2号井戸				
3	陶器 大皿	口径 （21.4） 底径 （—） 高さ （—）	志賀島窯、瀬戸・美濃窯 1600～1670年代	瀬戸	良好	灰白色	底部片	2号井戸					
4	陶器 大鉢	口径 （25.5） 底径 （—） 高さ （—）	三島物語、唐津窯 17世紀後半～1710年代	瀬戸	良好	灰・黄褐色	口縁部	2号井戸					
5	陶器 洗	口径 （—） 底径 （—） 高さ （—）	鶴林、五合利窯、瀬戸・先史窯 17世紀後半手立	瀬戸	良好	灰褐色 裏面：灰褐色	屑部片	2号井戸					
6	青磁 皿	口径 （—） 底径 （—） 高さ （—）	きわめて細緻	瀬戸	良好	オリーブ色 裏面：明緑灰色	体部小片	2号井戸					
7	石製品 茶臼	直徑 （22.0）cm 高さ（15.0）cm	上臼片 砂岩									上臼片	2号井戸
SK01	1	圓文 深鉢	口径 （—） 底径 （—） 高さ （—）	圓文上無文等で縦に凹凸 加賀利式	白色・石斑多量	良好	黑色 或黃色	脚部片	SK1				
	2	圓文 深鉢	口径 （—） 底径 （—） 高さ （—）	破壊縫に圓文（単折LR）全く圓 加賀利式	白色多量	良好	黑褐色 或灰・棕褐色	脚部片	SK1				
SK01	1	土師器 桶	口径 （12.0） 底径 （7.1） 高さ （6.2）	長石、石英 の網目状	長石、石英 の網目状	良好	灰・黄褐色	40%	SK1 No3				
	2	土師器 桶	口径 （13.6） 底径 （—） 高さ （—）	内面黒色處理・ミガキ 底部高台内ミガキ	長石、石英 の網目状	良好	明赤褐色	40%	SK1 No1				
3	土師器 桶	口径 （—） 底径 （—） 高さ （4.8）	石質	チャート	良好	褐色	40%	SK1 No2					
4	土師器 小皿	口径 （9.8） 底径 （—） 高さ （—）	金環錐	チャート	良好	灰褐色	20%	SK1					
SK05	1	土師器 小皿	口径 （9.8） 底径 （5.8） 高さ （—）	表面凹凸系、ロクロ口判別	長石、石英 チャート	良好	褐色	60%	SK12 2区 SK5 ??土				
	2	土師器 桶	口径 （14.6） 底径 （—） 高さ （—）	内面黒色處理・ミガキ	長石、石英 チャート	良好	灰・黄褐色	60%	SK5 ??土 SK12 2区				
3	土師器 桶	口径 （7.0） 底径 （—） 高さ （—）	内面黒色處理・ミガキ 底部高台名切印	長石、石英 チャート	良好	浅褐色	底部片	SK5 No6					
4	土師器 桶	口径 （7.2） 底径 （—） 高さ （—）	内面黒色處理・ミガキ 内底面アーチ	長石、チャート の網目状	良好	明赤褐色	底部片	SK5 No3					
5	土師器 甕	口径 （23.3） 底径 （—） 高さ （—）	体部と底部双方へラナデ 内面黒色向のみラナデ	石英 チャート	良好	灰・黄褐色 黒褐色	口縁部	SK5 No1					
6	石 被熱器	長さ （13.1cm） 幅 （10cm） 厚さ （4.7cm） 重さ （830g）							付した被熱器	SK5 No8	写真のみ 掲載		
SK06	1	土師器 桶	口径 （6.6） 底径 （—） 高さ （—）	内面ミガキ	石英 金剛石和多量	良好	褐色	40%	60%				
	2	跳瓢器 タルル瓢器	直径 （約0.9m） 底径 （—） 高さ （—）	輪郭規定直徑0.9m 把手部規定直徑2.4～2.1cm 輪郭規定直徑0.9m 把手部規定直徑2.4～2.1cm 本体と把手部が直角に折れ曲がる									
SD01	1	土師器 瓶	口径 （25.2） 底径 （—） 高さ （—）		長石、石英	良好	灰・褐色	口縁部	SD1 No1, ??土				
2	土師器 高支脚 小皿	高さ （15.1） 底径 （6.5） 高さ （6.0）		長石、石英 少量	良好	上部：褐色 下部：墨色	90%	SD1 No1					
3	跳瓢器 瓶	長さ （4.0cm） 幅 （1.4cm） 厚さ （0.3cm） 重さ （7.3g）										SD1 北麻屋面	
4	跳瓢器 瓶	長さ （4.9cm） 幅 （0.2～0.4cm） 厚さ （0.2～0.4cm） 重さ （2.75g）										SD1 東17号	
SD02	1	灰陶器 小皿	口径 （—） 底径 （—） 高さ （—）		瀬戸	良好	灰白色 輪：淡褐色	体部小片	SD2 2区				
	2	灰陶器 皿	長さ （7.2cm） 幅 （5.6cm） 厚さ （3.6cm） 重さ （161g）										SD2 ??土
	3	石製品 碗	長さ （5.1cm） 幅 （5.2cm） 厚さ （4.0cm） 重さ （115g）										SD2 2区
SD03	1	陶器 盤	口径 （—） 底径 （—） 高さ （—）		瀬戸	良好	灰褐色	口縁部	SD3 1区				
Pi16	1	須恵器 高脚盤	口径 （—） 底径 （—） 高さ （—）		長石、石英少量	良好	褐色 或有灰色	脚部片	Pi6				
Pi129	1	土師器 桶	口径 （16.6） 底径 （—） 高さ （—）	内面一方向ミガキ後体部内面側面方向の丁寧な ミガキ	長石、石英少量	良好	褐色 或有灰色	脚部片	Pi29				

表 17 出土遺物観察表(14)

遺種	番号	種別 器種	法 規	備 考	施 察 所見	胎 土	焼成	色 調	内 面 外 面	残 存 率	出 土 場 所 及 其 他	備 考
遺構外	1	繩文 深鉢	地紋の調文はヘナマーで軽く消され、口縁直下の円形溝みの 内側に「V」字溝上に輪字を描く。 腹之内1式		黒褐色 角質化	良好	にがい・黄褐色 黒褐色	口縁部片	SII1 2区			
	2	繩文 深鉢	地紋の調文は汎用で圓文と渦巻文を焼き。沈澱間にできた 細かい砂に砂巻上に輪字を入れる。 腹之内1式		白色粘・石英多 高嶺石骨	良好	褐色 黑色	輪部片	SII2 3区			
	3	繩文 深鉢	地紋の調文は汎用で圓文と渦巻文を焼き。沈澱間にできた 細かい砂に砂巻上に輪字を入れる。 腹之内1式		細密 白色粘極少	良好	にがい・褐色	輪部片	SII05 3区			
	4	繩文 深鉢	單節式L調文を地紋とし、終条体による鶴串文を施す。 腹之内2式		白色粘・ 石英無紀多	良好	赤褐色	輪部片	SII3 4区			
	5	繩文 深鉢	單節式L調文を地紋とし、半截竹管で平行輪縫を焼き。 腹之内2式		細密 白色粘極少	良好	明褐色	口縁部片	SII08 4区	6と同一 銅体		
	6	繩文 深鉢	地紋に半截竹管による2重底輪 縫之内2式		白色粘 石英無紀多	良好	にがい・黃褐色	輪部片	SII3 1区	5と同一 銅体		
	7	石器 磨石・叩石	長さ 10.2cm 幅 10.8cm 厚さ 2.8cm 重さ 470g 砂岩							SII3 No10		
	8	石器 磨石・叩石	長さ 9.9cm 幅 7.6cm 厚さ 4.6cm 重さ 405g 安山岩							SII2 No24		
	9	石器 磨石・叩石	長さ 13.5cm 幅 9.6cm 厚さ 5.6cm 重さ 1000g 砂岩							SII18 ??土		
	10	石器 磨器	長さ 10.6cm 幅 10.8cm 厚さ 3.6cm 重さ 555g 花崗岩							SII9 ??土		
	11	石器 磨石	長さ 8.1cm 幅 6.5cm 厚さ 3.0cm 重さ 220g 砂岩							SII16 1区		
	12	石器 磨石	長さ 9.6cm 幅 9.6cm 厚さ 2.4cm 重さ 330g 安山岩							SII10		
	13	石器 磨石	長さ 6.9cm 幅 6.2cm 厚さ 3.7cm 重さ 205g 砂岩							SII11 No29		
	14	石器 磨石	長さ 11.3cm 幅 10.3cm 厚さ 4.3cm 重さ 515g 砂岩							SII17 4区		
	15	石器 未製品	長さ 6.6cm 幅 4.5cm 厚さ 2.6cm 重さ 65g ホルンフェルス							SII4 3区		
表土	16	壓痕器 長柄壓	口縁 直径 最高 (11.2) 最低 (6.8)	外周体部下端に織物圧痕	長石・黑色鐵斑化	良好	竹子灰	底部片	SII2 1区			
	17	壓痕器 蓋	口縁 直径 最高 (6.0) 最低 (4.8)	小型壓痕器カ 通い緑色自然釉	長石・黑色鐵斑化	良好	竹子灰	底部片	SII2 1区			
	18	灰輪陶器 長柄壓	口縁 直径 最高 (12.4) 最低 (7.6) 中央 2.9		細密・黑色鐵斑	良好	灰褐色	底部片	SII3 1区			
	19	壓痕器 長柄壓	口縁 直径 最高 最低 -	プラスコ型	精良	良好	灰白色	底部片	SII07 3区	湖西古窯 耐熱能力		
	20	土頭器 环	口縁 直径 最高 最低 (12.4) (7.6) (2.9)	底部内側へラ切り	長石・石英	良好	にがい・黃褐色	60%	表探			
	21	壓痕器 蓋	口縁 直径 最高 (12.4) 最低 (6.0)	小型壓痕器环	長石・石英	良好	灰色	脚部片	表土			

第4章 総括

東前原遺跡第17地点からは縄文時代の陥し穴3基、古墳時代の竪穴建物10軒、奈良平安時代の竪穴建物33軒、掘立柱建物2棟、土坑7基、中世～近世の道路跡1条、掘立柱建物1棟、近世の井戸2基、時期不明の土坑9基、ピット47基が確認されている。出土遺物は、縄文時代中・後期の土器、古墳時代後期の土師器・須恵器・土製品、奈良平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品・石製品・土製品、近世の青磁・陶磁器・石製品が見られる。

東前原遺跡第17地点の時代ごとの概要

本調査地点の土地利用の開始は、縄文時代後期の陥し穴の構築である。3基の陥し穴の内1・2号陥し穴は長軸方向が北西から南東方向を向き、2基が同じ向きに約15mの間隔を持って並んでおり同時期の陥し穴と見られる。3号陥し穴も同時期のものとすると西南西から東北東方向に直線的に並んでいる。2号陥し穴は最初に溝状陥し穴として深く掘られており、その後深い部分を埋めて底面を平坦にしてより浅く造り直をしている。新しく造った陥し穴の底面には、落下した小動物が逃れようとして側壁を掘り込んだような大きさの穴が多数見られた。

その後、古墳時代後期に集落が成立し奈良・平安時代に続いている。奈良時代は本調査地点で集落が最も隆盛した時期である。竪穴建物からなる集落は11世紀まで続いている。

中・近世の遺構としては、道路跡が東西方向に延びている。僅かに出土している遺物からは16世紀頃から近世にかけての時期の可能性が考えられる。道路の主軸方向と合わせて北側に3×4間の不等間の掘立柱建物とさらに北側に17世紀後半頃と見られる井戸がある。17～18世紀頃の井戸は東側の調査区の北部にもあり道路沿いに生活空間があったものと見られる。

古代の集落の開始と変遷（第114図）

本調査地点において集落の始まりは古墳時代後期に至ってからである。最初の竪穴建物は6世紀の後葉頃、西側調査区の西寄りに建てられた大型の16号竪穴建物である。同時に調査地区西端に南北方向に直線的な溝が掘られている。溝は側壁面がほぼ垂直に立ち上がり、側壁直下に小溝が掘られており、区画溝というよりは側板を立てて水を流しているかのような溝である。集落の成立に伴い導水をするなど周辺の施設環境を整えているのかもしれない。東側調査区には床に柱穴も出入り口ピットも持たない中型の37号竪穴建物が時期的にやや遅れて見られる。最初に成立する16号竪穴建物のある場所は6世紀末から7世紀初めころにかけて中核となった場所と見られ、17A・18号竪穴建物へと変遷していく。一方7世紀の中頃になるとやや大型の25号竪穴建物や34号竪穴建物が西側調査区の東寄りに成立し、36号竪穴建物が東側調査区に造られる。その後東側調査区では7世紀末に36号竪穴建物から35号竪穴建物へと遷り変わる。

8世紀前葉になるとかつて古墳時代の集落成立当初中核と見られた地点に大型の20号竪穴建物が造られる。さらには8世紀第2四半期頃を中心に竪穴建物が急増している。竪穴建物の配置は東西・南北方向に5～10mの間隔を空けて建てられ、最初に成立した20号竪穴建物の西に大型の7・11号竪穴建物、11号竪穴建物の北側に中型で4本柱穴を持つ10号竪穴建物が造られている。それらを中心にして4本柱を持たない5・13・15・16号竪穴建物が南北に2棟ずつ見られる。4本柱を持った床面積の大きな竪穴建物は構造的にもしっかりとした主屋であると想像でき、小振りでカマドと出入り口ピットしかない家は簡素な構造の家であったのではないかと見られる。同時期の茨城県南部の遺跡では大型竪穴建物ばかりが主体で、小型の無柱の竪穴建物と組んで存在するというのは珍しいと思われる。また、最盛期であった8世紀第3四半期頃に營まれた11軒の竪穴建物が8世紀後葉にまとまって廃絶している。火災の痕跡も見られず、まとまっての廃絶にはなんらかの原因があったのではない

だろうかと想像される。単に集落内の別の場所に建て替えが行われた可能性もあるが、なんらかの力が働いていはずかの地に集団移動した可能性もあるかもしれない。あるいは主屋が竪穴建物から掘立柱建物に変わった可能性もあるだろうかと想像する。

8世紀後葉には前代に中核となっていた地点の周間に小型の3・9・22号竪穴建物が存在している。掘立柱建物柱穴から出土した須恵器蓋小片から見て1・2号掘立柱建物は8世紀後葉～9世紀前葉の時期の可能性が考えられる。掘立柱建物は2×3間の南北棟で倉庫と考えられる建物だが、前代までの中核地に建てられた掘立柱建物はこのエリアの北側に掘立柱建物の主屋があるのではないかとも考えられる。

9世紀前葉頃には西側調査区の東端に竪穴建物が4軒まとまって見られ、壁寄りに主柱穴を持つ大型の29・41号竪穴建物の2軒と主柱穴のない28・31号竪穴建物の2軒である。集落の中心は西側調査区の東端部に移ったよう見受けられる。この時期の竪穴建物で特徴的なのは主柱穴をこれまでの位置からずらして、北壁寄りの位置に移動する構造のものが目立つ点である。県西部や県南部でも9世紀になると北壁・南壁寄りに主柱穴の位置をずらして、南北方向に長い(出入り口側から見て縦長)の竪穴建物に形態を変化させているが、水戸市域の9世紀前半の竪穴建物の中には、北側の主柱穴2本だけを北壁寄りに移動している例が目につく。

9世紀中葉には8号竪穴建物が1軒のみ見られる。9世紀後半には壁寄りに主柱穴の位置をずらした構造を受け継ぐ大型の32号竪穴建物が東端地区にあり、西側調査区西端にも小～中型の竪穴建物3軒が見られる。

10世紀前半代には1B・4B・17B・38・42号竪穴建物の4軒が見られる。その後、10世紀後半から11世紀の初めまで竪穴建物は確認できず集落としては一旦途絶てしまい、11世紀第2四半期頃に12号竪穴建物1軒のみが見られる。竪穴建物はこれを最後に姿を消し、集落としての姿はたどれなくなる。

東前原遺跡出土遺物について(第115図)

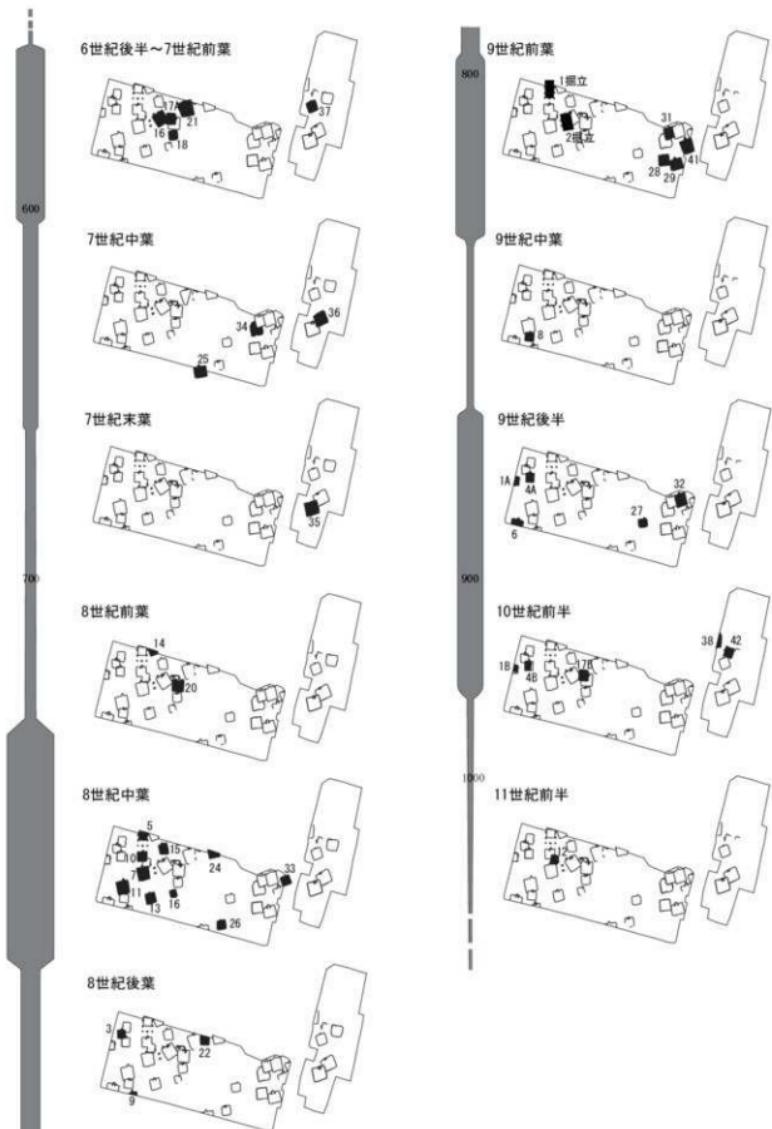
1 古墳時代(6～7世紀)の出土遺物

東前原遺跡から出土している古墳時代後期の6世紀後葉頃から7世紀にかけての土器の概要と特徴についてまとめたいと思う。

6世紀後葉頃と見られる16号・37号竪穴建物出土の土師器類は壺・鉢・甕・瓶・高壺があり、壺は内外面を黒色処理し内面にミガキをかけたものが多い。茨城県内ではこのような形状・特徴の壺はこの時期頃から一気に広まる。甕は球胴形、瓶はやや長胴気味、16号竪穴建物5の甕は胴下半部に最大径を持つ下膨れである。高壺はやや長脚で器高が高く口縁部が外反して開いている。高壺の壺部の形状は福島県中通地方の栗圓式古段階の高壺に似ており(柳沼1989)、下膨れの甕などとともに栗圓式古段階の土器群との関連が窺える。16・37号竪穴建物の出土遺物の時期は須恵器を伴う遺跡との比較からTK209段階頃のものと見られる。

次の7世紀中葉頃の建物は25・34・36・39号竪穴建物があげられる。36号竪穴建物の土師器の壺は内外面黒色処理が1点、内面にのみ黒色処理したものが3点あり、小振りで無彩のものが1点ある。25号竪穴の壺は無彩のものと内外面黒色処理のものが半々くらいあり、39号竪穴建物の壺は黒色処理がほどこされていない。7世紀中頃には黒色処理の退化傾向が窺えるようである。

7世紀第4四半期頃と見られる35号竪穴建物出土遺物は無彩で内面に放射状のミガキを施したりや小振りの壺と赤彩の壺、須恵器の蓋・壺が特徴的である。土師器の壺に放射状の丁寧なミガキを施すのは飛鳥時代に畿内で流行しておりその影響があるのであろうか。35号竪穴建物からは木葉下窯跡群産とは異なる須恵器2点が出土している。須恵器の蓋は水戸市木葉下窯跡群A地点灰原から出土したものに形状は類似しており、時期的には木葉下窯跡群の最も古い段階頃のものと同じ時期のものと見られるが、高台のついた壺の体下半部とともに胎土の特徴が木葉下窯跡群産のものとは異なっている。蓋と壺の胎土は大きめの鉱物・岩片粒を含まない微細粒を主



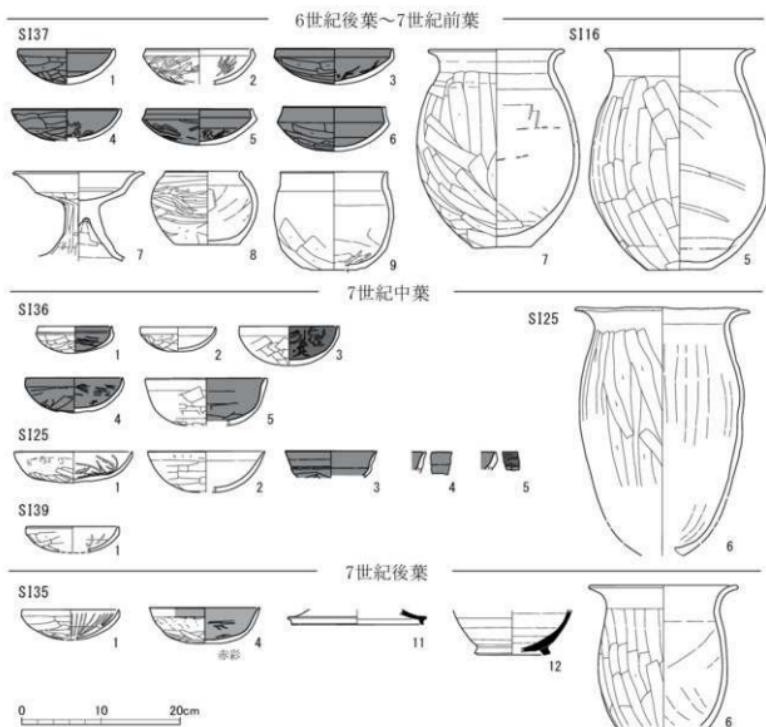
第 114 図 古墳～平安時代の集落変遷図

体とした精良な胎土で、焼成はやや不良で灰白色という共通した点があり同一窯の生産品かと思われる。木葉下窯跡群とは別の窯で本遺跡から距離的に近く、時期的にも近い条件を勘案すると東海村御所内窯産の可能性を想定してみたい。木葉下窯跡群で大量生産が始まるとの生産量が少なめな段階の流通品ではないだろうか。

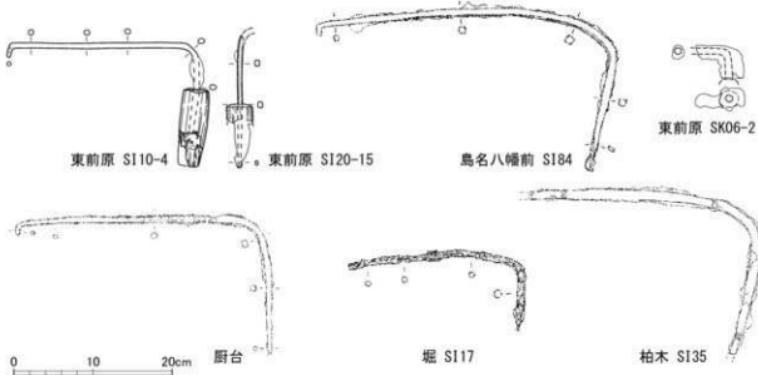
2 奈良・平安時代の出土遺物について

奈良・平安時代の出土遺物の中でも特異な遺物について触れておきたい。10・20号堅穴建物からはクルル鉤が出土している。茨城県内の奈良・平安時代のクルル鉤の出土例は第116図に示したが、8世紀代の鹿嶋市厨台遺跡出土例は、先端六角形、開錠部八角形、軸部で四角形に面取りされている。本遺跡の8世紀中葉の10号堅穴建物例では先端から開錠部にかけて全体に丸味を持ち多面体のようにも見える。9世紀代の島名八幡前遺跡例では開錠部で四角く面取りされており、10世紀の柏木遺跡例も開錠部長方形である。開錠部断面は円か多面形から面取りした四角形に変化しているようである。これらのクルル鉤出土の堅穴建物は倉庫の管理に係る者の家であったと見られる。調査区内に同時期の管理すべき倉庫は見られないで、本遺跡内のどこか別の地点か、近隣遺跡にあったものと思われる。近接する大串遺跡は、掘込み地業による礎石建物跡や規模の大きな掘立柱建物が複数確認されている。それらの遺跡との関連性を考えてもよいのではないだろうか。

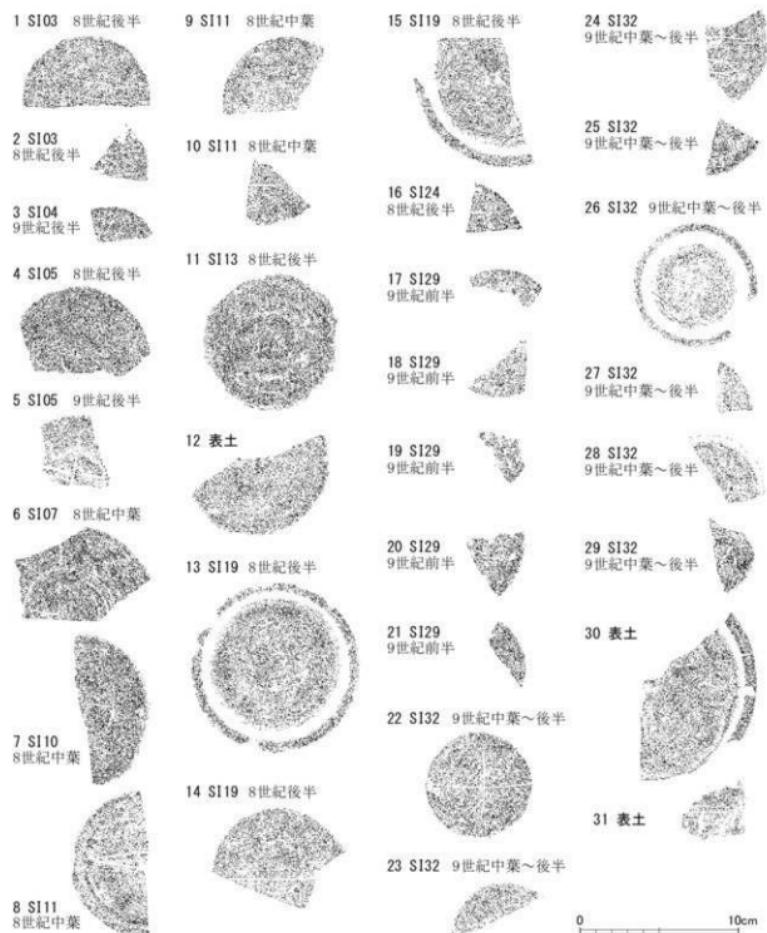
20号堅穴建物からは、水晶製切子玉が出土しており、堅穴建物の廃絶に伴ってカマド前面で祭礼を行っていたと見られ、切子玉を8世紀前半まで所持し祭礼に使用していたと思われる。同じ堅穴建物の床面からは扁平で小型の自然石が全部で25個出土している。色調は黒色・暗灰色のものが多く白色や赤色もある。出土状況は拳大の範囲にまとまって出土しており、小袋に入っていたかのような出土状況である(第54図)。石材は、第56図・図版26の16-1, 2, 3, 4が石英、5がメノウ、6, 19がチャート、7, 17, 22が角閃石片麻岩、8, 14, 16, 18, 20, 21, 23, 24が黒色頁岩、9, 10, 11, 12, 13が砂岩、15が熱変成を受けた凝灰岩カ、25が熱変成を受けた砂岩である。類例を探ると藤原京跡出土の「碁石」とよく似ている。藤原京出土の碁石は藤原京右京三条三坊の邸宅跡の建物柱抜き取り穴から30個まとめて袋か容器に入れられていたような状態で出土している。白石18個、黒石19個で、白石がチャート、黒石が黒色頁岩と砂岩からなっているという。松村恵司氏はその用途について碁石なのか双六子なのか決定できないものの、他の京内出土例も含めて碁石としての使用を推測している(松村1998)。出土個数は藤原京例30個、本遺跡例25個で、両者ともあまり多くはない数の石をまとめて保管していたことになる。魔術の時点までに失われたものも当然考えられるが、围棋の場合白黒合せて100個以上の数を使用するので、碁石としてはあまりにも少なすぎる。そのため30個程の石数で使用した盤双六の双六子を想定する方が理解しやすいのではないだろうか。当時の世情を見ると、『日本書紀』天武14(685)年9月に宮廷内で博戯の会を催したと記されており、宮廷内で催された博戯の遊戯具は盤双六と考えられている。また、持統3(689)年12月には「双六を禁ずる」という禁令が出ている。つまり当時双六は賭博の道具として宮中でも使われ、禁例が出る程一般庶民にも流行していたようである。藤原京出土の碁石と本遺跡出土の石が頁岩、砂岩を使用し似た形状や色合いを見せており、都で流行著しい盤双六を手に入れ使用している可能性も考えられるのではないかと思われる。碁石(双六子)の産地については、20号堅穴建物例では那珂川や久慈川、八溝山系などで入手可能であり、文献資料からも常陸国内において鹿島の碁石、薩島の瓶の近くの海岸で黒・白石の採取など常陸国内産の可能性が考えられるが、都を中心に大流行している状況が先行してあるので、初期の石の採取地は都に程近い海岸部などからの供給で、流布されている可能性も考えられるのではないかだろうか。20号堅穴建物の出土遺物から見えてくるのは、古墳時代的な祭祀具と信仰を持ちながら、倉庫の管理に携わるような公的な職を持ち、盤双六のような都での流行をいち早く取り入れ生活している人物の姿である。これは律令期の地方下級役人の生活の一様相を示しているのではないかと思われる。



第115図 6～7世紀の土器



第116図 茨城県内出土のクレル鉤



* 番号は、表 18 の一覧表と同じ

第117図 須恵器ヘラ記号集成図

最後に、集落として最も充実している8～9世紀の時期には、水戸市木葉下窯跡群を主体とする須恵器壺の底部にはヘラ記号が多くみられるが、それらについて本編であげられなかつたものを集成して掲載しておきたいと思う。(第117図・表18)

表18 須恵器ヘラ記号一覧表

No	遺構	種類	記号	位置	時期	No	遺構	種類	記号	位置	時期		
1	SI03	須恵器	环	乙	底部外面	8C 後半	17	SI29	須恵器	环	×	底部外面	9C 前半
2	SI03	須恵器	环	乙	底部外面	8C 後半	18	SI29	須恵器	环	八	底部外面	9C 前半
3	SI04B	須恵器	环	ト	底部外面	9C 後半	19	SI29	須恵器	环	二	底部外面	9C 前半
4	SI05	須恵器	环	七	底部外面	8C 後半	20	SI29	須恵器	环	一	底部外面	9C 前半
5	SI06	須恵器	环	十	底部外面	9C 後半	21	SI29	須恵器	环	一	底部外面	9C 前半
6	SI07	須恵器	环	十	底部外面	8C 中葉	22	SI32	須恵器	环	十	底部外面	9C 中葉 - 後半
7	SI10	須恵器	环	一	底部外面	8C 中葉	23	SI32	須恵器	环	十	底部外面	9C 中葉 - 後半
8	SI11	須恵器	环	×	底部外面	8C 中葉	24	SI32	須恵器	环	三	底部外面	9C 中葉 - 後半
9	SI11	須恵器	环	一	底部外面	8C 中葉	25	SI32	須恵器	环	二	底部外面	9C 中葉 - 後半
10	SI11	須恵器	环	一	底部外面	8C 中葉	26	SI32	須恵器	高台付环	一	底部外面	9C 中葉 - 後半
11	SI13	須恵器	环	×	底部外面	8C 後半	27	SI32	須恵器	环	×	底部外面	9C 中葉 - 後半
12	表土	須恵器	环	一	底部外面	—	28	SI32	須恵器	高台付环	—	底部外面	9C 中葉 - 後半
13	SI19	須恵器	高台付环	×	底部外面	8C 後半	29	SI32	須恵器	环	—	底部外面	9C 中葉 - 後半
14	SI19	須恵器	环	—	底部外面	8C 後半	30	表土	須恵器	高台付环	十	底部外面	—
15	SI19	須恵器	高台付环	—	底部外面	8C 後半	31	表土	須恵器	环	—	底部外面	—
16	SI24	須恵器	环	—	底部外面	8C 後半							

参考・引用文献

- 秋元吉郎校注 1958『常陸國風土記』『風土記』日本古典文学大系 2 岩波书店
- 伊東重敏 1976『大六天古墳(森戸古墳群第12号墳)』茨城県東茨城郡常陸村教育委員会
井上喜久男 1992『尾張陶磁』ニューサイエンス社
- 井上義安 1985『水戸市下畠遺跡』市道酒門8号線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 井上義安 1994『水戸市大串遺跡』市道常澄8-1495号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市
- 井上義安 1998『伊豆屋敷跡確認調査報告書』墓地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸地方埋蔵文化財研究会
- 井上義安・金子道正 1996『水戸市大串遺跡』常澄中学校改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市
- 井上義安・千葉隆司 1995『水戸市北酒門敷古墳』市道常澄7-007号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市
- 太田有里男・土生朗治 2015『小原遺跡(第3地点)』都計7・6・1号外3路線道路改良及び流域開溝下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 小川和博・大瀬淳志・川口武彦・木本學周・渥美賢吾・閑口慶久・株式会社京都科学 2008『大串遺跡(第7地点)』一介護老人施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 福原市文化委員会 1999『藤原京右京三条三坊(かし教委) 1996-13次』『かしはらの歴史をさぐる5 平成8年度埋蔵文化財発掘調査 速報版』
- 裡村行宣 1995『一般国道6号東戸戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書II』境内遺跡『財團法人茨城県教育財団
- 川口武彦 2005『水戸市下入野町出土の神子梨型尖頭器』『倭良岐考古』第27号 婿良岐考古同人会
- 川口武彦 2008『水戸市百合ヶ丘町出土の神子梨型尖頭器』『倭良岐考古』第30号 婿良岐考古同人会
- 川口武彦・小川和博・大瀬淳志 2002『水戸市元石川町で発見された小仲根遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 合田芳正 1999『古代の鍵』考古学ライブラリー66 ニュー・サイエンス社
- 齋藤洋・米川暢敬 2016『小原遺跡(第16地点)』都計画道路7・6・1号線道路改良及び流域開溝下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 佐々木義則 1999『茨城県北半部における土師器輪の形式変遷』『倭良岐考古』21号 婿良岐考古同人会
- 田口一郎・土生朗治 2014『土佐野船橋遺跡』高崎市文化財調査報告書第338集 高崎市教育委員会
- 中山信名 1979『新編常陸国誌』宮崎視恩会
- 土生朗治 2014『下り松遺跡』結城市教育委員会
- 松田政基ほか 2012『寺上遺跡』笠間市教育委員会
- 松村恵司 1998『藤原京の「墓石」』『季刊 明日香風』第65号 (財)飛鳥保存財团
- 増川安一 1978『館上遺跡』ものと人間の文化史 29 法政大学出版社
- 三浦京子 1990『群馬県における8~11世紀の黒色土器について』『東国土器研究』第3号 東国土器研究会
- 水戸市教育委員会 1999『水戸市埋蔵文化財調査報告書(平成10年度版)』
- 柴木誠・田熊清彦 1989『板木県の彩色土器について』『東国土器研究』第2号 東国土器研究会
- 柳沼賀治 1989『福島県中通り地方の土師器』『シンポジウム 福島県に於ける古代土器の諸問題』万葉の里シンポジウム実行委員会・鹿島町教育委員会

表 19 出土遺物集計表(1)

表20 出土遺物集計表(2)

		遺物名												中古期												$\frac{1}{2} \times 0.1\text{kg}$		計		
文生	王代	周	春秋	秦	漢	魏	晉	南	北	隋	唐	五	宋	元	明	清	新	工	鐵	陶器	磁器	瓦	土	石	金	不	鉄	重		
S322	26			3,628	8	96			2	1																	817	19,810		
S133	2		1	53	1	6		1																			68	2,430		
S134	2	5						2																			31	205		
S135	2	22		2,2	188	8				1																	229	7,512		
S136	5	12			30																						48	980		
S137	6	22	1	6	46	1				1	1	50														6	4	2		
S138	5			1	83	3	31			2	2															131	1,888			
S139	1	1								3																	13	200		
S140	1	3				1																					5	140		
S141	1			2	131	1	10			1																2	148	1,961		
S142	1	22		1	1	1				1																1	27	309		
S143	1					7	2		2																		13	96		
S142																												1	150	
S143																												2	15	
S144																												16	216	
S145																												39	3,393	
S146																												5	20	
S147																												2	19	
S148																												15	540	
S149																												2	10	
S150																												2	10	
S151																												23	1,740	
S152	2		1																									1	22	
S153	2	2																										5	35	
S154	2																											9	25	
S155	2																											3	35	
S156	4	9	1	1		7																						2	5	
S157	9	19																										44	1,719	
S158	1																											5	35	
S159	1																											64	1,435	
S160	6																											22	427	
S161																												39	365	
S162	11																											53	829	
S163+164	4																											1	1	
S165																												20	207	
S166	9																											60	410	
S167	6																													
S168																														
S169																														
S170																														
S171																														
S172																														
S173																														
S174																														
S175																														
S176																														
S177																														
S178																														
S179																														
S180																														
S181																														
S182																														
S183																														
S184																														
S185																														
S186																														
S187																														
S188																														
S189																														
S190																														
S191																														
S192																														
S193																														
S194																														
S195+196	4																													
S197	3	24	107	1	2	1	0	0	0	0	0	2	21	1,347	0	0	2	13	229	0	0	1	2	10	0	0	7	2	20	2
小計																														

表21 出土遺物集計表(3)

學生		上課題		題意		中題以降		題意		後半題	
姓名	性別	題號	題類								
S006	女	1	錯題	14	錯題	13	錯題	12	錯題	11	錯題
P111	男	1	錯題								
P112	男	1	錯題								
P113	男	1	錯題								
P115	男	1	錯題								
P116	男	1	錯題								
P117	男	2	錯題	2	錯題	1	錯題	1	錯題	1	錯題
P118	男	3	錯題	3	錯題	1	錯題	1	錯題	1	錯題
P119	男	3	錯題	3	錯題	1	錯題	1	錯題	1	錯題
P1111	男	1	錯題								
P1116	男	1	錯題								
P1117	男	1	錯題								
P1129	男	2	錯題								
P1122	男	2	錯題								
P1124	男	2	錯題								
P1127	男	1	錯題								
P1128	男	1	錯題								
P1129	男	2	錯題								
P1152	男	1	錯題								
P1153	男	2	錯題								
P1161	男	1	錯題								
備註		備註		備註		備註		備註		備註	
A. 班級		B. 題號		C. 題類		D. 錯題		E. 誤解		F. 延誤	
小計		3		44		0		0		0	
總計		30		178		1		69		1	
B. 題號		C. 題類		D. 錯題		E. 誤解		F. 延誤		G. 其他	
S001		501		1		1		1		1	
P111		514		1		1		1		1	
P112		515		1		1		1		1	
P113		516		1		1		1		1	
P115		517		1		1		1		1	
P116		518		1		1		1		1	
P117		519		1		1		1		1	
P118		520		1		1		1		1	
P119		521		1		1		1		1	
P1111		522		1		1		1		1	
P1116		523		1		1		1		1	
P1117		524		1		1		1		1	
P1129		525		1		1		1		1	
P1122		526		1		1		1		1	
P1124		527		1		1		1		1	
P1127		528		1		1		1		1	
P1128		529		1		1		1		1	
P1129		530		1		1		1		1	
P1152		531		1		1		1		1	
P1153		532		1		1		1		1	
P1161		533		1		1		1		1	
P1162		534		1		1		1		1	
P1163		535		1		1		1		1	
P1164		536		1		1		1		1	
P1165		537		1		1		1		1	
P1166		538		1		1		1		1	
P1167		539		1		1		1		1	
P1168		540		1		1		1		1	
P1169		541		1		1		1		1	
P1170		542		1		1		1		1	
P1171		543		1		1		1		1	
P1172		544		1		1		1		1	
P1173		545		1		1		1		1	
P1174		546		1		1		1		1	
P1175		547		1		1		1		1	
P1176		548		1		1		1		1	
P1177		549		1		1		1		1	
P1178		550		1		1		1		1	
P1179		551		1		1		1		1	
P1180		552		1		1		1		1	
P1181		553		1		1		1		1	
P1182		554		1		1		1		1	
P1183		555		1		1		1		1	
P1184		556		1		1		1		1	
P1185		557		1		1		1		1	
P1186		558		1		1		1		1	
P1187		559		1		1		1		1	
P1188		560		1		1		1		1	
P1189		561		1		1		1		1	
P1190		562		1		1		1		1	
P1191		563		1		1		1		1	
P1192		564		1		1		1		1	
P1193		565		1		1		1		1	
P1194		566		1		1		1		1	
P1195		567		1		1		1		1	
P1196		568		1		1		1		1	
P1197		569		1		1		1		1	
P1198		570		1		1		1		1	
P1199		571		1		1		1		1	
P1100		572									

同上

卷之三

十朝に亘る政治家とその政治思想

書内の実験は複数回実施されている